

第9回

学生生活実態調査報告書



Tokyo University of Agriculture and Technology

平成30年度
東京農工大学

まえがき

本学では、3年に1度、「学生生活実態調査」として、学生の経済的状況、学習状況、課外活動、生活全般、将来の希望進路についてアンケート調査を実施し、教育内容、教育環境の整備および大学運営に活かすための基礎資料としてきました。今回は、3年前の平成27年度調査に続く9回目の調査となります。このほど、本調査の集計結果がまとまり、分析結果と併せて報告書として取りまとめました。

本調査では5,600名の調査対象学生に対して3,885名から回答を得ましたので、アンケート回収率は69.4%でした。第8回調査の78.7%に比べ9.3ポイント低下しましたが、学部学生の回収率は72.2%と僅かな低下であるのに対して、大学院生、特に博士課程（博士後期課程）の多くが20%～50%台の回収率であることが低下の大きな要因と考えられます。これは博士課程（博士後期課程）に社会人学生が多いことの影響も考えられ、今後、アンケート設定の時期や方法なども改善の余地がありそうです。いずれにしても今回も70%弱の学生の声を反映したデータになっており、学生生活の実態を分析する上では、十分なデータと考えられます。

本学への満足度は全体として85%で、この10年間非常に高い割合を維持していることが特徴です。特に、女子学生や留学生、大学院生の満足度が90%と高水準です。一方、カリキュラムへの満足度は、70.9%であり、前回に比べて微増しましたが、大学への満足度とは15ポイントほどの乖離があります。カリキュラムは大学の根幹部分ですので、学内関係組織で恒常的な改善見直しが望まれます。

海外活動の経験者は17.7%と、前回に比べ増加傾向にあり、本学のグローバル化対応の様々な施策が学生に理解されていると判断できます。しかしながら、未だ海外活動を実現できず希望する学生の割合は42.8%と半数弱を占めており、これらの学生の希望を叶えるために教育のグローバル化に向けた英語授業科目数の増加、海外活動を推奨するプログラムの開発や経済的支援の充実などを重点施策として推進していく必要があります。

学生が抱えている大きな悩みは、学業・研究と進路・就職で、それぞれ54%、42%の割合となっており、これまでの調査と同様の傾向です。大学院生の進路・就職への悩みは前回に比べ8ポイントほど減少していますが、経済状況や身体健康での悩みが学部生に比べ多いのは留意すべきことです。また、男女別に見ると進路・就職の悩みは女子学生の割合が大きく、引き続き女子学生のキャリア形成を支援する必要があります。学生が抱える様々な悩みを解決するために、「学生相談室」「保健管理センターカウンセラー」「ハラスメント相談室」のさらなる充実を図ります。

この他にもこの調査結果で集約された貴重な意見、施設改善、様々な要望に対し、可能な限り大学運営に生かしていきたいと考えています。そのために、本調査のために設置された学生生活実態調査ワーキンググループで引き続き、調査で判明した改善点等への対応策について学部・学府・研究科および学科・専攻に聴取の上、来年度中に取り纏めます。

最後になりましたが、アンケートの趣旨をご理解いただき、積極的にアンケートにご協力いただいた学生の皆さんに感謝するとともに、アンケートの配布や回収の促進にご努力いただいた教職員各位に心よりお礼申し上げます。また、アンケート項目の策定や集計結果の分析等に関わっていただいた学生生活実態調査ワーキンググループの委員および学務部の事務職員の皆様に感謝申し上げます。

理事（教育担当）・副学長 梅田 倫弘

目 次

序 章 調査の概要	1
第Ⅰ章 基本的事項	
1～4. 調査対象人数、回収率、生活形態	4
4. 生活形態	5
5～6. 留学生及びその経費区分	5
第Ⅱ章 経済的状况	
7. 収入	6
8. 収入源	8
9. 支出	9
10. 支出項目	10
11. 授業料の主たる支払い者	11
12～13. アルバイト	12
14～15. 経済的困難学生とその解決策	14
第Ⅲ章 住居	
16. 現在の住居・生活形態	16
17. 学生寮の満足度	17
18. 学生寮への入居希望	18
19. 学生寮への入居を希望しない理由	18
20. 国際交流会館への入居希望	18
21. 国際交流会館の満足度	19
22. 国際交流会館への入居を希望しない理由	19
第Ⅳ章 通学	
23. 主な通学手段・方法	20
24. 通学所要時間	21
第Ⅴ章 学業、学習環境	
25. 大学憲章、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の周知状況	22
26. 大学憲章や三つのポリシーの情報入手方法	22
27. 本学への満足度	23
28. カリキュラムへの満足度	24
29. 教養科目（共通科目）への希望	25
30. 一週間の平均授業外学習時間	26
31. 授業時間外学習を行うのに必要な施設・設備や対策	28
32. 授業における疑問についての対処方法	29
33. 講義室、実験室への満足度	30
34. 講義室、実験室への改善希望	31
35. 校内環境への改善希望	32

36. 実験・実習における危険体験	32
37. 図書館の利用頻度	33
38. 図書館の主な用途	34
39. 図書館への満足度	36
40. 図書館への不満	37
41. 在学中の海外活動経験	38
42. 海外活動の内容	39
43. 海外での活動希望の有無	41
44. 希望する海外活動の内容	42
45. 海外活動を妨げる要因	43

第VI章 課外活動

46. サークル加入の有無	44
47. 加入しているサークル団体の種類	45
48. 一週間の平均活動時間	46
49. 課外活動の不満の有無	47
50. 課外活動の不満の内容	48
51. 課外活動施設等の満足度	49
52. 課外活動施設等の不満点	50

第VII章 ボランティア活動

53. ボランティア経験の有無	51
54. ボランティア活動の内容	52
55. ボランティア活動の頻度	53
56. ボランティア活動への支援希望の有無	54
57. ボランティア活動への支援希望内容	55
58. ボランティア参加希望の有無	56
59. ボランティア参加を希望しない理由	57

第VIII章 学生生活

60. 学生生活の悩み	58
61. 対人関係の悩みの相手	61
62. 大学生活で困ったことの有無	64
63. 相談相手	65
64. 教員との対話	67
65. 学生同士の交流	68
66. 学生相談室の認知度	69
67. 保健管理センター カウンセラーの認知度	70
68. 飲み会・コンパにおける経験	71
69. ハラスメント相談室の認知度	73
70. セクシュアル・ハラスメントを受けた経験	74
71. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手	75
72. セクハラ以外のハラスメントを受けた経験	77
73. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手	78
74. 喫煙の有無	80

75. キャンパス内マナーの満足度	81
76. キャンパス内マナーで不満に思う点	82
77. 生協食堂の利用状況	83
78. 140周年記念会館エリプス（小金井）の利用状況	83
79. 喫茶室オリザ（府中）の利用状況	83
80. 生協購買部（売店）の利用状況	83
81. 食堂・エリプス・喫茶室の満足度	86
82. 食堂・エリプス・喫茶室で不満に思う点	86
83. 生協購買部（売店）の満足度	86
84. 生協購買部（売店）で不満に思う点	86
85. キャンパスの施設・設備環境改善希望（講義室・実験室を除く）	89
86. 本年11月に行われる大学祭への参加	90
87. 大学祭で改善を望むこと	91
88. 生活情報の入手先（外国人留学生）	92
第Ⅸ章 進路（就職・進学）	
89. 将来の希望進路	93
90. 進路に関する情報入手手段	94
91. 将来の希望職種	95
92. 希望する就職支援	95
93. インターンシップの経験	96
94. インターンシップ先	97
95. インターンシップ満足度	98
第Ⅹ章 要望・意見等	99
巻末資料	
1. 委員会の構成メンバー	104
2. 調査票	105
3. 回答用紙	110

東京農工大学教育組織概説図

学部	大学院																	
農学部 (4年) 生物生産学科 応用生物科学科 環境資源科学科 地域生態システム学科	農学府 (修士課程 2年) 生物生産科学専攻 共生持続社会学専攻 応用生命化学専攻 生物制御科学専攻 環境資源物質科学専攻 物質循環環境科学専攻 自然環境保全学専攻 農業環境工学専攻 国際環境農学専攻	連合農学研究科 (博士課程 3年) 生物生産科学専攻 応用生命科学専攻 環境資源共生科学専攻 農業環境工学専攻 農林共生社会科学専攻																
農学部 (6年) 共同獣医学科		岐阜大学連合獣医学研究科 (4年) 獣医学専攻																
		農学府 (博士課程 4年) 共同獣医学専攻																
	生物システム応用化学府 (BASE)																	
	博士前期課程 (2年) 生物機能システム科学専攻	博士後期課程 (3年) 生物機能システム科学専攻 生物システム応用科学専攻 共同先進健康科学専攻																
	一貫制博士課程 (5年) 食料エネルギーシステム科学専攻																	
工学部 (4年) 生命工学科 応用分子化学科 有機材料化学科 化学システム工学科 機械システム工学科 物理システム工学科 電気電子工学科 情報工学科	工学府 <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="512 1458 951 1514">博士前期課程 (2年)</th> <th data-bbox="987 1458 1481 1514">博士後期課程 (3年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="512 1514 951 1570">生命工学専攻</td> <td data-bbox="987 1514 1481 1570">生命工学専攻</td> </tr> <tr> <td data-bbox="512 1570 951 1626">応用化学専攻</td> <td data-bbox="987 1570 1481 1626">応用化学専攻</td> </tr> <tr> <td data-bbox="512 1626 951 1682">機械システム工学専攻</td> <td data-bbox="987 1626 1481 1682">機械システム工学専攻</td> </tr> <tr> <td data-bbox="512 1682 951 1738">物理システム工学専攻</td> <td data-bbox="987 1682 1481 1738">電子情報工学専攻</td> </tr> <tr> <td data-bbox="512 1738 951 1794">電気電子工学専攻</td> <td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="512 1794 951 1850">情報工学専攻</td> <td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="512 1850 951 1928">専門職 (2年) 産業技術専攻</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		博士前期課程 (2年)	博士後期課程 (3年)	生命工学専攻	生命工学専攻	応用化学専攻	応用化学専攻	機械システム工学専攻	機械システム工学専攻	物理システム工学専攻	電子情報工学専攻	電気電子工学専攻		情報工学専攻		専門職 (2年) 産業技術専攻	
博士前期課程 (2年)	博士後期課程 (3年)																	
生命工学専攻	生命工学専攻																	
応用化学専攻	応用化学専攻																	
機械システム工学専攻	機械システム工学専攻																	
物理システム工学専攻	電子情報工学専攻																	
電気電子工学専攻																		
情報工学専攻																		
専門職 (2年) 産業技術専攻																		

序章 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、東京農工大学の学生の生活実態を把握し、今後の学生のための厚生施策の充実、教育・研究環境の改善及びサービスの向上等に役立たせるための資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の実施及び組織

学生へのより良いサービス向上等に資するため平成30年4月25日開催の教育・学生生活委員会において、第9回学生生活実態調査を実施することが承認され、ワーキンググループが設置された。ワーキンググループでは、過去の実態調査の反省点を精査しつつ、調査内容の企画立案、調査票の作成、調査結果の分析を実施し、ここに報告書を作成した。

3. 調査の対象

平成30年10月1日現在で本学に在籍している全学生（連合農学研究科、連合獣医学研究科、共同獣医学専攻、共同先進健康科学専攻で本学配置の学生を含む）を対象とした。

ただし、休学者、研究生、科目等履修生及び海外留学中の学生は除いた。

4. 調査の時期

平成30年10月1日（月）～10月19日（金）

5. 調査の方法

学科ごとに必修科目の授業や研究室等で配布し、対象者自身が記入する（自記式）方式とした。

6. 調査の内容（ ）は担当教員名

I. 基本的事項（笹原 弘之） II. 経済的状況（笹原 弘之） III. 住居（篠原 和子） IV. 通学（篠原 和子） V. 学業、学習環境（安村 友紀） VI. 課外活動（三浦 豊） VII. ボランティア活動（三浦 豊） VIII. 学生生活（原田 賢治、馬淵 麻由子） IX. 進路（五味 高志） X. 要望・意見等（草処 基、藤井 恒人）

7. 発行年月日

平成31年3月29日（金）

調査の要旨

1 経済的状況 (P6~P15)

- ① 1ヶ月の平均収入は63.9千円であり、前回と比較して微増した。前回と同様に、平均収入が20千円以下の割合が最も大きい。経済的に困難な学生は全体の15.4%であり、奨学金や授業料免除などで対応している。
- ② TA、RAなどの学内のアルバイトによる支援も充実しつつあるが、学習や研究のための書籍などの購入も困難な学生が多いことから、さらなる充実が求められている。

2 住居環境および通学状況 (P16~P21)

- ① 単身生活者の割合は39.1%で、過去5回の調査を通して微減少している。住居形態は、自宅生(親戚宅等含む)58.7%、単身アパート等32.1%、学生寮等8.9%。単身生活者はアパート等に満足しており、学生寮への入寮を希望する者の割合は9.9%と前回調査からわずかに減少した。
- ② 留学生の36.3%、54.3%がそれぞれ学生寮、国際交流会館への入居を希望しており、留学生の住居環境の充実が必要。通学手段・所用時間に大きな変動はなく、全体の3分の2弱の学生が1時間以内で通学している。

3 学業、学習環境 (P22~P43)

- ① 大学憲章や三つのポリシーのうち、いずれかを知っていると回答した学生は全体で36.1%であり、十分に周知されているとは言えないため、引き続き周知活動が必要と考えられる。
- ② 本学に対する満足度(「満足」+「やや満足」)は85.0%と、非常に高い満足度を維持している。一方でカリキュラムの満足度は70.9%となっており、前回調査より2.3ポイント微増したものの、引き続き今後の動向に注意したい。学部別のカリキュラムの満足度は、農学部70.1%に対し、工学部68.4%とほぼ同等である。
- ③ 授業外学習時間については、週6時間以上が48.9%であり良好な状態が維持されている。また、授業外学習に必要な施設・設備としては、図書館、校舎内の学習スペース、無線LANへの回答が多く集まった。
- ④ 講義室・実験室の満足度は68.2%と高い水準だが下降傾向にある。改善希望については、机・椅子、実験器具、空調をあげる回答が多かった。校内環境については、生協、食堂、Wifi環境の改善が求められた。
- ⑤ 図書館の利用頻度は低下傾向にあるものの、依然として4割以上が週に1回以上利用しており、文献の利用や自習室としての需要は高い。満足度は79.2%と高く、開館時間の延長と蔵書数の充実化が望まれている。
- ⑥ 海外活動の経験者は17.7%と、前回から2.7ポイント微増。海外活動の経験がない学生で海外活動を希望する学生の割合は42.8%で、学部生、修士学生は語学留学への希望が最も多く、ついで研究活動、学会参加を希望している。海外留学を妨げる要因としては経済的理由が最も多く、さらに語学・海外生活への不安があげられ、今後、海外活動を推奨していくためには、経済的支援や海外活動に関する動機付けがもとめられる。

4 課外活動、ボランティア活動 (P44~P57)

- ① 課外活動に対しては年々積極的になってきたが、ほぼ最大値に達したように見受けられる。半数以上が体育系サークルに所属している。活動時間は週1時間~5時間未満が最も多い。課外活動を取り巻く大学側の状況への不満は引き続きかなり大きく、特に、練習設備・施設等への不満が増加している。施設の使い勝手の悪さ、老朽化等が進んでいることが大きな要因であり、大学の今後の対応が課題といえよう。
- ② 課外活動の不満については「経済的負担」との回答が増加しており、ボランティア活動に関する交通費補助の希望が多いことから、課外活動、ボランティア活動において経済的な理由が制約になっている学生が増加している可能性も考えられた。

- ③ ボランティアに関しては、参加率の低下傾向が見られるが、参加している学生の参加回数は増加傾向が見られた。大学側に対する支援希望としては、交通費補助、情報やプログラムの紹介が挙げられた。全体でのボランティアに対する参加希望の低下理由の第一位が「時間がない」という回答であった。

5 学生生活 (P58~P92)

- ① 学生の悩みの二大テーマは、学業・研究 54%と進路・就職 42%とこれまでの調査と同様の傾向。進路・就職の悩みは特に大学院生で前回よりも減少している。
- ② 対人関係の悩みは 15%で、その相手は友人が 47%と最も高い。
- ③ 悩みの相談相手として「誰にも相談しなかった」は 21%。家族への相談は男女ともに前回よりも増加。保健管理センターへの相談も増加傾向にある。
- ④ 学生相談室の認知度は、「学生相談室」を知っている者が 65%、「保健管理センターカウンセラー」は 71%、「ハラスメント相談室」は 25%であり、特にハラスメント相談室の認知度が低い。周知方法に工夫が必要。
- ⑤ 飲み会・コンパなどでの不快・危険な経験（飲酒強要、一気飲み強要、暴言・暴力、セクハラ等）は 74%が「経験なし」と若干の増加。しかし依然として「飲酒」や「一気飲み」の強要や、「ハラスメントを受けた」との回答もあり、今後も飲酒の危険度やハラスメント防止の啓発活動が必要。
- ⑥ セクハラを受けた経験について、「ある」の回答は 4.3%、セクハラ以外のハラスメントも 7.2%で前回より増加。セクハラ以外のハラスメントの相手としては、学部生ではサークル活動やアルバイト先の人が、大学院生では教職員が多く選択されている。ハラスメントへの関心は高く、学生への教育啓発活動も重要。
- ⑦ キャンパス内マナーの満足度は、満足とやや満足の合計が 75%と比較的高い。不満に思う点は、駐輪場不足が最多で、続いて、自転車の止め方、大学内の汚れ、タバコの吸い方や喫煙場所、自転車や傘の盗難、ゴミの捨て方・処理、自転車の危険運転、タバコの吸い殻の処理の順であり、教職員と学生が一体となった取り組みが必要になる。
- ⑧ 生協食堂等の利用状況をみると、「よく利用する」と「ときどき利用する」の合計が、生協食堂は、府中地区 81%、小金井地区 81%、エリプスは小金井地区 73%と比較的高いが、喫茶室オリザは府中地区で 33%と利用率が低かった。また、売店を「よく利用する」割合は、府中地区 47%、小金井地区 35%と両地区の差が大きい。満足度については、食堂等での「満足」の割合は 21%、売店では 27%と 20%台であるため、不満に思う点で上位の、食堂等の混雑・営業時間・コストパフォーマンスや、売店の品揃え・コストパフォーマンス・営業時間など、学生の声を参考にサービス内容の工夫、改善が必要。
- ⑨ キャンパスの施設・設備環境改善希望では、全回答者の 32%が無線 LAN について改善を希望しており、大学全体でつながりやすくしてほしいとの要望が多く、インターネット環境の整備が必要。

6 進路（就職・進学）(P93~P98)

- ① 進路に関する情報の入手先としては、過半数の学生が「インターネット」や「先輩・知人から」と回答している。指導教員や就職担当教員からの情報入手は前回より減少しており、情報入手手法がインターネットに集中する傾向が見られる。将来の希望進路の全体的な傾向は、前回と大きな変化は見られない。
- ② 就職支援では、会社説明会の充実や大学推薦の希望が多い。今回新たに「エントリーシートの添削や模擬面接」の項目を加えたところ、20%程度の希望があった。全体的に多様な取り組みが求められており、効果的な方策を考える必要がある。
- ③ インターンシップの経験では、とくに大学院の増加が顕著であり、大学院生の半数がインターンを経験している。就職を希望する企業へのインターンシップの増加傾向も見られる。すなわち、インターンシップの内容、経験、効果などを把握していくことで、今後の教育研究やキャリア支援との連携なども検討が可能と考えられた。

第 I 章 基本的事項

1～4. 調査対象人数、回収率、生活形態

対象学生 5,600 人に対して、3,885 人からの回答を得た。回収率は、全体で 69.4%であり、前回、前々回で 70%を超えていたのに対し、わずかに 70%を切る結果となったが、調査結果は東京農工大学の学生生活の実態を十分に反映しているものと思われる。性別では、男子生徒が 66.5% (2,550 件)、女子生徒が 75.5% (1,335 件)であった。

学部生の回収率は 72.2% (2,699 件) であり、大学院生の 66.3% (1,234 件) に比べて高かった。これは博士後期課程の回収率が低いことが一因であるが、博士後期課程は社会人学生が多いことが影響しており、一般の学生の生活調査としては十分に実態を反映しているものと考えられる。学部別では、農学部が 74.1% (1,020 件)、工学部が 71.1% (1,679 件) と農学部の回答率が若干高かった。

Q 1～3. 調査対象人数と回収率

学部学科等	対象学生数 (人)			回収数 (人)			回収率 (%)		
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
《学部計》	3,739	2,522	1,217	2,699	1,734	965	72.2	68.8	79.3
農学部	1,377	712	665	1,020	499	521	74.1	70.1	78.3
工学部	2,362	1,810	552	1,679	1,235	444	71.1	68.2	80.4
《大学院計》	1,861	1,310	551	1,234	845	389	66.3	64.5	70.6
(農学府計)	457	256	201	327	169	158	71.6	66.0	78.6
農学府修士課程	408	227	181	297	152	145	72.8	67.0	80.1
連合獣医学研究博士課程 (本学配置学生)	37	22	15	22	14	8	59.5	63.6	53.3
大学院農学府 共同獣医学専攻	12	7	5	8	3	5	66.7	42.9	100.0
(工学府計)	993	778	215	734	554	180	73.9	71.2	83.7
工学府博士前期課程	697	543	154	517	401	116	74.2	73.8	75.3
工学府博士後期課程	222	175	47	118	85	33	53.2	48.6	70.2
工学府専門職学位課程	74	60	14	51	39	12	68.9	65.0	85.7
連合農学研究科博士課程 (本学配置学生)	177	111	66	48	29	19	27.1	26.1	28.8
(BASE 計)	234	165	69	125	93	32	53.4	56.4	46.4
BASE 博士前期課程	127	97	30	99	76	23	78.0	78.4	76.7
BASE 博士後期課程	52	32	20	15	10	5	28.8	31.3	25.0
BASE 博士課程 (共同先進)	12	8	4	1	0	1	8.3	0.0	25.0
BASE 一貫制博士課程	43	28	15	10	7	3	23.3	25.0	20.0
総計	5,600	3,832	1,768	3,885	2,550	1,335	69.4	66.5	75.5

回収率の推移

調査年度	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
回収率 (%)	26.3	24.4	21.1	49.8	63.7	53.3	77.9	78.7	69.4

4. 生活形態

生活形態は、経済状況に大きく影響する。全体の59.5%、大学院生でも55%程度が家族・親族と同居している。

Q4. 生活形態

	1. 単身生活	2. 家族・親族と同居	3. 友人等と同居
全体	39.1%	59.5%	1.4%
男	42.5%	56.5%	1.1%
女	32.7%	65.2%	2.0%
留学生	72.2%	19.8%	8.0%
国内生	37.7%	61.2%	1.1%
単身生活	100.0%	0.0%	0.0%
家族・親族と同居	0.0%	100.0%	0.0%
学部生	37.4%	61.4%	1.2%
大学院生	43.0%	55.1%	1.9%
農学部	36.4%	62.5%	1.2%
工学部	38.1%	60.8%	1.2%
農学府修士課程	38.7%	58.6%	2.7%
大学院農学府共同獣医学専攻	62.5%	37.5%	0.0%
工学府博士前期課程	40.2%	58.4%	1.4%
工学府専門職学位課程	45.1%	54.9%	0.0%
工学府博士後期課程	50.0%	45.8%	4.2%
連合農学研究科博士課程	54.2%	45.8%	0.0%
B A S E博士前期課程	48.5%	49.5%	2.0%
B A S E博士後期課程	66.7%	33.3%	0.0%
B A S E博士課程	100.0%	0.0%	0.0%
B A S E一貫制博士課程	30.0%	70.0%	0.0%
連合獣医学研究科博士課程	54.5%	45.5%	0.0%

5～6. 留学生及びその経費区分

回答者に占める留学生の割合は4.2%であった。私費留学生在が52.5%、国費留学生在が34.6%、政府派遣留学生在が11.1%で、前回と比べ私費留学生在が減少した。工学府やBASE（博士前期・後期課程）では、私費留学生在の割合が高い。

Q6. 留学生の経費区分

	私費留学生	日本政府国費留学生	母国派遣留学生	不明(※)
全体	52.5%	34.6%	11.1%	1.9%
男	55.2%	32.3%	11.5%	1.0%
女	48.5%	37.9%	10.6%	3.0%
留学生	52.5%	34.6%	11.1%	1.9%
単身生活	53.8%	35.0%	10.3%	0.9%
家族・親族と同居	46.9%	34.4%	12.5%	6.3%
学部生	50.0%	31.0%	15.5%	3.4%
大学院生	53.8%	36.5%	8.7%	1.0%
農学部	65.0%	20.0%	10.0%	5.0%
工学部	42.1%	36.8%	18.4%	2.6%
農学府修士課程	46.9%	46.9%	3.1%	3.1%
大学院農学府共同獣医学専攻	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
工学府博士前期課程	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
工学府専門職学位課程	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
工学府博士後期課程	58.3%	25.0%	16.7%	0.0%
連合農学研究科博士課程	36.4%	40.9%	22.7%	0.0%
B A S E博士前期課程	71.4%	14.3%	14.3%	0.0%
B A S E博士後期課程	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
B A S E博士課程	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
B A S E一貫制博士課程	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
連合獣医学研究科博士課程	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%

※不明：無回答、重複回答を含む

私費留学生の割合の推移

調査年度	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
私費留学生の割合 (%)				50.4	57.8		65.9	54.3	52.5

第Ⅱ章 経済的状況

7. 収入

全体の平均収入は 63.9 千円であり、前回と比較して微増であった。前回と同様に、平均収入が 20.0 千円以下の割合が最も大きくなっている。単身生活者が 90.8 千円、同居では 45.8 千円であった。留学生の多くは、単身であり、大学院生も多いことから、103.9 千円となっている。学部生は 58.5 千円、修士学生 67.1 千円、博士学生 11.43 千円となっている。学部学生と修士学生では家庭及び学外でのアルバイトが主要な収入源となっている。修士学生では、30%程度の学生が TA などで収入を得ている。一方、博士学生では、家庭及び学内でのアルバイトが減少し、奨学金や TA または RA からの収入の割合が多くなっている。

平均収入の推移

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
平均収入 (千円)	97.1	88.3	152.8	84.8	153.8	99.8	83.5	61.8	63.9

Q7. あなたの1か月の平均収入額は、おおよそいくらですか

	0～2万円	2～4万円	4～6万円	6～8万円	8～10万円	10～12万円	12～14万円	14～16万円	16～18万円	18～20万円	20万円以上	不明(※)	合計
全体	737 (19.0)	672 (17.3)	718 (18.5)	631 (16.2)	361 (9.3)	220 (5.7)	209 (5.4)	154 (4.0)	47 (1.2)	59 (1.5)	67 (1.7)	10 (0.3)	3,885
男	504 (19.8)	411 (16.1)	466 (18.3)	411 (16.1)	238 (9.3)	153 (6.0)	135 (5.3)	104 (4.1)	33 (1.3)	39 (1.5)	51 (2.0)	5 (0.2)	2,550
女	233 (17.5)	261 (19.6)	252 (18.9)	220 (16.5)	123 (9.2)	67 (5.0)	74 (5.5)	50 (3.7)	14 (1.0)	20 (1.5)	16 (1.2)	5 (0.4)	1,335
留学生	22 (13.6)	2 (1.2)	5 (3.1)	21 (13.0)	18 (11.1)	21 (13.0)	17 (10.5)	42 (25.9)	9 (5.6)	4 (2.5)	0 (0.0)	1 (0.6)	162
国内生	715 (19.2)	670 (18.0)	713 (19.2)	610 (16.4)	343 (9.2)	199 (5.3)	192 (5.2)	112 (3.0)	38 (1.0)	55 (1.5)	67 (1.8)	9 (0.2)	3,723
単身生活	117 (7.7)	102 (6.7)	196 (12.9)	275 (18.1)	230 (15.1)	179 (11.8)	168 (11.1)	130 (8.6)	37 (2.4)	45 (3.0)	37 (2.4)	4 (0.3)	1,520
家族・親族と同居	613 (26.5)	566 (24.5)	515 (22.3)	346 (15.0)	123 (5.3)	36 (1.6)	37 (1.6)	23 (1.0)	6 (0.3)	13 (0.6)	27 (1.2)	6 (0.3)	2,311
学部生	517 (19.2)	509 (18.9)	571 (21.2)	452 (16.7)	233 (8.6)	142 (5.3)	128 (4.7)	72 (2.7)	25 (0.9)	26 (1.0)	17 (0.6)	7 (0.3)	2,699
大学院生	220 (18.5)	163 (13.7)	147 (12.4)	179 (15.1)	128 (10.8)	78 (6.6)	81 (6.8)	82 (6.9)	22 (1.9)	33 (2.8)	50 (4.2)	3 (0.3)	1,186
農学部	178 (17.5)	206 (20.2)	213 (20.9)	173 (17.0)	99 (9.7)	45 (4.4)	50 (4.9)	28 (2.7)	10 (1.0)	6 (0.6)	8 (0.8)	4 (0.4)	1,020
工学部	339 (20.2)	303 (18.0)	358 (21.3)	279 (16.6)	134 (8.0)	97 (5.8)	78 (4.6)	44 (2.6)	15 (0.9)	20 (1.2)	9 (0.5)	3 (0.2)	1,679
農学府修士課程	61 (20.5)	51 (17.2)	40 (13.5)	47 (15.8)	32 (10.8)	18 (6.1)	20 (6.7)	19 (6.4)	3 (1.0)	3 (1.0)	2 (0.7)	1 (0.3)	297
大学院農学府共同獣医学専攻	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (25.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	3 (37.5)	0 (0.0)	8
工学府博士前期課程	107 (20.7)	71 (13.7)	73 (14.1)	87 (16.8)	69 (13.3)	36 (7.0)	25 (4.8)	27 (5.2)	8 (1.5)	7 (1.4)	5 (1.0)	2 (0.4)	517
工学府専門職学位課程	9 (17.6)	6 (11.8)	7 (13.7)	4 (7.8)	3 (5.9)	5 (9.8)	5 (9.8)	3 (5.9)	0 (0.0)	3 (5.9)	6 (11.8)	0 (0.0)	51
工学府博士後期課程	16 (13.6)	12 (10.2)	10 (8.5)	21 (17.8)	6 (5.1)	7 (5.9)	8 (6.8)	4 (3.4)	6 (5.1)	11 (9.3)	17 (14.4)	0 (0.0)	118
連合農学研究科博士課程	1 (2.1)	2 (4.2)	3 (6.3)	4 (8.3)	1 (2.1)	4 (8.3)	8 (16.7)	13 (27.1)	2 (4.2)	2 (4.2)	8 (16.7)	0 (0.0)	48
B A S E 博士前期課程	19 (19.2)	21 (21.2)	12 (12.1)	14 (14.1)	14 (14.1)	1 (1.0)	8 (8.1)	5 (5.1)	2 (2.0)	2 (2.0)	1 (1.0)	0 (0.0)	99
B A S E 博士後期課程	3 (20.0)	0 (0.0)	1 (6.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (13.3)	2 (13.3)	2 (13.3)	0 (0.0)	4 (26.7)	1 (6.7)	0 (0.0)	15
B A S E 博士課程	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1
B A S E 一貫制博士課程	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (30.0)	4 (40.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10
連合獣医学研究科博士課程	4 (18.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.5)	3 (13.6)	1 (4.5)	1 (4.5)	5 (22.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (31.8)	0 (0.0)	22

() 割合(%)、※不明：無回答、重複回答を含む

8. 収入源

Q8. 収入源として該当するものを選んで下さい（複数選択可）

	家庭（家計支持者）から	奨学金（返還義務なし）	奨学金（ローン・貸与）	学外でのアルバイト	学内でのアルバイト（TA・RA・研究補助等）	その他	無回答	回答者数
全体	2,058 (53.0)	232 (6.0)	565 (14.5)	2,599 (66.9)	470 (12.1)	120 (3.1)	10 (0.3)	3,885
男	1,346 (52.8)	148 (5.8)	411 (16.1)	1,618 (63.5)	314 (12.3)	86 (3.4)	8 (0.3)	2,550
女	712 (53.3)	84 (6.3)	154 (11.5)	981 (73.5)	156 (11.7)	34 (2.5)	2 (0.1)	1,335
留学生	46 (28.4)	95 (58.6)	7 (4.3)	40 (24.7)	19 (11.7)	11 (6.8)	1 (0.6)	162
国内生	2,012 (54.0)	137 (3.7)	558 (15.0)	2,559 (68.7)	451 (12.1)	109 (2.9)	9 (0.2)	3,723
単身生活	1,019 (67.0)	143 (9.4)	343 (22.6)	902 (59.3)	194 (12.8)	54 (3.6)	1 (0.1)	1,520
家族・親族と同居	1,018 (44.1)	78 (3.4)	206 (8.9)	1,667 (72.1)	267 (11.6)	62 (2.7)	9 (0.4)	2,311
学部生	1,501 (55.6)	118 (4.4)	318 (11.8)	1,958 (72.5)	85 (3.1)	39 (1.4)	8 (0.3)	2,699
大学院生	557 (47.0)	114 (9.6)	247 (20.8)	641 (54.0)	385 (32.5)	81 (6.8)	2 (0.2)	1,186
農学部	559 (54.8)	43 (4.2)	108 (10.6)	774 (75.9)	44 (4.3)	13 (1.3)	2 (0.2)	1,020
工学部	942 (56.1)	75 (4.5)	210 (12.5)	1,184 (70.5)	41 (2.4)	26 (1.5)	6 (0.4)	1,679
農学府修士課程	156 (52.5)	31 (10.4)	53 (17.8)	176 (59.3)	91 (30.6)	6 (2.0)	0 (0.0)	297
大学院農学府共同獣医学専攻	1 (12.5)	1 (12.5)	2 (25.0)	4 (50.0)	4 (50.0)	4 (50.0)	0 (0.0)	8
工学府博士前期課程	266 (51.5)	17 (3.3)	130 (25.1)	316 (61.1)	181 (35.0)	10 (1.9)	2 (0.4)	517
工学府専門職学位課程	31 (60.8)	2 (3.9)	9 (17.6)	26 (51.0)	17 (33.3)	8 (15.7)	0 (0.0)	51
工学府博士後期課程	35 (29.7)	20 (16.9)	19 (16.1)	40 (33.9)	36 (30.5)	24 (20.3)	0 (0.0)	118
連合農学研究科博士課程	5 (10.4)	21 (43.8)	9 (18.8)	7 (14.6)	11 (22.9)	14 (29.2)	0 (0.0)	48
B A S E 博士前期課程	57 (57.6)	3 (3.0)	22 (22.2)	64 (64.6)	29 (29.3)	2 (2.0)	0 (0.0)	99
B A S E 博士後期課程	2 (13.3)	5 (33.3)	1 (6.7)	2 (13.3)	6 (40.0)	5 (33.3)	0 (0.0)	15
B A S E 博士課程	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1
B A S E 一貫制博士課程	1 (10.0)	9 (90.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	10
連合獣医学研究科博士課程	3 (13.6)	4 (18.2)	1 (4.5)	6 (27.3)	9 (40.9)	7 (31.8)	0 (0.0)	22

() 割合 (%)

9. 支出

平均支出は 54.9 千円であった。収入と同様、支出も前回とほぼ同程度であった。支出が 20.0 千円以下の割合も高い。研究や勉学の書籍に支出している割合が 50%以下であり、課外活動費も 50%以下であることから、経済的にも大学の講義以外の活動を行うことが困難な学生が半分以上であることが明らかになった。

本年度は収入や支出は項目のみであったが、詳細なデータ解析のためには、各項目の金額を調べる必要がある。

平均支出の推移

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
平均支出(千円)	92.3	83.5	122.9	73.5	94.8	78.3	76.4	53.8	54.9

Q9. あなたの1か月の平均支出額は、およそいくらですか

	0~2万円	2~4万円	4~6万円	6~8万円	8~10万円	10~12万円	12~14万円	14~16万円	16~18万円	18~20万円	20万円以上	不明(※)	合計
全体	819 (21.1)	912 (23.5)	659 (17.0)	591 (15.2)	329 (8.5)	214 (5.5)	142 (3.7)	86 (2.2)	31 (0.8)	25 (0.6)	32 (0.8)	45 (1.2)	3,885
男	516 (20.2)	574 (22.5)	443 (17.4)	393 (15.4)	236 (9.3)	146 (5.7)	90 (3.5)	59 (2.3)	19 (0.7)	18 (0.7)	26 (1.0)	30 (1.2)	2,550
女	303 (22.7)	338 (25.3)	216 (16.2)	198 (14.8)	93 (7.0)	68 (5.1)	52 (3.9)	27 (2.0)	12 (0.9)	7 (0.5)	6 (0.4)	15 (1.1)	1,335
留学生	6 (3.7)	2 (1.2)	7 (4.3)	28 (17.3)	38 (23.5)	31 (19.1)	15 (9.3)	24 (14.8)	3 (1.9)	3 (1.9)	1 (0.6)	4 (2.5)	162
国内生	813 (21.8)	910 (24.4)	652 (17.5)	563 (15.1)	291 (7.8)	183 (4.9)	127 (3.4)	62 (1.7)	28 (0.8)	22 (0.6)	31 (0.8)	41 (1.1)	3,723
単身生活	39 (2.6)	150 (9.9)	262 (17.2)	351 (23.1)	261 (17.2)	191 (12.6)	124 (8.2)	69 (4.5)	25 (1.6)	18 (1.2)	11 (0.7)	19 (1.3)	1,520
家族・親族と同居	776 (33.6)	758 (32.8)	385 (16.7)	227 (9.8)	62 (2.7)	20 (0.9)	14 (0.6)	14 (0.6)	6 (0.3)	6 (0.3)	20 (0.9)	23 (1.0)	2,311
学部生	641 (23.7)	674 (25.0)	491 (18.2)	384 (14.2)	205 (7.6)	129 (4.8)	78 (2.9)	34 (1.3)	11 (0.4)	11 (0.4)	9 (0.3)	32 (1.2)	2,699
大学院生	178 (15.0)	238 (20.1)	168 (14.2)	207 (17.5)	124 (10.5)	85 (7.2)	64 (5.4)	52 (4.4)	20 (1.7)	14 (1.2)	23 (1.9)	13 (1.1)	1,186
農学部	238 (23.3)	282 (27.6)	182 (17.8)	140 (13.7)	73 (7.2)	48 (4.7)	20 (2.0)	18 (1.8)	3 (0.3)	4 (0.4)	5 (0.5)	7 (0.7)	1,020
工学部	403 (24.0)	392 (23.3)	309 (18.4)	244 (14.5)	132 (7.9)	81 (4.8)	58 (3.5)	16 (1.0)	8 (0.5)	7 (0.4)	4 (0.2)	25 (1.5)	1,679
農学府修士課程	57 (19.2)	60 (20.2)	48 (16.2)	53 (17.8)	27 (9.1)	20 (6.7)	15 (5.1)	13 (4.4)	2 (0.7)	0 (0.0)	1 (0.3)	1 (0.3)	297
大学院農学府共同獣医学専攻	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	8
工学府博士前期課程	89 (17.2)	123 (23.8)	72 (13.9)	96 (18.6)	55 (10.6)	32 (6.2)	25 (4.8)	9 (1.7)	4 (0.8)	3 (0.6)	6 (1.2)	3 (0.6)	517
工学府専門職学位課程	8 (15.7)	14 (27.5)	4 (7.8)	7 (13.7)	2 (3.9)	5 (9.8)	1 (2.0)	4 (7.8)	1 (2.0)	2 (3.9)	3 (5.9)	0 (0.0)	51
工学府博士後期課程	7 (5.9)	9 (7.6)	19 (16.1)	25 (21.2)	14 (11.9)	11 (9.3)	7 (5.9)	7 (5.9)	6 (5.1)	4 (3.4)	3 (2.5)	6 (5.1)	118
連合農学研究科博士課程	1 (2.1)	6 (12.5)	2 (4.2)	2 (4.2)	6 (12.5)	8 (16.7)	6 (12.5)	7 (14.6)	5 (10.4)	0 (0.0)	4 (8.3)	1 (2.1)	48
B A S E 博士前期課程	13 (13.1)	24 (24.2)	18 (18.2)	17 (17.2)	12 (12.1)	2 (2.0)	5 (5.1)	4 (4.0)	1 (1.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	2 (2.0)	99
B A S E 博士後期課程	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (13.3)	0 (0.0)	3 (20.0)	2 (13.3)	2 (13.3)	3 (20.0)	0 (0.0)	1 (6.7)	2 (13.3)	0 (0.0)	15
B A S E 博士課程	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1
B A S E 一貫制博士課程	1 (10.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	3 (30.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10
連合獣医学研究科博士課程	1 (4.5)	1 (4.5)	0 (0.0)	3 (13.6)	3 (13.6)	3 (13.6)	1 (4.5)	4 (18.2)	0 (0.0)	3 (13.6)	3 (13.6)	0 (0.0)	22

※不明：無回答、重複回答を含む。() 割合(%)

10. 支出項目

Q10. 支出項目として該当するものを選んで下さい（複数選択可）

	住居費 (駐車場代を含む)	食費(自宅通学者は外食費)	光熱水費 (通信費を含まない)	通信費 (携帯電話、電話代、ネット回線料など)	研究・勉学費・書籍費(新聞購読料を含む。)	課外活動費(サークル活動にかかる費用など)	交通費・通学費 (定期券代、駐車代、ガソリン代)	その他	無回答	回答者数
全体	1,054 (27.1)	3,296 (84.8)	1,165 (30.0)	1,139 (29.3)	1,540 (39.6)	1,688 (43.4)	1,886 (48.5)	1,444 (37.2)	8 (0.2)	3,885
男	741 (29.1)	2,178 (85.4)	819 (32.1)	837 (32.8)	1,007 (39.5)	1,072 (42.0)	1,184 (46.4)	885 (34.7)	7 (0.3)	2,550
女	313 (23.4)	1,118 (83.7)	346 (25.9)	302 (22.6)	533 (39.9)	616 (46.1)	702 (52.6)	559 (41.9)	1 (0.1)	1,335
留学生	149 (92.0)	154 (95.1)	128 (79.0)	142 (87.7)	84 (51.9)	74 (45.7)	124 (76.5)	64 (39.5)	1 (0.6)	162
国内生	905 (24.3)	3,142 (84.4)	1,037 (27.9)	997 (26.8)	1,456 (39.1)	1,614 (43.4)	1,762 (47.3)	1,380 (37.1)	7 (0.2)	3,723
単身生活	907 (59.7)	1,440 (94.7)	1,032 (67.9)	751 (49.4)	747 (49.1)	665 (43.8)	779 (51.3)	502 (33.0)	3 (0.2)	1,520
家族・親族と同居	109 (4.7)	1,804 (78.1)	96 (4.2)	359 (15.5)	765 (33.1)	1,003 (43.4)	1,073 (46.4)	923 (39.9)	5 (0.2)	2,311
学部生	625 (23.2)	2,244 (83.1)	710 (26.3)	617 (22.9)	1,019 (37.8)	1,381 (51.2)	1,280 (47.4)	966 (35.8)	6 (0.2)	2,699
大学院生	429 (36.2)	1,052 (88.7)	455 (38.4)	522 (44.0)	521 (43.9)	307 (25.9)	606 (51.1)	478 (40.3)	2 (0.2)	1,186
農学部	227 (22.3)	840 (82.4)	270 (26.5)	204 (20.0)	415 (40.7)	551 (54.0)	515 (50.5)	371 (36.4)	3 (0.3)	1,020
工学部	398 (23.7)	1,404 (83.6)	440 (26.2)	413 (24.6)	604 (36.0)	830 (49.4)	765 (45.6)	595 (35.4)	3 (0.2)	1,679
農学府修士課程	99 (33.3)	259 (87.2)	102 (34.3)	118 (39.7)	135 (45.5)	77 (25.9)	167 (56.2)	114 (38.4)	1 (0.3)	297
大学院農学府共同獣医学専攻	7 (87.5)	8 (100.0)	7 (87.5)	7 (87.5)	4 (50.0)	1 (12.5)	8 (100.0)	4 (50.0)	0 (0.0)	8
工学府博士前期課程	146 (28.2)	458 (88.6)	166 (32.1)	201 (38.9)	211 (40.8)	133 (25.7)	233 (45.1)	213 (41.2)	1 (0.2)	517
工学府専門職学位課程	16 (31.4)	44 (86.3)	22 (43.1)	22 (43.1)	23 (45.1)	12 (23.5)	22 (43.1)	24 (47.1)	0 (0.0)	51
工学府博士後期課程	55 (46.6)	105 (89.0)	54 (45.8)	58 (49.2)	55 (46.6)	20 (16.9)	61 (51.7)	43 (36.4)	0 (0.0)	118
連合農学研究科博士課程	38 (79.2)	47 (97.9)	33 (68.8)	42 (87.5)	30 (62.5)	15 (31.3)	36 (75.0)	22 (45.8)	0 (0.0)	48
B A S E 博士前期課程	33 (33.3)	86 (86.9)	37 (37.4)	41 (41.4)	31 (31.3)	32 (32.3)	42 (42.4)	33 (33.3)	0 (0.0)	99
B A S E 博士後期課程	12 (80.0)	15 (100.0)	13 (86.7)	11 (73.3)	9 (60.0)	6 (40.0)	11 (73.3)	8 (53.3)	0 (0.0)	15
B A S E 博士課程	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1
B A S E 一貫制博士課程	3 (30.0)	9 (90.0)	3 (30.0)	4 (40.0)	5 (50.0)	2 (20.0)	9 (90.0)	3 (30.0)	0 (0.0)	10
連合獣医学研究科博士課程	19 (86.4)	20 (90.9)	17 (77.3)	18 (81.8)	18 (81.8)	9 (40.9)	16 (72.7)	13 (59.1)	0 (0.0)	22

() 割合(%)

11. 授業料の主たる支払い者

授業料を父母や家族が負担しているものが多く、85%近くに達する。博士学生では、授業料免除の割合が増加し本人が負担しているケースが35%程度と増加する一方で、30%程度が家族に依存している。留学生では60%程度が授業料免除に依存している。

Q11. 授業料の主たる支払い者

	父	母	配偶者	本人	兄弟姉妹	祖父母	知人 (親類を含む)	授業料免除、 奨学金の適用	不明 (※)	合計
全体	2,893 (74.5)	300 (7.7)	21 (0.5)	202 (5.2)	7 (0.2)	46 (1.2)	5 (0.1)	384 (9.9)	27 (0.7)	3,885
男	1,893 (74.2)	193 (7.6)	12 (0.5)	151 (5.9)	6 (0.2)	22 (0.9)	5 (0.2)	248 (9.7)	20 (0.8)	2,550
女	1,000 (74.9)	107 (8.0)	9 (0.7)	51 (3.8)	1 (0.1)	24 (1.8)	0 (0.0)	136 (10.2)	7 (0.5)	1,335
留学生	25 (15.4)	12 (7.4)	3 (1.9)	22 (13.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	2 (1.2)	95 (58.6)	2 (1.2)	162
国内生	2,868 (77.0)	288 (7.7)	18 (0.5)	180 (4.8)	6 (0.2)	46 (1.2)	3 (0.1)	289 (7.8)	25 (0.7)	3,723
単身生活	1,099 (72.3)	114 (7.5)	6 (0.4)	83 (5.5)	7 (0.5)	18 (1.2)	2 (0.1)	178 (11.7)	13 (0.9)	1,520
家族・親族と同居	1,767 (76.5)	179 (7.7)	14 (0.6)	115 (5.0)	0 (0.0)	28 (1.2)	2 (0.1)	192 (8.3)	14 (0.6)	2,311
学部生	2,145 (79.5)	221 (8.2)	14 (0.5)	65 (2.4)	4 (0.1)	36 (1.3)	3 (0.1)	194 (7.2)	17 (0.6)	2,699
大学院生	748 (63.1)	79 (6.7)	7 (0.6)	137 (11.6)	3 (0.3)	10 (0.8)	2 (0.2)	190 (16.0)	10 (0.8)	1,186
農学部	812 (79.6)	94 (9.2)	6 (0.6)	28 (2.7)	2 (0.2)	10 (1.0)	2 (0.2)	60 (5.9)	6 (0.6)	1,020
工学部	1,333 (79.4)	127 (7.6)	8 (0.5)	37 (2.2)	2 (0.1)	26 (1.5)	1 (0.1)	134 (8.0)	11 (0.7)	1,679
農学府修士課程	201 (67.7)	24 (8.1)	0 (0.0)	17 (5.7)	0 (0.0)	6 (2.0)	0 (0.0)	49 (16.5)	0 (0.0)	297
大学院農学府共同獣医学専攻	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (62.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (25.0)	0 (0.0)	8
工学府博士前期課程	381 (73.7)	40 (7.7)	4 (0.8)	30 (5.8)	1 (0.2)	2 (0.4)	0 (0.0)	54 (10.4)	5 (1.0)	517
工学府専門職学位課程	31 (60.8)	4 (7.8)	0 (0.0)	7 (13.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (17.6)	0 (0.0)	51
工学府博士後期課程	42 (35.6)	5 (4.2)	1 (0.8)	42 (35.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.8)	26 (22.0)	1 (0.8)	118
連合農学研究科博士課程	7 (14.6)	1 (2.1)	1 (2.1)	17 (35.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (41.7)	2 (4.2)	48
B A S E博士前期課程	76 (76.8)	4 (4.0)	1 (1.0)	2 (2.0)	1 (1.0)	2 (2.0)	0 (0.0)	11 (11.1)	2 (2.0)	99
B A S E博士後期課程	4 (26.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.7)	5 (33.3)	0 (0.0)	15
B A S E博士課程	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1
B A S E一貫制博士課程	2 (20.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	10
連合獣医学研究科博士課程	2 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (45.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (45.5)	0 (0.0)	22

※不明：無回答、重複回答を含む。() 割合(%)

12～13. アルバイト

学外でアルバイトを行っている学生は全体の68.6%であった。前回5%以上増加し、今回さらに7%以上増加した。男女比では女性の方が多い。留学生は32.1%であり比較的少ない。これは、大学院生が多いことと、国費留学生が含まれているためである。また、単身生活の学生の方が同居学生よりも10%程度少ないことも特徴的である。学部と大学院では、学部の方が高い。大学院では、TA/RAなどの学内でのアルバイトが多くなることを反映していると考えられる。農学部と工学部を比較すると農学部の方が多い。

アルバイトの時間は週15時間以内がほとんどであるが、20時間以上行っている学生も5.8%いる。

Q12. 現在、学外でアルバイトをしていますか

	している	していない	不明(※)	合計
全体	2,664(68.6)	1,209(31.1)	12(0.3)	3,885
男	1,659(65.1)	881(34.5)	10(0.4)	2,550
女	1,005(75.3)	328(24.6)	2(0.1)	1,335
留学生	52(32.1)	108(66.7)	2(1.2)	162
国内生	2,612(70.2)	1,101(29.6)	10(0.3)	3,723
単身生活	961(63.2)	554(36.4)	5(0.3)	1,520
家族・親族と同居	1,669(72.2)	635(27.5)	7(0.3)	2,311
学部生	1,976(73.2)	714(26.5)	9(0.3)	2,699
大学院生	688(58)	495(41.7)	3(0.3)	1,186
農学部	792(77.6)	226(22.2)	2(0.2)	1,020
工学部	1,184(70.5)	488(29.1)	7(0.4)	1,679
農学府修士課程	185(62.3)	112(37.7)	0(0)	297
大学院農学府共同獣医学専攻	4(50)	4(50)	0(0)	8
工学府博士前期課程	330(63.8)	185(35.8)	2(0.4)	517
工学府専門職学位課程	28(54.9)	23(45.1)	0(0)	51
工学府博士後期課程	50(42.4)	68(57.6)	0(0)	118
連合農学研究科博士課程	13(27.1)	34(70.8)	1(2.1)	48
B A S E 博士前期課程	67(67.7)	32(32.3)	0(0)	99
B A S E 博士後期課程	2(13.3)	13(86.7)	0(0)	15
B A S E 博士課程	0(0)	1(100)	0(0)	1
B A S E 一貫制博士課程	0(0)	10(100)	0(0)	10
連合獣医学研究科博士課程	9(40.9)	13(59.1)	0(0)	22

※不明：無回答、重複回答を含む。

() 割合(%)

Q13. 12で「している」と答えた方のアルバイトの週あたりの時間

	5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～15時間未満	15時間～20時間未満	20時間以上	不明(※)	合計
全体	480 (18.0)	811 (30.4)	816 (30.6)	399 (15.0)	155 (5.8)	3 (0.1)	2,664
男	315 (19.0)	490 (29.5)	496 (29.9)	252 (15.2)	105 (6.3)	1 (0.1)	1,659
女	165 (16.4)	321 (31.9)	320 (31.8)	147 (14.6)	50 (5.0)	2 (0.2)	1,005
留学生	15 (28.8)	8 (15.4)	13 (25.0)	12 (23.1)	2 (3.8)	2 (3.8)	52
国内生	465 (17.8)	803 (30.7)	803 (30.7)	387 (14.8)	153 (5.9)	1 (0.0)	2,612
単身生活	152 (15.8)	268 (27.9)	295 (30.7)	164 (17.1)	81 (8.4)	1 (0.1)	961
家族・親族と同居	322 (19.3)	533 (31.9)	511 (30.6)	230 (13.8)	71 (4.3)	2 (0.1)	1,669
学部生	330 (16.7)	606 (30.7)	634 (32.1)	295 (14.9)	110 (5.6)	1 (0.1)	1,976
大学院生	150 (21.8)	205 (29.8)	182 (26.5)	104 (15.1)	45 (6.5)	2 (0.3)	688
農学部	126 (15.9)	239 (30.2)	271 (34.2)	109 (13.8)	46 (5.8)	1 (0.1)	792
工学部	204 (17.2)	367 (31.0)	363 (30.7)	186 (15.7)	64 (5.4)	0 (0.0)	1,184
農学府修士課程	33 (17.8)	61 (33.0)	51 (27.6)	31 (16.8)	9 (4.9)	0 (0.0)	185
大学院農学府共同獣医学専攻	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4
工学府博士前期課程	73 (22.1)	93 (28.2)	97 (29.4)	46 (13.9)	21 (6.4)	0 (0.0)	330
工学府専門職学位課程	10 (35.7)	4 (14.3)	8 (28.6)	5 (17.9)	1 (3.6)	0 (0.0)	28
工学府博士後期課程	12 (24.0)	20 (40.0)	8 (16.0)	9 (18.0)	1 (2.0)	0 (0.0)	50
連合農学研究科博士課程	5 (38.5)	3 (23.1)	0 (0.0)	2 (15.4)	1 (7.7)	2 (15.4)	13
B A S E 博士前期課程	15 (22.4)	21 (31.3)	14 (20.9)	9 (13.4)	8 (11.9)	0 (0.0)	67
B A S E 博士後期課程	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2
B A S E 博士課程	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0
B A S E 一貫制博士課程	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0
連合獣医学研究科博士課程	2 (22.2)	0 (0.0)	3 (33.3)	2 (22.2)	2 (22.2)	0 (0.0)	9

※不明：無回答、重複回答を含む。() 割合(%)

14～15. 経済的困難学生とその解決策

経済的に困難な学生は全体の15.4%である。学部学生では12.4%であるが、修士学生18.9%、博士学生40.0%と学年が上がるに従って比率が上がっている。留学生では半分を超える52.5%が経済的困難を訴えている。

経済的困難の解決策としては奨学金が最も多く49.3%が受給している。次いで授業料免除とアルバイトが多い。授業料免除の割合は40%を超えている。特に博士学生と留学生では60%前後である。また、大学院学生では、TAやRAなどの学内でのアルバイトも約20%と多くなっている。これらの支援制度がある程度充実したことが反映していると考えて良いだろう。

Q14. 経済的理由による学業継続困難の有無

	ある	ない	不明(※)	合計
全体	600(15.4)	3,260(83.9)	25(0.6)	3,885
男	405(15.9)	2,126(83.4)	19(0.7)	2,550
女	195(14.6)	1,134(84.9)	6(0.4)	1,335
留学生	85(52.5)	74(45.7)	3(1.9)	162
国内生	515(13.8)	3,186(85.6)	22(0.6)	3,723
单身生活	300(19.7)	1,208(79.5)	12(0.8)	1,520
家族・親族と同居	277(12)	2,021(87.5)	13(0.6)	2,311
学部生	335(12.4)	2,342(86.8)	22(0.8)	2,699
大学院生	265(22.3)	918(77.4)	3(0.3)	1,186
農学部	112(11)	901(88.3)	7(0.7)	1,020
工学部	223(13.3)	1,441(85.8)	15(0.9)	1,679
農学府修士課程	65(21.9)	232(78.1)	0(0)	297
大学院農学府共同獣医学専攻	4(50)	4(50)	0(0)	8
工学府博士前期課程	89(17.2)	426(82.4)	2(0.4)	517
工学府専門職学位課程	7(13.7)	44(86.3)	0(0)	51
工学府博士後期課程	44(37.3)	74(62.7)	0(0)	118
連合農学研究科博士課程	22(45.8)	26(54.2)	0(0)	48
B A S E博士前期課程	16(16.2)	83(83.8)	0(0)	99
B A S E博士後期課程	4(26.7)	11(73.3)	0(0)	15
B A S E博士課程	0(0)	1(100)	0(0)	1
B A S E一貫制博士課程	4(40)	6(60)	0(0)	10
連合獣医学研究科博士課程	10(45.5)	11(50)	1(4.5)	22

※不明：無回答、重複回答を含む。() 割合(%)

Q15. 14で「ある」と答えた方の経済的困難の解決策（複数回答可）

	授業料 免除	入学料 免除	学内にお けるアル バイト	学外にお けるアル バイト	奨学金	家庭など からの援 助	ローン	節約	無回答	回答者 数
全体	259 (43.2)	71 (11.8)	63 (10.5)	224 (37.3)	296 (49.3)	137 (22.8)	26 (4.3)	186 (31.0)	7 (1.2)	600
男	167 (41.2)	49 (12.1)	42 (10.4)	148 (36.5)	183 (45.2)	90 (22.2)	16 (4.0)	117 (28.9)	5 (1.2)	405
女	92 (47.2)	22 (11.3)	21 (10.8)	76 (39.0)	113 (57.9)	47 (24.1)	10 (5.1)	69 (35.4)	2 (1.0)	195
留学生	48 (56.5)	18 (21.2)	14 (16.5)	20 (23.5)	32 (37.6)	26 (30.6)	9 (10.6)	34 (40.0)	1 (1.2)	85
国内生	211 (41.0)	53 (10.3)	49 (9.5)	204 (39.6)	264 (51.3)	111 (21.6)	17 (3.3)	152 (29.5)	6 (1.2)	515
単身生活	129 (43.0)	29 (9.7)	35 (11.7)	121 (40.3)	149 (49.7)	80 (26.7)	14 (4.7)	101 (33.7)	1 (0.3)	300
家族・親族と同居	123 (44.4)	42 (15.2)	26 (9.4)	95 (34.3)	138 (49.8)	50 (18.1)	12 (4.3)	75 (27.1)	5 (1.8)	277
学部生	126 (37.6)	19 (5.7)	11 (3.3)	131 (39.1)	152 (45.4)	84 (25.1)	10 (3.0)	108 (32.2)	4 (1.2)	335
大学院生	133 (50.2)	52 (19.6)	52 (19.6)	93 (35.1)	144 (54.3)	53 (20.0)	16 (6.0)	78 (29.4)	3 (1.1)	265
農学部	48 (42.9)	7 (6.3)	5 (4.5)	38 (33.9)	50 (44.6)	32 (28.6)	2 (1.8)	37 (33.0)	1 (0.9)	112
工学部	78 (35.0)	12 (5.4)	6 (2.7)	93 (41.7)	102 (45.7)	52 (23.3)	8 (3.6)	71 (31.8)	3 (1.3)	223
農学府修士課程	38 (58.5)	9 (13.8)	8 (12.3)	31 (47.7)	39 (60.0)	17 (26.2)	1 (1.5)	17 (26.2)	0 (0.0)	65
大学院農学府共同獣医学専攻	1 (25.0)	2 (50.0)	3 (75.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4
工学府博士前期課程	37 (41.6)	19 (21.3)	14 (15.7)	37 (41.6)	53 (59.6)	14 (15.7)	3 (3.4)	23 (25.8)	1 (1.1)	89
工学府専門職学位課程	2 (28.6)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.6)	4 (57.1)	1 (14.3)	0 (0.0)	2 (28.6)	1 (14.3)	7
工学府博士後期課程	26 (59.1)	9 (20.5)	14 (31.8)	8 (18.2)	22 (50.0)	6 (13.6)	4 (9.1)	17 (38.6)	1 (2.3)	44
連合農学研究科博士課程	9 (40.9)	5 (22.7)	4 (18.2)	1 (4.5)	7 (31.8)	4 (18.2)	5 (22.7)	10 (45.5)	0 (0.0)	22
B A S E 博士前期課程	9 (56.3)	3 (18.8)	3 (18.8)	5 (31.3)	8 (50.0)	4 (25.0)	0 (0.0)	5 (31.3)	0 (0.0)	16
B A S E 博士後期課程	3 (75.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4
B A S E 博士課程	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0
B A S E 一貫制博士課程	4 (100.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	4 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4
連合獣医学研究科博士課程	4 (40.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	4 (40.0)	4 (40.0)	3 (30.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10

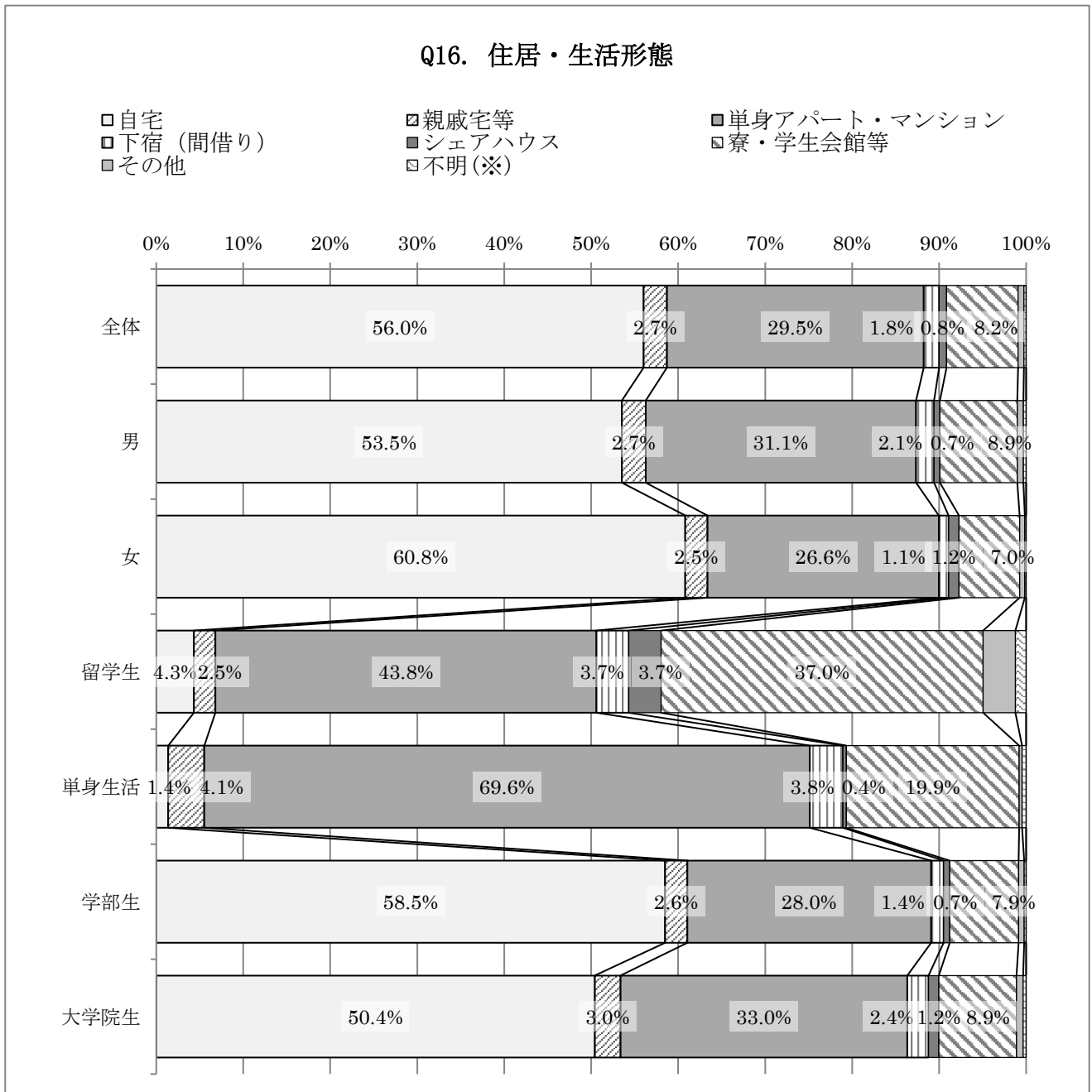
() 割合(%)

第三章 住居

16. 現在の住居・生活形態

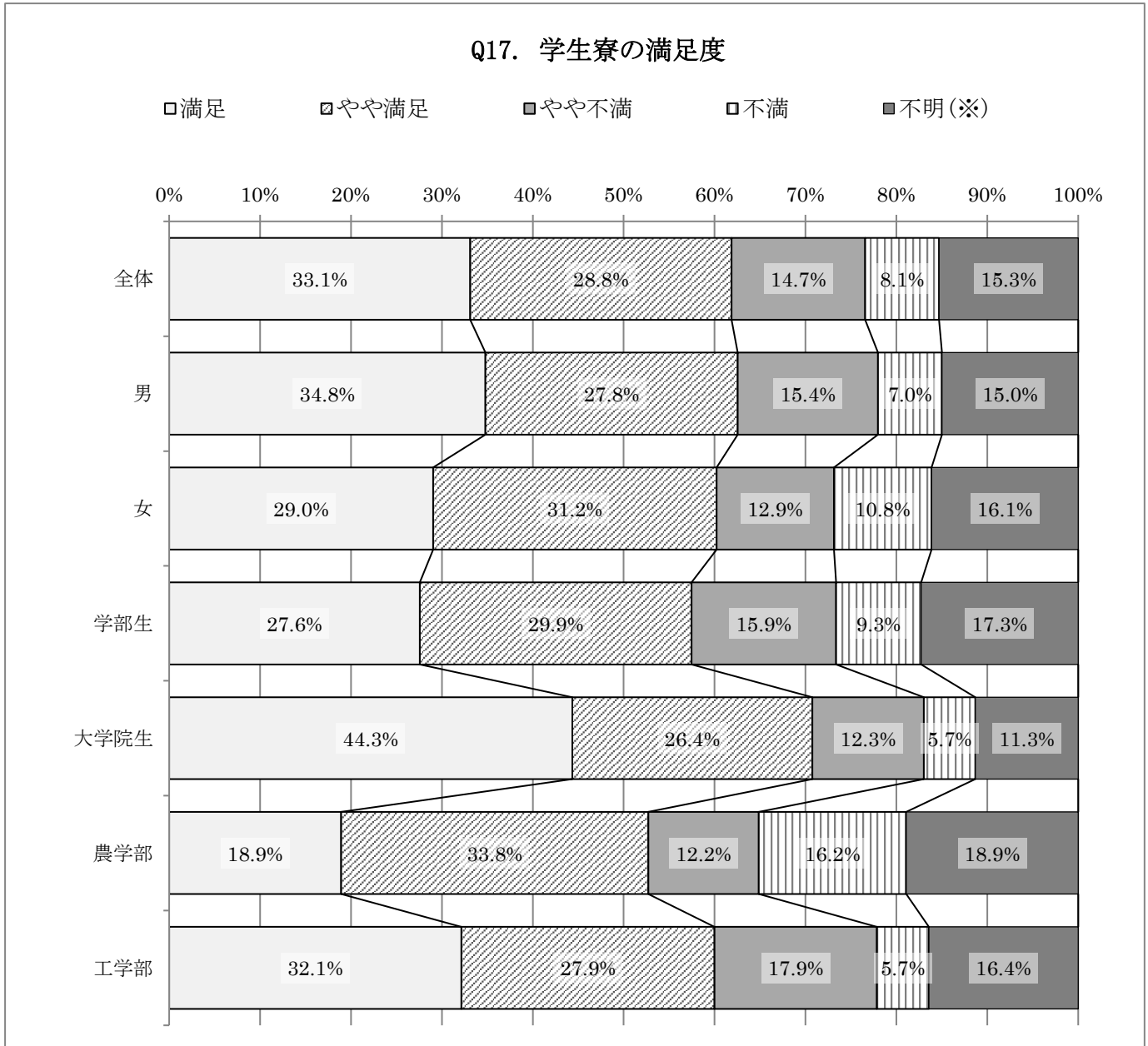
回答者全体 3,885 名中 1,520 名 (39.1%) が単身で生活している。これまでの調査と比較して、男子学生の単身生活者は、48.6% (第 5 回) → 47.2% (第 6 回) → 46.1% (第 7 回) → 44.3% (第 8 回) → 42.5% (第 9 回)、女子学生の単身生活者は、37.9% → 39.2% → 35.4% → 34.7% → 32.7% と変遷しており、わずかではあるが減少傾向が認められる。学年が上がるにつれて単身生活者の比率は増加 (学部生 37.4%、大学院生 43.0%) するが、その数値は前回調査時より低く (それぞれ 38.5% と 48.4%)、こちらも減少傾向がうかがえる。経済状況が単身生活者の割合減少に影響していると推察される。住居・生活形態は上記を反映しており、回答者全体で 58.7% が自宅生 (親戚宅等含む)、32.1% が単身アパート・下宿、8.9% が寮・学生会館等に居住している (0.3% は不明)。

また、留学生の単身生活者の比率は 72.2% で、前回調査時 (62.8%) より微増した。その一方で、留学生の 27.8% は共同生活をしており、特に友人等との共同生活者の比率 (8.0%) が、国内生 (1.1%) と比べて高い。留学生は、47.5% が単身アパート・下宿、37.0% が寮・学生会館等、3.7% がシェアハウスに居住している。



17. 学生寮の満足度

「満足」「やや満足」を合わせると全体で61.9%となり、前回調査時（68.5%）と比べて低い結果となったが、おおむね満足されていることがわかる。特に「工学部」、「男子」で満足度が高く、男子寮（平成22年3月に完成）の改修効果（個室化）が持続しているものと考えられる。



※不明：無回答、重複回答を含む。

18. 学生寮への入居希望

本学学生寮に入寮していない者のうち、入居希望者は352名（9.9%）と前回の11.5%からやや減少し、前々回の25%からは大幅に減少した（前々回調査時は学生寮が改善された直後であったことから入居希望者が多かったものと思われる）。この傾向から、アパートに満足している学生が増えてきていることが伺える。一方、留学生は入居が限られているものの、37名（36.3%）が入居を希望しており、国内生(9%)よりも需要が高いことが示唆される。

Q18. <本学学生寮に入寮していない方>に伺います。入居を希望しますか（回答数）

	希望する	希望しない	不明(※)	合計
全体	352	2,826	387	3,565
男	238	1,833	252	2,323
女	114	993	135	1,242
留学生	37	55	10	102
国内生	315	2,771	377	3,463
単身生活	108	1,001	109	1,218

19. 学生寮への入居を希望しない理由

学生寮への入居を希望しない理由として、単身生活者の大多数が現状の住居に満足しているからと回答している。集団生活が苦手であるという理由は女子学生でやや多く見られた（男子4.0%に対し、女子7.8%）。留学生についても現状の住居に満足している学生が多い。

Q19. <Q18で希望しないと答えた方>に伺います。その理由は何ですか（回答数）

	自宅だから	アパートに満足している	集団生活が苦手	その他	不明(※)	合計
全体	1,534	795	151	218	128	2,826
男	949	573	74	157	80	1,833
女	585	222	77	61	48	993
留学生	6	26	6	15	2	55
国内生	1,528	769	145	203	126	2,771
単身生活	14	726	101	110	50	1,001

※不明：無回答、重複回答を含む。

20. 国際交流会館への入居希望<外国人留学生対象>

外国人留学生の約54.3%（162名中88名）が国際交流会館への入居を希望しており、需要が高いことが分かる。

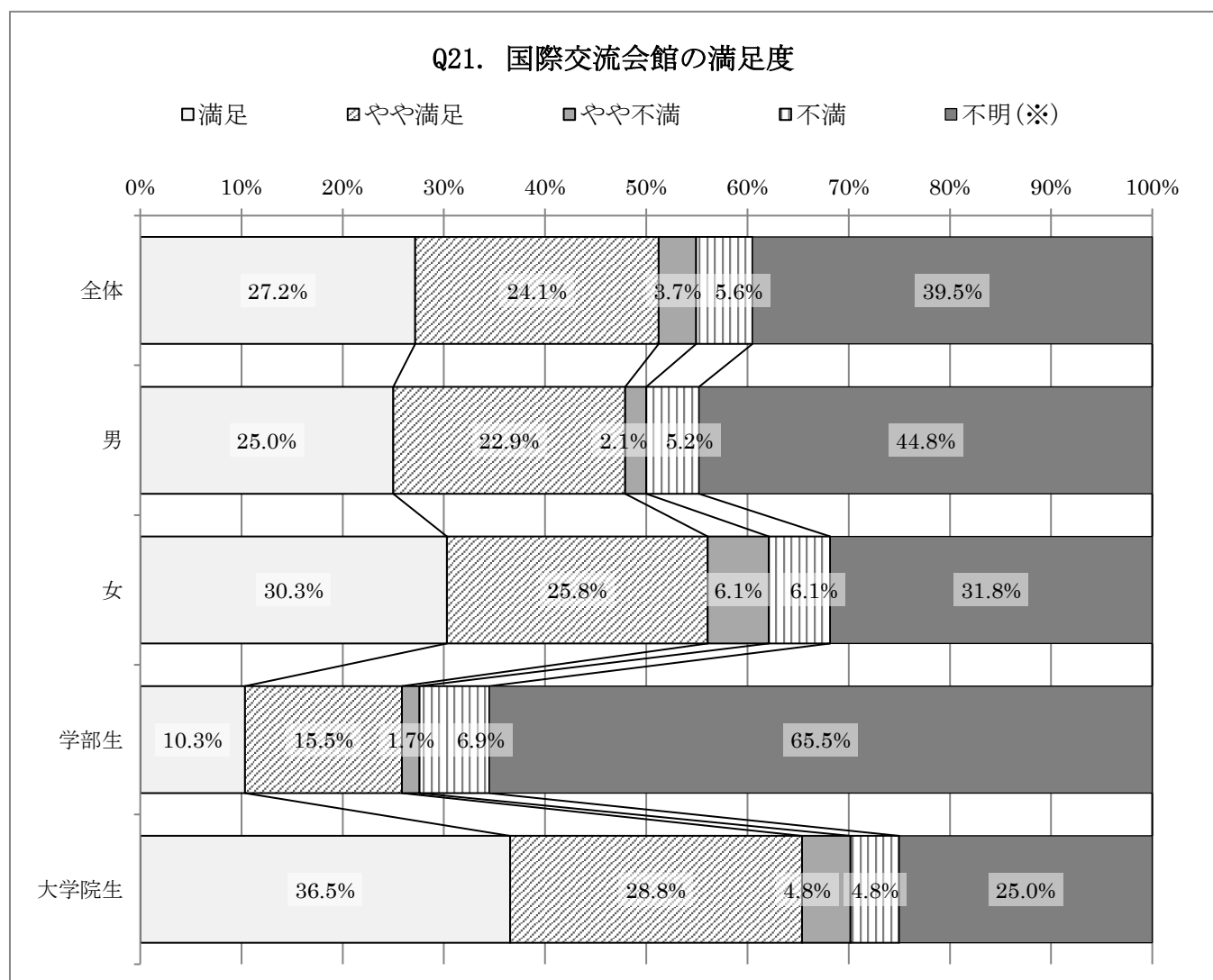
Q20. <外国人留学生の方>に伺います。国際交流会館への入居を希望しますか（回答数）

	希望する	希望しない	不明(※)	合計
全体	88	64	10	162
男	52	40	4	96
女	36	24	6	66

※不明：無回答、重複回答を含む。

2 1. 国際交流会館の満足度

国際交流会館に入居している又は入居したことがある外国人留学生（162名）を対象に調査した結果、「満足」「やや満足」を合わせて51.2%となり、前回調査時（60.7%）と比べてやや低い。ただし「無回答」を含む「不明」を除けば、「満足」と「やや満足」で全体の84.7%となり満足度は高いと言える。



※不明：無回答、重複回答を含む。

2 2. 国際交流会館への入居を希望しない理由

国際交流会館への入居を希望しない外国人留学生（64名）が挙げた理由としては、回答が多い順に、「部屋が狭い」、「清潔でない」、「設備が充実していない」が挙げられた。

Q22. 国際交流会館への入居を希望しない理由は何ですか（回答数）

	入居費が高い	設備が充実していない	清潔でない	部屋が狭い	共有部分が少ない	規則が厳しい	無回答	回答者数
全体	10	16	17	19	5	14	8	64

第IV章 通学

23. 主な通学手段・方法

学生の主な通学手段・方法は全体で、公共交通機関（52.6%）、自転車（29.5%）、徒歩（14.0%）の順に多く、その割合は前回調査時と大きな変化はない。一方、オートバイは、4.1%（第5回）→2.1%（第6回）→1.4%（第7回）→1.1%（第8回）→0.6%（今回）と回を追うごとに下がっており、バイク離れの傾向は顕著である。小金井キャンパス（工学部・工学府）では府中キャンパス（農学部・農学府）より徒歩の割合が高く、自転車の割合はその逆の傾向になっている。

Q23. 主な通学手段・方法（回答割合）

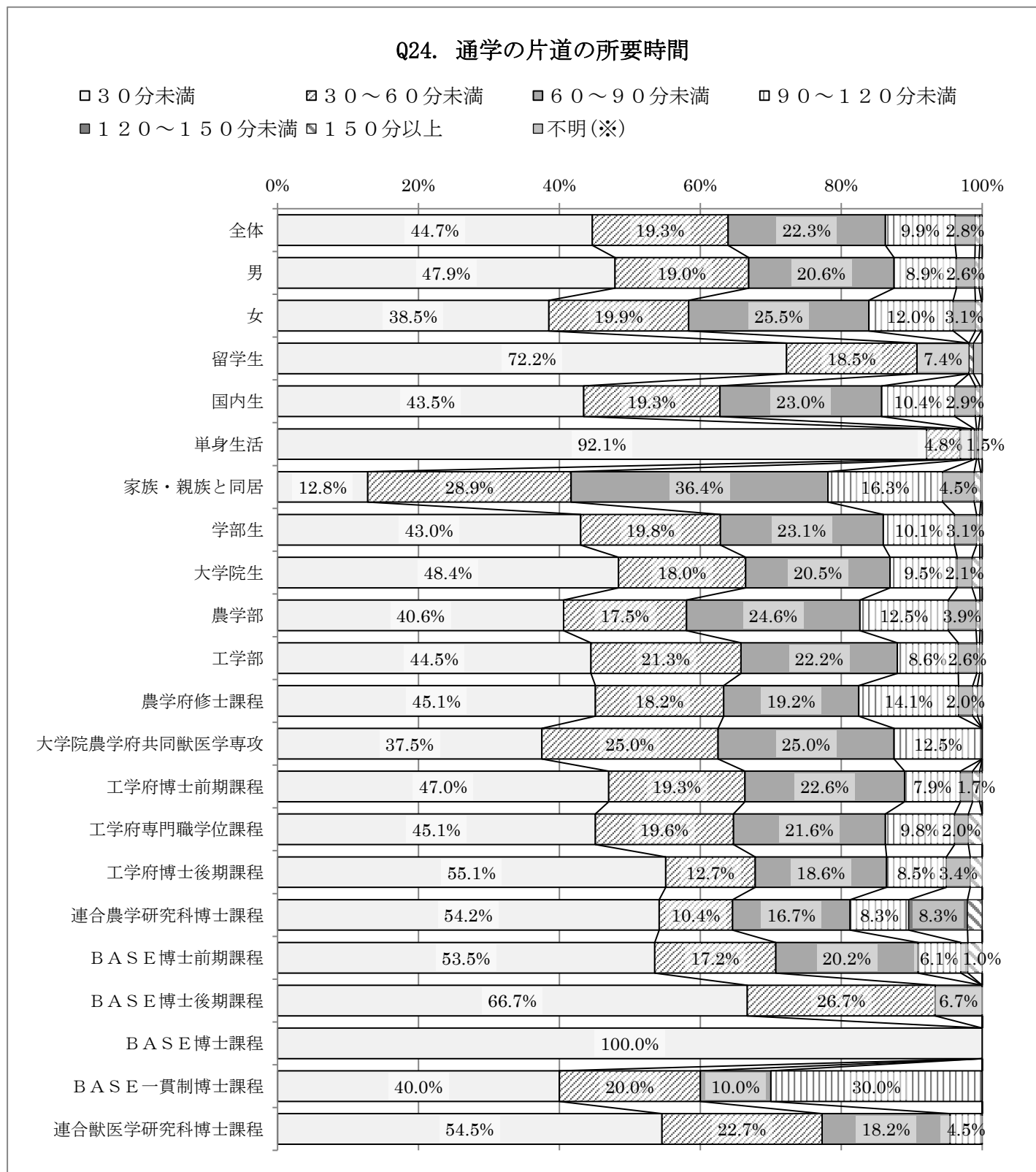
	徒歩	自転車	オートバイ	自動車	公共交通機関（電車、バスなど。自転車併用含む。）	不明(※)	合計
全体	14.0%	29.5%	0.6%	2.6%	52.6%	0.7%	100.0%
男	15.4%	31.7%	0.9%	3.1%	48.3%	0.7%	100.0%
女	11.3%	25.2%	0.2%	1.8%	60.7%	0.7%	100.0%
留学生	22.2%	40.7%	0.0%	1.9%	30.2%	4.9%	100.0%
国内生	13.6%	29.0%	0.7%	2.7%	53.5%	0.5%	100.0%
单身生活	33.5%	54.0%	0.5%	3.6%	7.4%	1.1%	100.0%
家族・親族と同居	1.2%	12.7%	0.8%	1.9%	82.9%	0.5%	100.0%
学部生	13.1%	28.8%	0.6%	2.4%	54.6%	0.6%	100.0%
大学院生	16.0%	31.0%	0.8%	3.2%	48.0%	1.0%	100.0%
農学部	6.3%	33.4%	0.4%	2.5%	56.9%	0.6%	100.0%
工学部	17.2%	26.0%	0.7%	2.3%	53.2%	0.5%	100.0%
農学府修士課程	7.4%	38.7%	0.7%	1.7%	50.2%	1.3%	100.0%
大学院農学府共同獣医学専攻	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	62.5%	0.0%	100.0%
工学府博士前期課程	17.8%	29.6%	1.0%	2.7%	48.0%	1.0%	100.0%
工学府専門職学位課程	19.6%	23.5%	0.0%	3.9%	52.9%	0.0%	100.0%
工学府博士後期課程	27.1%	25.4%	0.8%	4.2%	42.4%	0.0%	100.0%
連合農学研究科博士課程	4.2%	35.4%	0.0%	0.0%	54.2%	6.3%	100.0%
B A S E 博士前期課程	23.2%	27.3%	1.0%	2.0%	46.5%	0.0%	100.0%
B A S E 博士後期課程	20.0%	26.7%	0.0%	20.0%	33.3%	0.0%	100.0%
B A S E 博士課程	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
B A S E 一貫制博士課程	20.0%	0.0%	0.0%	10.0%	70.0%	0.0%	100.0%
連合獣医学研究科博士課程	13.6%	31.8%	0.0%	27.3%	27.3%	0.0%	100.0%

※不明：無回答、重複回答を含む。

24. 通学所要時間

通学の片道所要時間は「30分未満」が全体の49.9%（第6回）→47.5%（第7回）→46.7%（第8回）→44.7%（今回）と減少傾向にあり、それにともない1時間未満で通学している学生の比率も67.2%→65.9%→64.0%→63.9%と低下する傾向にあるが、全体のほぼ3分の2の学生が1時間以内で通学している状況に変わりはない。学年が進むにつれて通学所要時間が短くなる傾向にあるが、これは自宅外生の比率が増えるためと考えられる（質問事項16）。

自宅生比率が高い女子学生は、男子学生と比較して通学所要時間が長くなる傾向にある。片道2時間を超える学生の比率についてみると、女子学生が若干多いが差は小さい（女子3.1%、男子2.6%）。



第V章 学業、学習環境

25. 大学憲章、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の周知状況

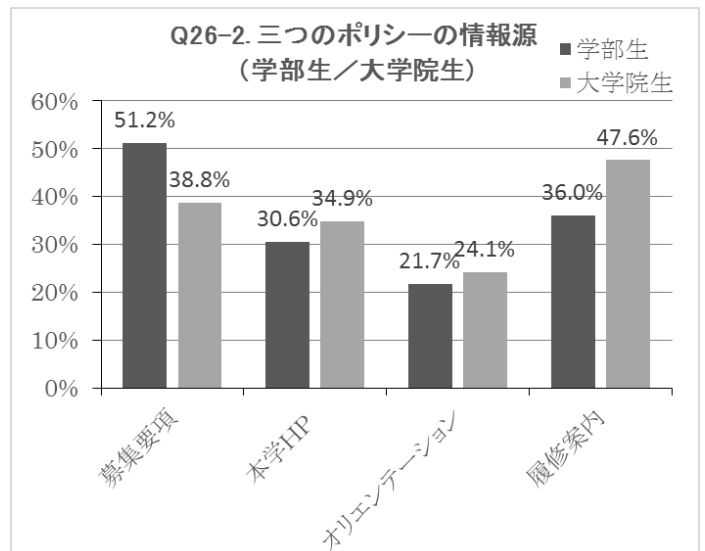
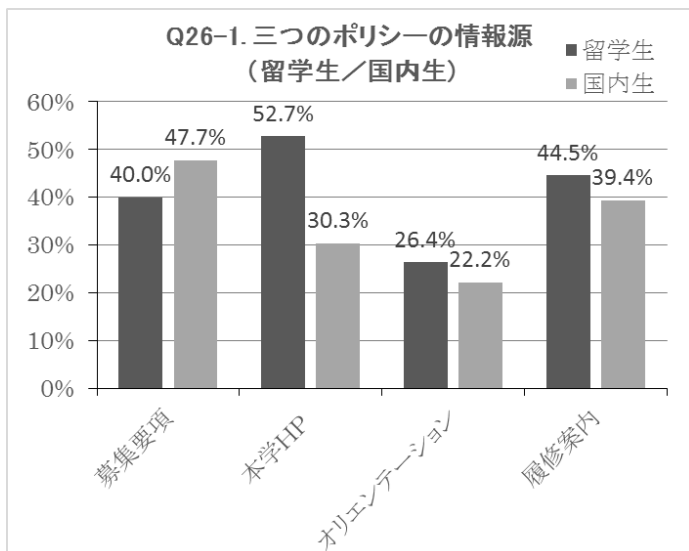
大学憲章や三つのポリシーのうち、いずれかを知っていると回答した学生は全体で 36.1%であり、十分に周知されているとは言えないが、過去の調査結果と比較すると緩やかに増加している。学部 1 年生、女子学生、留学生、博士学生において周知度が高い。部局別にみると、農学部・農学府が工学部・工学府に比べて周知度が高い傾向にある。

Q25. 三つのポリシーの周知度

	周知度		周知度		周知度
全体	36.11%	農学部	39.51%	学部 1 年	45.30%
男	33.22%	工学部	32.22%	学部 2 年	33.86%
女	41.65%	農学府	43.43%	学部 3 年	33.15%
留学生	66.67%	工前期	30.95%	学部 4 年	29.04%
国内生	34.78%	工後期	38.98%	修士	35.29%
学部学生	34.98%	連農	77.08%	博士	58.01%
大学院生	38.70%	BASE 前期	30.30%		
		BASE 後期	93.33%		

26. 大学憲章や三つのポリシーの情報入手方法（複数回答可）

国内の学生においては、募集要項（47.7%）と履修案内（39.4%）を通じて大学憲章や三つのポリシーの情報を得ている場合が多く、本学 HP（30.3%）がこれに続く。留学生の場合は HP を活用している割合が高い（52.7%）。学部生は募集要項を、大学院生は履修案内を活用している場合が 5 割程度となっており、HP の充実化が求められている一方で、紙媒体の冊子も依然として重要であることが分かる。



27. 本学への満足度

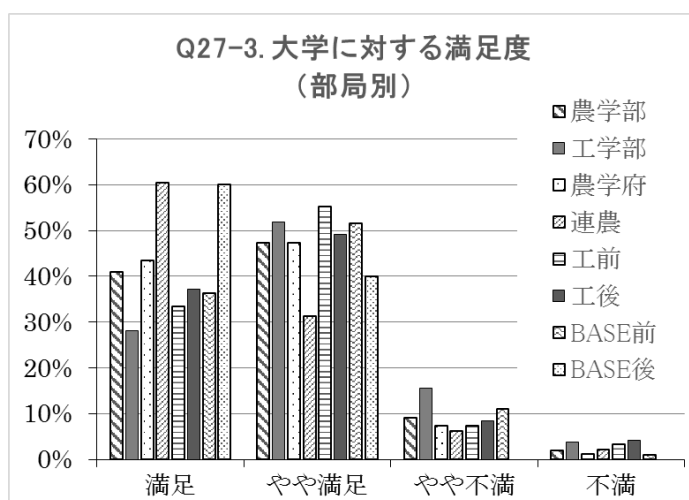
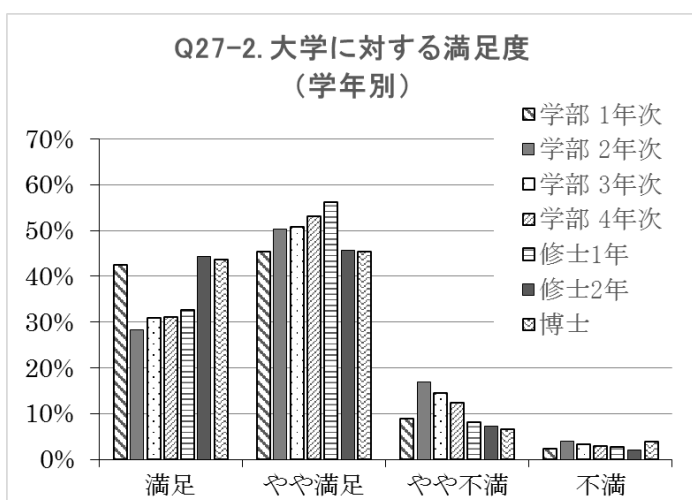
本学に対する満足度は、「満足」と「ほぼ満足」で85.0%であり、ここ10年間非常に高い満足度を維持している。特に女子学生、そして留学生の満足度は9割程度と高水準である。学部大学院別では大学院生の満足度が高く、学部別では農学部生の満足度が高いこともこれまでと同様な傾向である。

Q27-1. 大学に対する満足度の推移

調査	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
全体	78.6%	79.9%	79.1%	87.6%	89.7%	85.0%	85.0%
男	75.8%	77.9%	76.2%	86.2%	88.7%	83.3%	83.0%
女	82.3%	84.1%	87.5%	91.4%	91.8%	88.9%	88.8%
学部		76.7%	76.8%	85.7%	88.6%	84.2%	83.1%
大学院	81.7%	87.4%	85.2%	92.2%	92.4%	86.9%	89.3%
農学部	81.4%	83.6%	84.3%	88.6%	89.6%	90.8%	88.2%
工学部	68.4%	72.1%	73.9%	84.5%	88.0%	80.7%	80.0%
学業困難者				81.9%	85.6%		
留学生				92.8%	96.8%	94.1%	90.1%

※大学院生は、農学府・工学府・BASE・連農の合計。空欄は調査項目なし。

学年別に見ると、「満足」の割合は学部1年次、修士2年、博士の学生においては40%と高く、学部2年次～修士1年では30%となっている。初年次のカリキュラムの充実度、修士2年次と博士課程の研究指導の充実度を示していると考えられる。また、部局別にみると、連農、BASE後期の「満足」が6割を超えている。



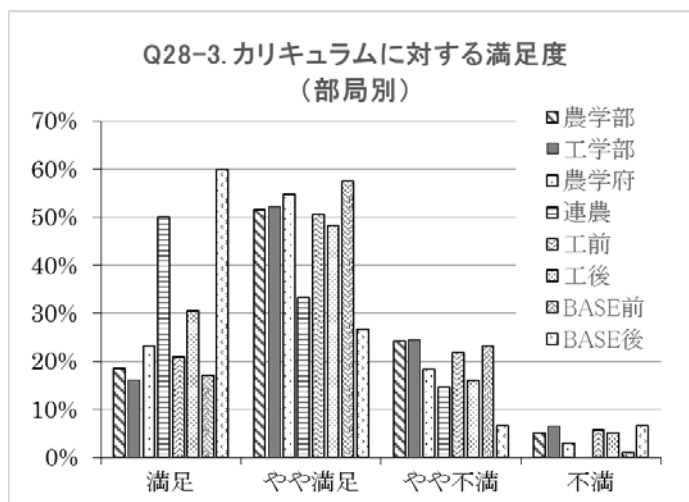
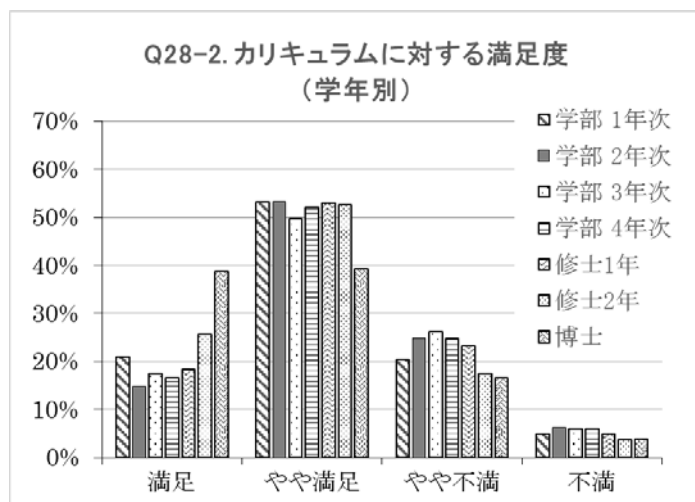
28. カリキュラムへの満足度

全体では「満足」＋「やや満足」が70.9%となった。前回の68.6%より僅かに回復したものの、引き続き改善が必要と考えられる。前回までの調査と同様に、大学院生の満足度が学部学生よりも高く、男女別では女子学生の満足度が高い傾向にある。部局別に見ると、前回調査時より改善された部局が多い中で、工学府と留学生の満足度は低下している。特に留学生は、前回まで非常に高い満足度を示していた区分であっただけに低下度合が大きく、原因を追求し今後の動向に注意する必要がある。

Q28-1. カリキュラムに対する満足度

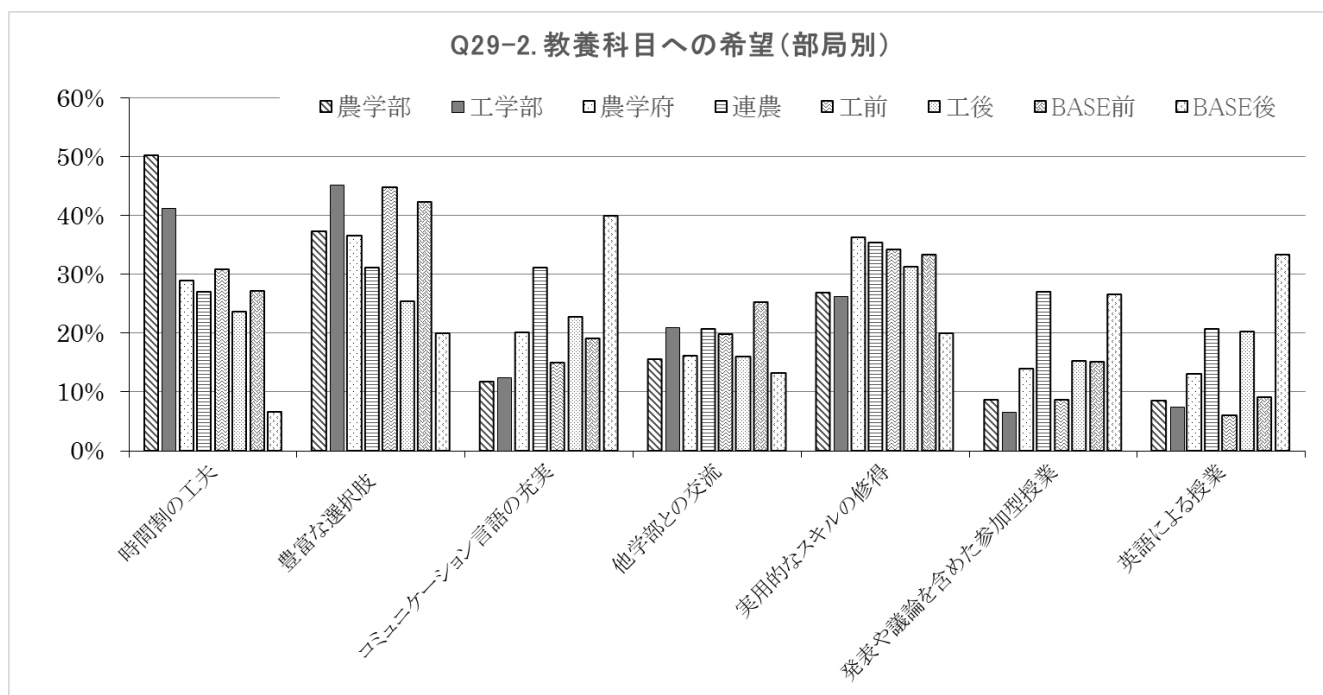
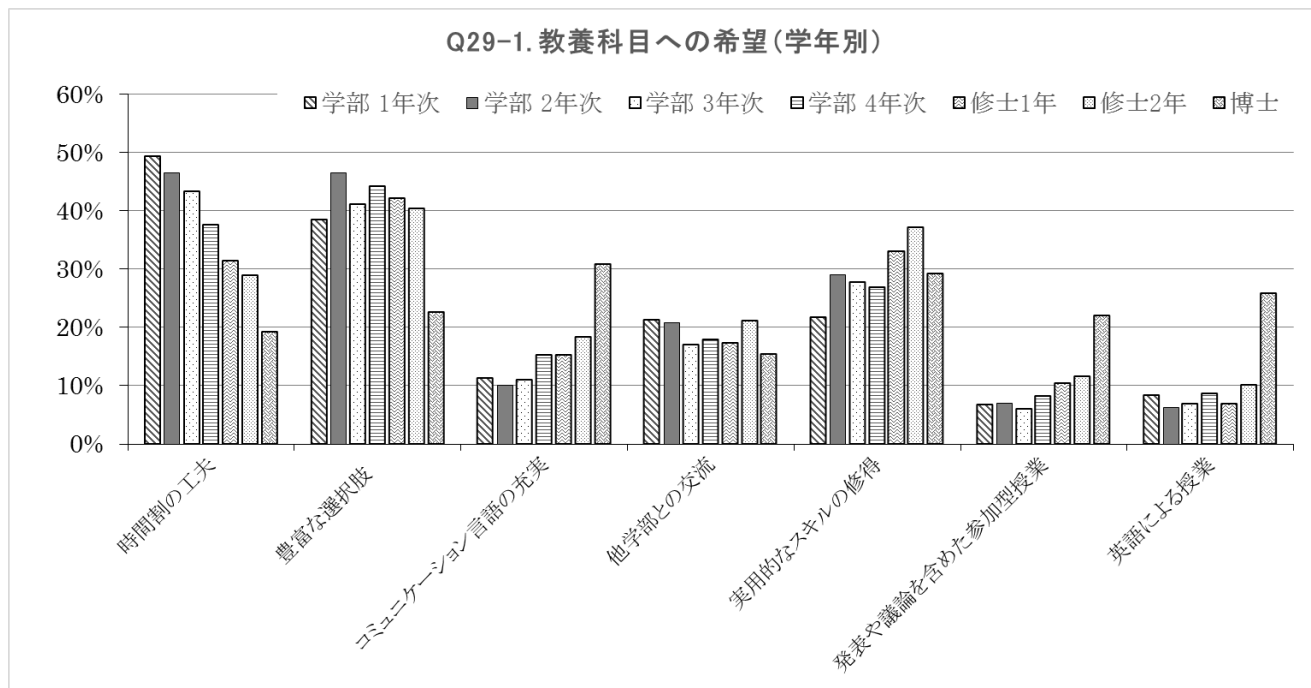
調査	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
全体	41.5%	52.8%	55.4%	79.0%	83.4%	68.6%	70.9%
男		50.5%	53.3%	78.3%	83.7%	67.4%	68.1%
女		57.7%	61.6%	81.3%	82.9%	71.5%	76.3%
学部		50.4%	53.6%	77.9%	77.0%	66.0%	69.0%
農学部	39.2%	52.4%	48.6%	71.6%	77.0%	68.0%	70.1%
工学部	41.2%	49.2%	55.5%	80.7%	84.9%	64.9%	68.4%
大学院	47.9%	58.6%	60.1%	82.0%	87.2%	75.0%	75.3%
農学府				79.6%	80.9%	72.7%	78.0%
工学府				82.5%	89.8%	76.3%	73.2%
連農				80.0%	89.8%	75.4%	83.3%
BASE				85.1%	84.6%	72.5%	76.8%
留学生				95.7%	90.9%	92.0%	82.1%

大学への満足度の高さと比べて、カリキュラムへの満足度は低い傾向にあり、学部学生の2割以上が、「やや不満」と回答している。学部よりも大学院で満足度が高くなり、博士課程で最も満足度が高い。学生の特性や興味を見極めてカリキュラムを改善することが、特に学部2年次～4年次のカリキュラムに求められている。



29. 教養科目（共通科目）への希望（複数回答可）

全学共通教育科目（2019年度から教養科目）については、「時間割の工夫」と「豊富な選択肢」に対する希望が強く、次いで「実用的なスキルの修得」への希望が高い。これは前回調査の際にも認められた傾向である。それらの項目と比較すると、「コミュニケーション言語」や「発表や議論を含めた参加型授業」、「英語による授業」への関心はそれほど高くないが、博士課程の学生からは突出して希望が多くなっている。教養科目の設計の工夫に加えて、参加型授業や英語による授業への動機付けなども必要と考えられる。



30. 一週間の平均授業外学習時間

週6時間以上の割合をしてみると、第6回から34.9%、46.7%、51.4%と上昇傾向にあり、今回は48.9%であることから、良好な状態を維持できていることが示された。特に、週20時間以上の割合が2割以上と高い数値となっている。男女や生活基盤（単身生活/家族・親族と同居）による差は特に見られないが、国内生よりも留学生が、学部生よりも大学院生が、より長時間授業外学習に取り組む傾向がある。また、工学部生は、農学部生より授業外学習時間が多いようである。大学院では、課程ごとに授業外学習時間が大きく異なる傾向にあり、それぞれの分野の特性による学習スタイルの違いと考えられる。

Q30-1. 授業外学習時間（一週間）

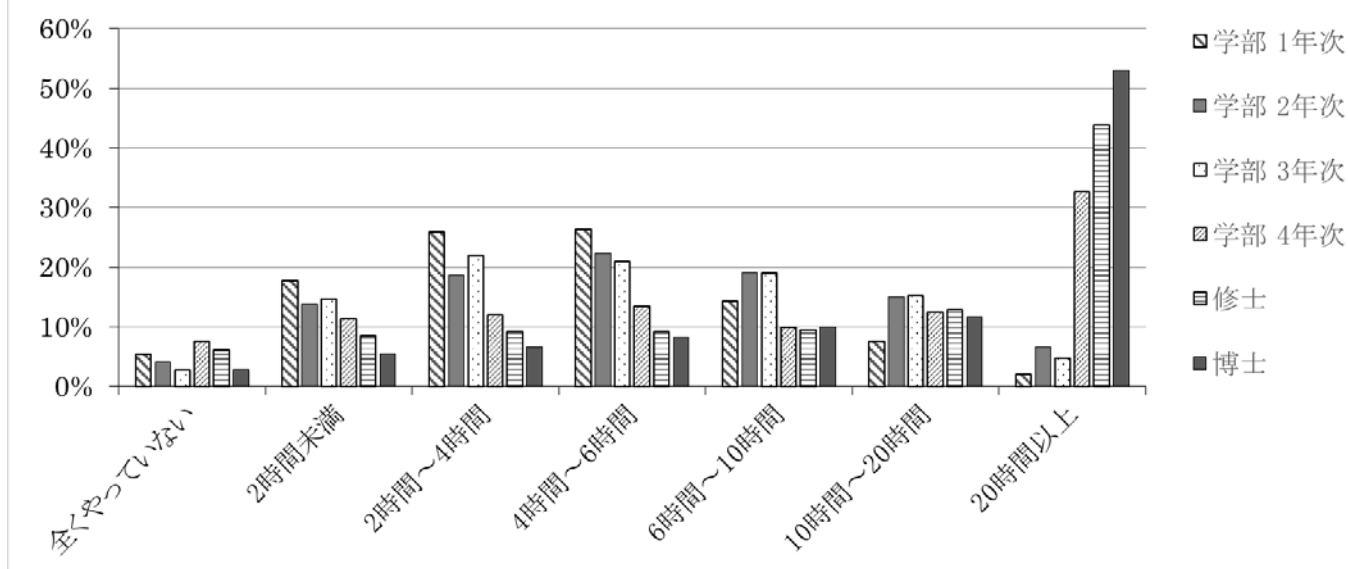
	0時間	0-2時間	2-6時間	6-10時間	10-20時間	20時間以上
第5回(H17)	8.2%	16.3%	32.0%	22.2%	11.5%	9.9%
第6回(H21)	8.6%	22.2%	34.3%	19.9%	8.7%	6.3%
第7回(H24)	6.1%	16.0%	31.2%	20.0%	13.4%	13.3%
第8回(H27)	4.8%	11.3%	32.5%	15.2%	13.0%	23.2%
第9回(H30)	5.3%	12.2%	32.8%	13.4%	12.7%	22.8%

Q30-2. 授業外学習時間（一週間）

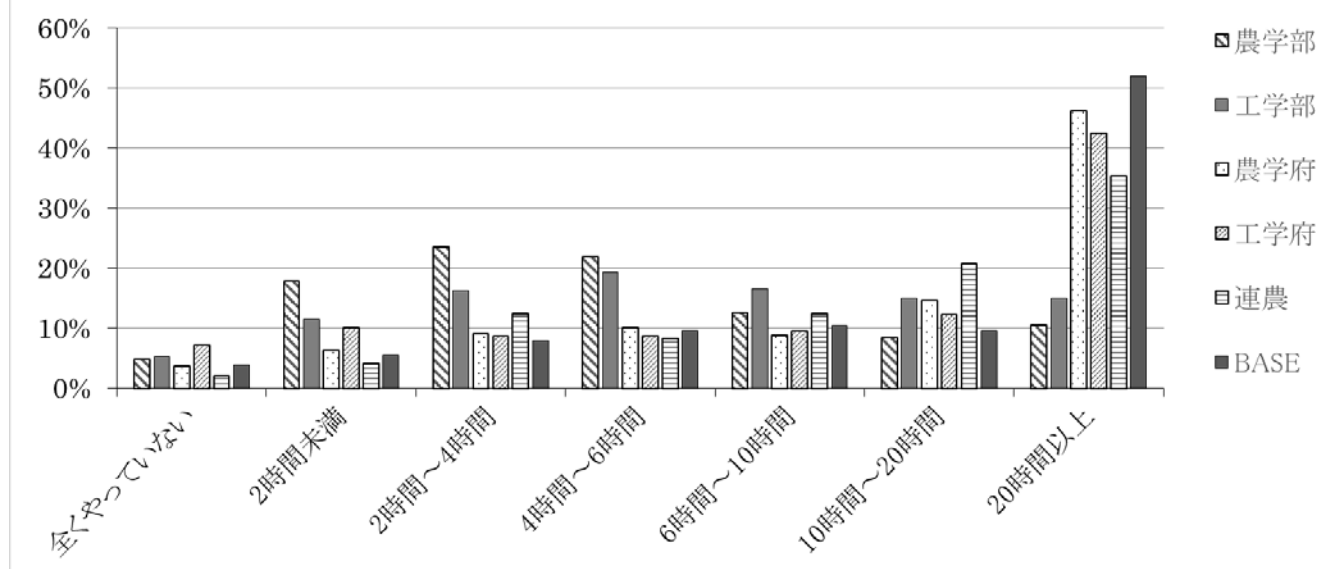


学年が上がるにつれて、授業外学習時間の少ない学生と多い学生で時間数に差が出てくる傾向がある。学部 4 年次、修士、博士では、授業外学習時間を 20 時間以上とする学生がそれぞれ 3 割、4 割、5 割を超えるが、これは研究時間を含めていると考えられる。学部 1～3 年次では、週 2～6 時間が多い。部局別に見ると、工学部生の方が、農学部生よりやや多めに授業外学習を行う傾向がある。大学院では、前述のように課程ごとの傾向の違いが見られたが、部局ごとに集計した場合は大きな差は見られない。

Q30-3. 授業外学習時間(学年別)

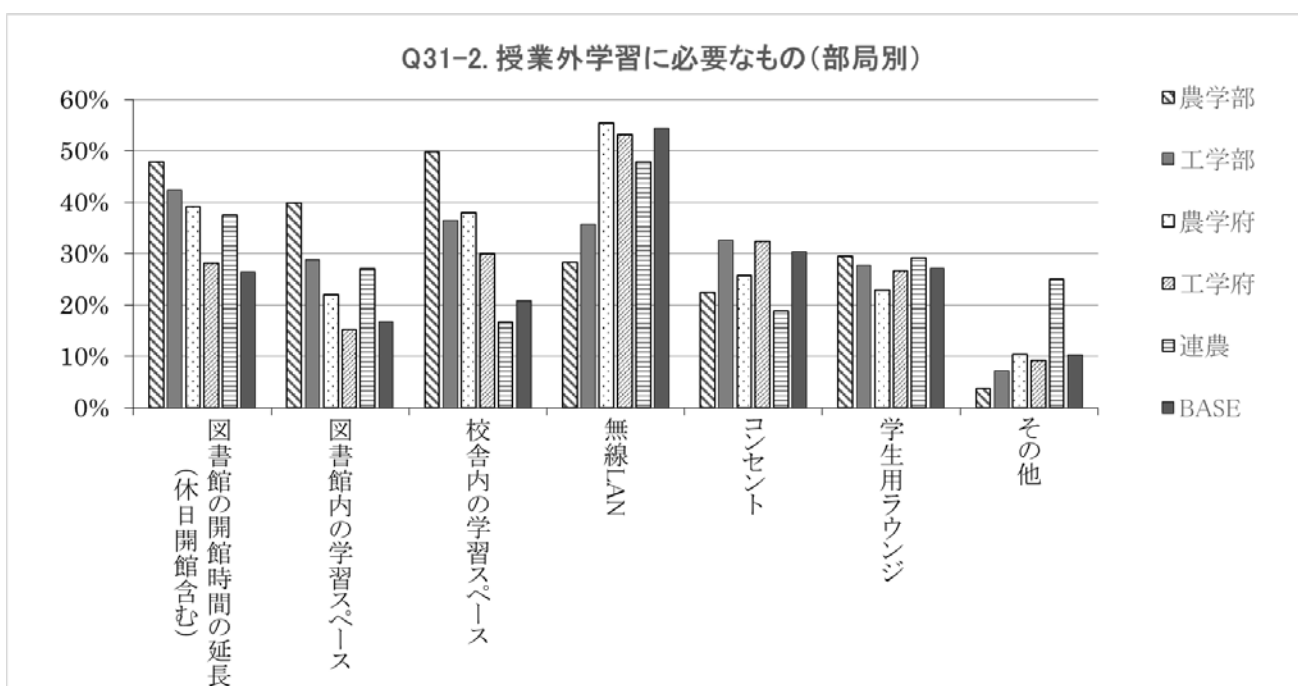
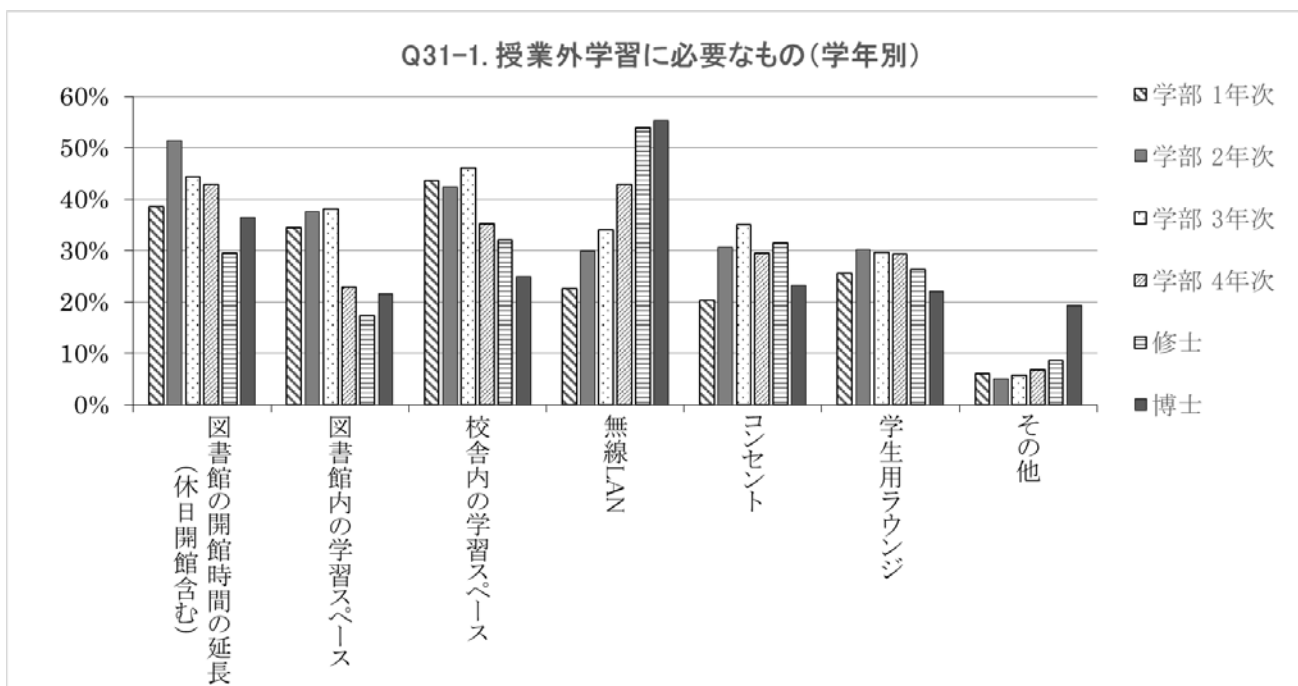


Q30-4. 授業外学習時間(部局別)



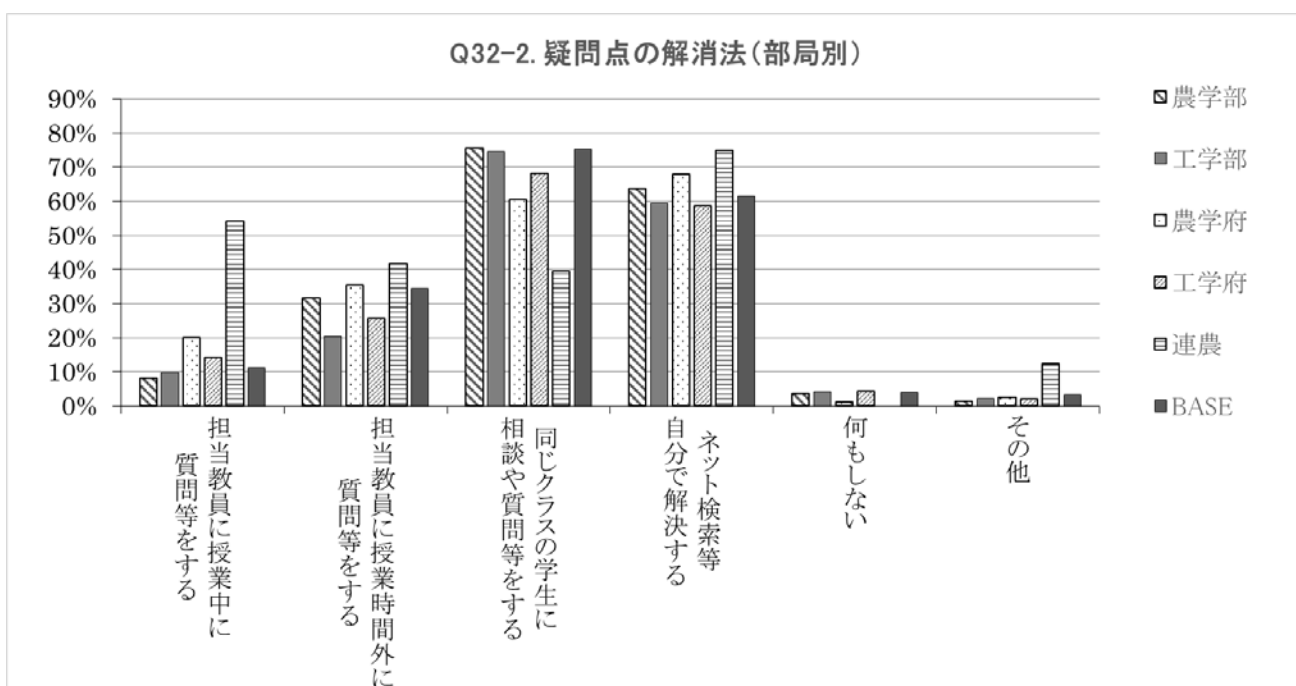
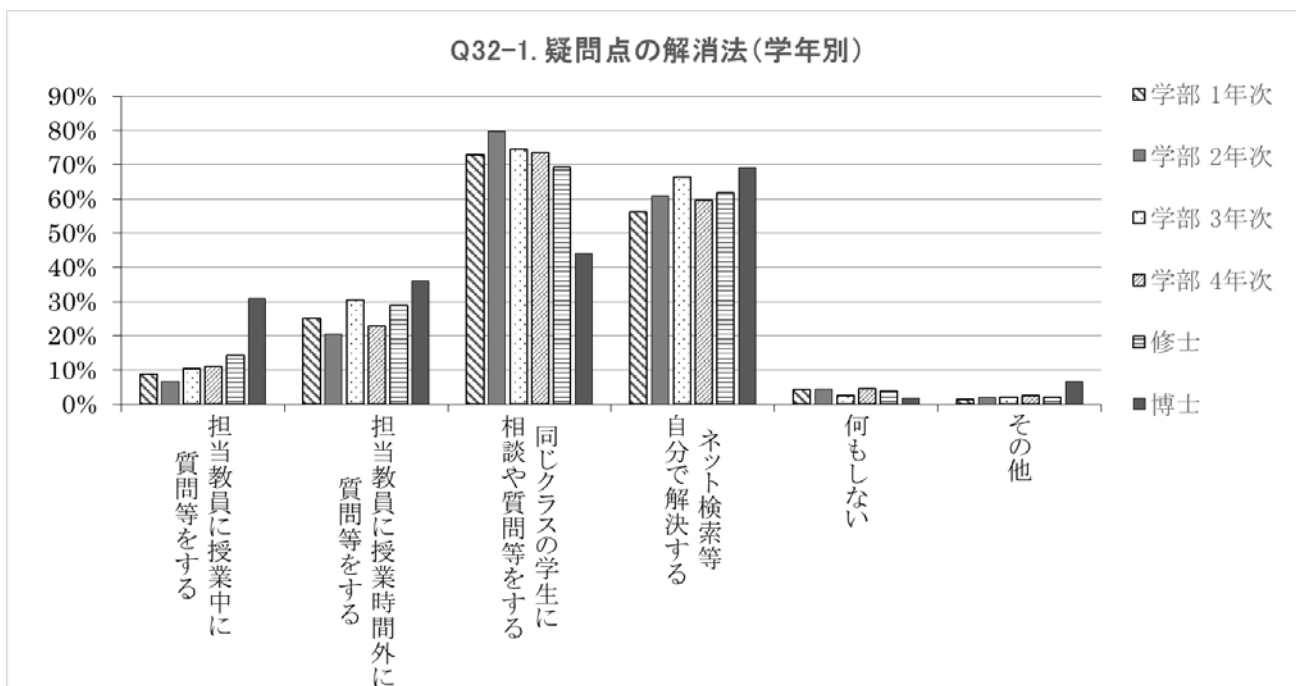
3 1. 授業時間外学習を行うのに必要な施設・設備や対策

図書館の開館時間の延長を望む声が根強い。また、校舎内、図書館内の学習スペースは、特に学部1年次～3年次からの需要が高いが、研究室に学習スペースがあると思われる学部4年次や大学院の学生でも2割～3割が必要と回答している。部局別では、工学部よりも農学部の学生が、工学府よりも農学府の学生がより多く学習スペースを希望しており、キャンパス間に差が認められる。両キャンパスでの改善が望まれるが、前項で「工学部の学生の方が、農学部の学生よりやや多めに授業外学習を行う傾向」が示唆されており、農学部生に授業外学習を促すためにも特に府中キャンパスにおいて授業外学習に取り組める環境を整備することが必要と考えられる。無線LANは、学年が進むほど需要が高まり、大学院生では5割以上が必要と回答している。



3 2. 授業における疑問についての対処方法

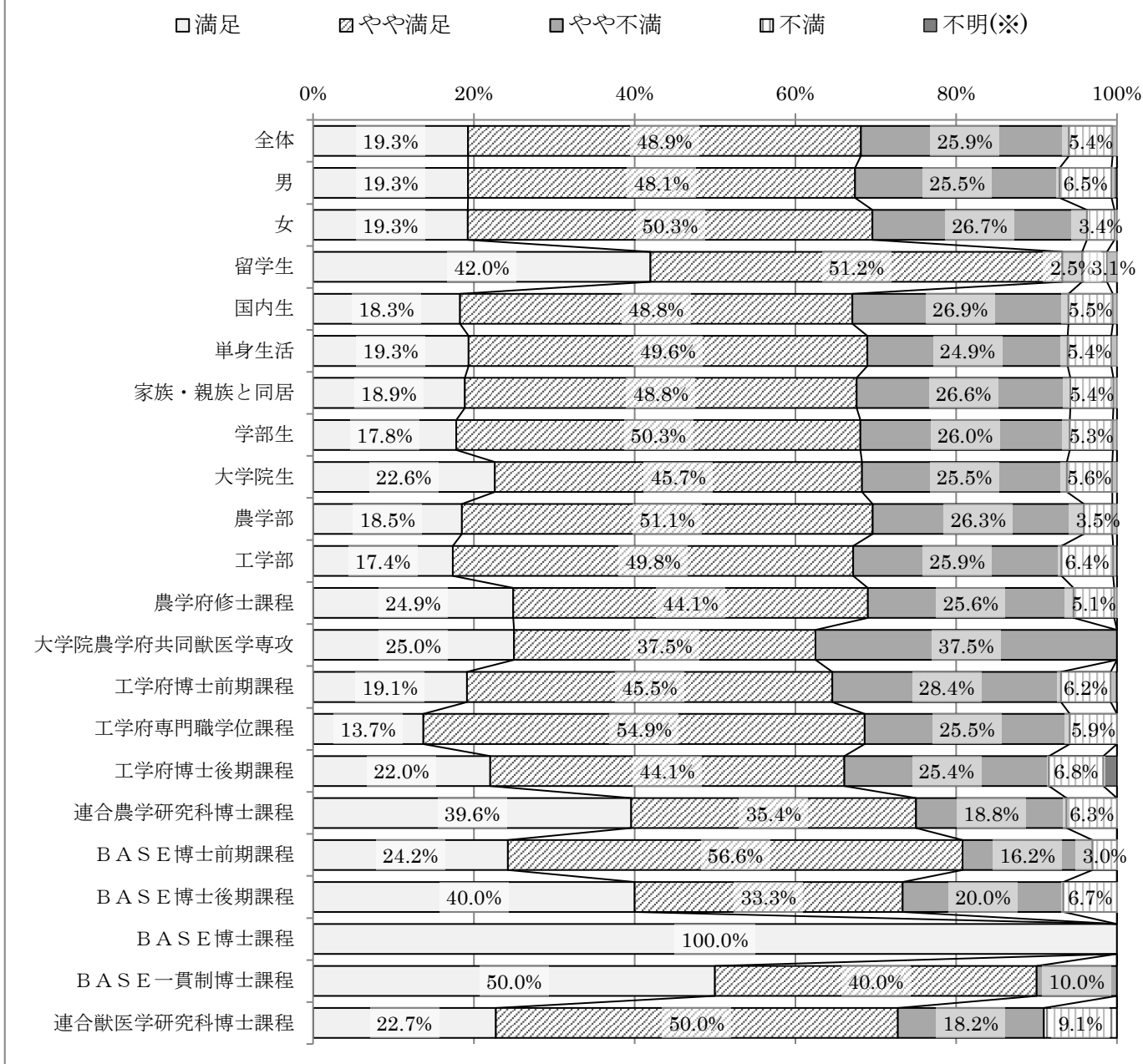
「クラスの学生に相談する」と「自分で解決する」学生がもっとも多く、これまでの調査で見られた傾向と同様である。授業時間外に教員に質問する学生は2～3割程度、授業内で教員に質問する学生は学部生と修士で1割程度、博士では3割となっている。博士課程では、「クラスの学生に相談する」学生の割合が少ない分、「授業中に教員に質問する」学生が増える様子がみられる。部局別で比較すると、授業内外で教員に質問する学生の割合が農学部、農学府、連農で高いという、前回と同様の傾向がみられる。連農では「授業中に教員に質問する」学生が前回より1割ほど増えており、他部局との差がさらに顕著になった。



3.3. 講義室、実験室への満足度

全体では「満足」、「やや満足」と答えた学生が68.2%となっており、2009年度の調査以来、満足している学生の割合が4回連続で減少している。属性別でみると、留学生やBASEをのぞいてほぼ全ての属性の学生にみられる傾向である。部局別では、農学部と工学府で満足度の程度が低下しており、工学部と農学府では変わらない。一方、BASEでは他の部局に比べて満足度の程度が高く、また前回調査と比べても高くなっている。

Q33-1. 設備への満足度(属性別)



Q33-2. 設備への満足度の推移

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
良い (%)	44.2								
満足している (%)		38.9	41.4	63.7	69.6				
満足+やや満足 (%)						80.6	75.7	70.1	68.2

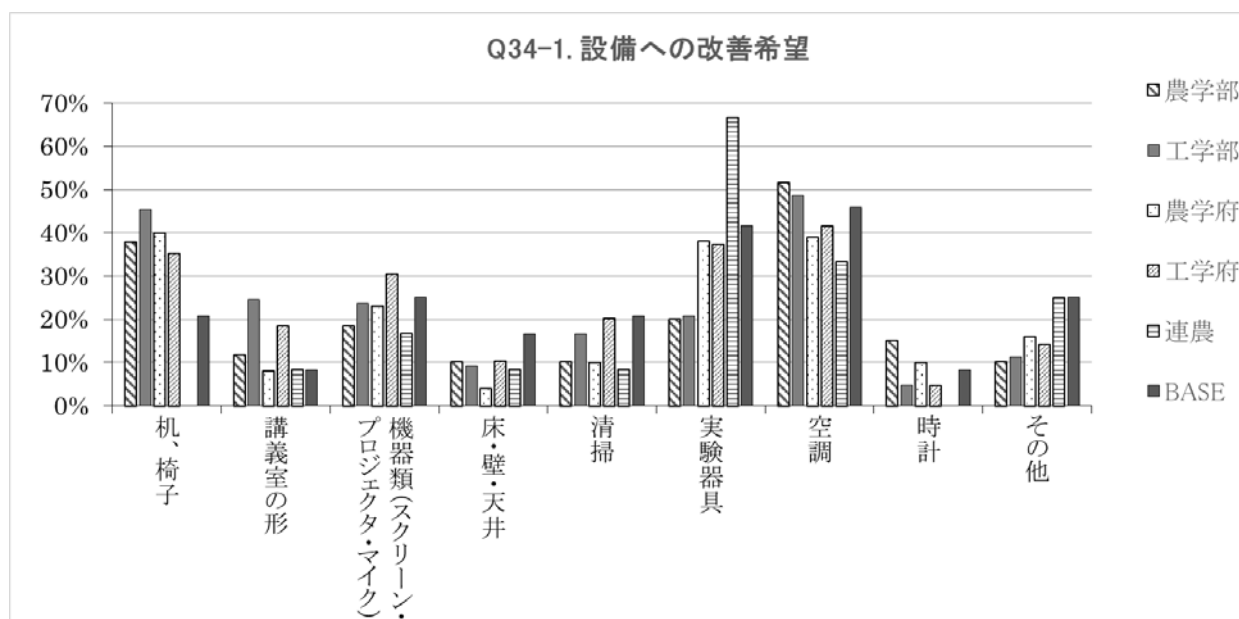
※選択肢は第1回は「良い」「良くない」「早急に改善を要する」の3択、第2～5回は「満足している」「満足していない」の2択、第6～8回は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4択。

Q33-3. 設備への満足度の推移（部局別）

満足+やや満足(%)	第6回	第7回	第8回	第9回
	H21	H24	H27	H30
農学部	70.9%	73.7%	73.3%	69.6%
工学部	82.6%	75.7%	67.2%	67.2%
農学府	73.8%	69.7%	69.0%	69.1%
工学府	87.7%	78.0%	72.8%	65.2%
BASE	90.3%	86.1%	75.0%	80.8%

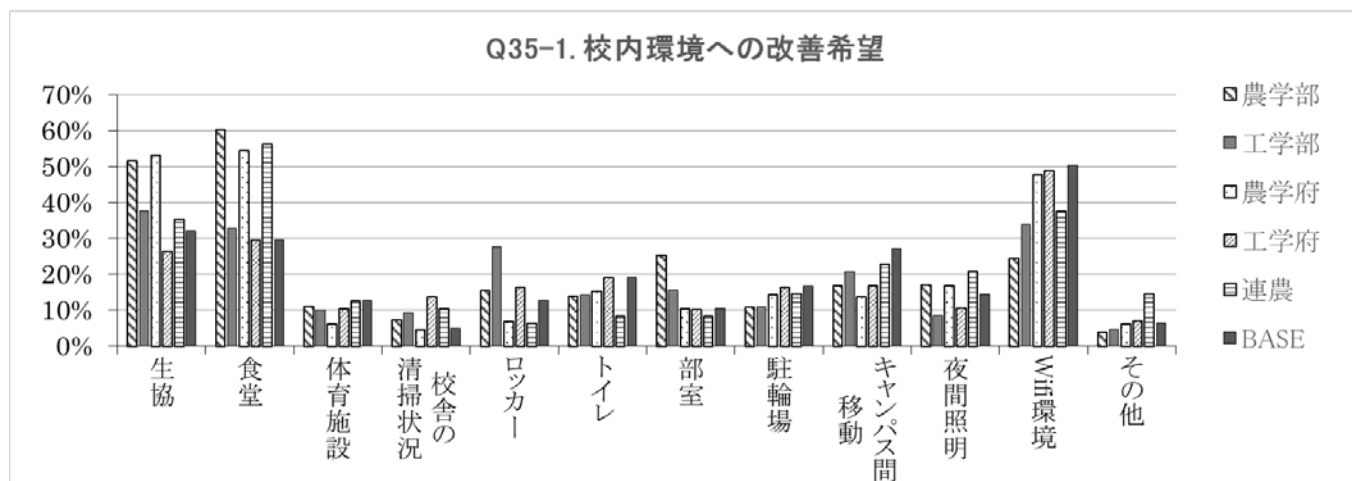
3.4. 講義室、実験室への改善希望

講義室、実験室への改善希望として、机や椅子、実験器具、空調に多く回答が集まった。実験器具に関しては連農で特に改善希望が高い。



35. 校内環境への改善希望

生協、食堂、Wifi 環境への改善希望が多い。生協や食堂についての改善希望は農学部、農学府では 5～6 割程度と前回と変わらず高い数値を示し、工学部、工学府では前回の 2 割程度から 3～4 割程度と増加している。食堂については、連農でも改善を望む学生が、前回の 2 割程度から 5 割強まで増加している。Wifi については、学部生と連農で改善希望の割合が減少していることから、前回調査時点よりは改善されたとみられるが、学府と BASE では依然として 5 割程度の学生が改善を希望している。その他、工学部ではロッカー、農学部では部室、連農や BASE ではキャンパス間の移動に対しても回答が集まった。

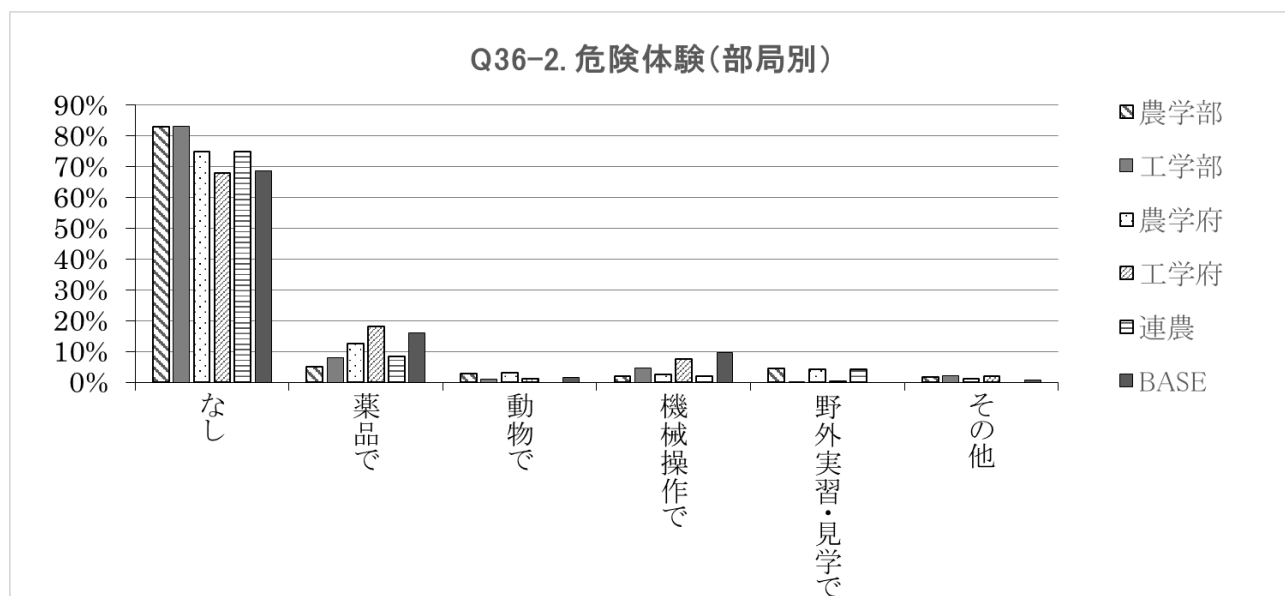


36. 実験・実習における危険体験

前回の調査で具体的な内容に関する選択肢を増やしたため、危険な体験が「あった」とする回答が 2 割に増えた経緯があったが、今回は前回とほぼ同様の結果となった。部局別では、工学部において危険体験が「なかった」とした学生の割合が前回の 9 割強から 8 割程度に減り、農学部では前回の 6 割強から 8 割程度に増えた。危険体験の内容は「薬品」が最も多く、部局によっては「機械操作」や「野外実習」でも危険な体験があったことが示された。

Q36-1. 危険体験の有無の推移

調査年度	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
あった (%)	20.9	11.6	12.5	9.0	7.3	19.6	19.3%
なかった (%)	79.1	88.4	87.5	91.0	92.7	80.4	80.7%



37. 図書館の利用頻度

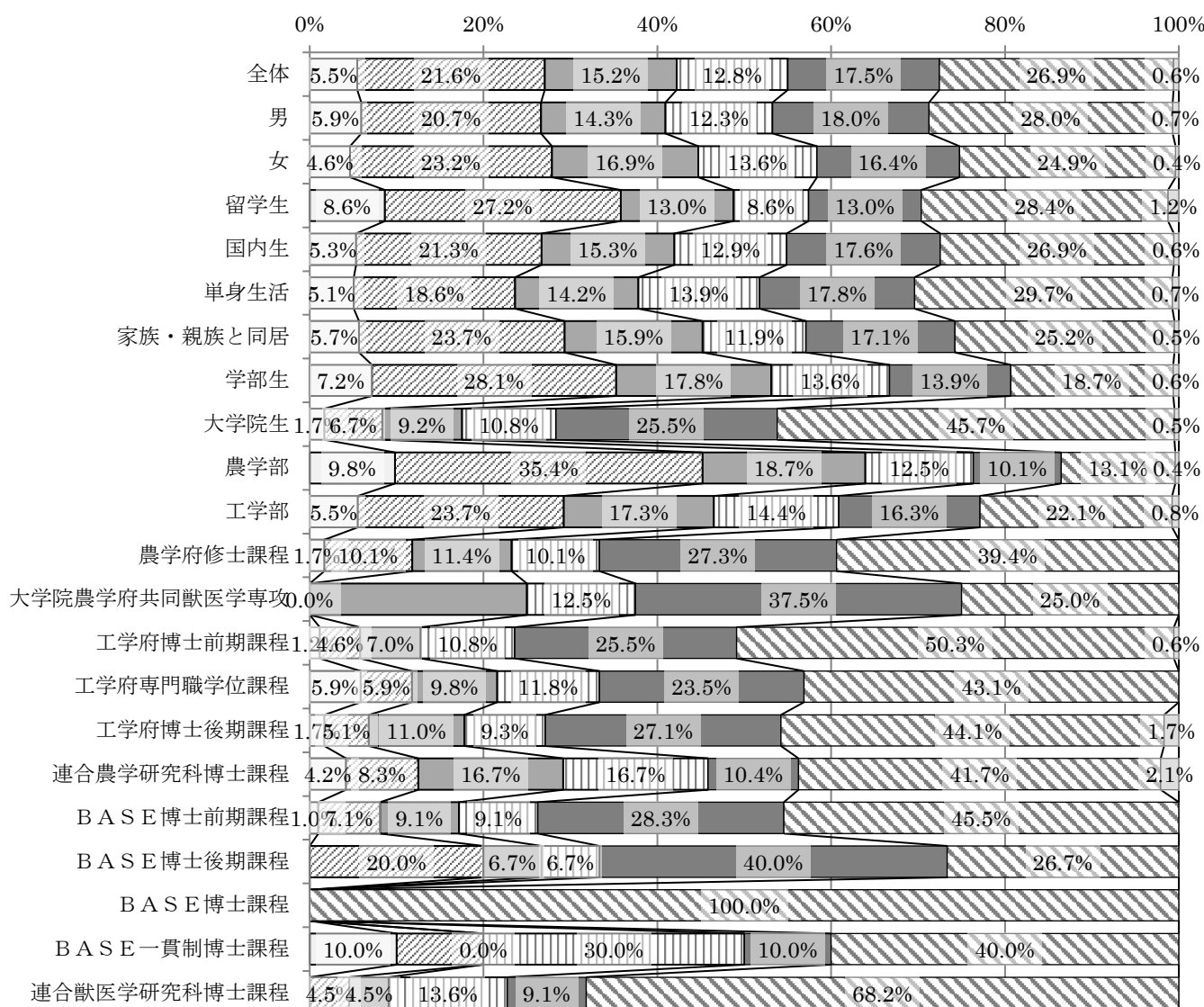
図書館の利用頻度は減少傾向がみられ、「ほとんど利用しない」学生の割合が微増し26.9%となった。しかし、週1回以上利用する学生も4割程度存在し、質問項目31において授業外学習に必要な施設として図書館をあげる声も多かったことから、継続的に利用する学生が多いと考えられる。H28年に図書館からPCが撤去されたが、利用率に大きな影響は見受けられない。属性別に比較すると、学部生と大学院生の間には大きな差が見られる。

Q37-1. 図書館の利用頻度の推移

第6回(H21) (%)	よく利用する		ときどき利用する			全く利用しない
	34.5		61.4			4.1
第7回(H24) (%)	毎日 6.5	週に2~3回 29.6	週に1回 17.7	2週間に1回 13.1	1月に1回 19.1	ほとんど利用しない 13.9
第8回(H27) (%)	毎日 4.0	週に2~3回 22.8	週に1回 18.3	2週間に1回 13.2	1月に1回 17.4	ほとんど利用しない 24.1
第9回(H30) (%)	毎日 5.5	週に2~3回 21.6	週に1回 15.2	2週間に1回 12.8	1月に1回 17.5	ほとんど利用しない 26.9

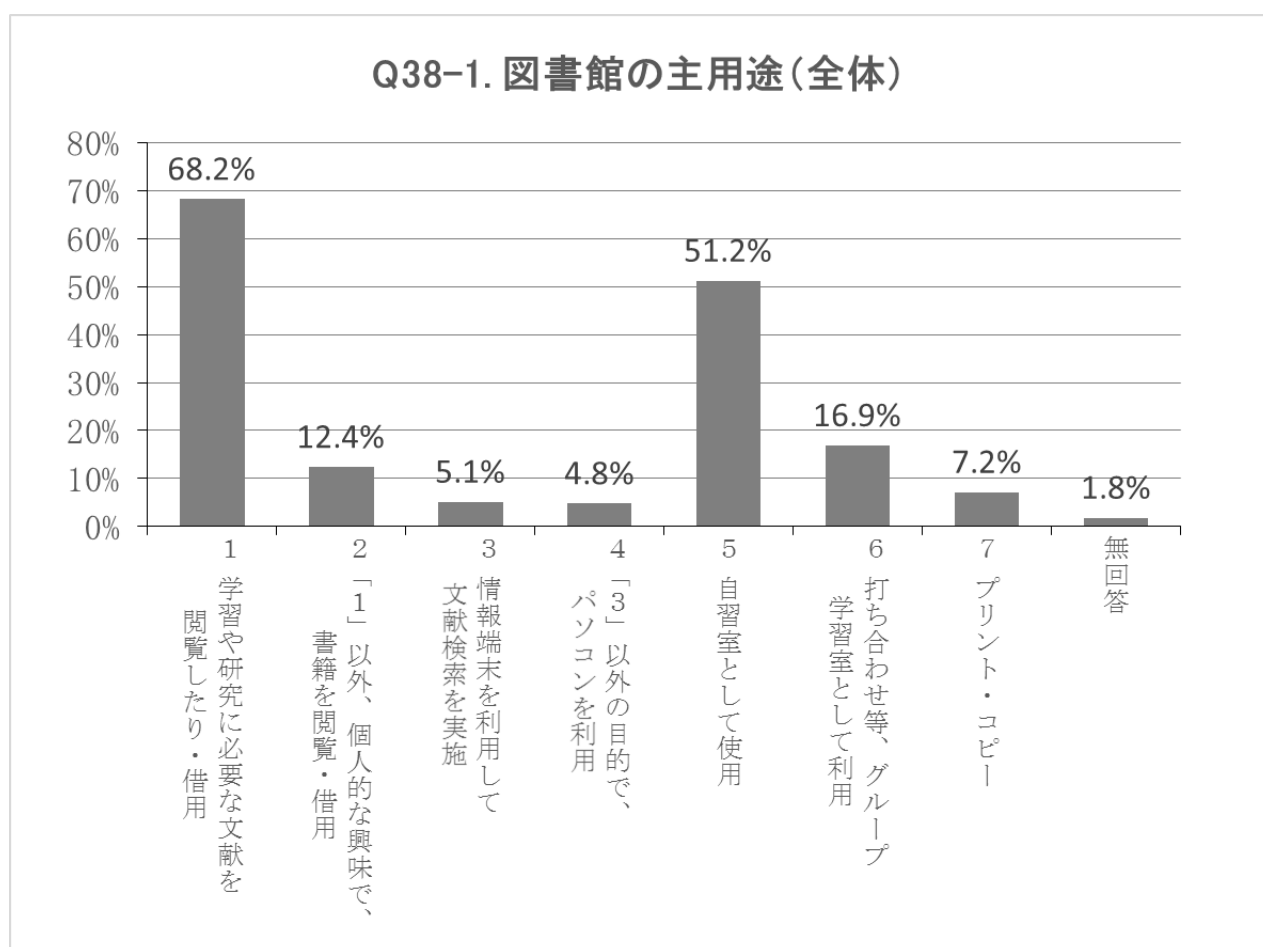
Q37-2. 図書館の利用頻度(属性別)

□毎日 □週に2~3回 □週に1回 □2週間に1回 □月に1回 □ほとんど利用しない □不明(※)

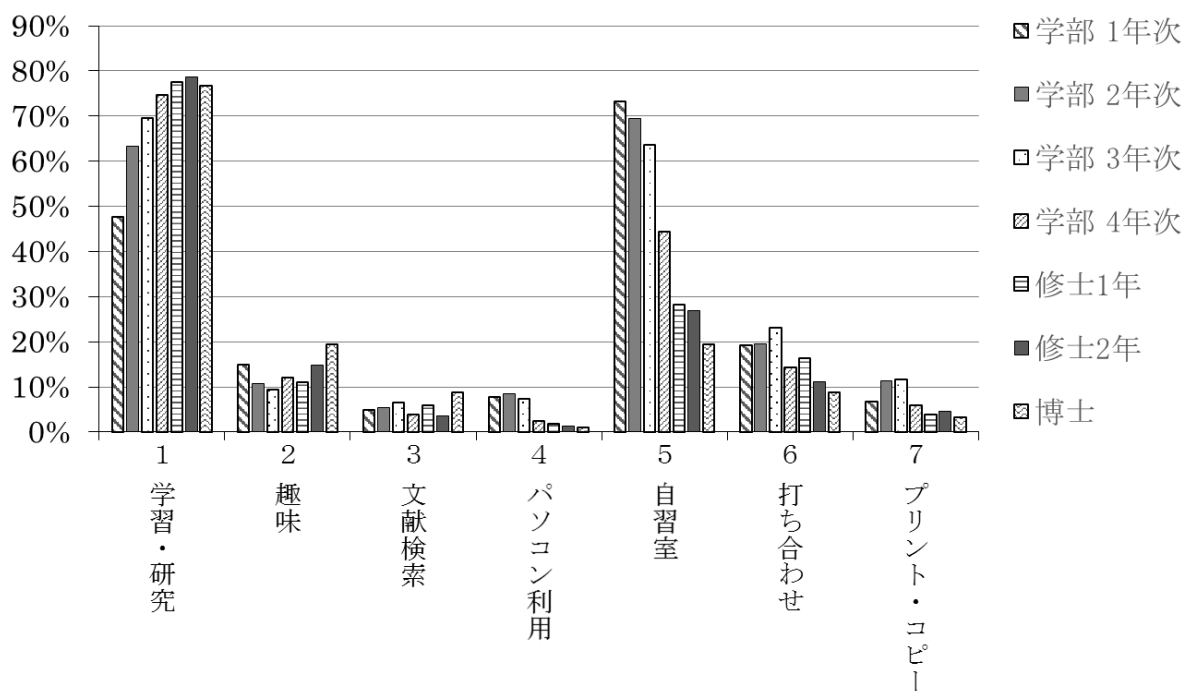


38. 図書館の主な用途

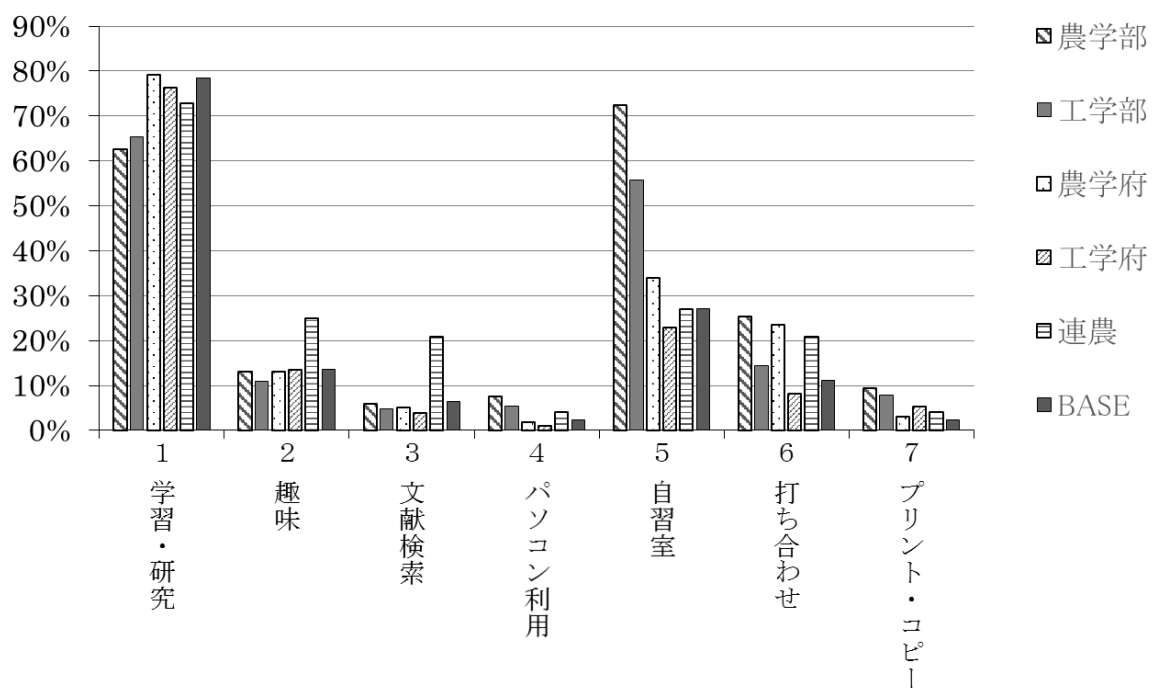
図書館の主な用途は、「学習や研究に必要な文献を閲覧・借用」が最も多いが、前々回 82.2%、前回 75.7%、今回 68.2%と減少傾向にある。また、「自習室として使用」については、前々回 55.0%から前回 45.8%と低下したのに対して今回は 51.2%となっており、グループ学習室の利用も微増となった。一方で、個人的な興味、文献検索、パソコン利用、プリント・コピーといった利用目的の割合は低下した。ネット上の情報量の増加やパソコンの個人保有により、情報の検索、取得、管理の方法が変化していることが伺える。学年別でみると、学部学生が学習や研究目的で利用する率は学年が上がるにつれて増加し、自習室として活用する率は学年が上がるにつれて低下する。学部 4 年次以降で自習目的の利用が減ることについては、研究室のデスクスペースを利用できるようになることが影響していると考えられる。部局別では、自習室として利用する割合が、工学部よりは農学部で、工学府よりは農学府で多いというキャンパス間の違いが見られた。



Q38-2. 図書館の用途(学年別)



Q38-3. 図書館の用途(部局別)



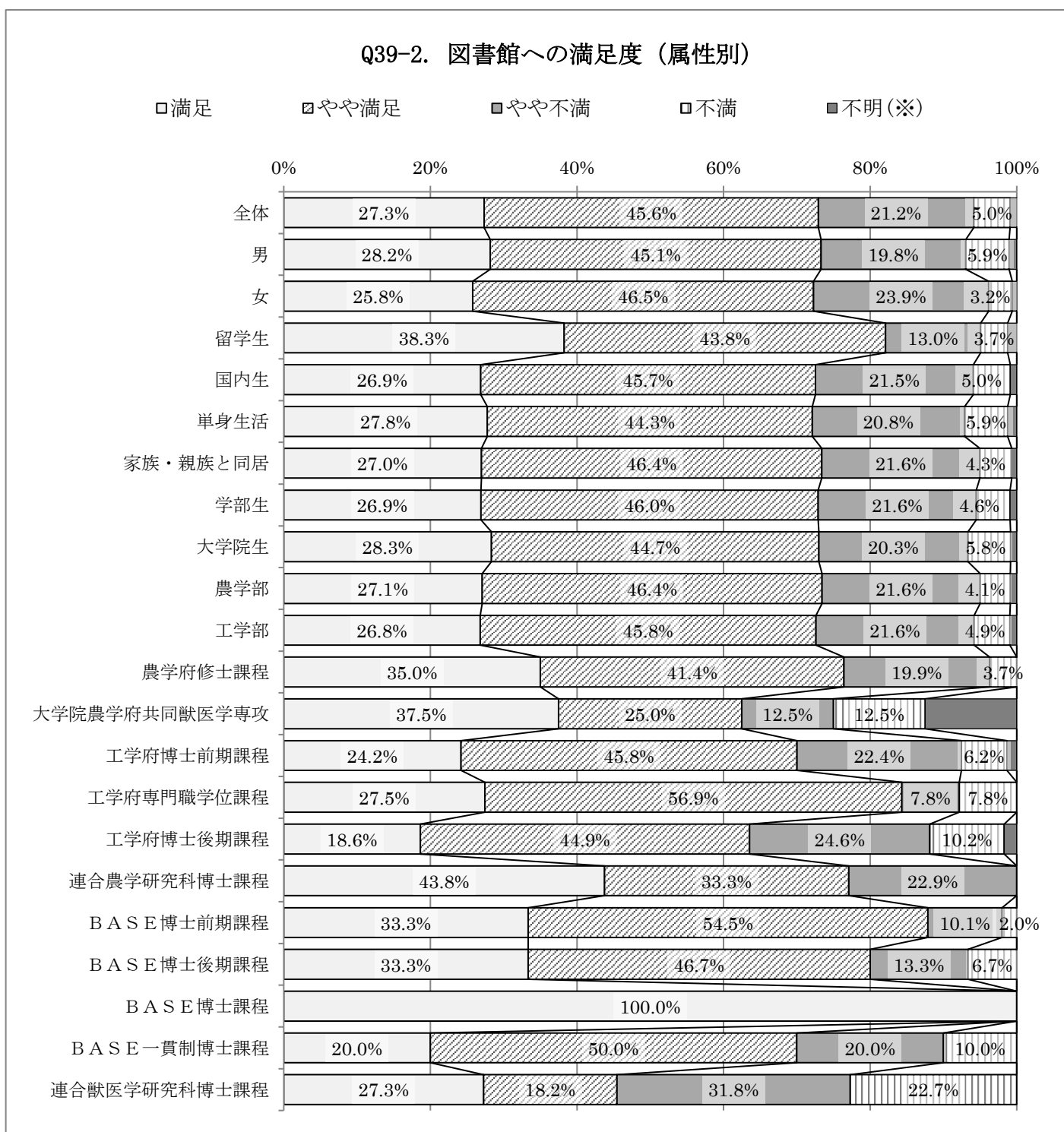
39. 図書館への満足度

「満足」＋「やや満足」の合計は前回微減していたが、今回は72.9%に回復した。属性別に見ると、前回までは農学部生と工学部生に差が見られたが、今回は学部間ではほぼ差が無い。全体的には満足度が高いが、工学府博士後期課程と連合獣医学研究科博士課程では他の区分より「やや不満」＋「不満」がやや多かった。

Q39-1. 図書館への満足度の推移

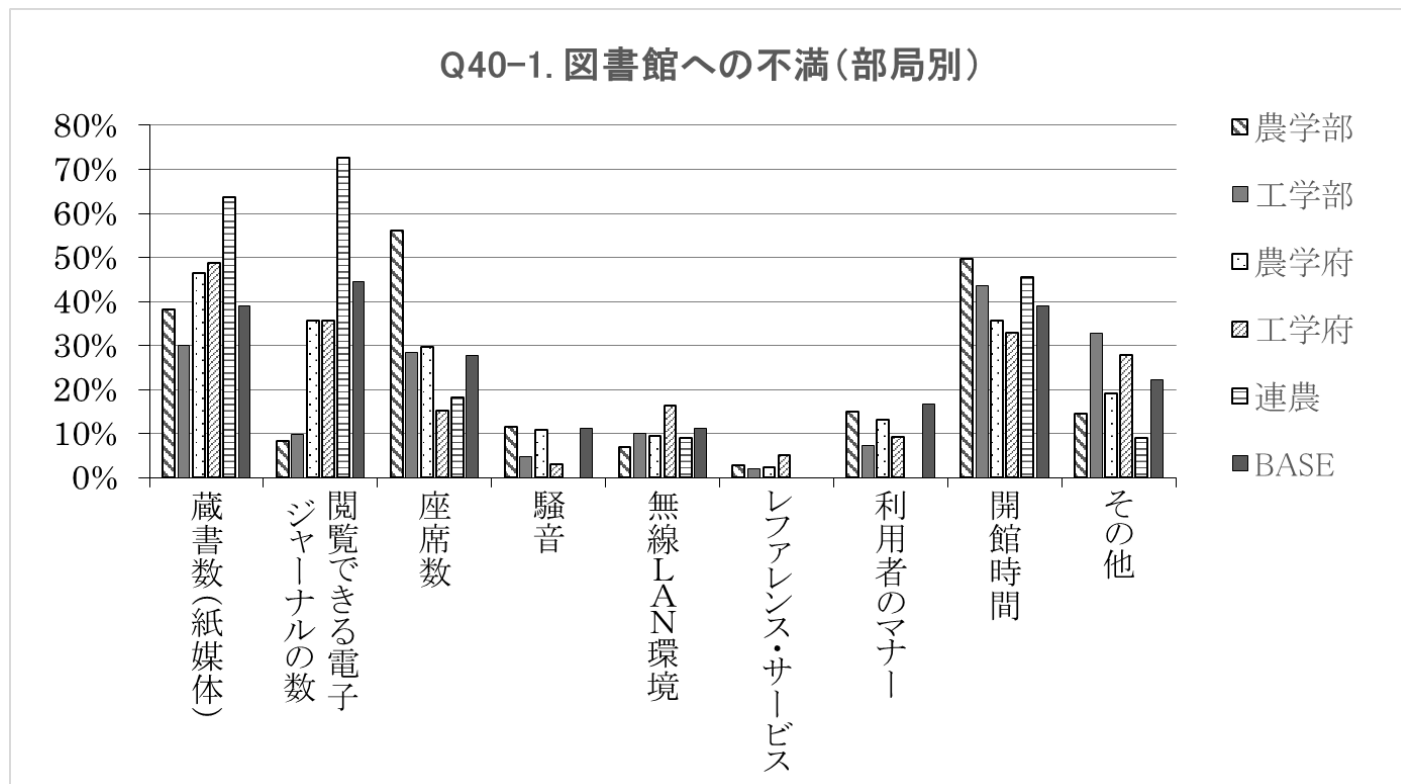
全体 (%)	満足	やや満足	やや不満	不満
第6回 (H21) (%)	21.2	52.9	19.3	6.6
第7回 (H24) (%)	24.3	47.5	20.3	7.8
第8回 (H27) (%)	25.0	44.0	24.3	6.0
第9回 (H30) (%)	27.3	45.6	21.2	5.0

Q39-2. 図書館への満足度 (属性別)



40. 図書館への不満

今回、蔵書数についての項目を増やし、紙媒体の蔵書と電子ジャーナルを分けた。不満の要因として、蔵書数（紙媒体）、電子ジャーナルの数、開館時間、座席数をあげる回答が多かった。部局別に比較すると、電子ジャーナルについては大学院生、特に連農の学生からの不満が非常に多い。座席数については農学部生からの不満が顕著である。蔵書数（紙媒体）や開館時間については、どの部局からも不満が上がっている。



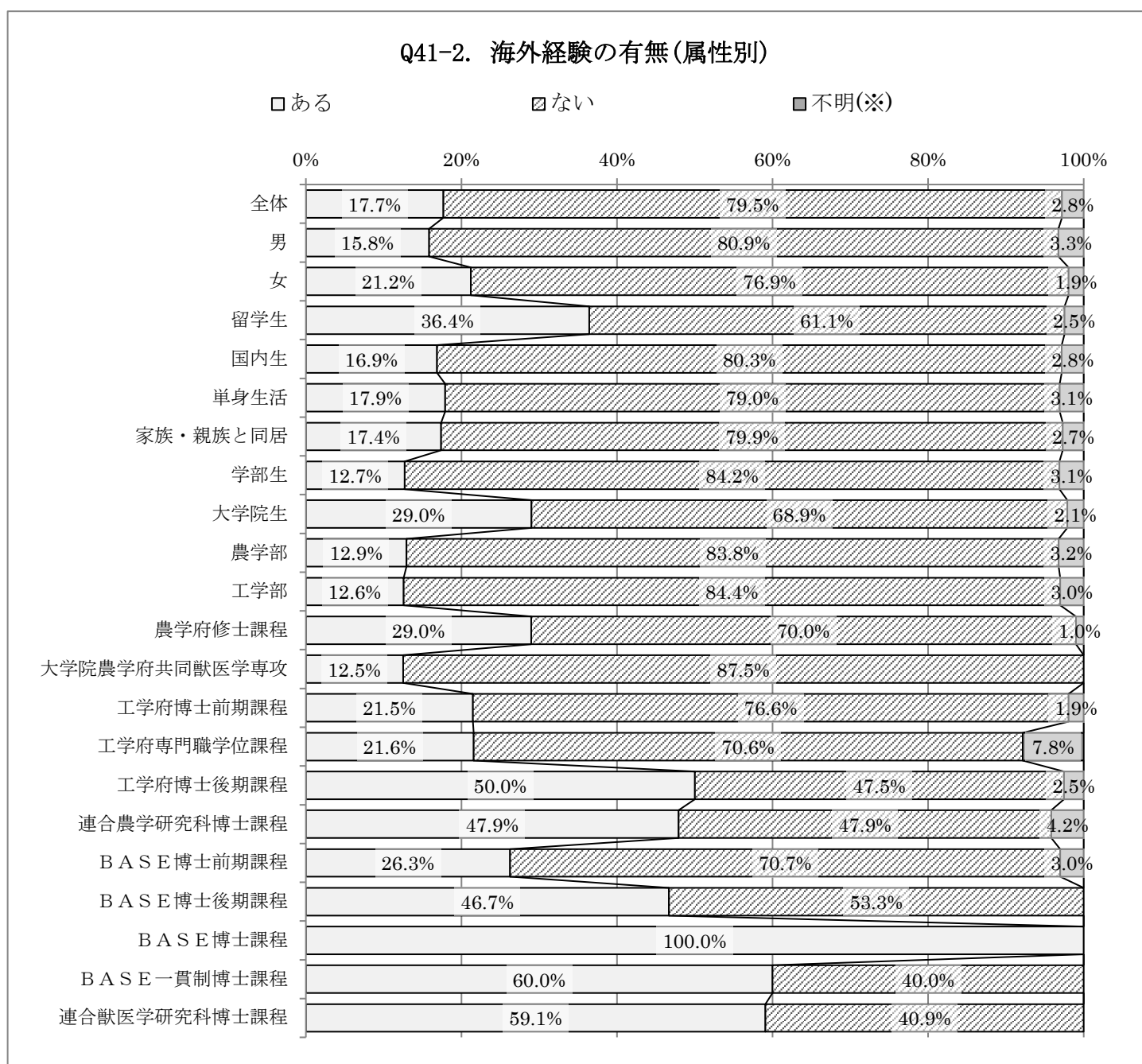
4 1. 在学中の海外活動経験

海外活動経験がある学生の割合は増加傾向にある。前回と比較すると、学部学生で2.2%、大学院生で2.9%増加している。部局別にみると、前は農学部よりも工学部生の海外活動経験者の割合が3%低かったが、今回はほぼ同等となった。大学院では、多くの属性区分で海外活動経験者の割合が増加している。

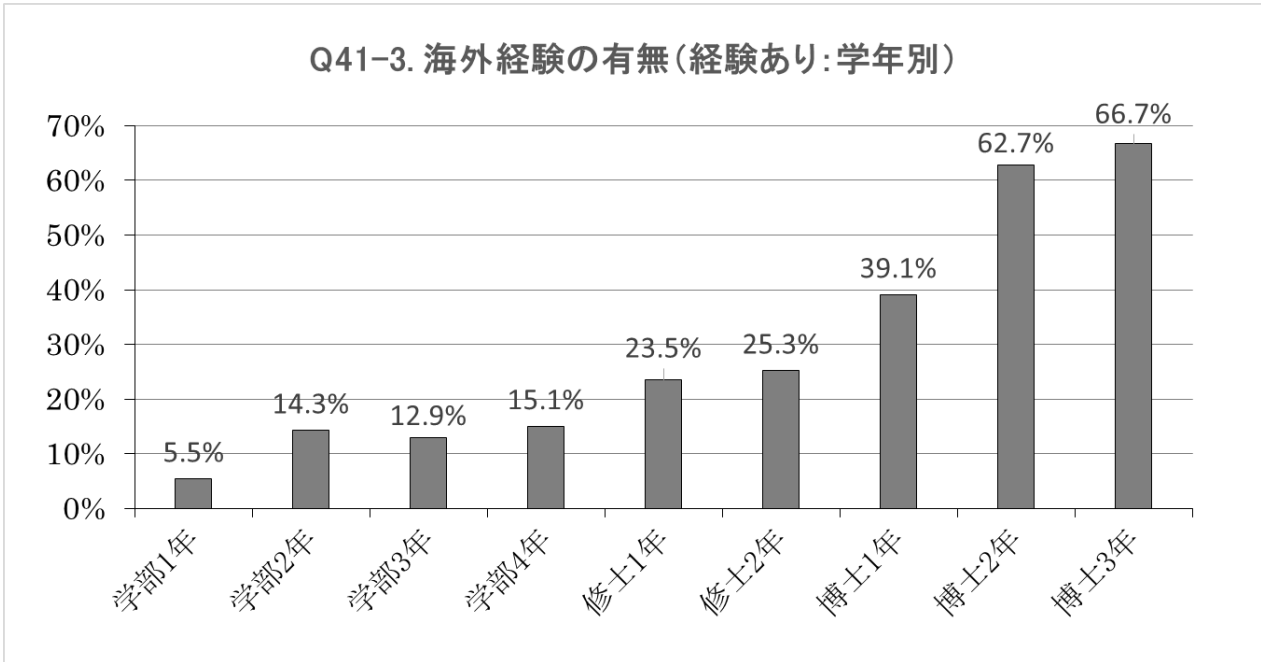
Q 4 1 - 1. 海外経験の有無の推移

全体 (%)	ある	ない
第6回 (H21) (%)	8.2	91.8
第7回 (H24) (%)	9.7	90.3
第8回 (H27) (%)	15.0	82.3
第9回 (H30) (%)	17.7	79.5

Q41-2. 海外経験の有無(属性別)



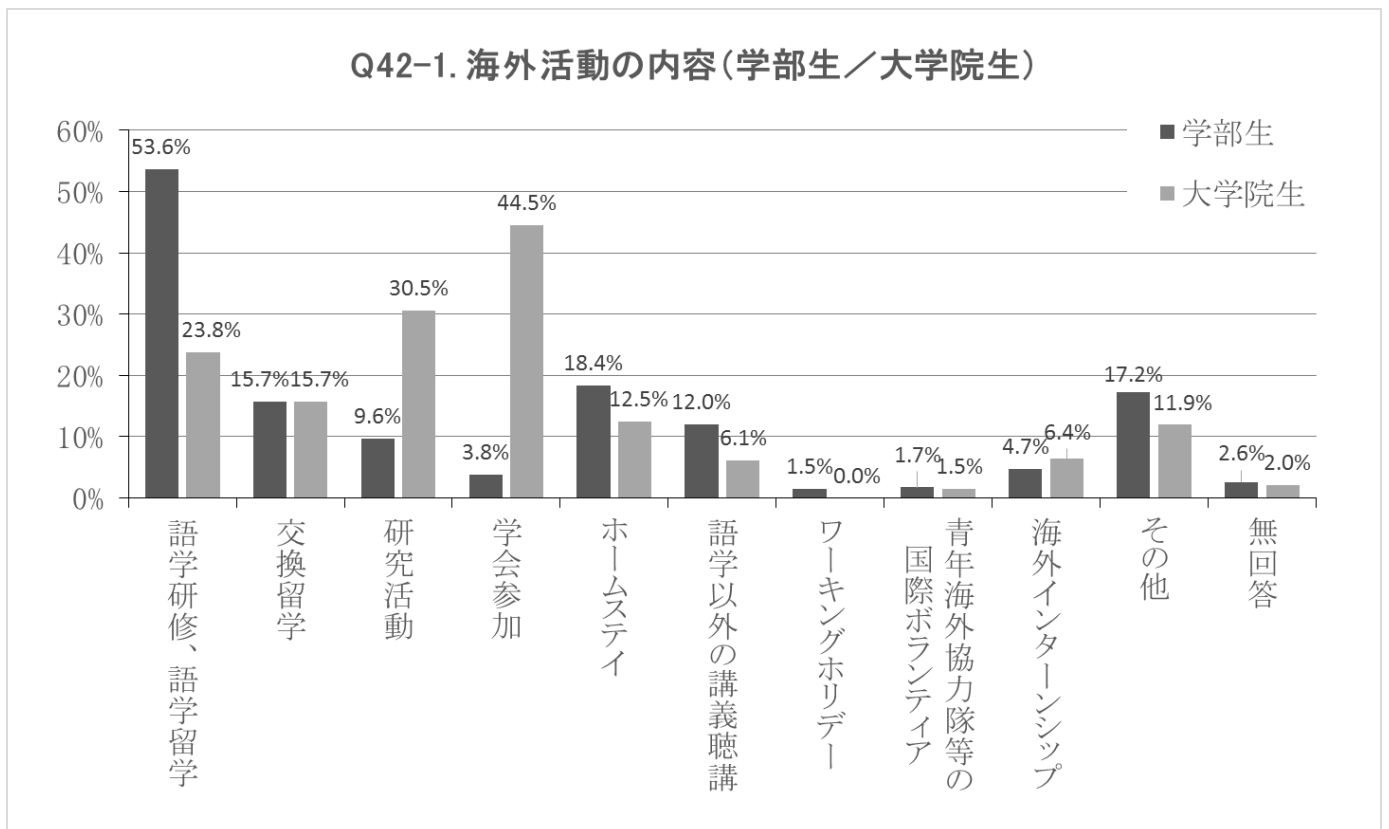
Q41-3. 海外経験の有無(経験あり:学年別)



4.2. 海外活動の内容

海外活動の内容は、前回とほぼ同様に学部学生が語学研修やホームステイであるのに対し、大学院生が研究活動・学会参加となっている。部局別にみると、学部段階では両学部間に差がないが、修士では農学府修士課程が研究活動 34.9%、学会参加 20.9%であるのに対し、工学府博士前期課程は研究活動 19.8%、学会参加 42.3%、BASE 博士前期課程は研究活動 11.5%、学会参加 42.3%となっており、海外活動の内容に異なる傾向が見られる。博士では、概して学会参加の割合が研究活動の割合を上回る。

Q42-1. 海外活動の内容(学部生/大学院生)



Q42-2 海外活動の内容（属性別）

	語学研修、語学留学	交換留学	研究活動	学会参加	ホームステイ	語学以外の講義聴講	ワーキングホリデー	青年海外協力隊等の国際ボランティア	海外インターンシップ	その他	無回答
全体	38.7%	15.7%	20.1%	24.2%	15.4%	9.0%	0.7%	1.6%	5.5%	14.6%	2.3%
男	31.4%	15.3%	21.8%	26.7%	12.4%	8.4%	0.7%	0.7%	6.9%	15.6%	2.2%
女	49.1%	16.3%	17.7%	20.5%	19.8%	9.9%	0.7%	2.8%	3.5%	13.1%	2.5%
留学生	11.9%	11.9%	39.0%	39.0%	8.5%	5.1%	0.0%	0.0%	3.4%	23.7%	1.7%
国内生	41.2%	16.1%	18.3%	22.8%	16.1%	9.4%	0.8%	1.8%	5.7%	13.7%	2.4%
単身生活	32.7%	15.4%	22.1%	26.5%	12.9%	6.3%	0.4%	2.2%	5.1%	14.0%	3.3%
家族・親族と同居	43.5%	15.9%	18.7%	22.1%	17.4%	10.9%	1.0%	1.2%	6.0%	14.7%	1.7%
学部生	53.6%	15.7%	9.6%	3.8%	18.4%	12.0%	1.5%	1.7%	4.7%	17.2%	2.6%
大学院生	23.8%	15.7%	30.5%	44.5%	12.5%	6.1%	0.0%	1.5%	6.4%	11.9%	2.0%
農学部	53.8%	14.4%	9.1%	2.3%	18.9%	10.6%	1.5%	3.0%	3.0%	19.7%	1.5%
工学部	53.6%	16.6%	10.0%	4.7%	18.0%	12.8%	1.4%	0.9%	5.7%	15.6%	3.3%
農学府修士課程	36.0%	23.3%	34.9%	20.9%	16.3%	8.1%	0.0%	2.3%	5.8%	11.6%	2.3%
大学院農学府共同獣医学専攻	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
工学府博士前期課程	27.0%	18.0%	19.8%	42.3%	14.4%	8.1%	0.0%	2.7%	9.9%	11.7%	0.9%
工学府専門職学位課程	36.4%	9.1%	9.1%	45.5%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	0.0%
工学府博士後期課程	10.2%	8.5%	45.8%	61.0%	6.8%	6.8%	0.0%	0.0%	6.8%	11.9%	1.7%
連合農学研究科博士課程	8.7%	4.3%	26.1%	78.3%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	21.7%	0.0%
B A S E 博士前期課程	23.1%	19.2%	11.5%	42.3%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	7.7%	11.5%
B A S E 博士後期課程	28.6%	14.3%	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
B A S E 博士課程	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
B A S E 一貫制博士課程	16.7%	16.7%	83.3%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
連合獣医学研究科博士課程	0.0%	0.0%	46.2%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

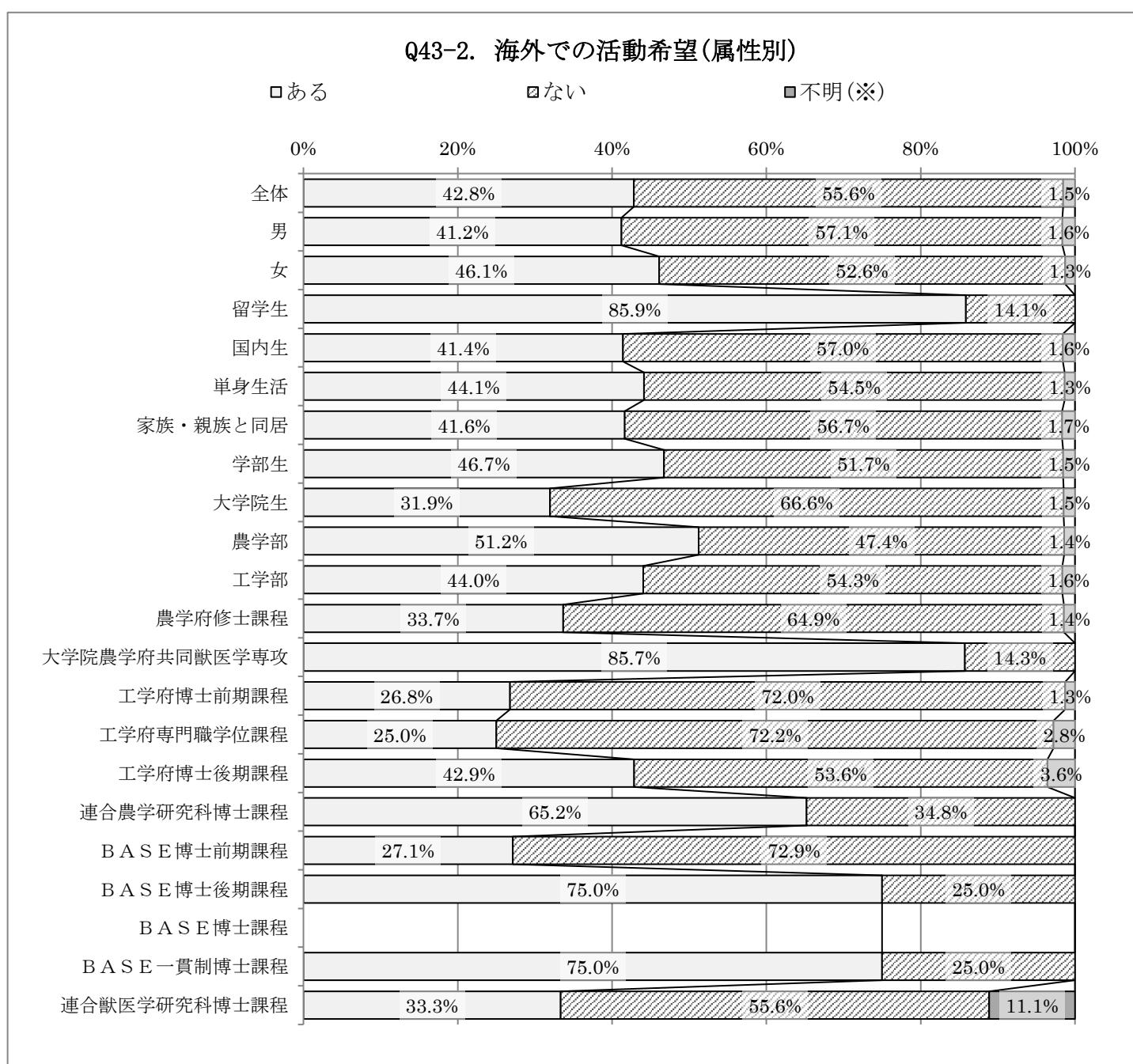
4 3. 海外での活動希望の有無

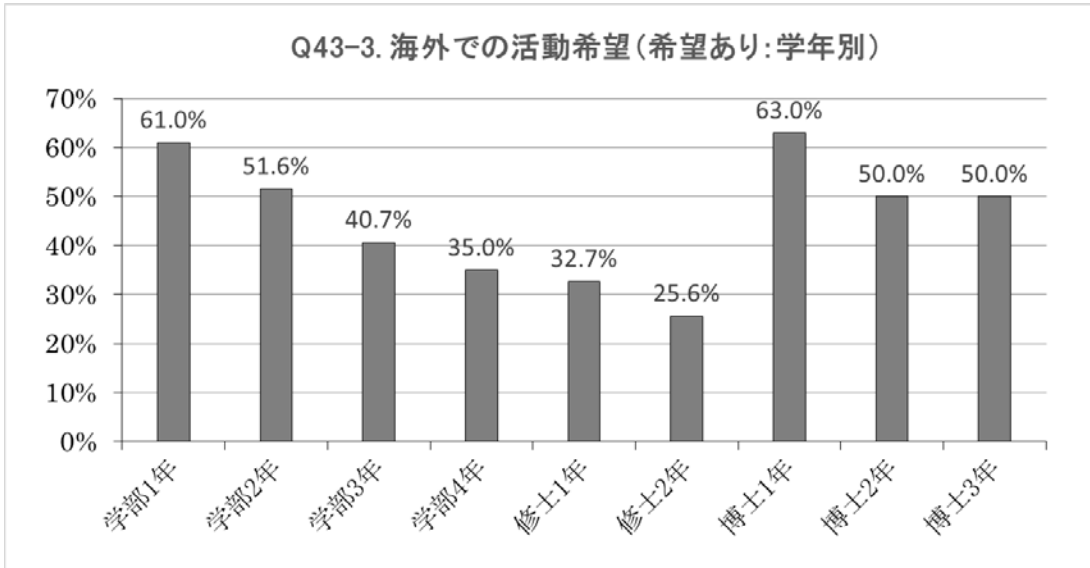
これまでに海外活動の経験がなく、これから希望する者の割合はこれまでの結果とほぼ同様であった。学年別では、学部1年次が最も高く、その後低下していく。学年が進むほど時間の調整が難しくなることが一因と思われ、学部1年次の段階で情報提供を行い計画的な留学準備を推奨するなど、海外での活動に参加しやすい環境を整備することも必要と考えられる。また、海外での活動を希望しない学生の割合が学部で51.7%、大学院で66.6%となっており、海外での活動に関する興味や動機付けを促すことが必要である。

Q 4 3 - 1. 海外での活動希望の推移

全体 (%)	ある	ない
第6回 (H21) (%)	33.9	66.1
第7回 (H24) (%)	42.7	57.3
第8回 (H27) (%)	41.9	56.8
第9回 (H30) (%)	42.8	55.6

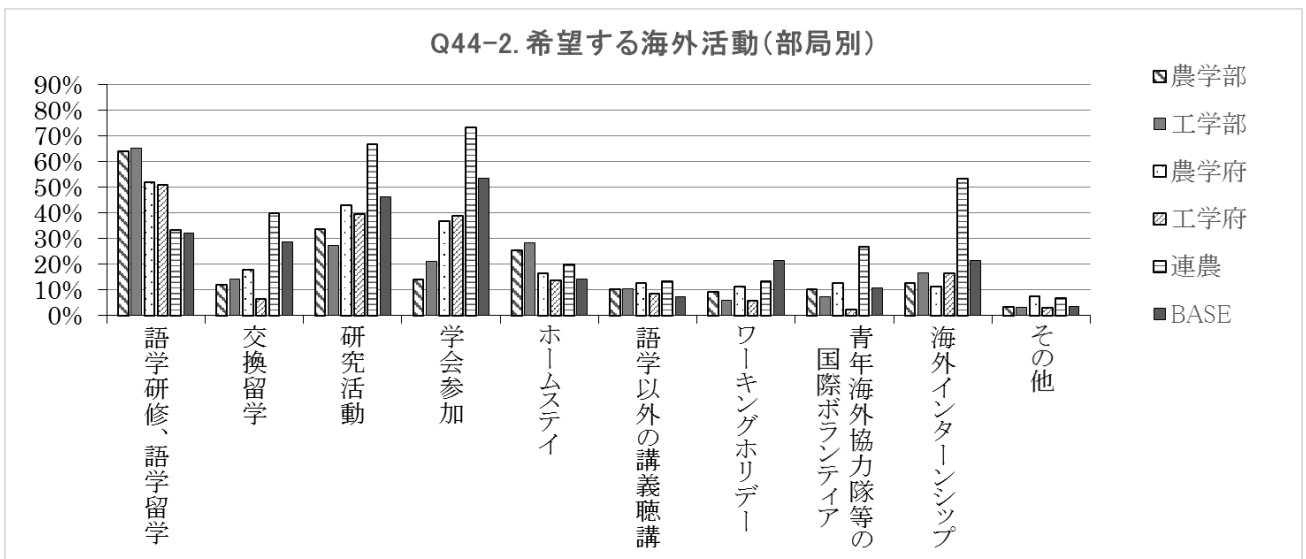
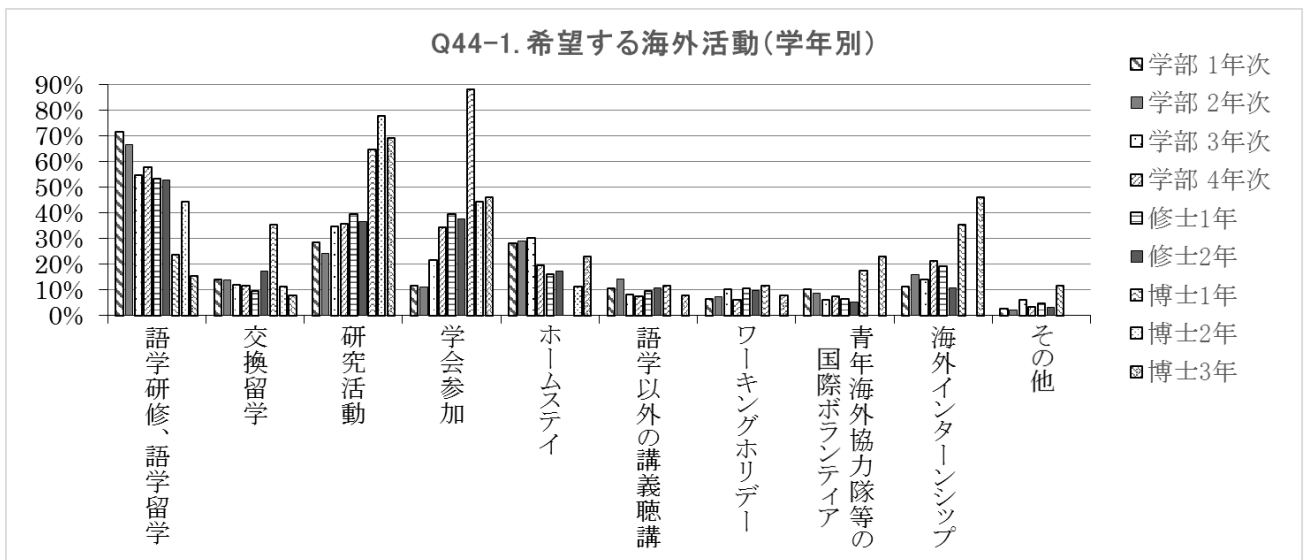
Q43-2. 海外での活動希望(属性別)





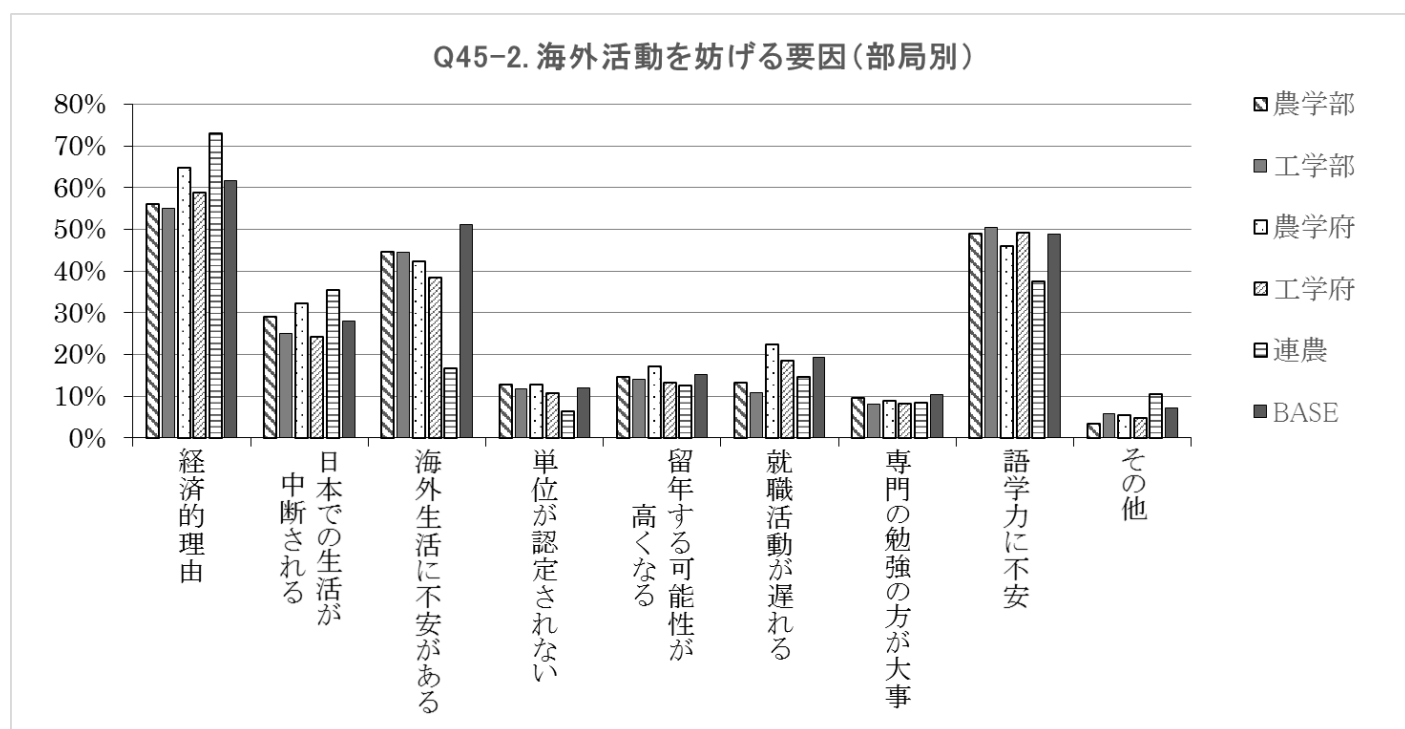
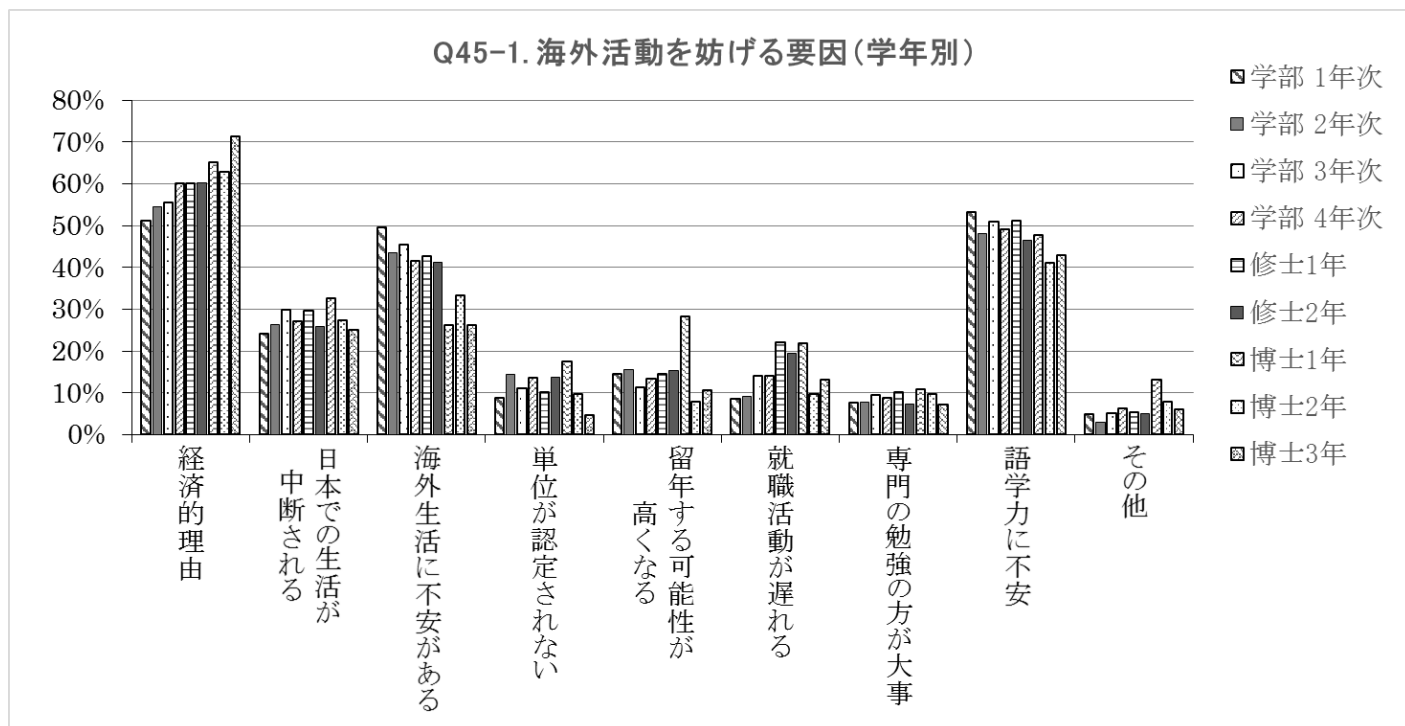
4 4. 希望する海外活動の内容

海外活動については、「語学研修」を希望する回答が最も多く、ついで「研究活動」、「学会参加」となっている。学年別では、学部と修士で「語学研修」が多く、博士は「研究活動」が多い。博士1年の学会参加希望が突出している他、博士課程では「交換留学」、「海外インターンシップ」への希望も目立つ。



4 5. 海外活動を妨げる要因

海外活動を妨げる要因として一番多い回答は「経済的理由」であり、海外活動に対しては経済的支援が依然必要であると考えられる。続いて、「語学力」と「海外での生活に対する不安」があげられ、その割合は前回調査と比較すると10~20%増加している。また、日本での生活の中断を要因とする学生も10~20%増加している。こうした学生の不安感を上回るメリットを提示し、動機付けを促すことが必要と考えられる。

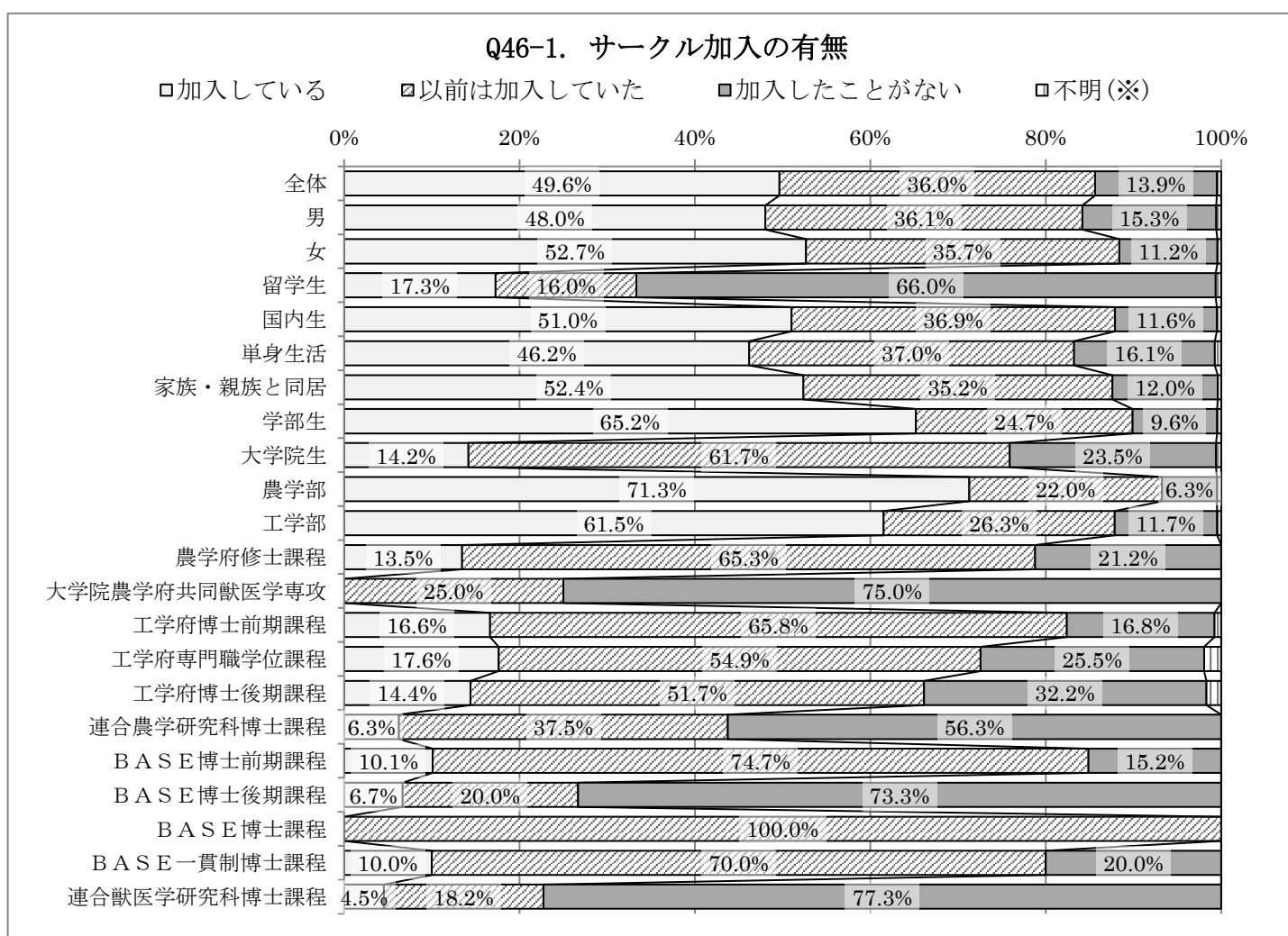


第VI章 課外活動

46. サークル加入の有無

サークルへの加入状況は、全体では、49.6%が「加入している」、36.0%が「以前加入していた」、13.9%が「加入したことがない」と答えている。学部別にみると、「加入している」と答えた割合は農学部が71.3%と工学部の61.5%より高く、逆に「加入したことがない」と答えた割合は工学部が11.7%で農学部の6.3%より高い。また男女別でみると、女子学生の方が「加入している」と答えた割合の52.7%が男子学生の48.0%より高く、課外活動への意欲がうかがえる。

これまでの調査を振り返ると、「加入している」と「以前加入していた」を合わせた数値が、第1回から第5回まではあまり変化が無く71~73%程度で、第6回には約80.0%、第7回には83.4%、第8回は84.9%と年々増加していたが、第9回では85.6%と微増にとどまっている。学生が課外活動に対して積極的である傾向は変化がないが、定常値に近づいている可能性も考えられる。

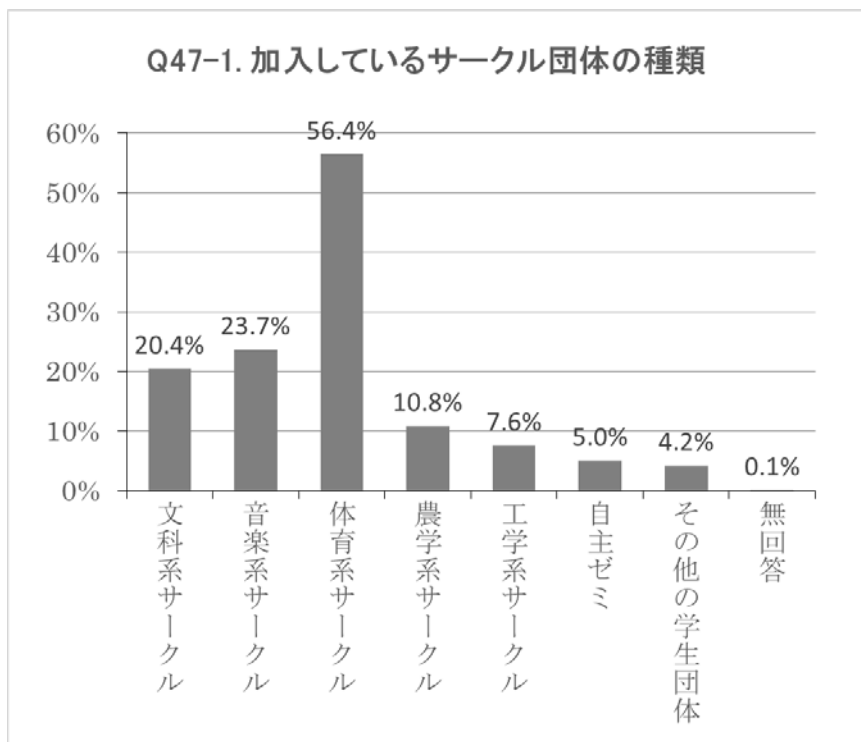


Q46-2. サークル加入の推移

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
加入している	49.0	50.4	48.3	43.1	44.7	51.0	55.9	52.8	49.6
加入していた	23.5	22.2	27.9	28.4	28.6	28.3	27.5	32.1	36.0
加入していない	27.4	27.4	23.8	28.5	26.7	20.7	16.6	14.8	13.9

4 7. 加入しているサークル団体の種類

加入しているサークル団体は、全体では、体育系サークル(56.4%)が約半数以上となり、以下、音楽系サークル(23.7%)、文科系サークル(20.4%)の順である。この数字は前回とほぼ同じであり、昨年度に音楽系サークルが文科系サークルより増加し、順位が入れ替わった結果が維持されていた。さらに男子学生と女子学生を比較すると、男子学生は体育系が多く(58.4%)、女子学生も体育系が多いものの(53.1%)、音楽系(30.0%)や文科系(22.2%)の割合が高い。この傾向も昨年から変化はない。また、前回より、文科系、音楽系、体育系、農学系、工学系、自主ゼミ、その他の学生団体の区分で調査を実施しているが、農学系サークルに加入している学生の割合が7.6%から10.8%と大きく増えているのが特徴的である。



Q 4 7 - 2. 加入しているサークル団体の推移

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
文科系サークル	18.8	22.5	24.3	20.0	23.6	25.1	24.9	19.7	20.4
音楽系サークル	13.4	14.0	14.3	15.1	17.5	19.1	19.0	24.8	23.7
体育系サークル	62.7	53.9	51.3	52.8	54.8	51.6	50.7	55.3	56.4
2つ以上	5.1	9.6	10.1	12.1	---	---	---	---	---
その他	---	---	---	---	4.1	4.2	5.4	---	---
農学系	---	---	---	---	---	---	---	7.6	10.8
工学系	---	---	---	---	---	---	---	6.3	7.6
自主ゼミ	---	---	---	---	---	---	---	5.3	5.0
その他の学生団体	---	---	---	---	---	---	---	4.5	4.2

第1回～第4回は、文科系、音楽系、体育系、2つ以上の区分で調査を実施。

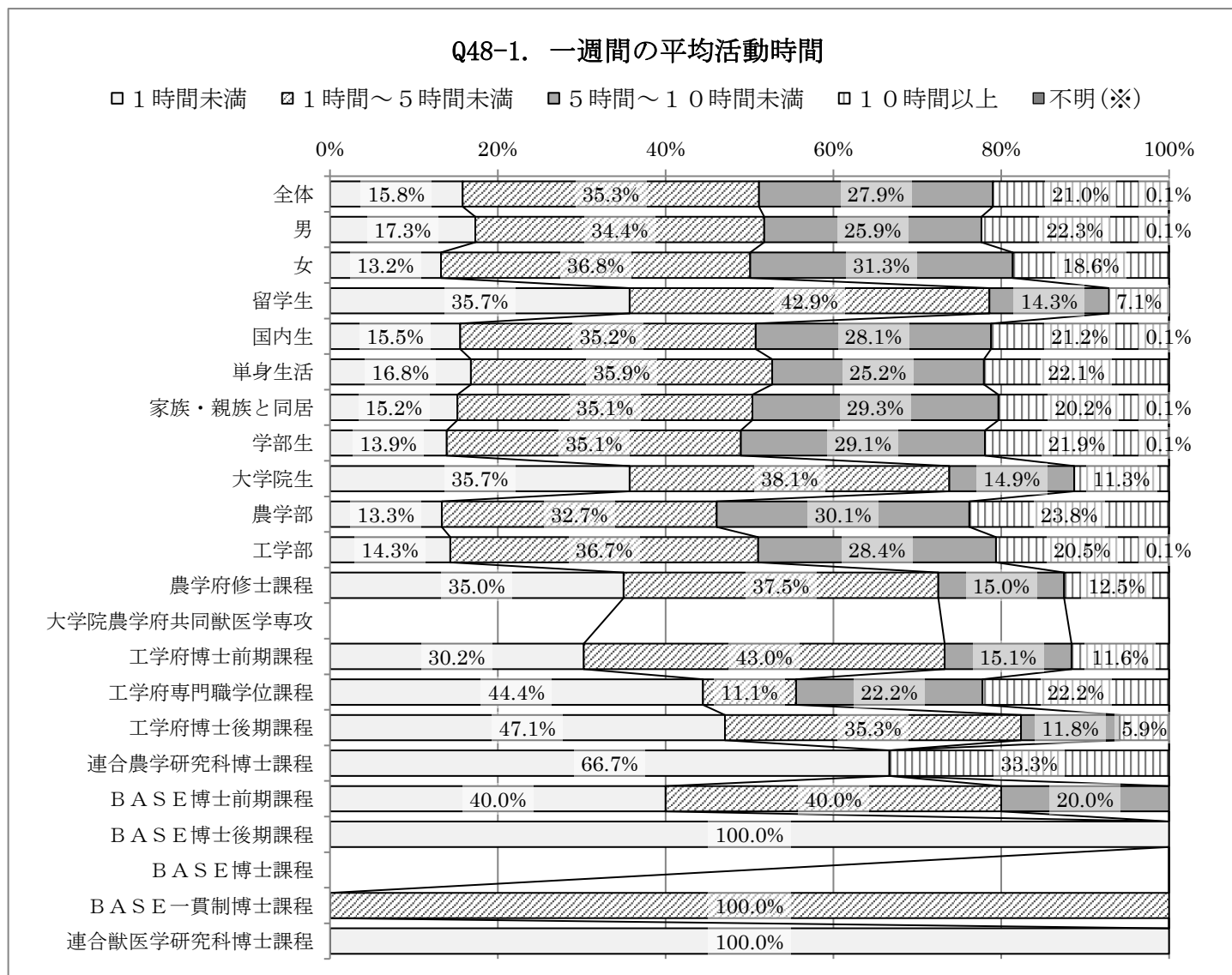
第5回以降は、文科系、音楽系、体育系、その他の区分で調査を実施。

第8回より、文科系、音楽系、体育系、農学系、工学系、自主ゼミ、その他の学生団体の区分で調査を実施。

4 8. 一週間の平均活動時間

全体では、「1 時間～5 時間未満」(35.3%)が最も多く、ついで「5 時間～10 時間未満」(27.9%)であり、「10 時間以上」(21.0%)の者もかなり存在する。男子学生と女子学生を比較すると、男子学生、女子学生ともに「1 時間～5 時間未満」(男 34.4%、女 36.8%)が最も多く、女子学生について前回は「5 時間～10 時間未満」が最も多かった結果と比較すると、女子学生の活動時間が少し短くなっていることがうかがえる。

なお、学部生では、「1 時間～5 時間未満」(35.1%)、「5 時間～10 時間未満」(29.1%)という順番になっているが、大学院生では、「1 時間～5 時間未満」(38.1%)、「1 時間未満」(35.7%)となっており、課外活動は学部生を中心に活動している状況には変化がない。



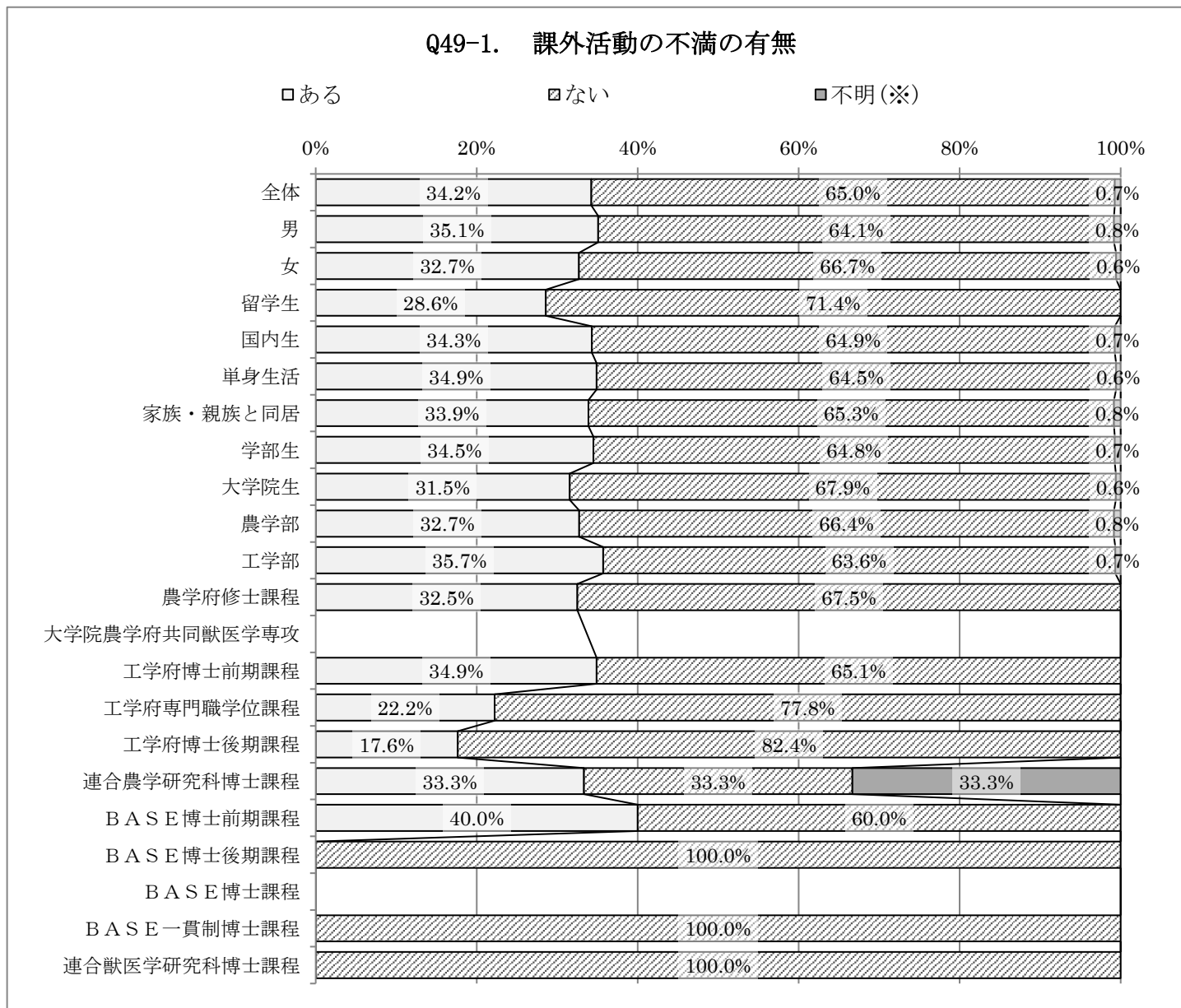
Q 4 8 - 2. 一週間の平均活動時間の推移

調査	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
1 時間未満	27.2	21.6	16.8	17.5	20.7	16.4	15.8
1 時間～5 時間未満	35.8	33.9	37.0	36.1	35.0	33.5	35.3
5 時間～10 時間未満	20.1	24.9	26.5	26.0	27.6	27.5	27.9
10 時間以上	16.9	19.7	19.7	20.4	18.5	22.5	21.0

第 1 回、第 2 回については、設問の形式が第 3 回目以降とは異なっていたため、データ比較を行えなかった。

49. 課外活動の不満の有無

課外活動に関して不満があると回答したのは、全体で 34.2%であった。前回調査の数字(34.7%)からわずかに減少したものの、ほとんど変化は見られなかった。



Q 4 9 - 2. 課外活動の不満の有無の推移

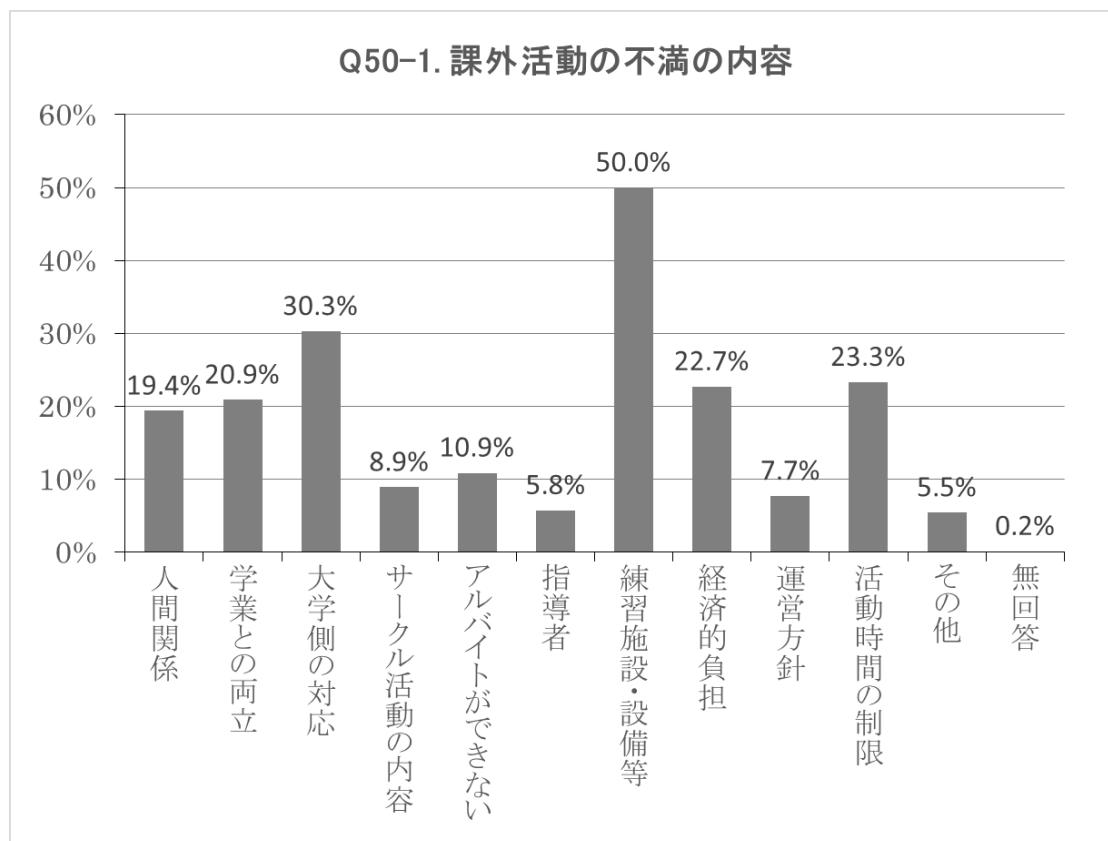
調査	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回
年度	H6	H9	H12	H15	H17
満足している	87.3	53.3	54.0	---	---
満足していない	11.0	46.7	46.0	---	---

調査	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回
年度	H21	H24	H27	H30
不満がある	30.3	25.7	34.7	34.2
不満がない	69.7	74.3	65.0	65.0

50. 課外活動の不満の内容

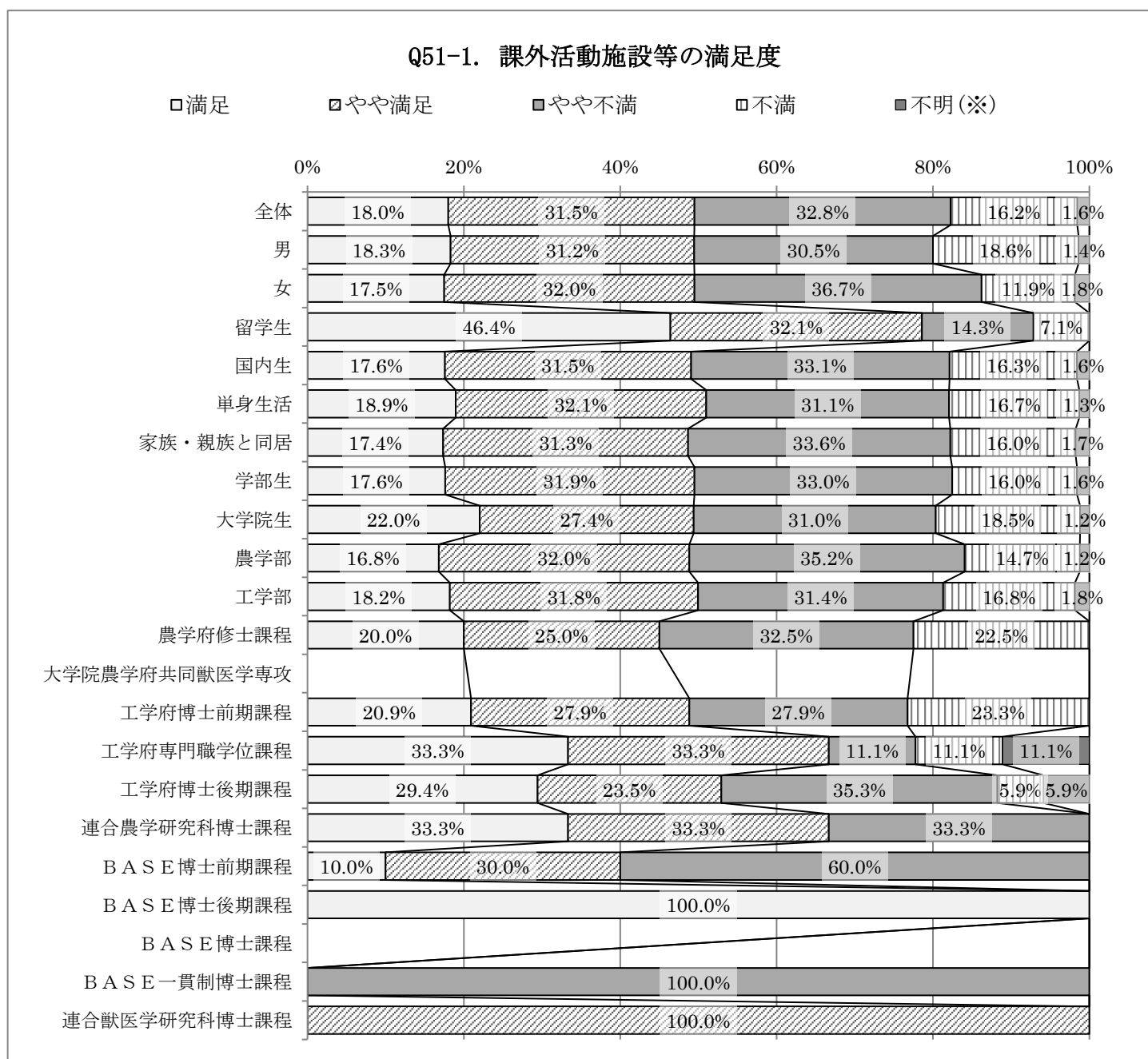
課外活動に関する不満の内容については、「練習施設・設備等」に関するものが最も多く、50.0%を占めていた。なお、前回調査では51.4%であり、練習施設・設備等への不満は高い状態で変化していない。さらに前回から追加した「大学側の対応」(30.3%)、「活動時間の制限」(23.3%)という項目への回答割合にも変化がないことから、課外活動を取り巻く大学側の状況への不満は解消されていないと考えられる。

ついで、「経済的負担」(22.7%)、「学業との両立」(20.9%)、「人間関係」(19.4%)と続いているが、前回調査と比較すると「人間関係」での不満が減り、サークル活動に伴う「経済的負担」と「学業との両立」に不満を感じる学生が増えている。また割合は減少したが、「人間関係」で悩む学生が2割程度いることは事実である。



5 1. 課外活動施設等の満足度

課外活動施設等の満足度については、全体として、「満足」が18.0%、「やや満足」が31.5%であった。前回調査時は「満足」「やや満足」を併せて47.1%であり、前々回調査から大きく減少した結果からわずかに改善されたものの満足度は依然としてあまり高くなく、「やや不満」「不満」が半数以上であることがうかがえる。



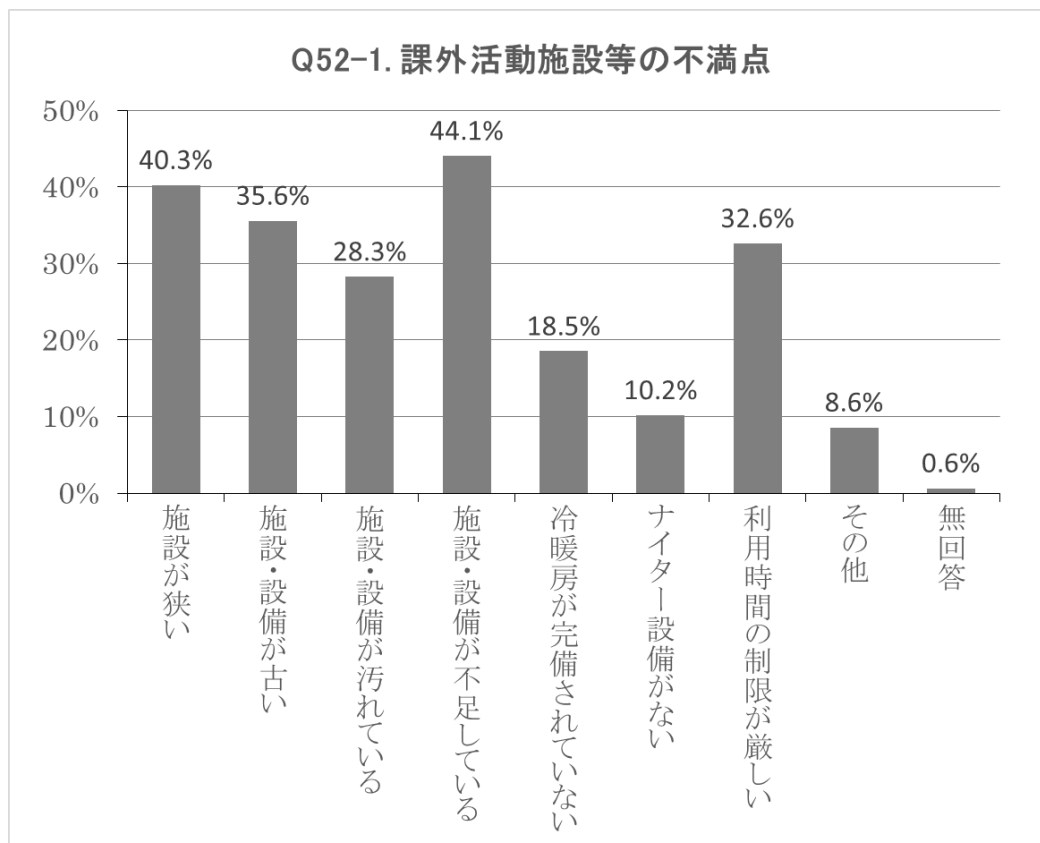
Q 5 1 - 2. 課外活動施設等の満足度の推移

調査	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回
年度	H21	H24	H27	H30
満足	21.7	23.8	18.7	18.0
やや満足	43.0	43.4	28.4	31.5
やや不満	21.8	18.0	31.9	32.8
不満	13.5	15.0	19.3	16.2

5 2. 課外活動施設等の不満点

前回到引き続き、課外活動施設等に関し、特にどのような点に不満があるかを調査した。その結果、「施設・設備が不足している」(44.1%)、「施設が狭い」(40.3%)、「施設・設備が古い」(35.6%)、「利用時間の制限が厳しい」(32.6%)となっており、順位の変動はあったものの、施設の使い勝手についての不満が相変わらず大きいことがうかがえる。なお、自由記述でもサークル棟や部室棟の建て替えについての要望は強く、施設の使い勝手の悪さ、老朽化等が進んでいることがうかがえる。

また、自由記述には前回同様に工学部キャンパスへのナイター設備の設置希望やロッカー設置希望の意見が散見された。

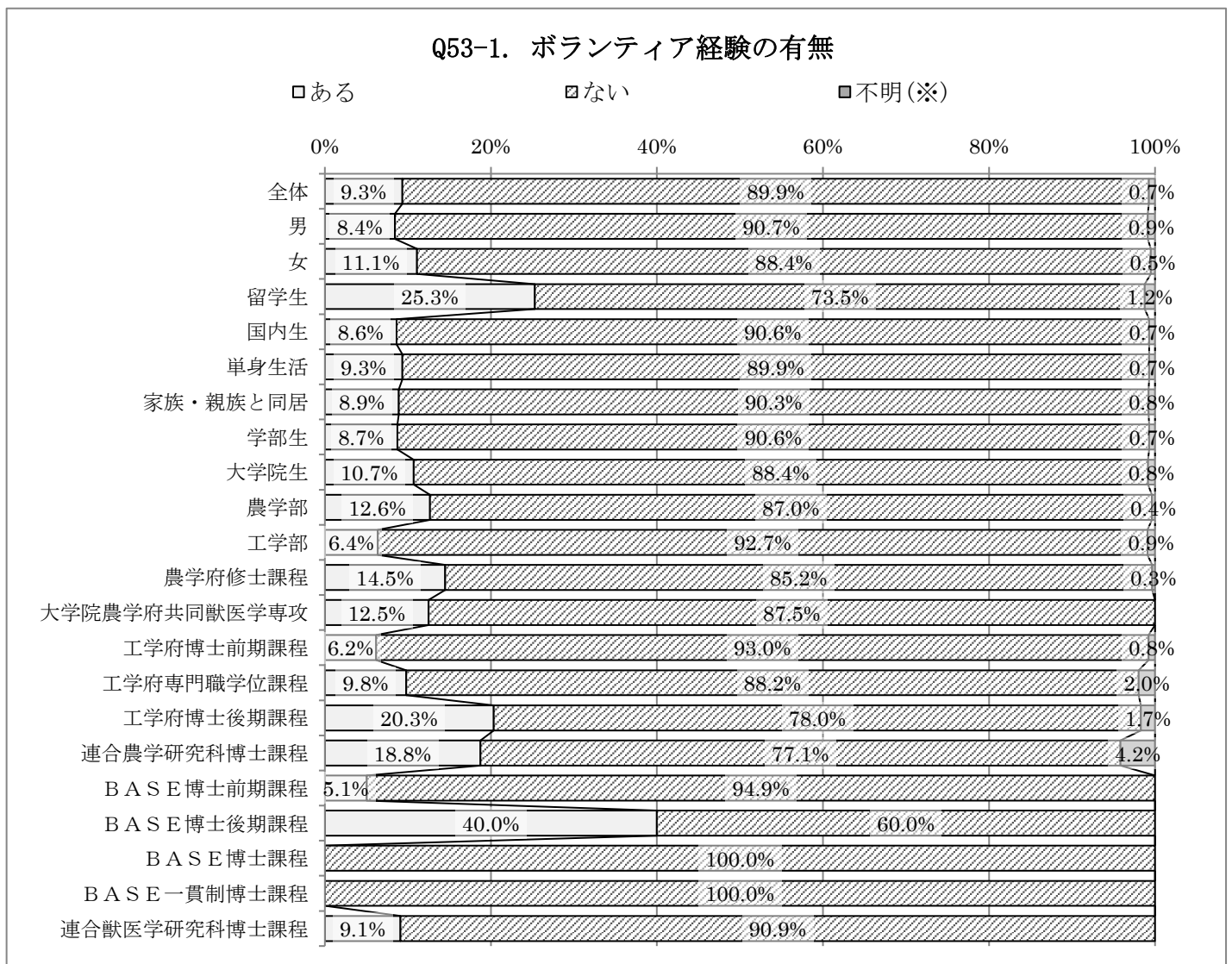


第Ⅶ章 ボランティア活動

5.3. ボランティア経験の有無

全体では、「ある」と回答したのは9.3%であり、残りの90.7%は入学後のボランティア活動の経験はない。これまでの調査の中で最も低い割合となった。男子学生と女子学生を比較すると、女子学生(11.1%)の方が、男子学生(8.4%)より割合が高い。さらに、大学院生(10.7%)の方が、学部生(8.7%)よりボランティア活動の経験をした割合が高い。両学部生を比較すると、農学部生(12.6%)の方が、工学部生(6.4%)よりも割合が高い。

これまでの調査を振り返ると、H12年度まで「ある」と回答した割合は約28%であったが、平成15年度には16.0%まで低下し、以後13~14%で推移していたものの、前回の調査で10.5%まで低下し、今回は10%を下回る結果となった。男女間、学部間、学部生対大学院生の傾向には変化がないが、ボランティア活動そのものに対する関心が低下している懸念がある。



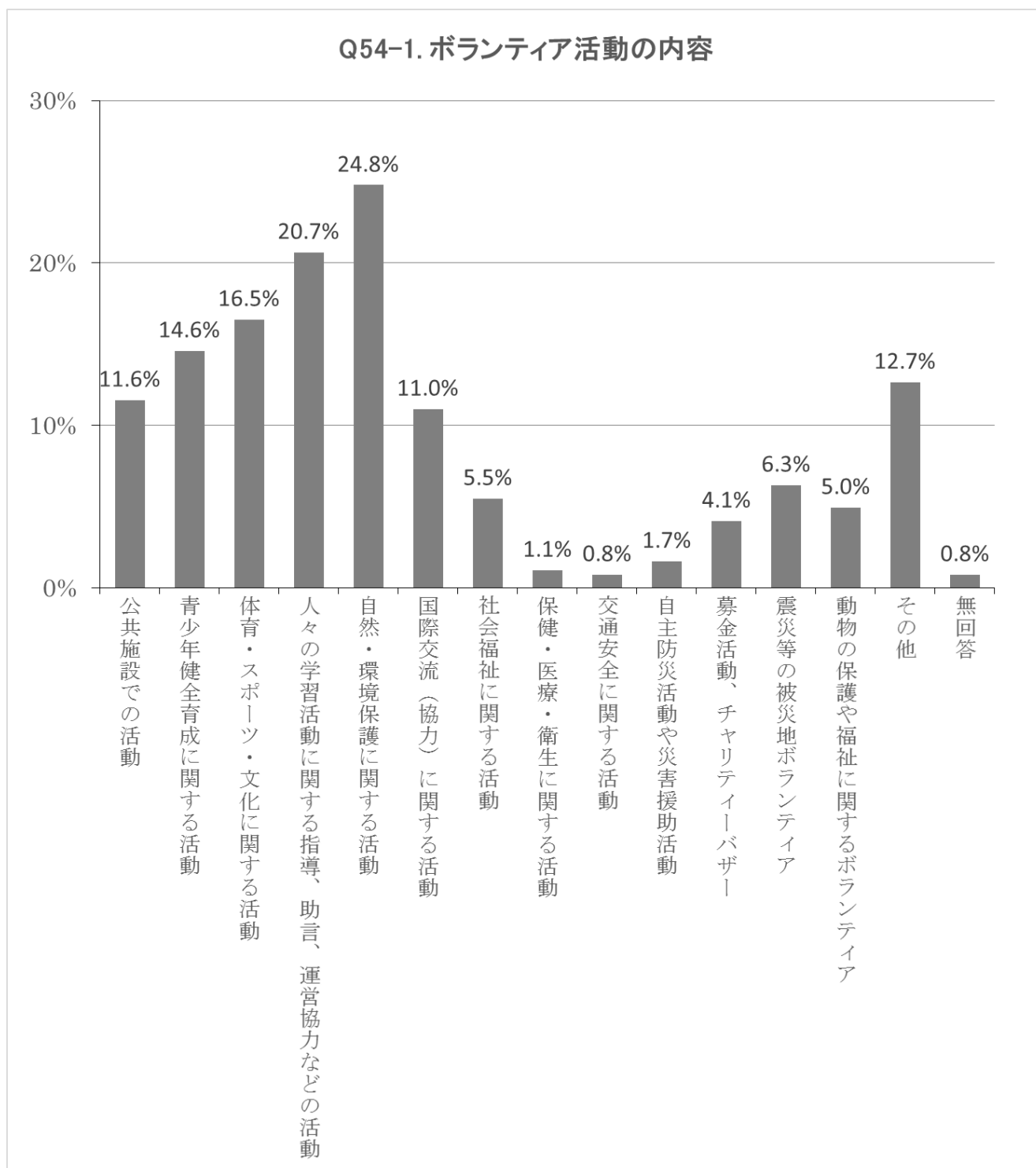
Q53-2. ボランティア経験の有無の推移

調査	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
ある	27.6	27.9	16.0	13.6	13.4	13.9	10.5	9.3
ない	72.4	72.1	84.0	86.4	86.6	86.1	89.0	89.9

5 4. ボランティア活動の内容

全体では、「自然・環境保護に関する活動（環境美化、自然解説、リサイクル活動等）」(24.8%)が最も多く、「人々の学習活動に関する指導、助言、運営」(20.7%)、「体育・スポーツ・文化に関する活動（スポーツ・リクリエーション指導、まつり、学校でのクラブ活動における指導等）」(16.5%)と続き、前回から2位と3位が入れ替わっている。

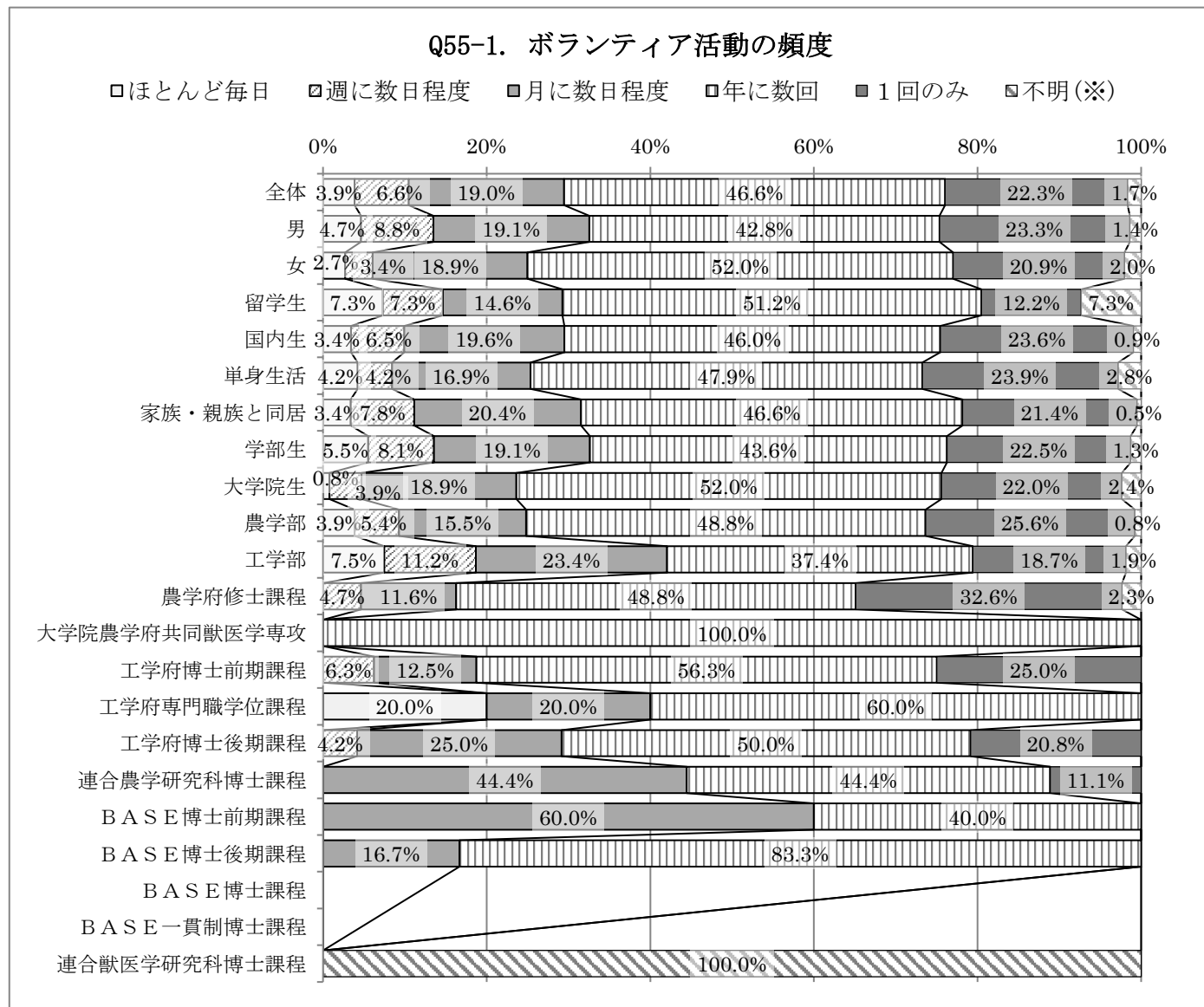
また、男子学生、女子学生を比較すると、男子学生は「自然・環境保護に関する活動（環境美化、自然解説、リサイクル活動等）」(27.4%)が最も多いのに対し、女子学生は「人々の学習活動に関する指導、助言、運営」(27.7%)が最も多く、前回調査と同様に男女間での関心の違いが見られた。



5.5. ボランティア活動の頻度

ボランティア活動の頻度については、「年に数回」が最も多く、全体では46.6%を占めていた。全般的傾向として、農学部、工学部間に差はなく、男女の比較についても同様であった。

前回調査と比べると、「ほとんど毎日」が倍増し、「週に数日程度」、「月に数日程度」も増加し、「1回のみ」が減少している。ボランティア活動に参加している学生アクティビティは増加していることが伺える。

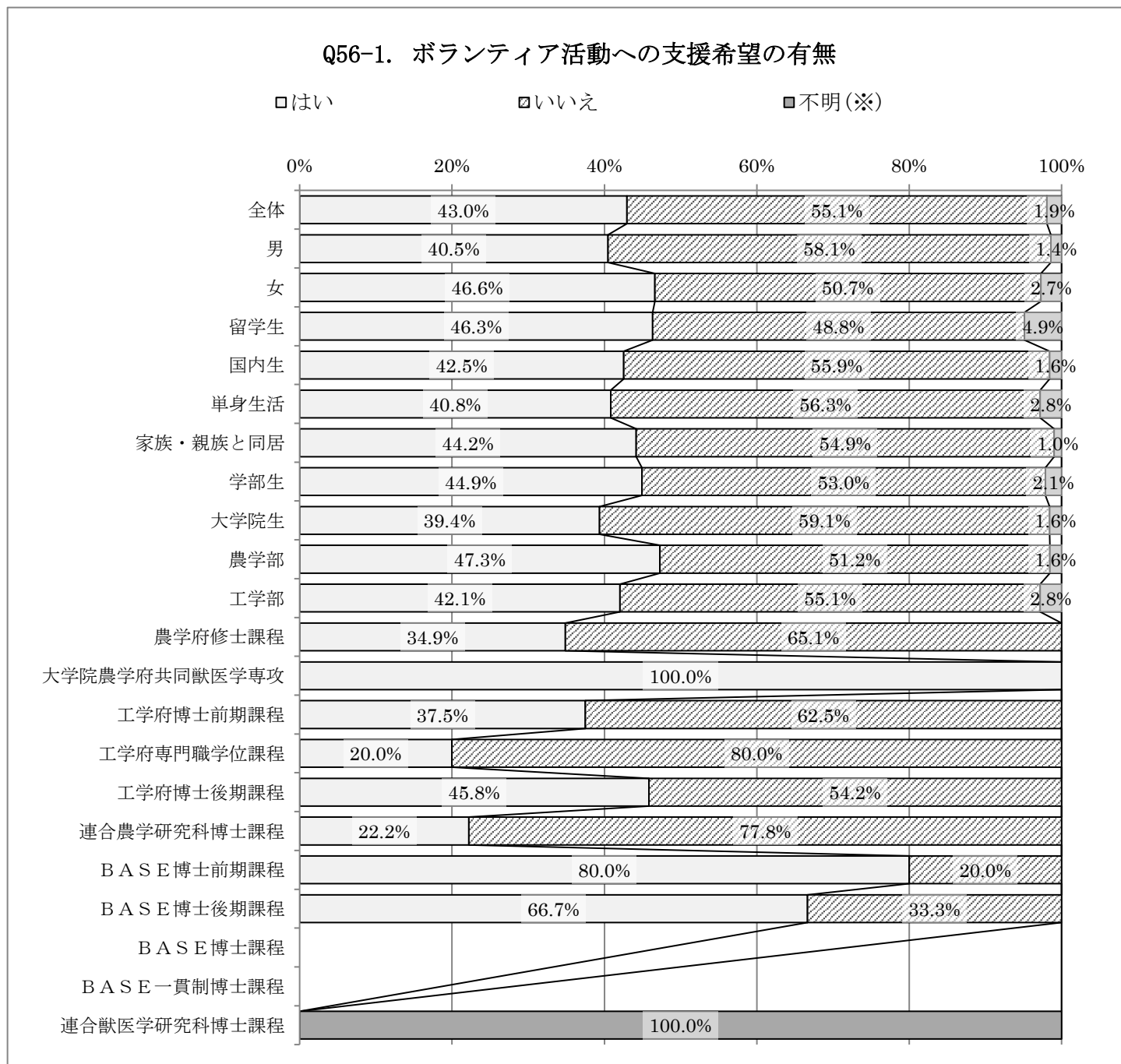


Q55-2. ボランティア活動の頻度の推移

調査	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
ほとんど毎日	0.4	1.6	2.6	1.8	3.2	1.9	3.9
週に数日程度	5.0	6.1	8.9	5.9	4.0	4.2	6.6
月に数日程度	14.2	15.0	15.4	16.9	13.8	16.1	19.0
年に数回	48.1	65.2	61.6	69.2	68.2	48.5	46.6
その他	32.3	12.1	11.4	6.2	10.8	—	—
1回のみ	—	—	—	—	—	28.7	22.3

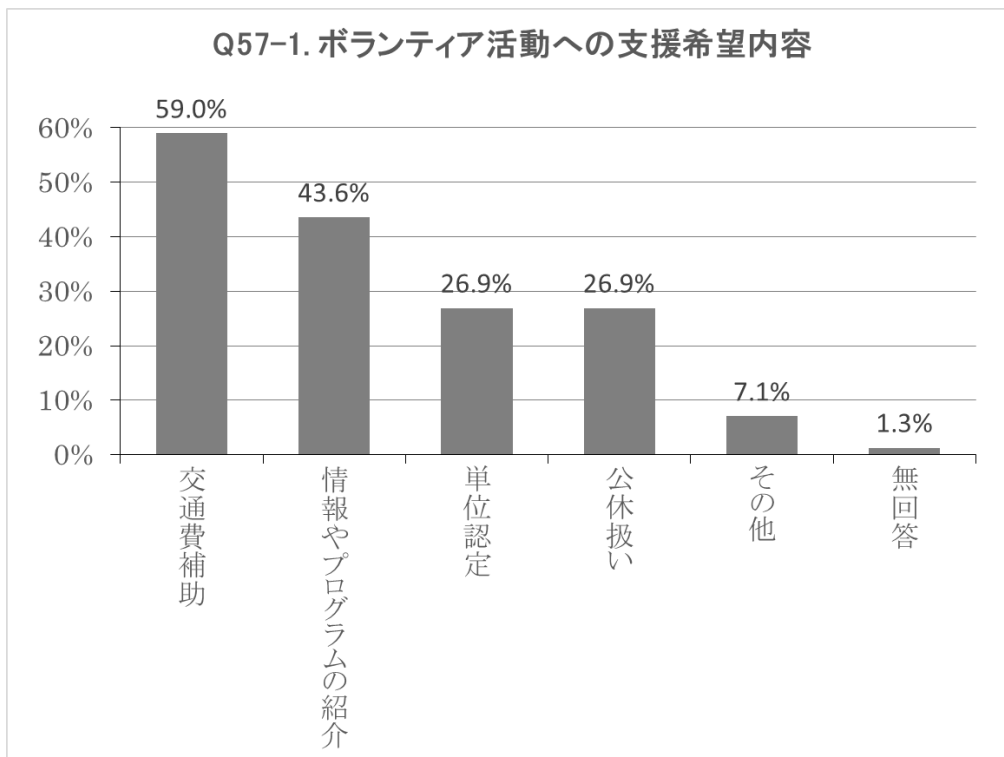
56. ボランティア活動への支援希望の有無

ボランティア活動への支援希望については、「いいえ」が多く、全体として55.1%を占めていたが、前回調査の結果において大きく増加した支援希望「はい」（前回41.0%→今回43.0%）は微増しており、ボランティア活動に対して大学に支援を希望する声が高いことがうかがえる。



57. ボランティア活動への支援希望内容

ボランティア活動に対し、具体的に大学にどのような支援を希望するかという問いについて、「交通費補助」(59.0%)、「情報やプログラムの紹介」(43.6%)、「公休扱い」(26.9%)、「単位認定」(26.9%)となった。男子学生は「交通費補助」(60.9%)が最も多く、女子学生は「交通費補助」と「情報やプログラムの紹介」がともに56.5%と高い数字となっていた。ボランティア活動における交通費補助への希望が多いことは、ボランティア活動への参加が減少していることの裏返しである可能性も考えられる。

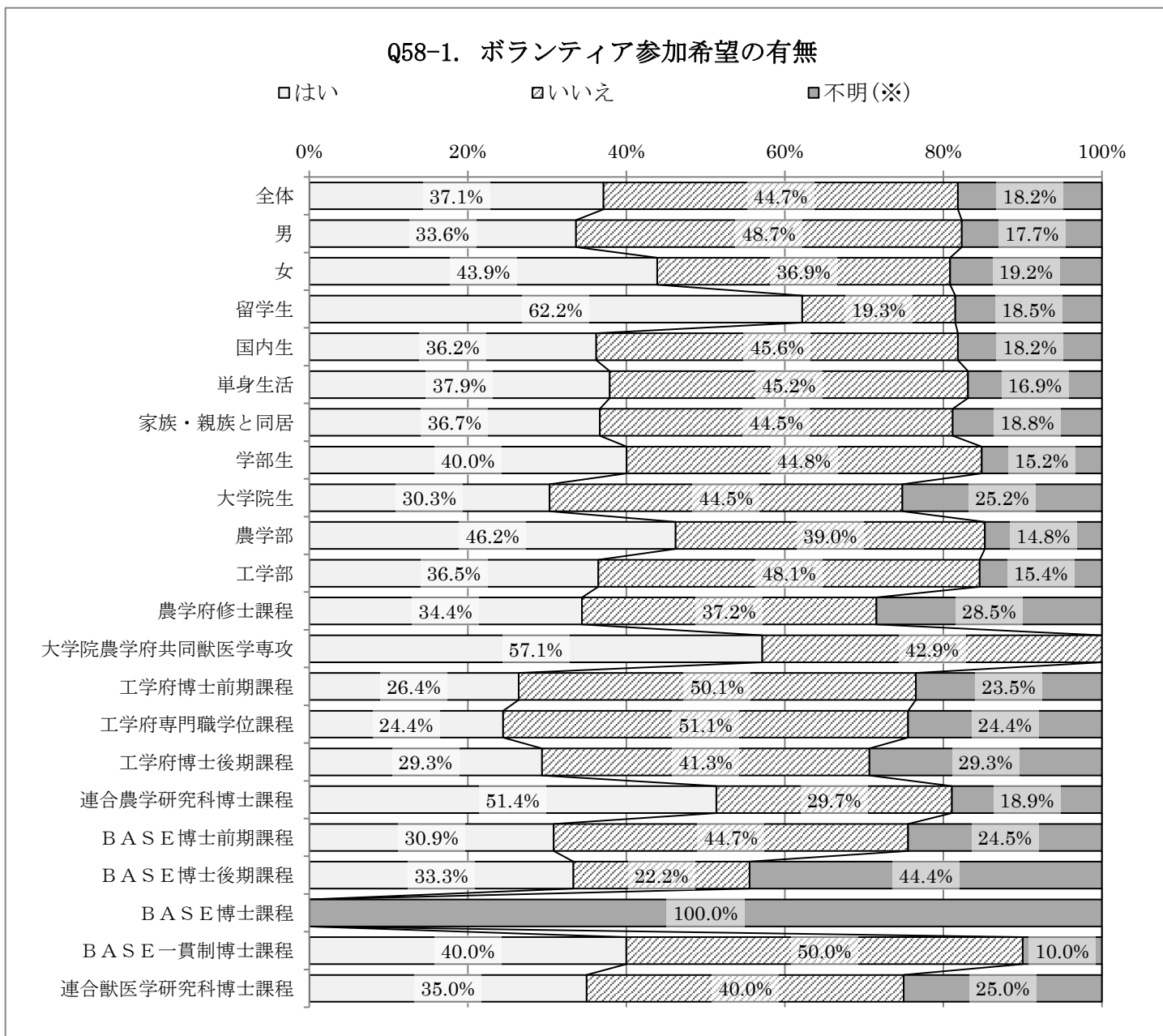


58. ボランティア参加希望の有無

ボランティア参加希望の有無については、参加希望が全体で37.1%であった。

男子学生が33.6%の参加希望であるのに対し、女子学生は43.9%となっており、女子学生の方がボランティアへの参加に積極的であることがうかがえるが、数字的には前回から男女ともに低下している。

なお、ボランティアへの参加希望に関しては前回調査で6%増加したが、今回は再度減少した。平成17年度以前は参加希望者が60%以上いたことと比較すると、低い値に留まっているといえる。



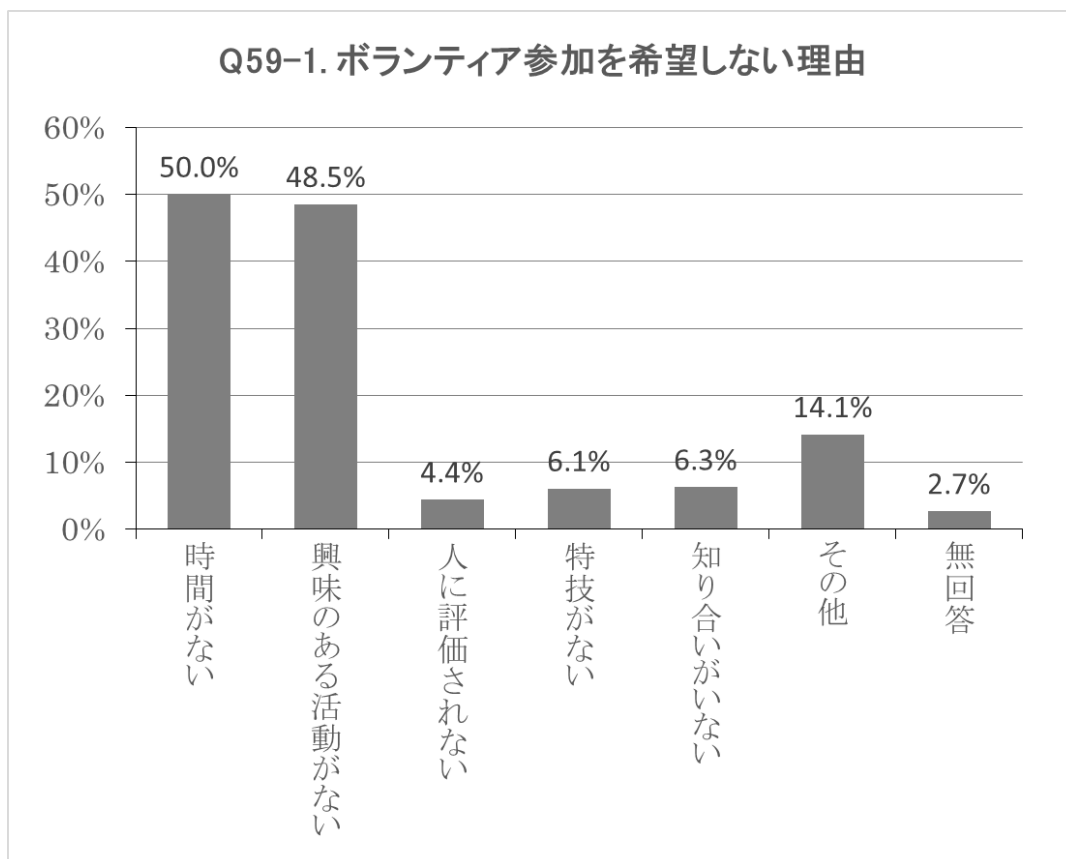
Q58-2. ボランティア参加希望の有無の推移

調査	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30
はい	60.8	64.7	---	---	26.9	35.0	41.0	37.1
いいえ	39.2	35.3	---	---	73.1	65.0	42.0	44.7

第4回、第5回は設問形式が異なるため、今回のまとめには入れなかった。

59. ボランティア参加を希望しない理由

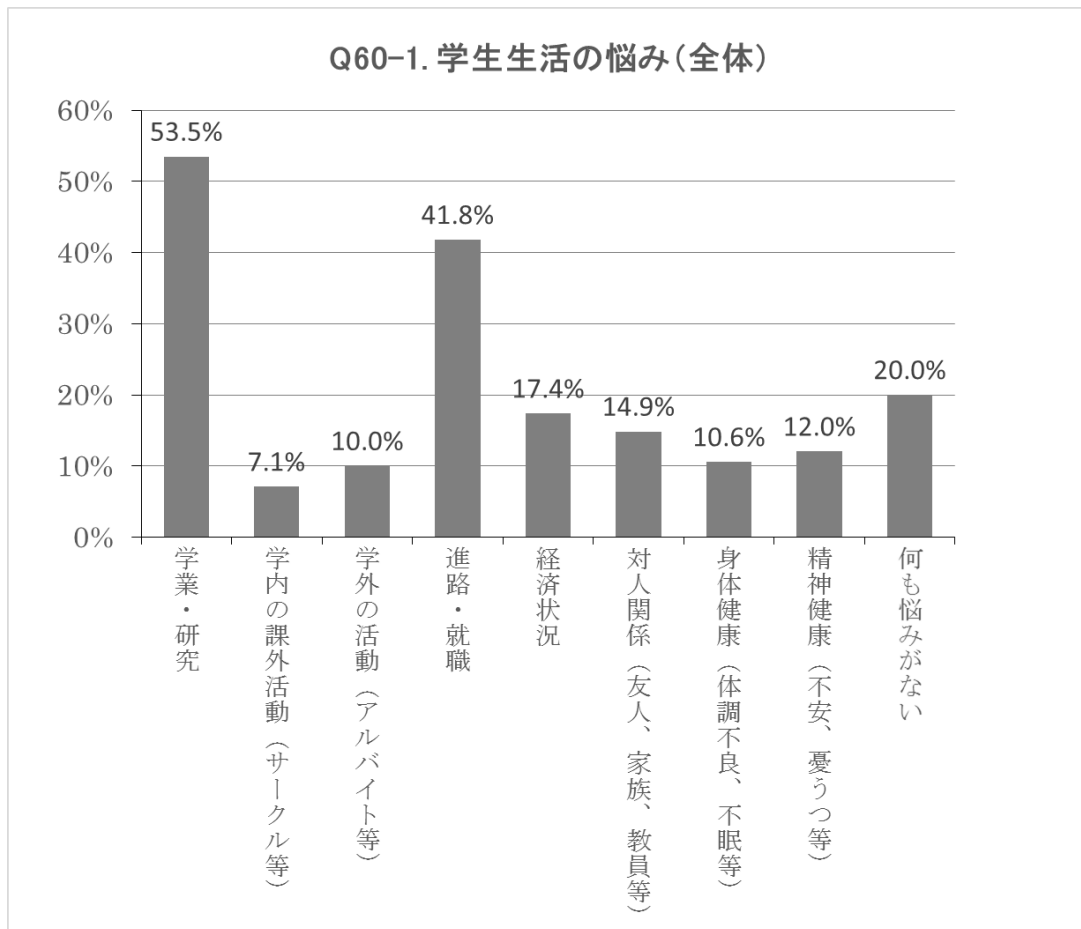
今回の調査でも前回に引き続き、ボランティア活動に参加を希望しない理由を問うている。「時間がない」(50.0%)、「興味のある活動がない」(48.5%)という理由が大きい割合を占めており、全般的に、大学やプライベートでの他の時間で目いっぱいであることがうかがえる。なお、女子学生は「時間がない」(56.2%)、「興味のある活動がない」(44.3%)となっているが、男子学生では「興味のある活動がない」(50.2%)、「時間がない」(47.6%)と順位が入れ替わっている。



第Ⅷ章 学生生活

60. 学生生活の悩み

前回の調査から悩みの順位付けをせずに「悩みがあるもの」を複数回答とした。学生生活の悩みの二大テーマは、「学業・研究」と「進路・就職」であり、この傾向は第5回調査結果から変わらない。しかし「進路・就職」の悩みは前回の45.2%から41.8%へ減少しており、就職状況の改善の影響が推察される。一方で、「精神健康」については12.0%（前回10.7%）で若干の増加がみられる。

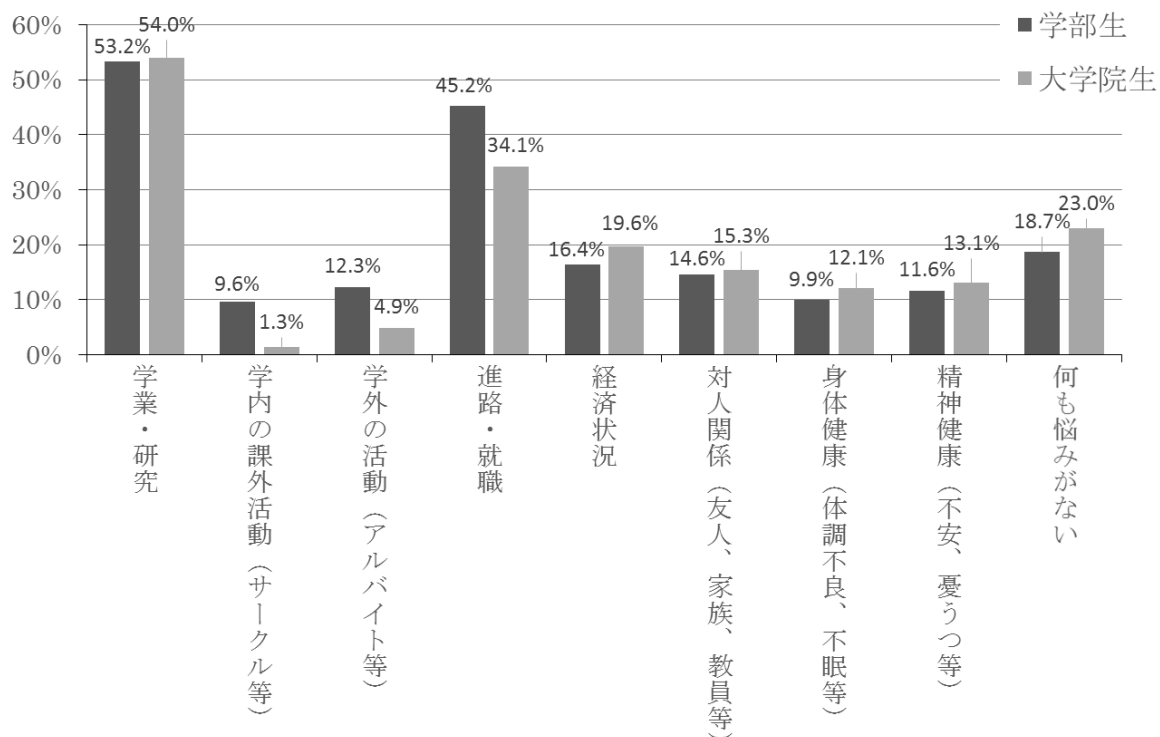


学部生と大学院生（修士）の比較では、悩みの二大テーマは変わらないが、特に大学院生の就職の悩みは34.1%と前回の42.2%からかなり減少している。学部生の方が学内外の活動に関する悩みが多く、就職の悩みも大学院生より高い。大学院生は「悩みがない」と回答する割合は学部生より高いが、一方で「経済状況」、「身体健康」、「精神健康」の悩みが学部生より多い傾向がみられる。進路・就職以外の悩みを抱えている可能性がある。

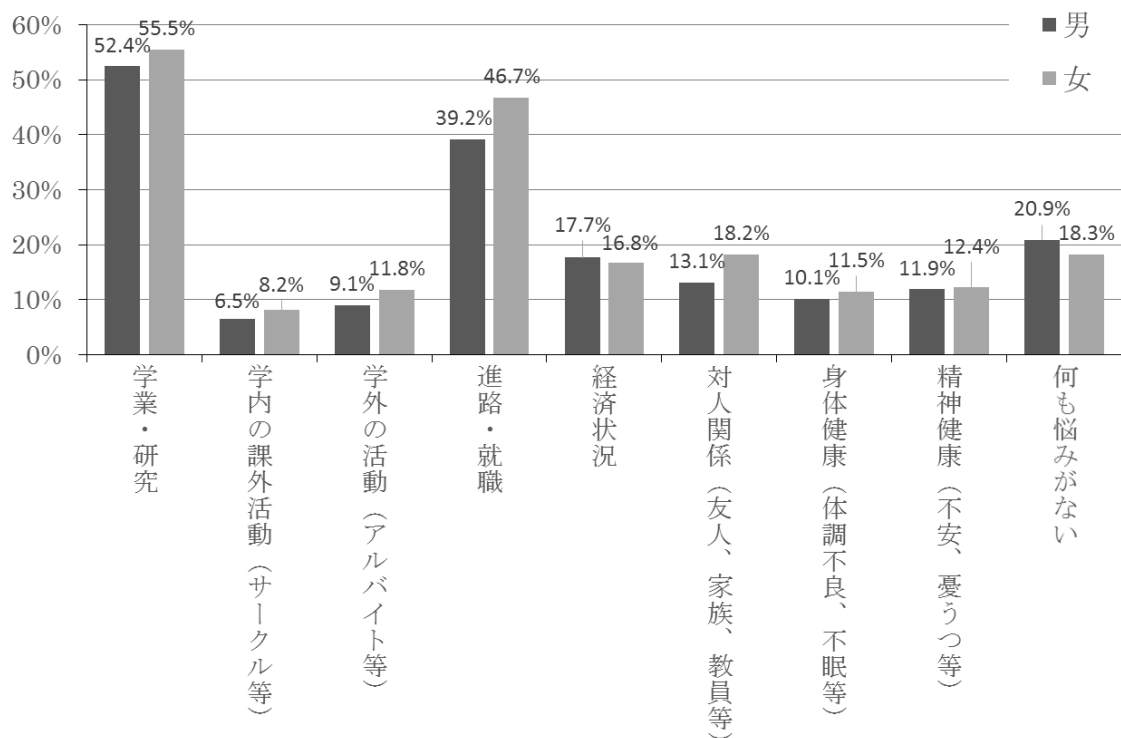
学部・学府別では、「学業・研究」の悩みは工学部の学生が農学部より多く、「進路・就職」は農学部の方が多い。博士課程後期の学生は農工ともに「経済状況」の悩みが高い。工学府修士の学生は心身の健康に関する悩みが農学部の学生よりも高く、一方で「悩みがない」と回答した学生も同様に多い。悩みのある学生とない学生の二極化が生じている可能性がある。

男女別にみると、多くの項目で女子学生の方が男子学生より「悩み」として選択される割合が高くなっている。特に「進路・就職」の悩みは男39.2%（前回43.1%）、女46.7%（前回50.1%）女性の方が高くなっている。女性のキャリア形成についての支援は引き続き重要課題であると思われる。

Q60-2. 学生生活の悩み(学部生／大学院生)



Q60-3. 学生生活の悩み(男／女)



Q60-4. 学生生活の悩み (%)

	学業・研究	学内の課外活動 (サークル等)	学外の活動 (アルバイト等)	進路・就職	経済状況	対人関係 (友人、家族、教員等)	身体健康 (体調不良、不眠等)	精神健康 (不安、憂うつ等)	何も悩まない
全体	53.5%	7.1%	10.0%	41.8%	17.4%	14.9%	10.6%	12.0%	20.0%
男	52.4%	6.5%	9.1%	39.2%	17.7%	13.1%	10.1%	11.9%	20.9%
女	55.5%	8.2%	11.8%	46.7%	16.8%	18.2%	11.5%	12.4%	18.3%
留学生	69.8%	7.4%	12.3%	38.9%	38.3%	20.4%	16.7%	17.9%	9.3%
国内生	52.8%	7.1%	9.9%	41.9%	16.5%	14.6%	10.3%	11.8%	20.5%
单身生活	53.9%	6.1%	8.5%	41.2%	19.5%	15.2%	11.1%	13.8%	19.9%
家族・親族と同居	53.0%	7.7%	10.9%	42.2%	15.5%	14.7%	10.1%	10.7%	20.2%
学部生	53.2%	9.6%	12.3%	45.2%	16.4%	14.6%	9.9%	11.6%	18.7%
大学院生	54.0%	1.3%	4.9%	34.1%	19.6%	15.3%	12.1%	13.1%	23.0%
農学部	49.8%	10.0%	12.1%	49.5%	15.2%	16.6%	9.3%	11.6%	17.5%
工学部	55.3%	9.4%	12.4%	42.5%	17.1%	13.5%	10.2%	11.6%	19.4%
農学府修士課程	53.2%	1.0%	6.1%	39.1%	19.5%	16.2%	11.4%	13.5%	23.9%
工学府博士前期課程	52.0%	1.0%	3.7%	31.5%	15.3%	14.5%	11.4%	11.4%	25.3%
工学府博士後期課程	54.2%	1.7%	5.1%	35.6%	27.1%	14.4%	14.4%	16.9%	21.2%
連合農学研究科博士課程	68.8%	4.2%	8.3%	33.3%	31.3%	20.8%	12.5%	14.6%	10.4%
B A S E	54.4%	2.4%	5.6%	38.4%	24.8%	17.6%	13.6%	13.6%	20.0%
連合獣医学研究科博士課程	68.2%	0.0%	9.1%	22.7%	31.8%	13.6%	22.7%	13.6%	9.1%

6 1. 対人関係の悩みの相手

学生生活の悩みで「対人関係」を選択したのは全体で14.9%（前回15.1%）となった。

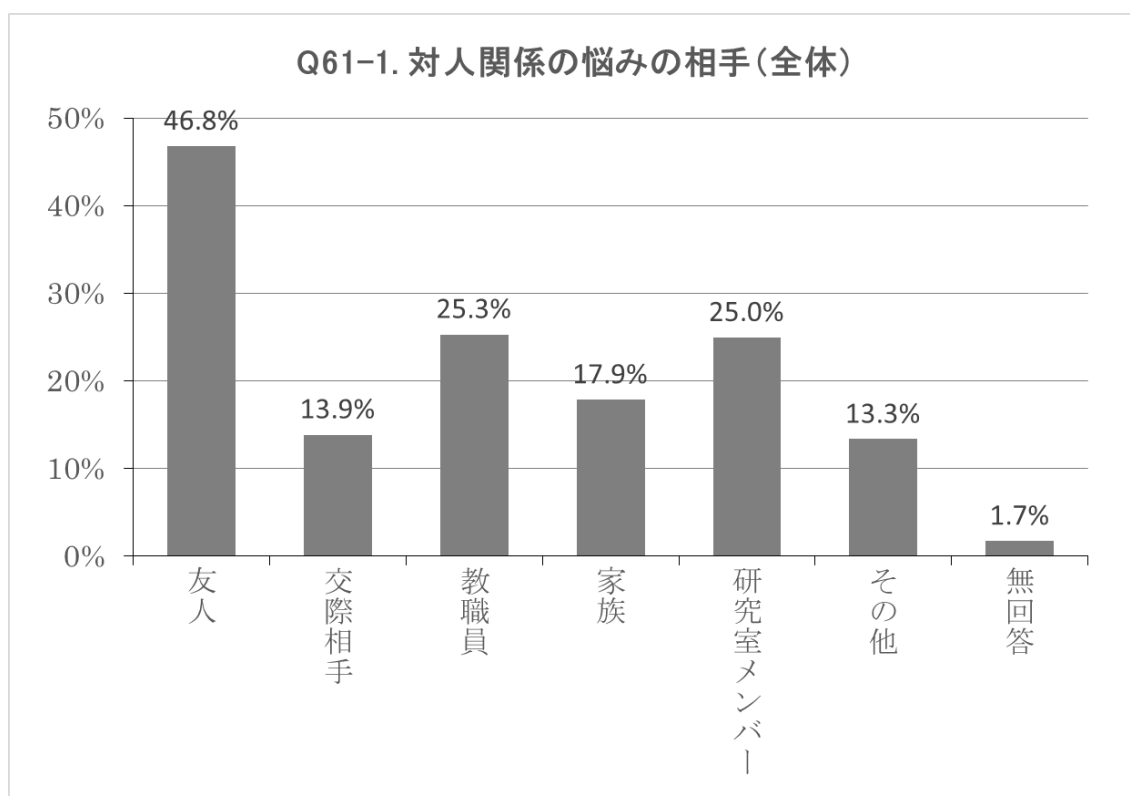
悩みの相手については、「友人」が一番高く46.8%（前回48.8%）となっているが、女子学生のほうが対人関係での悩みを抱えやすい傾向があり男女差が大きいため男女別に検討する必要がある。

男子の場合、悩みの相手は「友人」が44.3%（前回43.3%）と一番高くなっているが、「教職員」と「交際相手」の選択率が女子より高い。一方女子学生は「友人」が50.2%（前回58.2%）、「家族」23.9%（前回24.5%）とプライベートな対人関係での悩みが多くなっている。また前は悩みの相手として「研究室メンバー」と回答する割合は男子の方が女子より高かったが、今回の調査では女子学生の選択率が男子学生より上回っている。「交際相手」の選択率も前回より上昇しているので、研究室での恋愛に関する悩みが増えている可能性も考えられる。

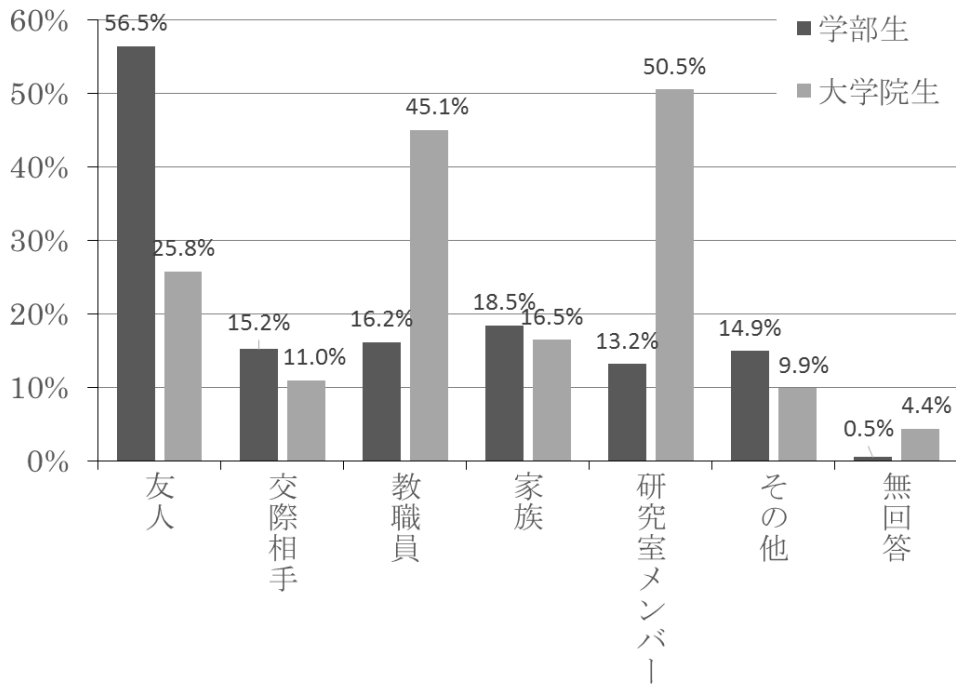
学部学生と大学院生との比較では、研究室に配属される大学院生で「教職員」や「研究室メンバー」との悩みは増えている。工学部学生と農学部学生の「教職員」との悩みは前回より差がなくなっているが、農学府修士学生で「教職員」との悩みが増加している。工学府博士前期課程学生は「研究室メンバー」および「交際相手」の悩みが前回よりかなり増加している。

また工学府博士後期課程の64.7%（前回70.0%）が「教職員」を悩みの相手としてあげている。博士課程では指導教員との関係が非常に密接となることに関連しているだろう。

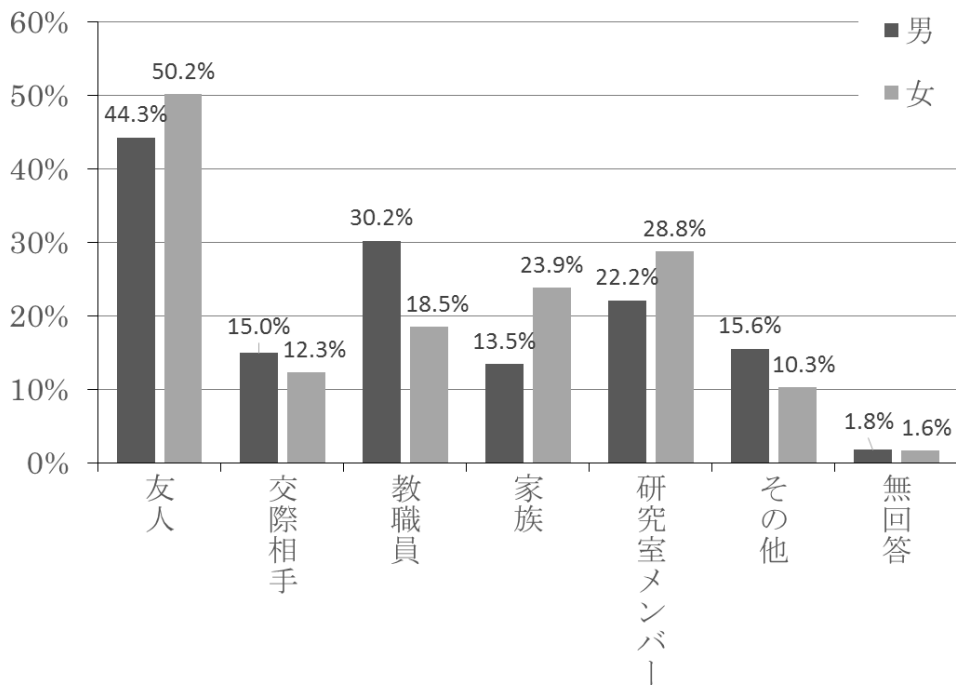
単身生活者と親と同居の学生について比較すると、前回の調査同様、単身生活の学生の方が研究室での対人関係の悩みを多く感じている結果となった。身近に相談できる人がいないことや研究室での生活時間が長くなっていることなどが関係している可能性がある。



Q61-2. 対人関係の悩みの相手(学部生/大学院生)



Q61-3. 対人関係の悩みの相手(男/女)

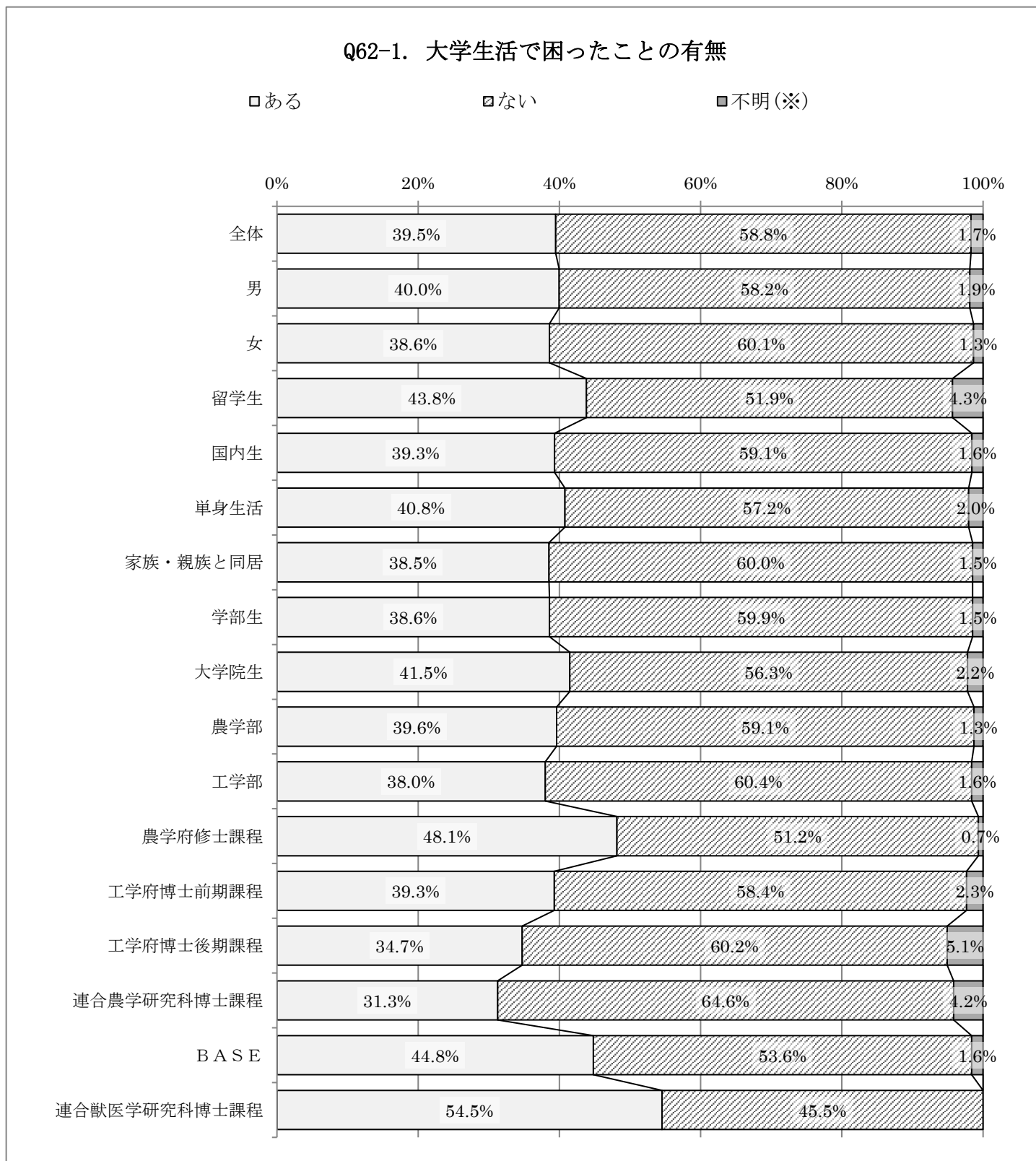


Q61-4. 対人関係の悩みの相手 (%)

	友人	交際相手	教職員	家族	研究室メンバー	その他	無回答
全体	46.8%	13.9%	25.3%	17.9%	25.0%	13.3%	1.7%
男	44.3%	15.0%	30.2%	13.5%	22.2%	15.6%	1.8%
女	50.2%	12.3%	18.5%	23.9%	28.8%	10.3%	1.6%
留学生	42.4%	18.2%	39.4%	21.2%	39.4%	12.1%	15.2%
国内生	47.1%	13.6%	24.4%	17.6%	24.1%	13.4%	0.9%
单身生活	45.9%	14.3%	29.9%	15.6%	23.8%	13.9%	1.7%
家族・親族と同居	46.9%	13.3%	22.4%	19.2%	25.4%	13.3%	1.8%
学部生	56.5%	15.2%	16.2%	18.5%	13.2%	14.9%	0.5%
大学院生	25.8%	11.0%	45.1%	16.5%	50.5%	9.9%	4.4%
農学部	55.6%	15.4%	16.0%	18.9%	8.3%	13.6%	0.6%
工学部	57.1%	15.0%	16.4%	18.1%	16.8%	15.9%	0.4%
農学府修士課程	22.9%	6.3%	54.2%	22.9%	45.8%	10.4%	2.1%
工学府博士前期課程	30.7%	16.0%	37.3%	14.7%	54.7%	5.3%	1.3%
工学府博士後期課程	35.3%	11.8%	64.7%	17.6%	58.8%	23.5%	0.0%
連合農学研究科博士課程	30.0%	20.0%	40.0%	10.0%	40.0%	10.0%	30.0%
B A S E	13.6%	4.5%	36.4%	13.6%	45.5%	18.2%	4.5%
連合獣医学研究科博士課程	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%	0.0%

6 2. 大学生生活で困ったことの有無

全体では、困ったことが「ある」が39.5%（前回40.7%）と同様の結果となった。男女差、単身生活／同居の差、学部間の差はみられない。農学部修士学生が全体の中ではやや高い数値となっている。



63. 相談相手

困ったことがあると回答した人に対して、困ったときの相談相手（場所）について複数回答可で回答を求めた。全体的傾向として前回同様「先輩・友人等」が最も高く（52.7%）、次いで「家族」32.8%で前回（27.9%）より若干増加している。

誰にも「相談しなかった」と回答した割合で、21.4%で前回の23.6%とやや減少してはいるが、5人に1人はだれにも相談していないことになる。特に男子学生に関しては24.0%は「相談しない」と回答している。ただ「家族」への相談は男女ともに増加しており、親子間が密接になってきている可能性がある。

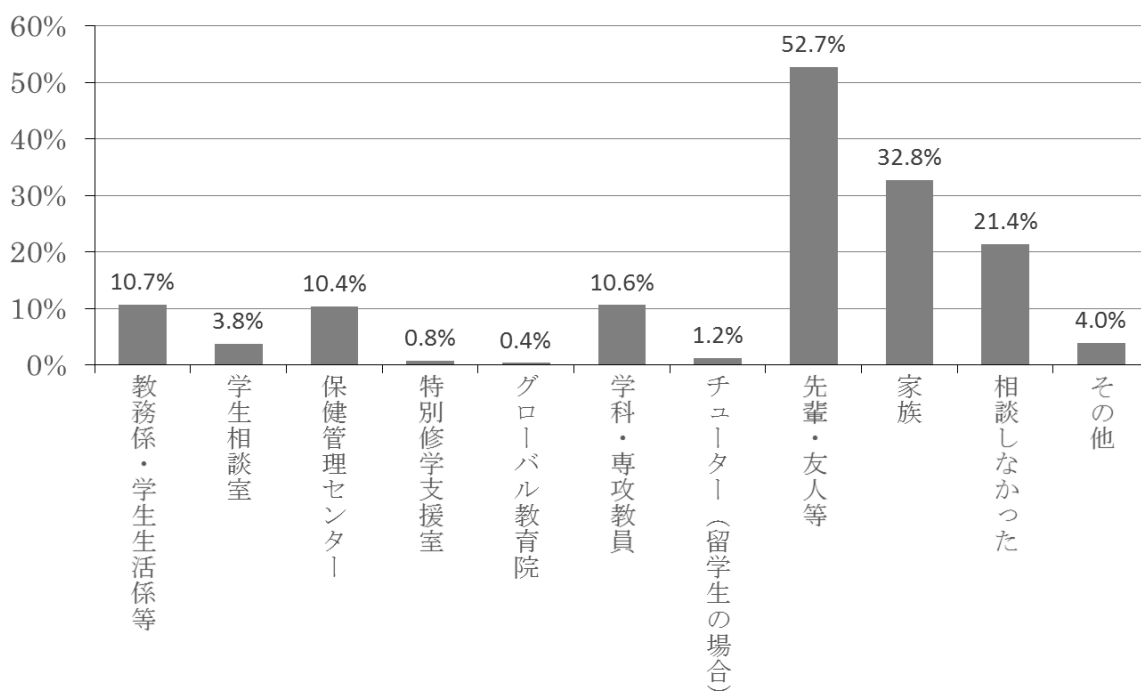
学内の相談窓口では「保健管理センター」への相談が10.4%（前回7.4%）と増加してきている。女子学生、また農学府修士の学生の相談率が比較的高く、相談窓口としての周知が進んでいるといえる。

「学科・専攻教員」への相談は前回の12.7%より減少し、10.6%となっている。相談内容の変化にも関連しているかもしれないが、農学府修士学生を除いてすべての学生で減少している。「学生相談室」への相談もやや減少しており、教員へ気軽に相談できない学生が増えているかもしれない。

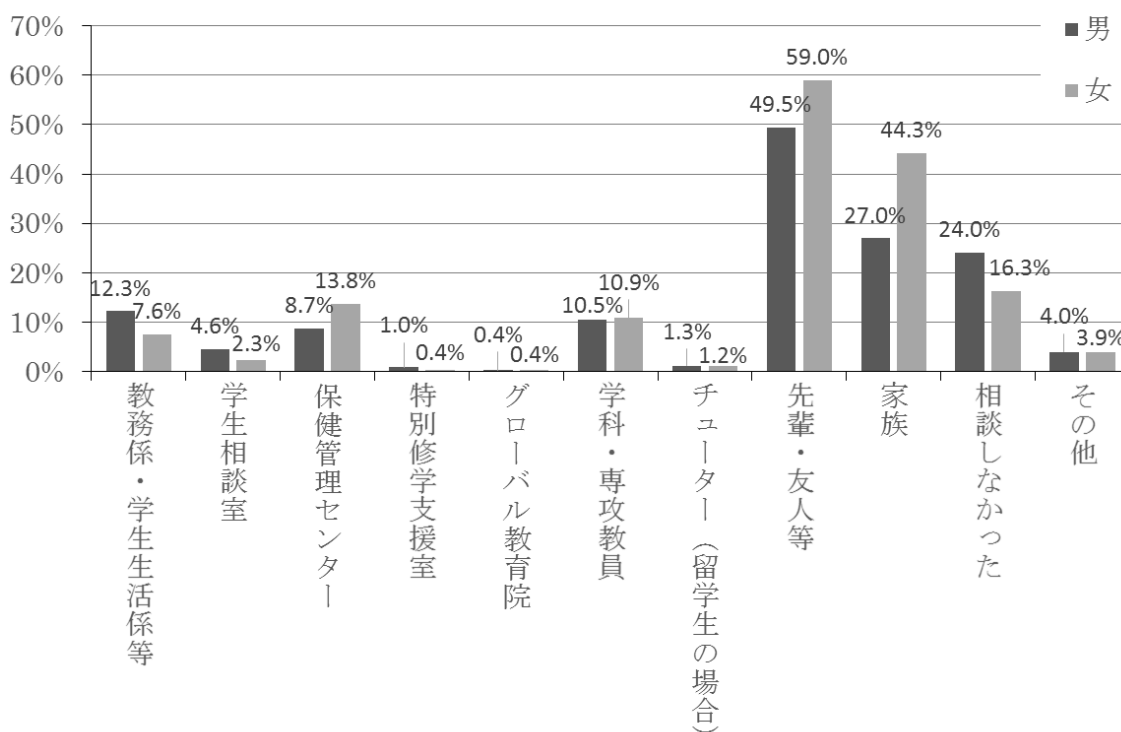
Q63-1. 相談相手 (%)

	教務 係・学 生生活 係等	学生相 談室	保健管 理セン ター	特別修 学支援 室	グロー バル教 育院	学科・ 専攻教 員	チュー ター (留學 生の場 合)	先輩・ 友人等	家族	相談し なかつ た	その他
全体	10.7%	3.8%	10.4%	0.8%	0.4%	10.6%	1.2%	52.7%	32.8%	21.4%	4.0%
男	12.3%	4.6%	8.7%	1.0%	0.4%	10.5%	1.3%	49.5%	27.0%	24.0%	4.0%
女	7.6%	2.3%	13.8%	0.4%	0.4%	10.9%	1.2%	59.0%	44.3%	16.3%	3.9%
留学生	22.5%	11.3%	12.7%	0.0%	1.4%	19.7%	22.5%	63.4%	40.8%	15.5%	4.2%
国内生	10.1%	3.5%	10.3%	0.8%	0.3%	10.2%	0.2%	52.2%	32.4%	21.7%	4.0%
单身生活	10.6%	3.1%	11.1%	1.0%	0.3%	10.2%	1.8%	55.0%	31.0%	20.5%	3.4%
家族・親族と同居	10.6%	4.2%	10.0%	0.6%	0.4%	10.8%	0.8%	51.0%	34.4%	22.2%	4.4%
学部生	11.8%	3.0%	9.2%	1.1%	0.3%	7.8%	0.6%	52.0%	31.7%	21.7%	3.9%
大学院生	8.3%	5.7%	13.0%	0.2%	0.6%	16.7%	2.6%	54.1%	35.2%	20.9%	4.1%
農学部	12.6%	2.0%	10.1%	0.7%	0.0%	9.7%	0.7%	56.4%	37.4%	16.6%	3.7%
工学部	11.3%	3.6%	8.6%	1.3%	0.5%	6.6%	0.5%	49.2%	28.1%	24.9%	4.1%
農学府修士課程	9.8%	6.3%	17.5%	0.0%	1.4%	22.4%	1.4%	55.2%	41.3%	15.4%	4.9%
工学府博士前期課程	4.9%	3.4%	9.4%	0.5%	0.0%	10.3%	0.0%	59.1%	30.5%	23.6%	2.5%
工学府博士後期課程	12.2%	9.8%	17.1%	0.0%	0.0%	24.4%	4.9%	48.8%	39.0%	19.5%	12.2%
連合農学研究科博士課程	26.7%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%	26.7%	20.0%	53.3%	40.0%	20.0%	6.7%
B A S E	3.6%	7.1%	16.1%	0.0%	0.0%	17.9%	5.4%	42.9%	33.9%	19.6%	3.6%
連合獣医学研究科博士課程	25.0%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	16.7%	25.0%	33.3%	8.3%	50.0%	0.0%

Q63-2. 相談相手や場所(全体)



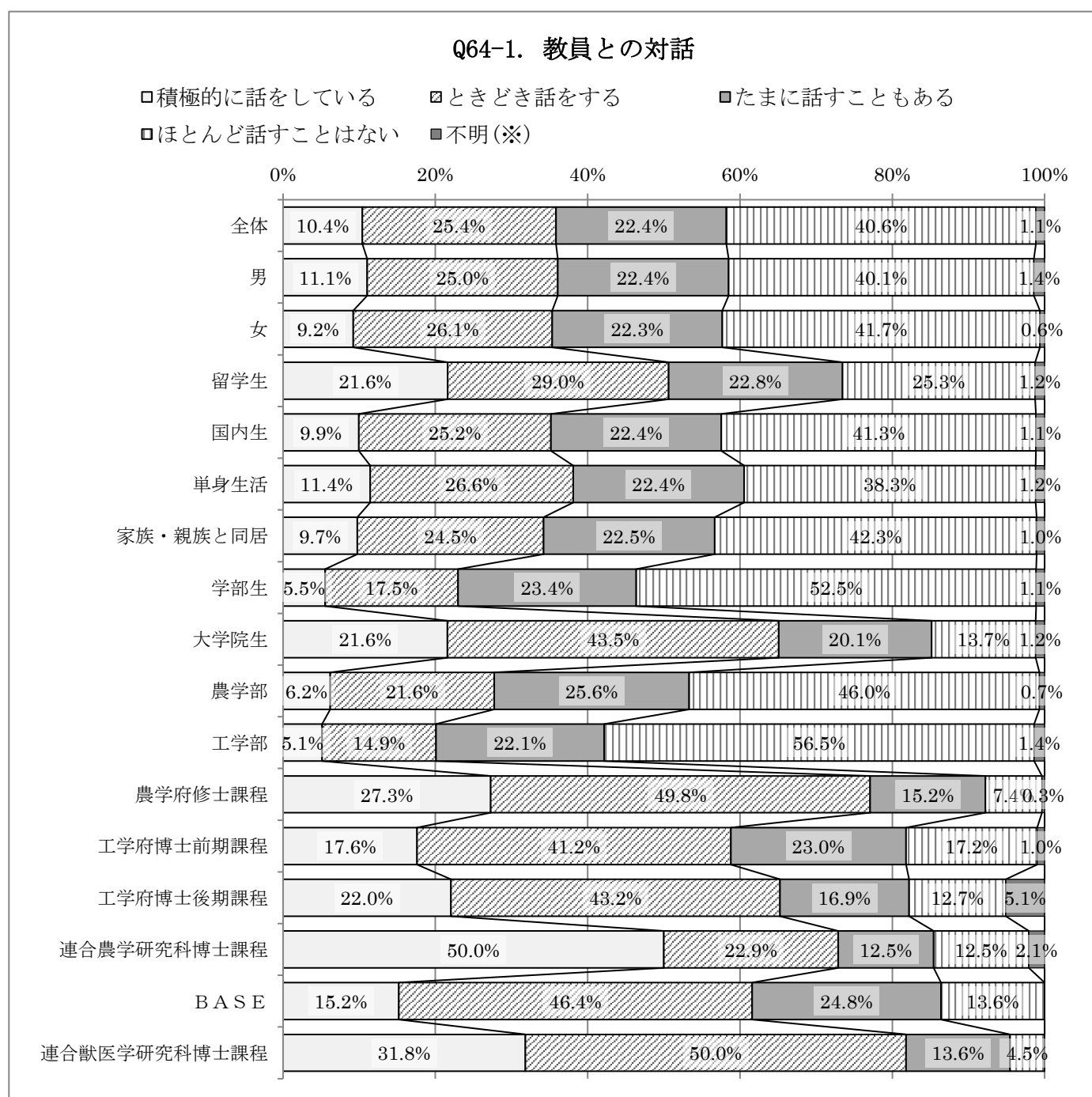
Q63-3. 相談相手や場所(男/女)



64. 教員との対話

全体では「積極的に話をしている」10.4%（前回10.8%）、「ときどき話をする」25.4%（前回24.5%）、「たまに話すこともある」22.4%（前回23.2%）、「ほとんど話すことはない」40.6%（前回41.5%）と前回とほぼ同じ結果となった。男女差はあまりみられない。

大学院生になると教員との交流は増えるが、大学院生でも13.7%の学生が「ほとんど話すことはない」と回答している。農学部と工学部博士前期課程の学生では教員とのかかわり方に差がみられ、特に工学部博士前期課程の学生の17.2%が授業以外で「ほとんど話すことはない」。工学部博士後期課程の学生は「積極的に話をしている」が前回の40.2%から22.0%へ半減しており、かつ12.7%の学生が研究以外で教員との交流がほぼない。時間的ゆとりがもてない、あるいは学生と教員の交流の在り方が変化しているのかもしれない。

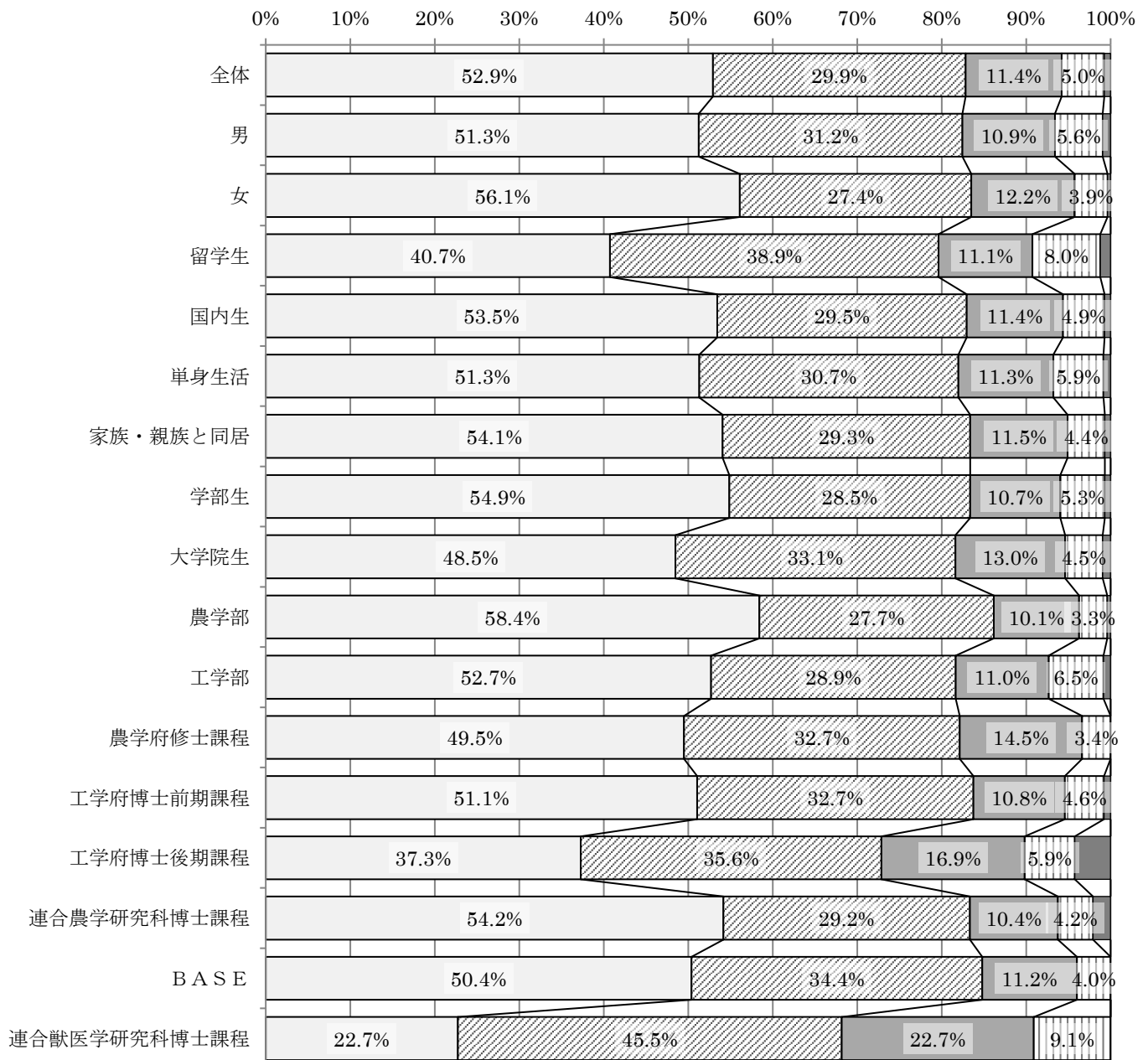


65. 学生同士の交流

「積極的に交流している」は 52.9%（前回 51.4%）、「ときどきある」が 29.9%（前回 31.3%）、「たまにある」11.4%（前回 12.4%）、「ほとんど交流することはない」5.0%（4.9%）とほぼ前回同様の結果となった。しかし内訳を前回の調査と比較すると、学部生の学生同士の交流が増えている一方で大学院生は前回 52.3%から今回 48.5%へと減少している。工学府博士後期課程の学生同士の交流は「積極的交流」が前回 49.5%から今回 37.3%へと大幅に減っている。社会人博士の学生が増えている影響かもしれない。女子学生の方が学生同士の交流が盛んなのもこれまでの調査と同じである。

Q65-1. 学生同士の交流

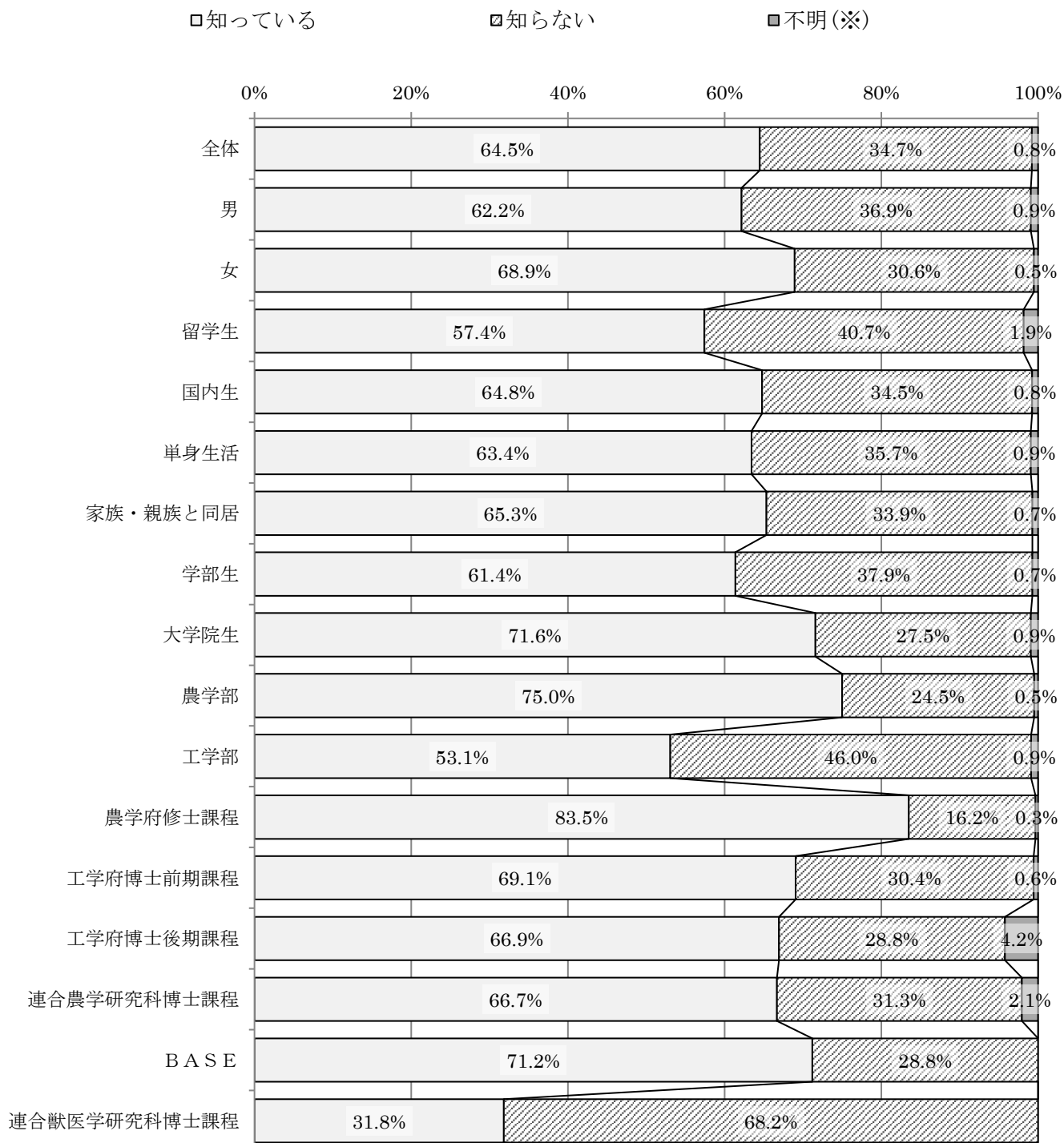
- 積極的に交流している
- ▨ ときどきある
- たまにある
- ▩ ほとんど交流することはない
- 不明(※)



66. 学生相談室の認知度

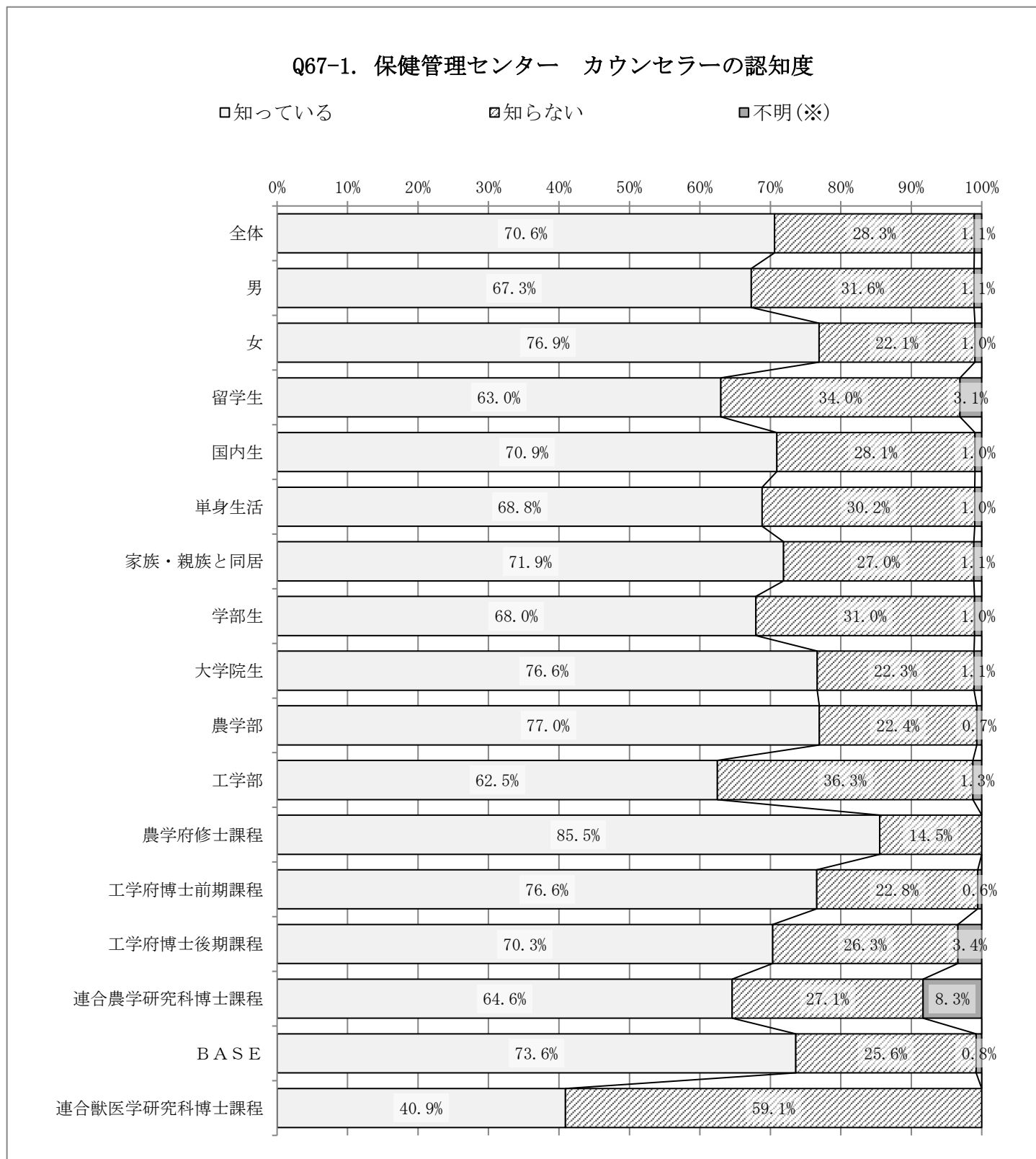
各キャンパスに学業・進路・就職などの相談に応じる学生相談室が開設されているのを知っているかの問いに、全体の64.5%が「知っている」と回答した。前回調査とほぼ同じ結果となった。農学府修士での認知度はこれまで同様一番高く、83.5%となっている。工学部・工学府での認知度が前回同様まだ低く、周知についての工夫が必要と思われる。

Q66-1. 学生相談室の認知度



67. 保健管理センター カウンセラーの認知度

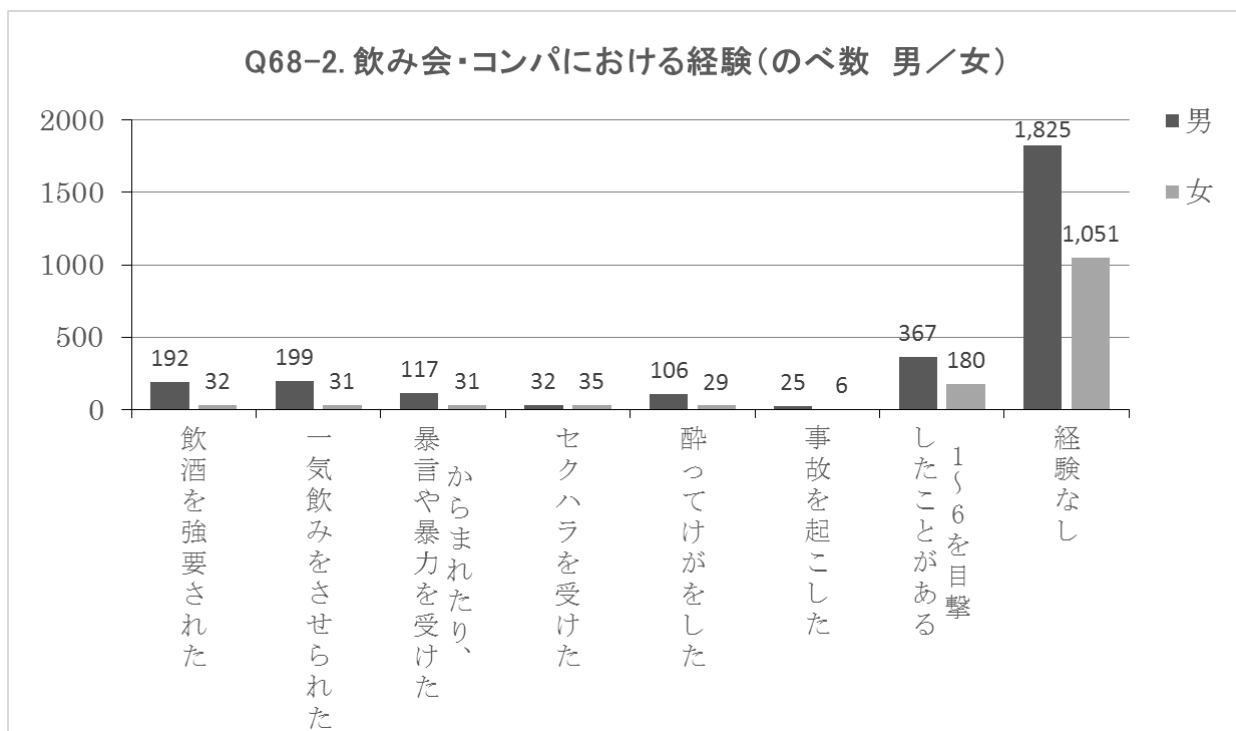
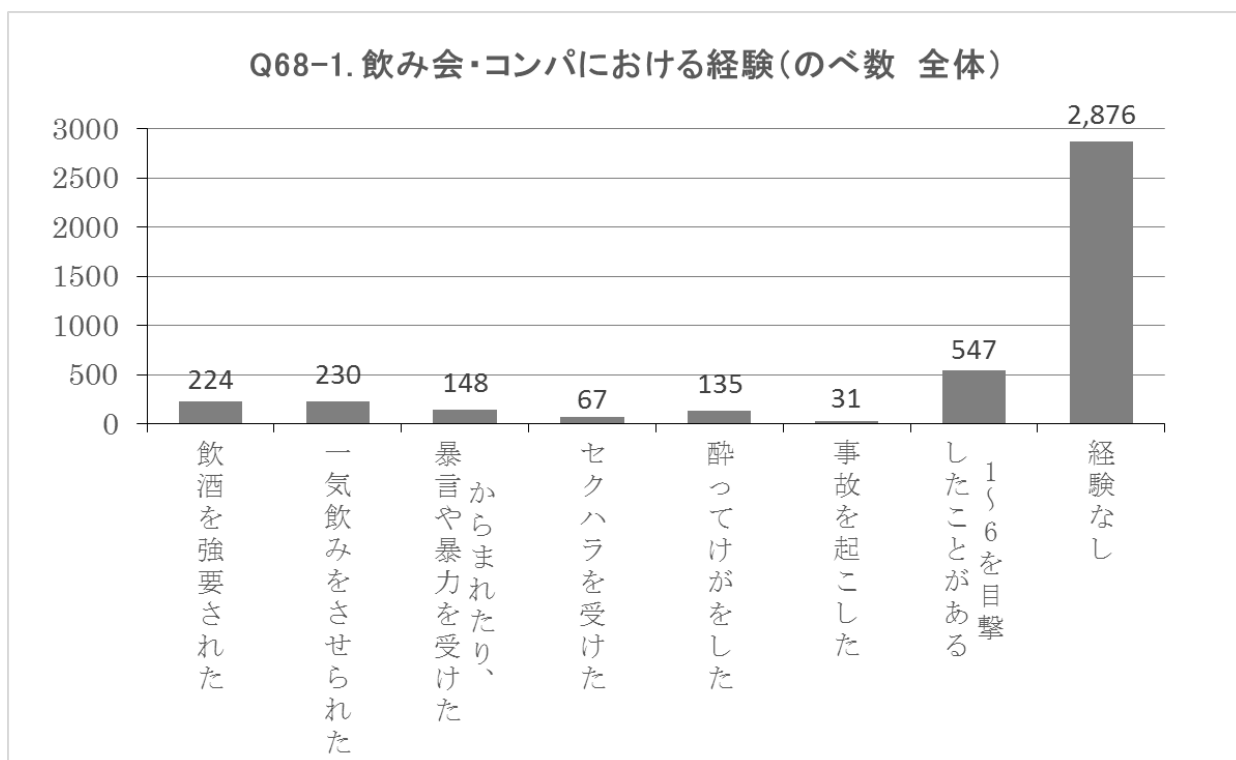
カウンセラーの認知度は全体で70.6%であり、前回66.6%から若干上昇した。男性よりは女性、工学部よりは農学部で認知度が高い傾向は変わらない。さらなる周知方法の工夫が求められる。



68. 飲み会・コンパにおける経験

飲み会やコンパでの不快・危険経験について複数回答可として以下の項目について経験を訊ねた。有効回答のうち全体の74.0%（前回72.4%）は「経験なし」と少しずつ飲酒場面での危険や不快経験は減少している。「飲酒の強要」や「一気飲み」の強要は実数としても割合としても減少しているが、未だ230件ほど（約7.7%）が飲酒や一気飲みの強要など危険な飲酒行動を強いられている。今後もマナーや事故防止のための教育が必要と思われる。

男女別でみると、男子学生の方が「飲酒の強要」や「からまれ」、「怪我」が多く、「一気飲み」も199件と非常に多い。飲み会の場面での「セクハラ」には男女差はなく、割合・実数的には減少しているが今後も注意が必要だろう。



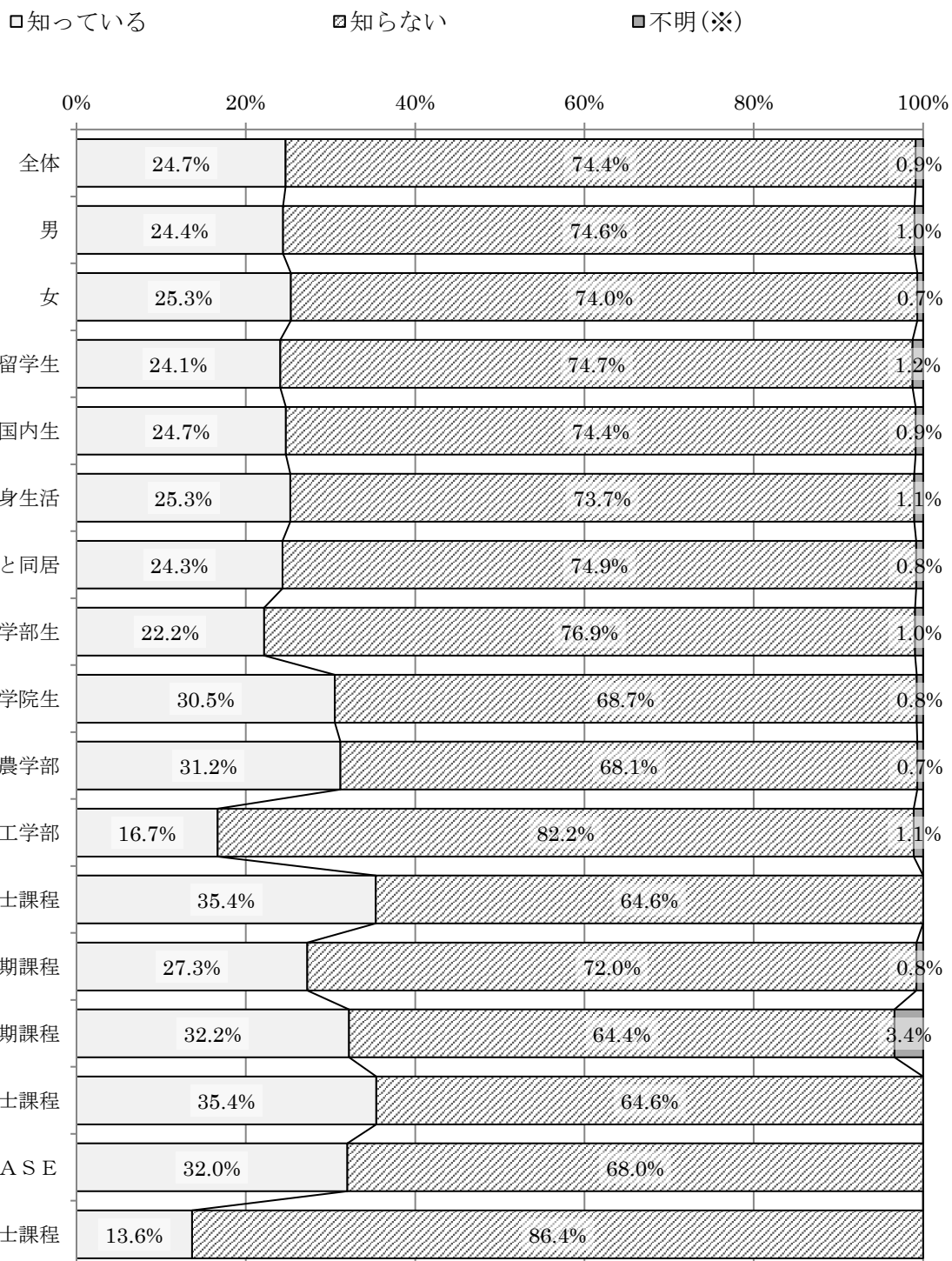
Q68-3. 飲み会・コンパにおける経験 (%)

	飲酒を強 要された	一気飲み をさせら れた	からまれ たり、暴 言や暴力 を受けた	セクハラ を受けた	酔ってけ がをした	事故を起 こした	1～6を目 撃したこ とがある	経験なし
全体	5.8%	5.9%	3.8%	1.7%	3.5%	0.8%	14.1%	74.0%
男	7.5%	7.8%	4.6%	1.3%	4.2%	1.0%	14.4%	71.6%
女	2.4%	2.3%	2.3%	2.6%	2.2%	0.4%	13.5%	78.7%
留学生	5.6%	1.2%	0.0%	1.9%	0.6%	1.2%	1.2%	59.9%
国内生	5.8%	6.1%	4.0%	1.7%	3.6%	0.8%	14.6%	74.6%
単身生活	6.2%	6.0%	3.6%	1.6%	3.8%	0.7%	14.1%	72.0%
家族・親族と同居	5.5%	5.9%	3.9%	1.8%	3.1%	0.9%	14.1%	75.5%
学部生	5.2%	5.4%	3.7%	1.5%	2.9%	1.0%	12.6%	77.3%
大学院生	7.2%	7.1%	4.0%	2.2%	4.7%	0.3%	17.5%	66.7%
農学部	4.7%	4.4%	3.3%	2.0%	2.5%	0.8%	14.1%	77.5%
工学部	5.4%	6.0%	4.0%	1.3%	3.2%	1.1%	11.6%	77.1%
農学府修士課程	4.0%	3.4%	3.4%	3.4%	3.7%	0.3%	16.5%	70.4%
工学府博士前期課程	9.7%	9.5%	4.4%	2.3%	6.2%	0.0%	20.9%	64.6%
工学府博士後期課程	5.9%	7.6%	5.9%	0.8%	4.2%	1.7%	17.8%	62.7%
連合農学研究科博士課程	2.1%	2.1%	2.1%	0.0%	2.1%	2.1%	8.3%	54.2%
B A S E	7.2%	7.2%	3.2%	1.6%	4.8%	0.0%	12.8%	72.0%
連合獣医学研究科博士課程	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	68.2%

69. ハラスメント相談室の認知度

ハラスメント相談室は平成18年度より各キャンパスに毎週1回開室されている。相談室の認知度は、全体で24.7%と前回の25.7%からさらに減少している。工学部学生の手ハラスメント相談室の認知度は特に低い(16.7%、前回18.7%)。6年前は若干認知度が上昇したが、再び減少している。カウンセリングの周知とともに、ハラスメント相談室の周知についても課題が残る。

Q69. ハラスメント相談室の認知度

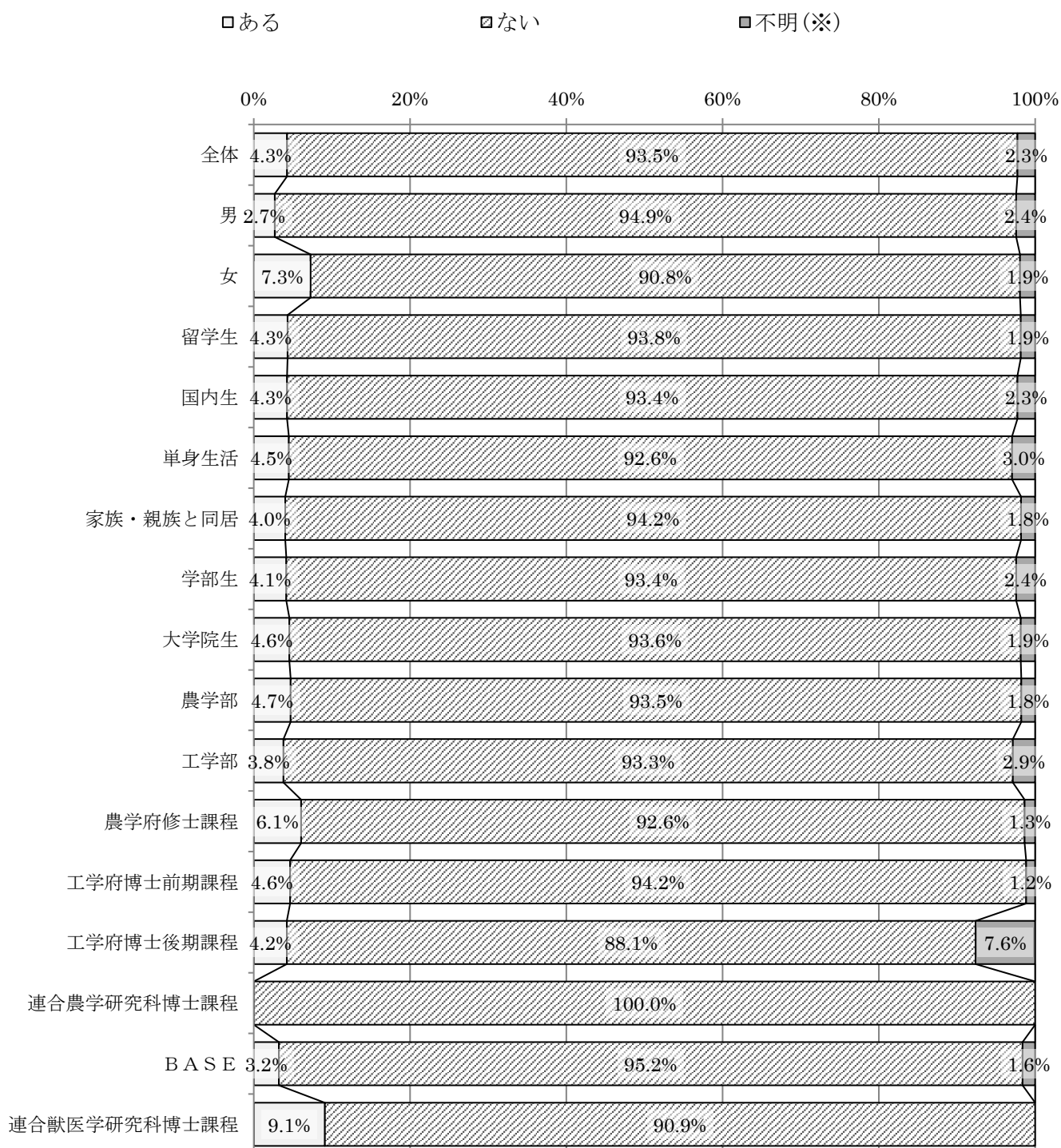


70. セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験について「ある」「ない」の2件法で質問をした。

「ある」と答えた割合は、全体では4.3%で前回の3.8%から増加している。前回同様、女子学生が男子学生よりも高い値となっている。女子の多い農学部・農学府では他と比べて若干高い値となっているが、その他学部や専攻の違いによる差は認められない。「ある」の割合の増加についてはセクハラに関する関心や意識が高くなっていることも関連しているかもしれないが、今後もハラスメント防止の啓発活動を行う必要があるだろう。

Q70-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた経験



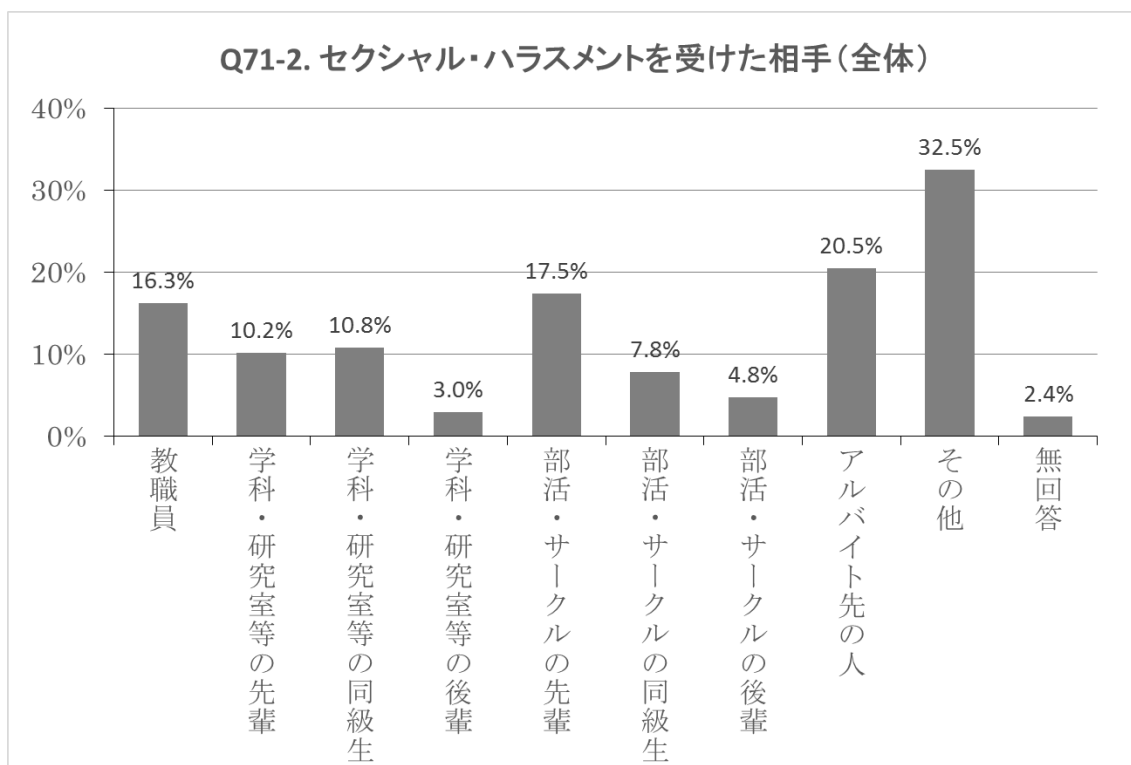
71. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手

セクシュアル・ハラスメントを受けたことが「ある」と回答した 166 件のうち、その「相手」をたずねた（複数回答、無回答 4 件あり）。前回調査より選択肢を細かく設定したところ、「教職員」が 27 件で特に工学部で多くなっている。「学科・研究室」で 40 件、「部活・サークル」内で 50 件となった。単身生活／同居での差はみられなかった。学部生やサークル活動、学外の活動等で件数が増えているが、学生を対象とした教育啓発活動も重要と思われる。

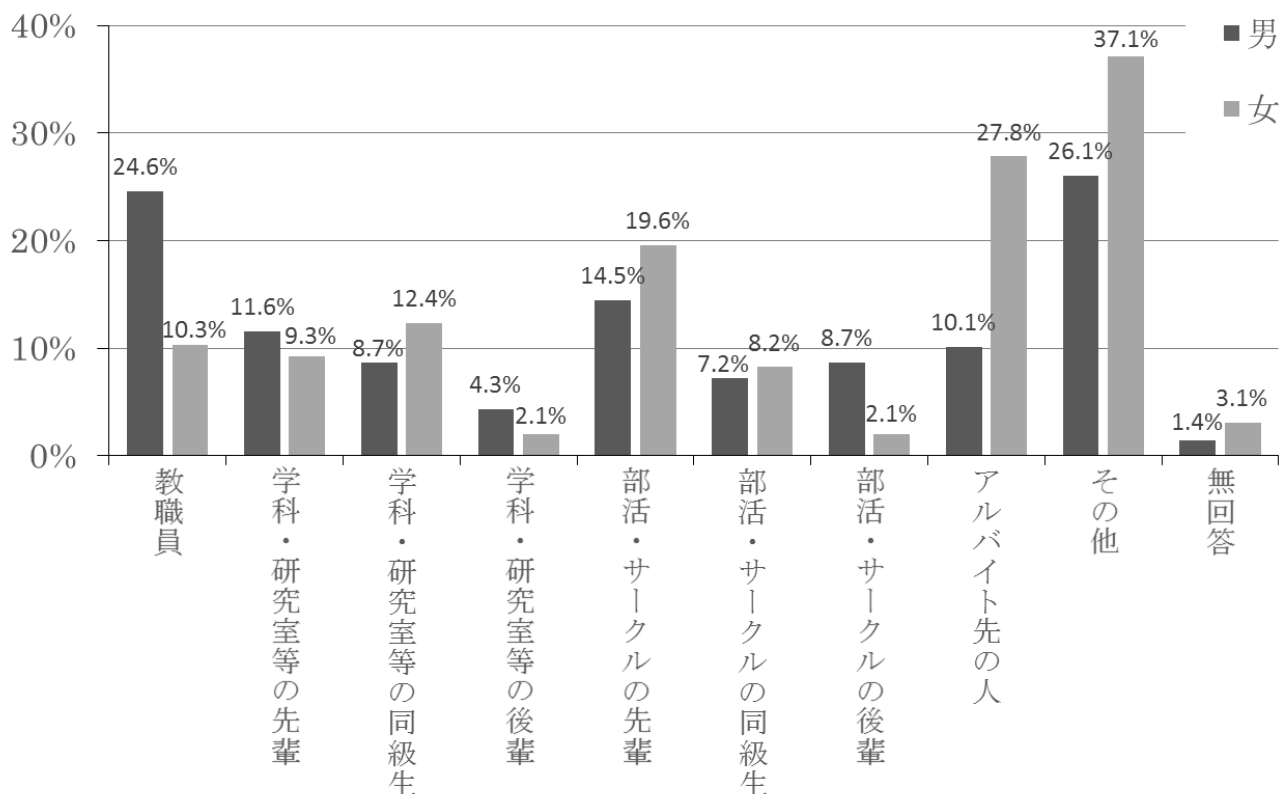
Q71-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手（件数）

	教職員	学科・研究室等の先輩	学科・研究室等の同級生	学科・研究室等の後輩	部活・サークルの先輩	部活・サークルの同級生	部活・サークルの後輩	アルバイト先の人	その他	無回答	回答者数
全体	27	17	18	5	29	13	8	34	54	4	166
男	17	8	6	3	10	5	6	7	18	1	69
女	10	9	12	2	19	8	2	27	36	3	97
単身生活	11	7	7	2	12	5	3	15	22	2	68
家族・親族と同居	16	10	10	2	16	8	5	18	31	2	93
学部生	19	7	14	2	20	12	6	24	35	3	112
大学院生	8	10	4	3	9	1	2	10	19	1	54
農学部	4	1	6	2	7	4	1	12	16	3	48
工学部	15	6	8	0	13	8	5	12	19	0	64
農学府修士課程	2	5	0	1	3	0	2	4	7	0	18
工学府博士前期課程	6	3	2	1	5	1	0	4	7	0	24
工学府専門職学位課程	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
工学府博士後期課程	0	1	0	1	0	0	0	2	2	0	5
連合農学研究科博士課程	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B A S E	0	0	2	0	1	0	0	0	1	1	4

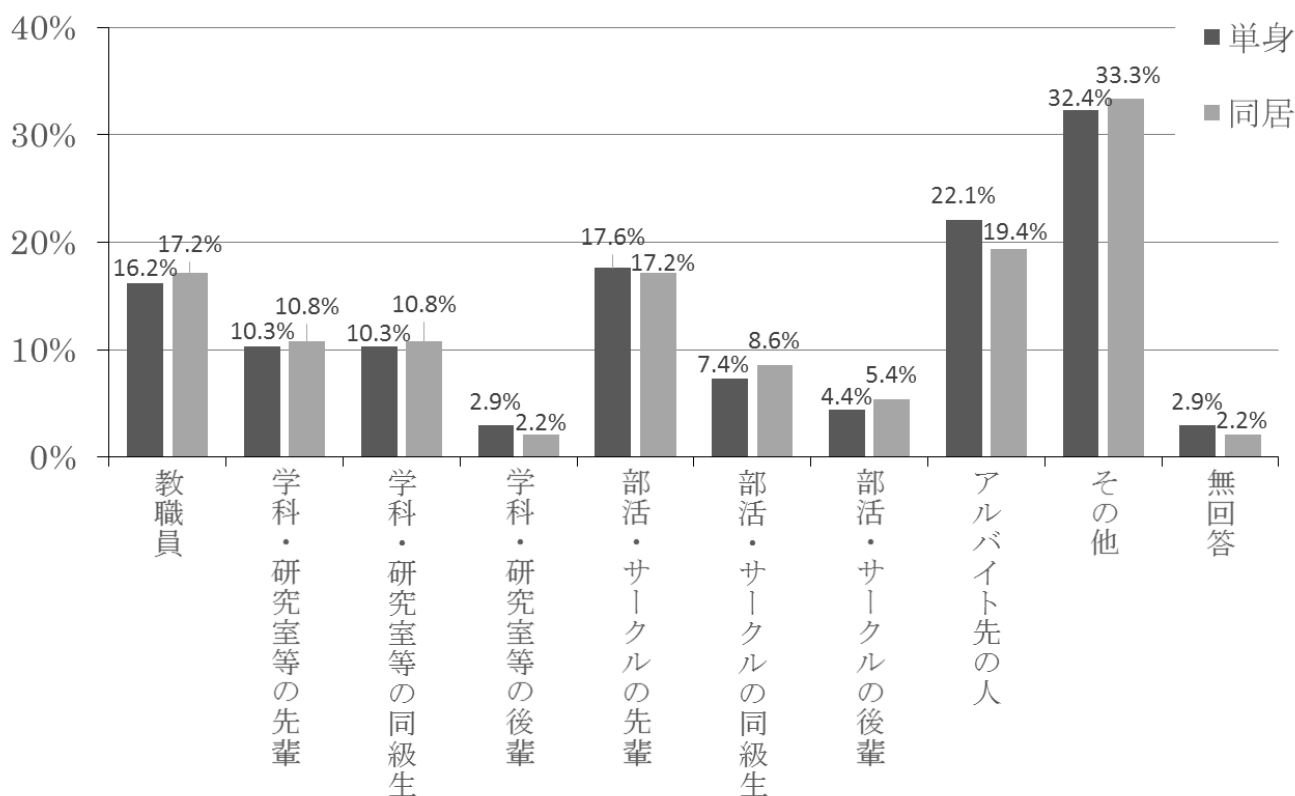
Q71-2. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手（全体）



Q71-3. セクシャル・ハラスメントを受けた相手(男/女)



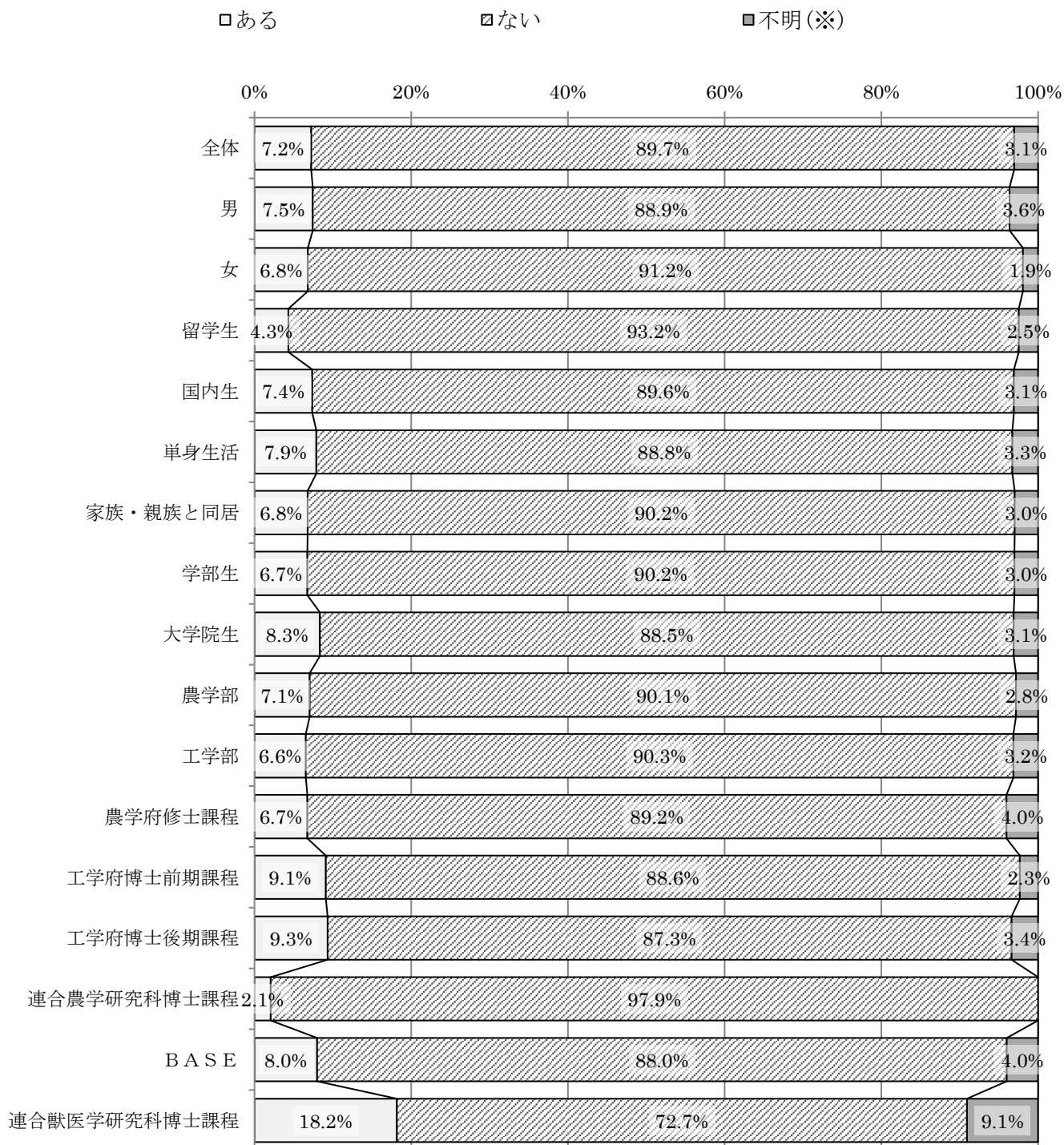
Q71-4. セクシャル・ハラスメントを受けた相手(単身生活/同居)



7.2. セクハラ以外のハラスメントを受けた経験

全体で7.2%の学生がセクハラ以外のハラスメントを受けた経験があると回答しており、前回の5.4%から上昇している。工学部博士課程での割合が若干高いが、前回調査よりも学部生の値が高まっている点(今回6.7%、前回4.0%)にも注意が必要だろう。サークルやアルバイトなどの活動の中でハラスメントが生じている可能性も考えられる。

Q72-1. セクハラ以外のハラスメントを受けた経験



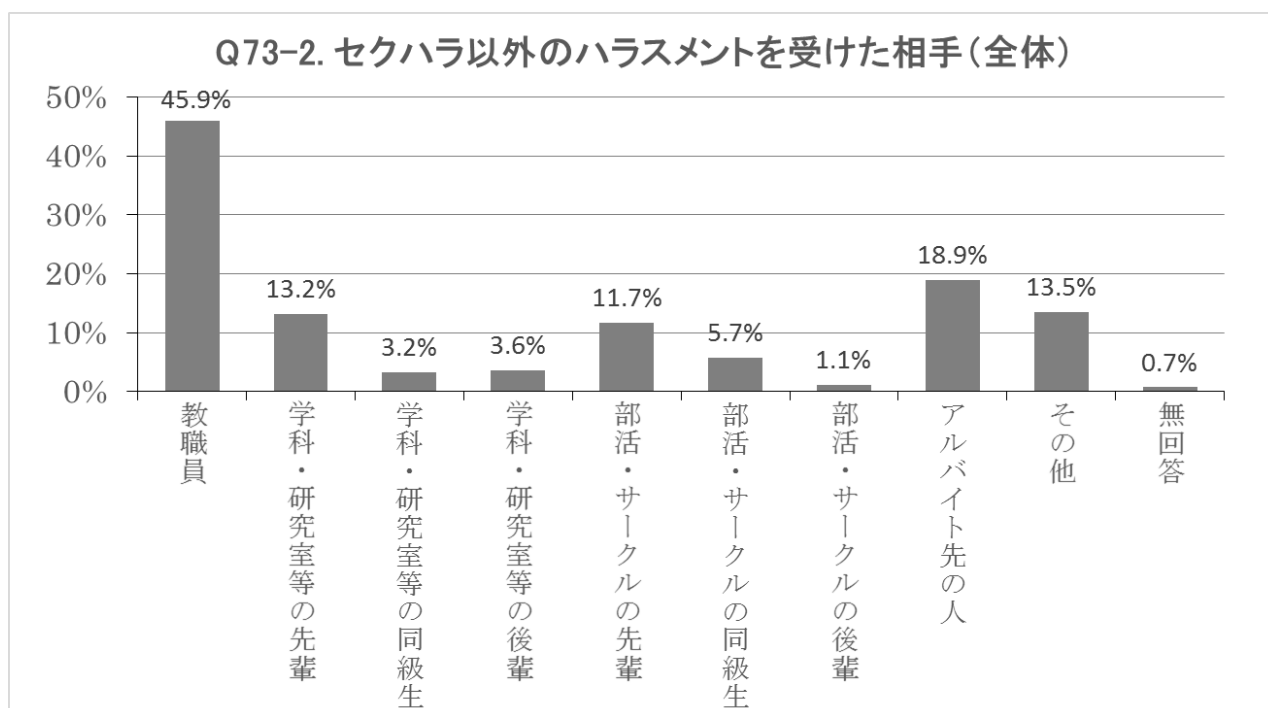
73. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手

セクハラ以外のハラスメントを受けた相手については、「教職員」が129件（45.9%）で前回同様と約半数近くを占めている。「教職員」からのハラスメントは特に工学府前期課程で割合が高いが、工学部でも数が多くなっている点が気になる。学部生は「アルバイト先」でもハラスメントを体験するものが少なくない。单身/同居の比較では、「学科・研究室の先輩」でやや差がみられている。研究室で過ごす時間との関連があるかもしれない。

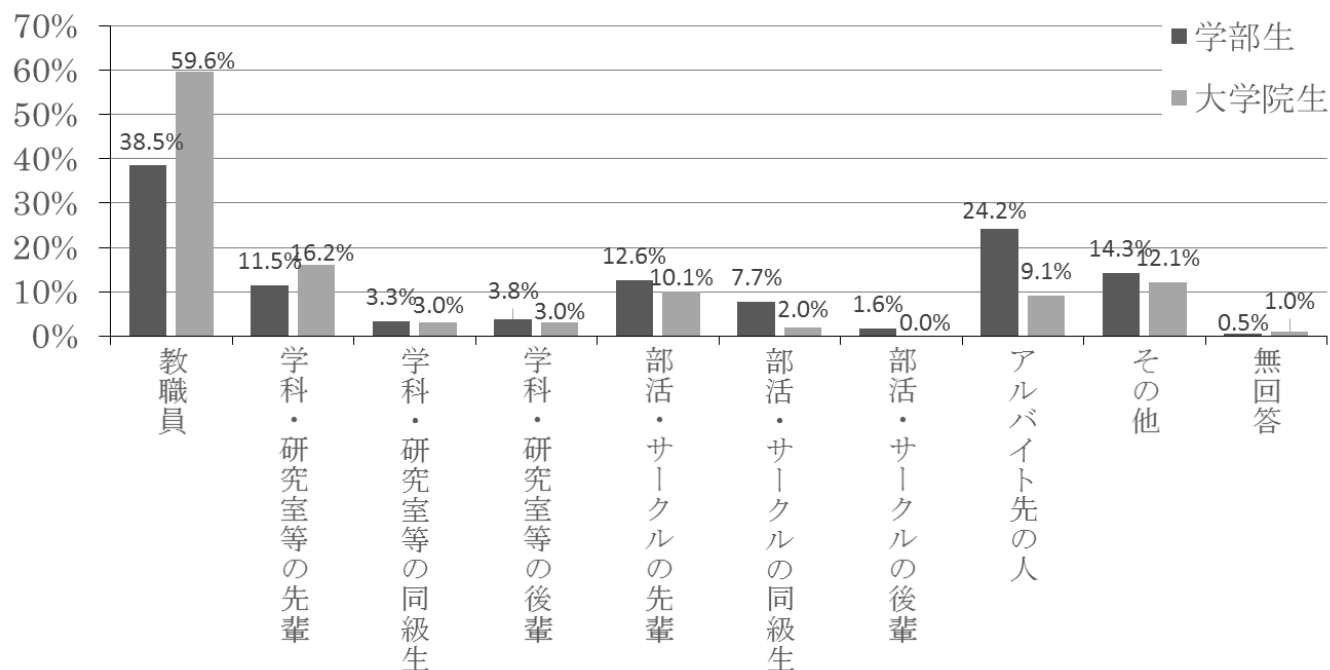
Q73-1. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手（件数）

	教職員	学科・研究室等の先輩	学科・研究室等の同級生	学科・研究室等の後輩	部活・サークルの先輩	部活・サークルの同級生	部活・サークルの後輩	アルバイト先の人	その他	無回答	回答者数
全体	129	37	9	10	33	16	3	53	38	2	281
男	88	26	8	7	27	15	3	32	19	1	190
女	41	11	1	3	6	1	0	21	19	1	91
单身生活	58	20	3	3	16	8	1	21	13	0	120
家族・親族と同居	70	16	6	6	17	8	2	32	24	2	157
学部生	70	21	6	7	23	14	3	44	26	1	182
大学院生	59	16	3	3	10	2	0	9	12	1	99
農学部	21	5	3	5	9	7	0	16	15	1	72
工学部	49	16	3	2	14	7	3	28	11	0	110
工学府修士課程	10	2	0	0	4	0	0	3	2	0	20
工学府博士前期課程	33	9	2	2	4	1	0	3	1	1	47
工学府専門職学位課程	3	1	1	1	0	0	0	1	2	0	5
工学府博士後期課程	4	3	0	0	0	1	0	0	5	0	11
連合農学研究科博士課程	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
B A S E	6	1	0	0	2	0	0	1	0	0	10
連合獣医学研究科博士課程	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4

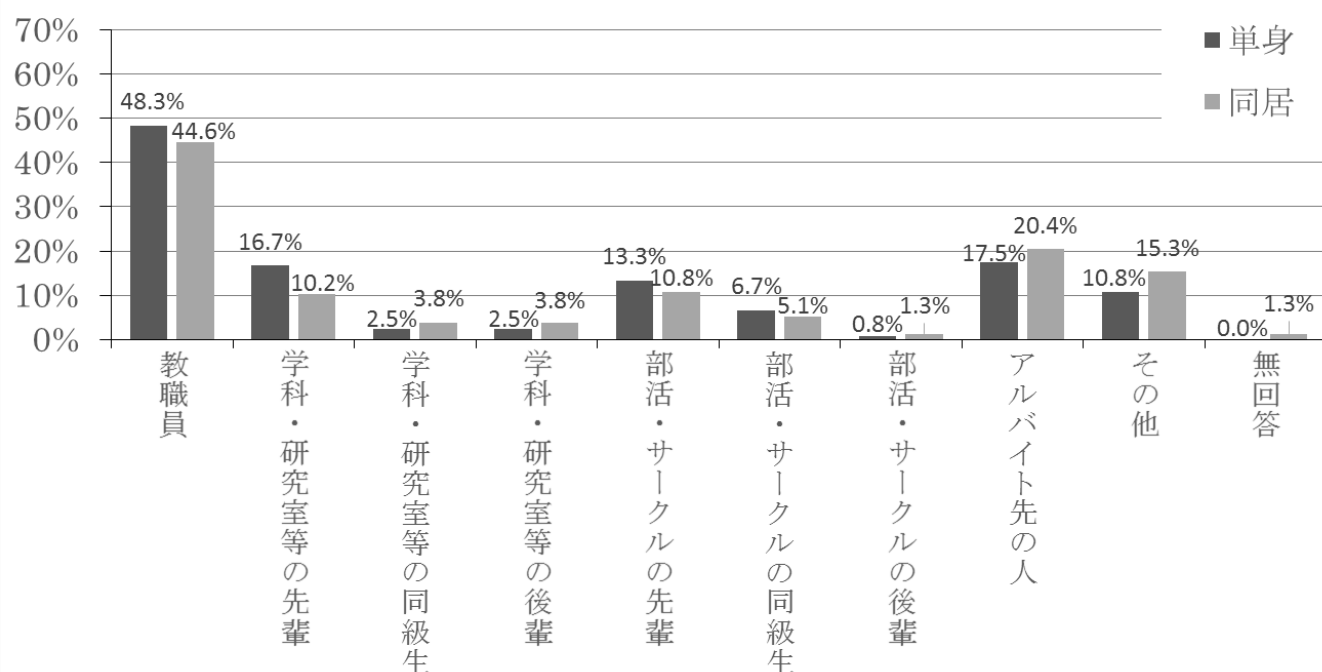
Q73-2. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手（全体）



Q73-3. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手(学部生/大学院生)



Q73-4. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手(単身生活/同居)



74. 喫煙の有無

「吸う」と回答した割合が 5.5%で前回 6.4%、前々回 8.0%と年々減少していることがわかる。喫煙率は男女差がみられ、男子学生は依然として 7.6%（前回 8.6%）が喫煙している。同居学生より単身生活の学生の方が明らかに喫煙率が高い。喫煙しやすい環境が喫煙率を引き上げている可能性がある。

Q74-1. 喫煙の有無



75. キャンパス内マナーの満足度

「満足」が 29.8% (前回 23.5%)、「やや満足」45.0% (45.2%)、「やや不満」16.4% (22.0%)、「不満」7.5% (9.3%) となった。「満足」「やや満足」の合計は 74.8% で比較的高い値であり、前回の 68.6% より増加した。男女差や農・工の学部差は明らかではなかったが、留学生と連合農学研究科博士課程で満足度が高い傾向が認められた。

Q75-1. キャンパス内マナーの満足度 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満	不明(※)
全体	29.8%	45.0%	16.4%	7.5%	1.2%
男	29.3%	43.5%	16.6%	9.3%	1.4%
女	30.9%	47.9%	16.2%	4.0%	0.9%
留学生	54.3%	35.8%	3.7%	4.9%	1.2%
国内生	28.8%	45.4%	17.0%	7.6%	1.2%
単身生活	30.5%	43.0%	15.8%	9.5%	1.3%
家族・親族と同居	29.1%	46.6%	16.9%	6.2%	1.2%
学部生	28.8%	46.4%	16.7%	6.8%	1.3%
大学院生	32.1%	41.7%	15.9%	9.2%	1.0%
農学部	28.6%	46.7%	18.2%	5.6%	0.9%
工学部	28.9%	46.3%	15.7%	7.5%	1.5%
農学府修士課程	32.7%	41.1%	18.9%	7.4%	0.0%
工学府博士前期課程	27.9%	42.6%	16.1%	12.4%	1.2%
工学府博士後期課程	33.9%	35.6%	17.8%	9.3%	3.4%
連合農学研究科博士課程	52.1%	41.7%	2.1%	4.2%	0.0%
B A S E	35.2%	44.0%	14.4%	6.4%	0.0%
連合獣医学研究科博士課程	45.5%	27.3%	18.2%	4.5%	4.5%

76. キャンパス内マナーで不満に思う点

「やや不満」「不満」と回答した不満内容の内訳（重複回答あり）は、「駐輪場不足」305人が最多で、続いて「自転車の止め方」260人、「大学内の汚れ」195人、「タバコの吸い方や喫煙場所」192人、「自転車や傘の盗難」185人、「ゴミの捨て方、処理」182人、「自転車の危険運転」105人、「タバコの吸い殻の処理」67人であった。

Q76-1. キャンパス内マナーで不満に思う点（複数回答可）

	ゴミの 捨て 方、処 理	大学内 の汚れ	自転車 の止め 方	駐輪場 不足	自転車 の危険 運転	タバコ の吸い 方や喫 煙場所	タバコ の吸殻 の処理	自転車 や傘の 盗難	その他
全体	182	195	260	305	105	192	67	185	108
男	131	139	186	213	74	126	53	136	78
女	51	56	74	92	31	66	14	49	30
留学生	1	2	2	2	2	3	1	2	4
国内生	181	193	258	303	103	189	66	183	104
単身生活	62	63	120	158	28	76	30	79	44
家族・親族と同居	116	128	138	141	76	114	37	103	63
学部生	125	131	180	193	68	127	41	108	64
大学院生	57	64	80	112	37	65	26	77	44
農学部	43	37	77	71	32	35	11	51	26
工学部	82	94	103	122	36	92	30	57	38
農学府修士課程	17	12	20	32	11	10	2	25	12
工学府博士前期課程	22	34	34	52	18	38	17	34	24
工学府博士後期課程	3	6	12	13	3	7	3	4	5
連合農学研究科博士課程	0	1	1	0	2	0	0	1	0
B A S E	9	6	11	11	2	8	3	10	1
連合獣医学研究科博士課程	2	2	1	2	1	0	0	1	2

77. 生協食堂の利用状況

78. 140周年記念会館エリプス（小金井）の利用状況

79. 喫茶室オリザ（府中）の利用状況

80. 生協購買部（売店）の利用状況

生協食堂、エリプス、喫茶室オリザ、生協購買部（売店）の利用状況を以下にまとめる。

A. 生協食堂の利用度

生協食堂については、「よく利用する」44.0%（前回44.0%）、「ときどき利用する」36.6%（40.8%）、「全く利用しない」18.4%（15.2%）と、前回調査とほぼ同じ結果となった。女性のほうが男性より利用しているという傾向がみられた。「よく利用する」割合は、学部生が50.2%で、大学院生29.8%より高かった。学部生では農学部と工学部の差は小さかった（「よく利用する」49.4%と50.7%）。

B. エリプスの利用度

平成23年完成のエリプスの利用度は、全体では「よく利用する」16.6%、「ときどき利用する」33.0%、「全く利用しない」48.2%であった。当然のことながら、小金井キャンパスの学生で利用率は高くなっている。工学部学生が一番高く、「良く利用する」28.7%と「ときどき利用する」46.8%の合計75%程度が利用している。しかし生協食堂の利用度よりはやや少ない。

C. 喫茶室オリザの利用度

喫茶室については、「よく利用する」2.5%（前回2.7%）、「ときどき利用する」11.9%（12.1%）、「全く利用しない」83.4%（85.2%）と、全体での利用率は低い。当然、小金井キャンパスの学生よりも府中キャンパスの学生で利用度は高くなっているが、利用すると答えた農学部学生は38.0%、農学府修士課程で15.8%と半数を切っている。

D. 生協購買部（売店）の利用度

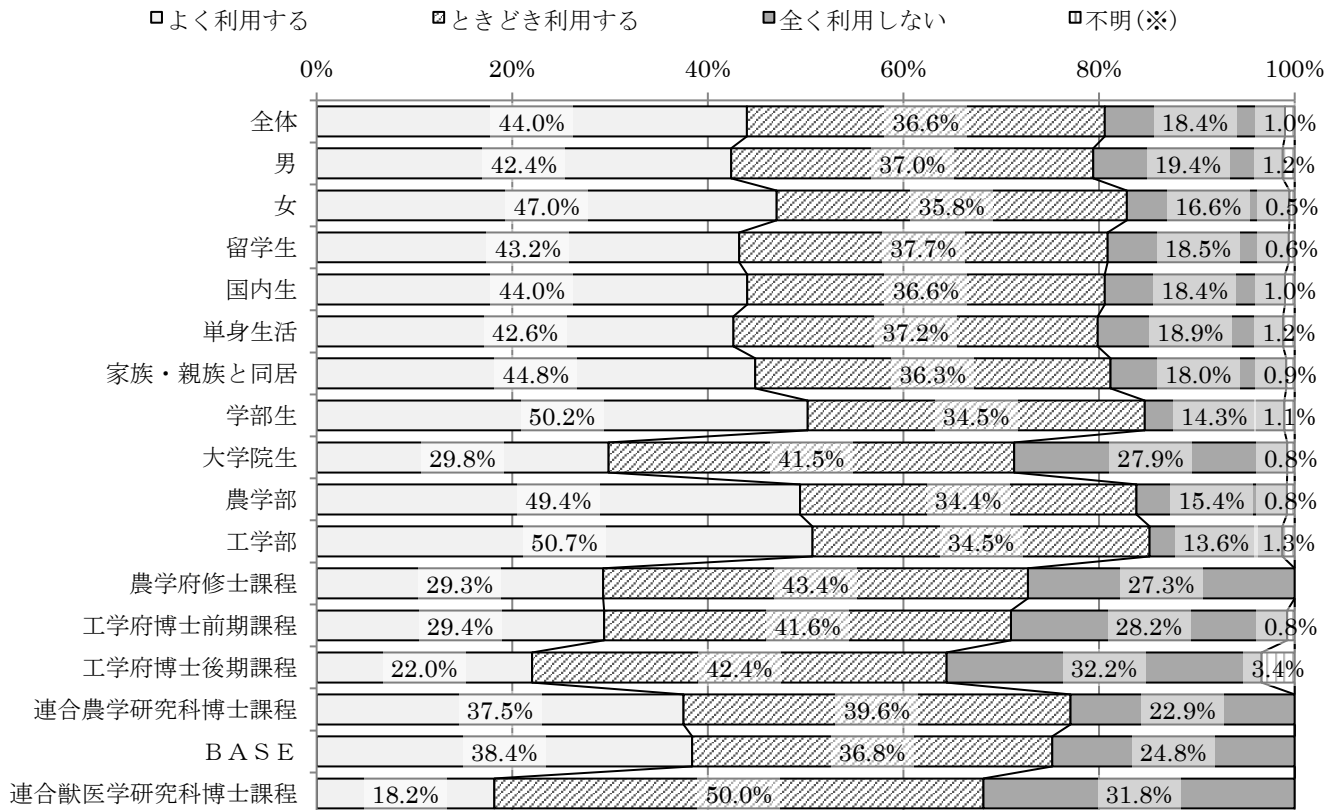
売店の利用度は、「よく利用する」38.8%（前回41.8%）、「ときどき利用する」51.5%（51.9%）、「全く利用しない」8.5%（6.3%）となった。小金井キャンパスより府中キャンパスの方が「よく利用する」割合が高い。

Q77. ～Q80-1. 生協食堂・エリプス・喫茶室、売店の利用状況 (%)

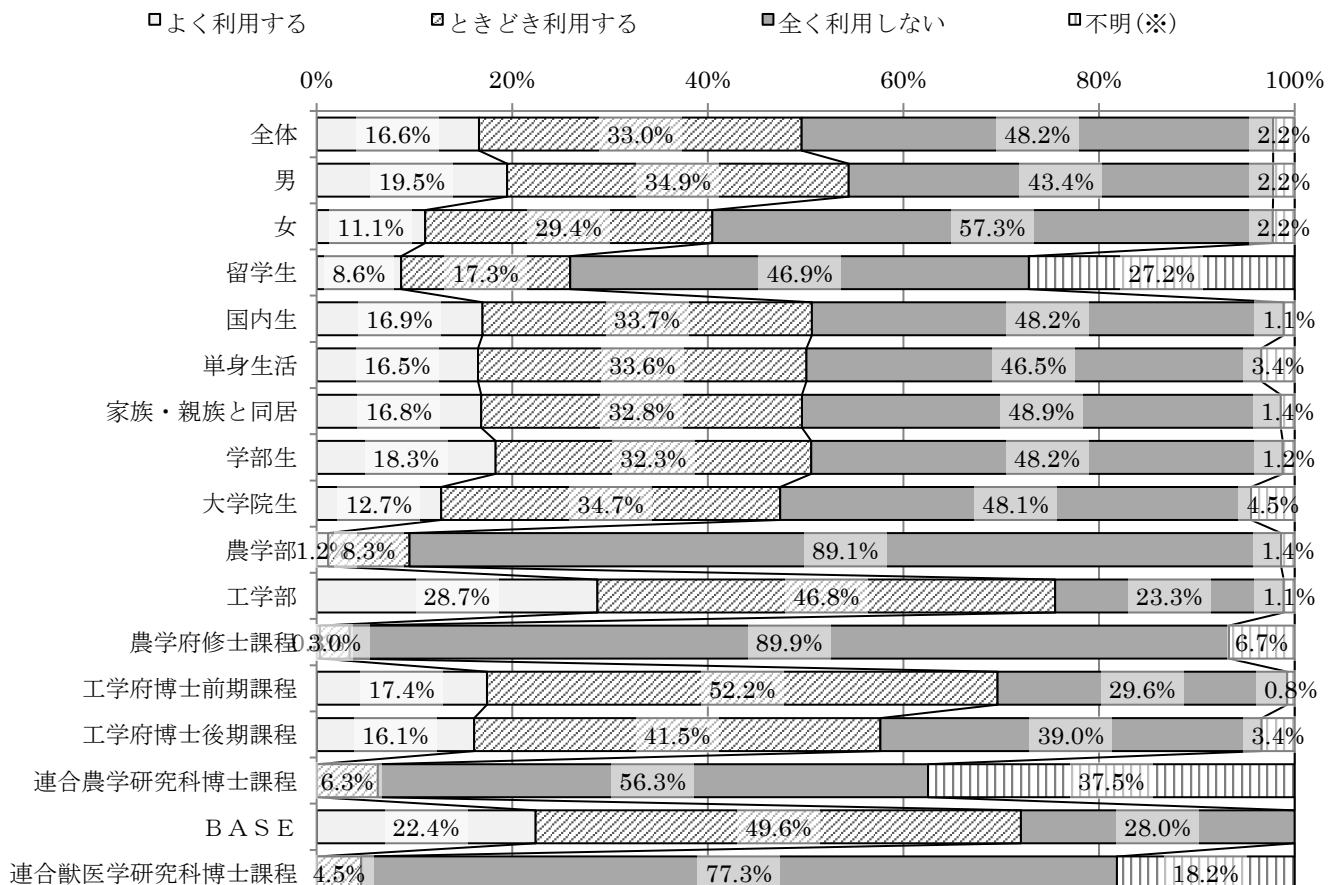
区 分	よく利用する	ときどき利用する	全く利用しない
A. 生協食堂	44.0	36.6	18.4
府 中	44.2	36.8	18.5
小金井	44.2	36.5	18.2
B. エリプス	16.6	33.0	48.2
府 中	0.9	7.1	88.0
小金井	25.4	47.8	25.7
C. 喫茶室	2.5	11.9	83.4
府 中	4.5	28.5	66.5
小金井	1.4	2.6	92.9
D. 売 店	38.8	51.5	8.5
府 中	46.9	46.2	6.1
小金井	34.7	54.3	9.6

（注）府中地区は農学部、農学府、連合農学研究科、連合獣医学研究科の学生の合計である。小金井地区は工学部、工学院、BASEの学生の合計である。

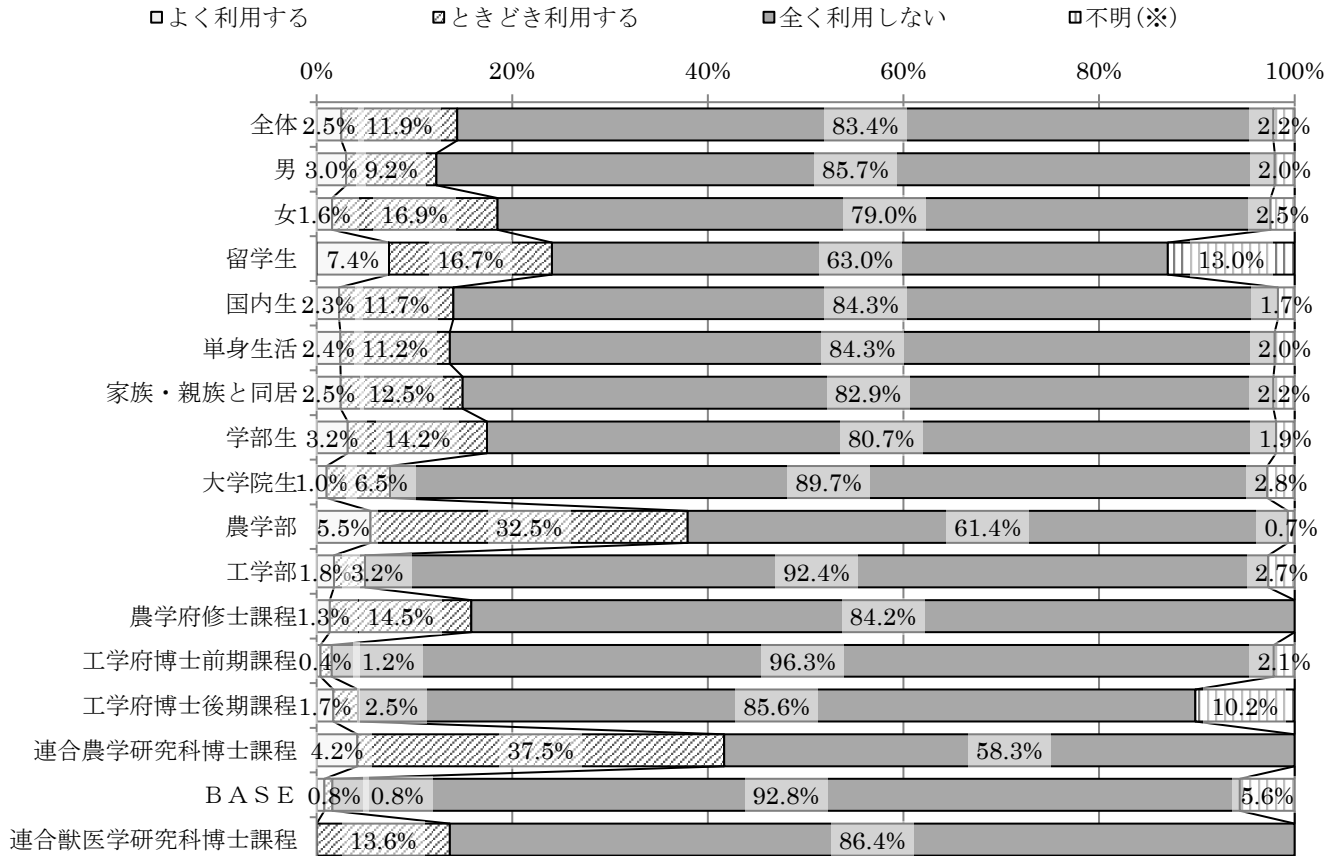
Q77-2. 生協食堂の利用度



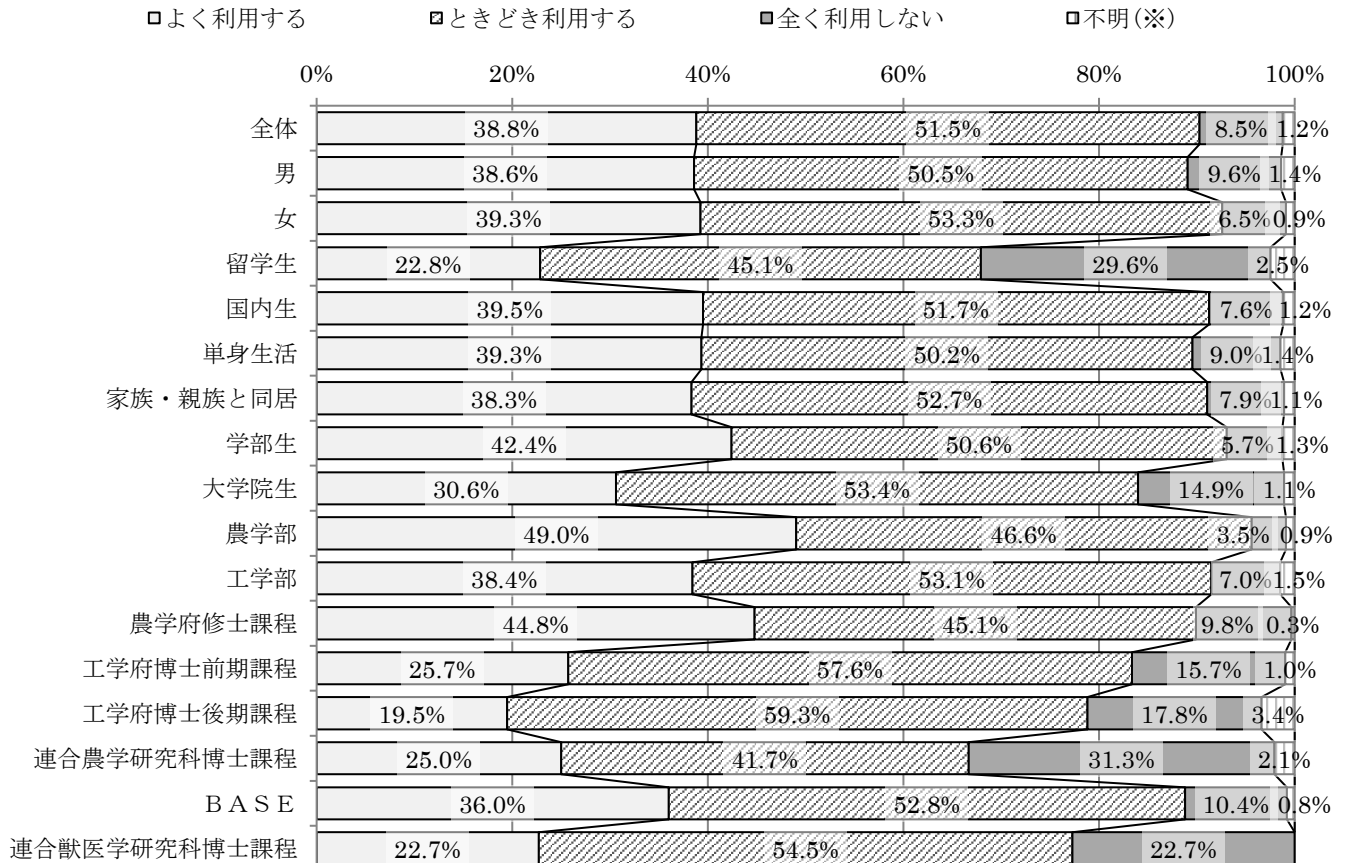
Q78-2. 140周年記念会館エリプス (小金井) の利用度



Q79-2. 喫茶室オリザ（府中）の利用度



Q80-2. 生協購買部（売店）の利用度



8 1. 食堂・エリプス・喫茶室の満足度

8 2. 食堂・エリプス・喫茶室で不満に思う点

8 3. 生協購買部（売店）の満足度

8 4. 生協購買部（売店）で不満に思う点

食堂と喫茶室、売店の満足度を以下にまとめた。

食堂・喫茶室の満足度（Q81）は、「満足」20.5%（前回 19.3%）、「やや満足」38.8%（41.8%）、「やや不満」28.3%（28.2%）、「不満」10.7%（10.7%）であり、前回調査とほぼ同じ結果となった。キャンパス間の差として、小金井の方が府中より満足度が高い傾向がみられた。

「やや不満」「不満」と回答した学生について、不満の理由（重複回答あり）として最も多かったのは「座席数や混雑」で 973 人、次いで「営業時間」787 人、「コストパフォーマンス」770 人、「メニュー内容や数」525 人（39.3%）、「味」398 人（25.5%）、「キャンパス間で施設の差が大きい」317 人（20.4%）であった。一方、「清潔さ」は 68 人、「店員の接客態度」は 62 人であり割合は少なかった。「キャンパス間で施設の差が大きい」317 人の内訳は、府中 290 人、小金井 27 人であった。

売店の満足度（Q83）は、「満足」27.1%（前回 26.8%）、「やや満足」46.1%（50.9%）、「やや不満」20.2%（18.0%）「不満」5.0%（4.2%）であり、前回調査とほぼ同じ結果となった。キャンパス間の差として、小金井の方が府中より満足度がやや高い傾向がみられた。

「やや不満」「不満」と回答した学生の不満内容の内訳（重複回答あり）で、最も多かった項目は「品揃え」で 504 人、次いで「コストパフォーマンス」486 人、「営業時間」486 人、「混雑」147 人、「広さ」125 人であった。「キャンパス間で施設の差が大きい」59 人、「店員の接客態度」36 人、「清潔さ」14 人で、これらの項目の割合は少なかった。

Q 8 1, 8 3 - 1. 食堂・エリプス・喫茶室、売店の満足度 (%)

区 分	満 足	やや満足	やや不満	不 満
1 食堂等	20.5	38.8	28.3	10.7
府 中	13.7	33.5	36.8	14.6
小金井	24.2	41.7	23.4	8.6
2 売 店	27.1	46.1	20.2	5.0
府 中	27.0	43.5	23.9	4.7
小金井	27.0	47.6	18.2	5.2

Q82-1. 食堂・エリプス・喫茶室で不満に思う点（複数回答可）

	コスト パフォーマンス	座席数 や混雑	営業時 間	味	メニ ュ ー 内 容 や 数	清潔さ	店員の 接客態 度	キャン パス間 で施設 の差が 大きい	その他
全体	770	973	643	398	525	68	62	317	46
男	567	606	367	283	344	44	46	154	32
女	203	367	276	115	181	24	16	163	14
留学生	6	13	12	4	18	1	0	4	2
国内生	764	960	631	394	507	67	62	313	44
単身生活	334	377	272	165	209	24	25	114	18
家族・親族と同居	426	586	363	228	307	42	34	198	27
学部生	510	728	429	243	315	41	34	236	27
大学院生	260	245	214	155	210	27	28	81	19
農学部	254	332	252	103	149	24	9	216	7
工学部	256	396	177	140	166	17	25	20	20
農学府修士課程	92	93	106	52	81	8	6	68	5
工学府博士前期課程	99	95	58	67	81	10	15	4	10
工学府博士後期課程	21	15	15	6	17	0	1	0	1
連合農学研究科博士課程	7	7	8	7	8	0	0	4	0
B A S E	28	23	14	16	15	5	4	3	2
連合獣医学研究科博士課程	4	2	4	1	1	2	0	2	0

Q84-1. 売店で不満に思う点（複数回答可）

	コスト パフォーマンス	混雑	営業時間	広さ	品揃え	清潔さ	店員の 接客態度	キャン パス間 で施設 の差が 大きい	その他
全体	486	147	486	125	504	14	36	59	29
男	353	97	272	89	302	10	28	31	20
女	133	50	214	36	202	4	8	28	9
留学生	9	0	10	3	11	0	0	1	5
国内生	477	147	476	122	493	14	36	58	24
単身生活	220	56	201	48	199	6	15	27	10
家族・親族と同居	262	89	279	76	298	8	19	32	17
学部生	354	117	321	87	319	7	16	43	17
大学院生	132	30	165	38	185	7	20	16	12
農学部	108	44	160	45	132	5	5	37	8
工学部	246	73	161	42	187	2	11	6	9
農学府修士課程	32	15	73	19	64	2	5	10	2
工学府博士前期課程	60	8	47	11	65	3	11	2	4
工学府博士後期課程	7	1	9	3	14	0	2	0	1
連合農学研究科博士課程	5	0	6	0	7	0	0	0	1
B A S E	18	4	16	3	25	2	2	2	2
連合獣医学研究科博士課程	3	1	8	1	6	0	0	2	1

85. キャンパスの施設・設備環境改善希望（講義室・実験室を除く）

複数回答で、もっとも選択されたのは「無線 LAN」で、全回答者の 31.5%（前回 40.3%）が改善を希望している。次いで「リフレッシュ空間」26.4%（21.9%）、「トイレ」22.9%（21.5%）、「部活動・サークル用の設備」21.3%（23.5%）、「駐輪場」13.2%（18.5%）であった。「ロッカー」は 16.3%（15.6%）、「自動販売機」16.0%（10.7%）、「コンセント」15.8%（14.8%）、「駐車場」4.0%（3.0%）となった。

Q85-1. キャンパスの施設・設備環境（講義室・実験室を除く）で改善を希望するところ（複数回答可）

	トイレ	駐車場	駐輪場	リフレッシュ空間	無線 LAN	コンセント	自動販売機	ロッカー	サークル用の設備	その他
全体	22.9	4.0	13.2	26.4	31.5	15.8	16.0	16.3	21.3	5.9
男	24.4	5.1	13.6	24.8	32.7	15.0	15.4	13.5	19.8	6.5
女	20.1	1.9	12.3	29.4	29.4	17.2	17.1	21.5	24.1	4.6
留学生	16.0	3.7	19.8	34.0	26.5	9.3	17.3	6.8	19.8	11.7
国内生	23.2	4.0	12.9	26.1	31.7	16.1	15.9	16.7	21.4	5.6
単身生活	21.1	4.2	18.0	25.0	33.7	14.7	16.5	10.2	19.1	6.6
家族・親族と同居	24.2	3.9	9.9	27.2	30.1	16.6	15.6	20.4	22.9	5.3
学部生	22.2	4.0	11.8	27.2	25.0	16.2	16.1	19.2	25.2	4.9
大学院生	24.5	4.0	16.2	24.6	46.4	14.9	15.8	9.6	12.3	8.1
農学部	21.3	4.1	11.4	33.6	21.1	11.6	19.1	12.5	28.2	5.2
工学部	22.8	4.0	12.1	23.2	27.4	18.9	14.2	23.2	23.4	4.7
農学府修士課程	21.2	2.4	17.8	27.9	43.1	9.1	16.5	5.4	12.5	8.8
工学府博士前期課程	26.7	5.2	15.7	24.6	48.9	18.6	16.6	13.2	13.3	6.4
工学府博士後期課程	24.6	1.7	16.9	17.8	40.7	16.9	11.9	6.8	11.0	7.6
連合農学研究科博士課程	18.8	4.2	14.6	29.2	39.6	4.2	20.8	0.0	18.8	16.7
B A S E	28.8	2.4	13.6	24.0	53.6	12.8	15.2	8.8	8.8	8.8
連合獣医学研究科博士課程	18.2	9.1	27.3	22.7	45.5	13.6	13.6	13.6	9.1	13.6

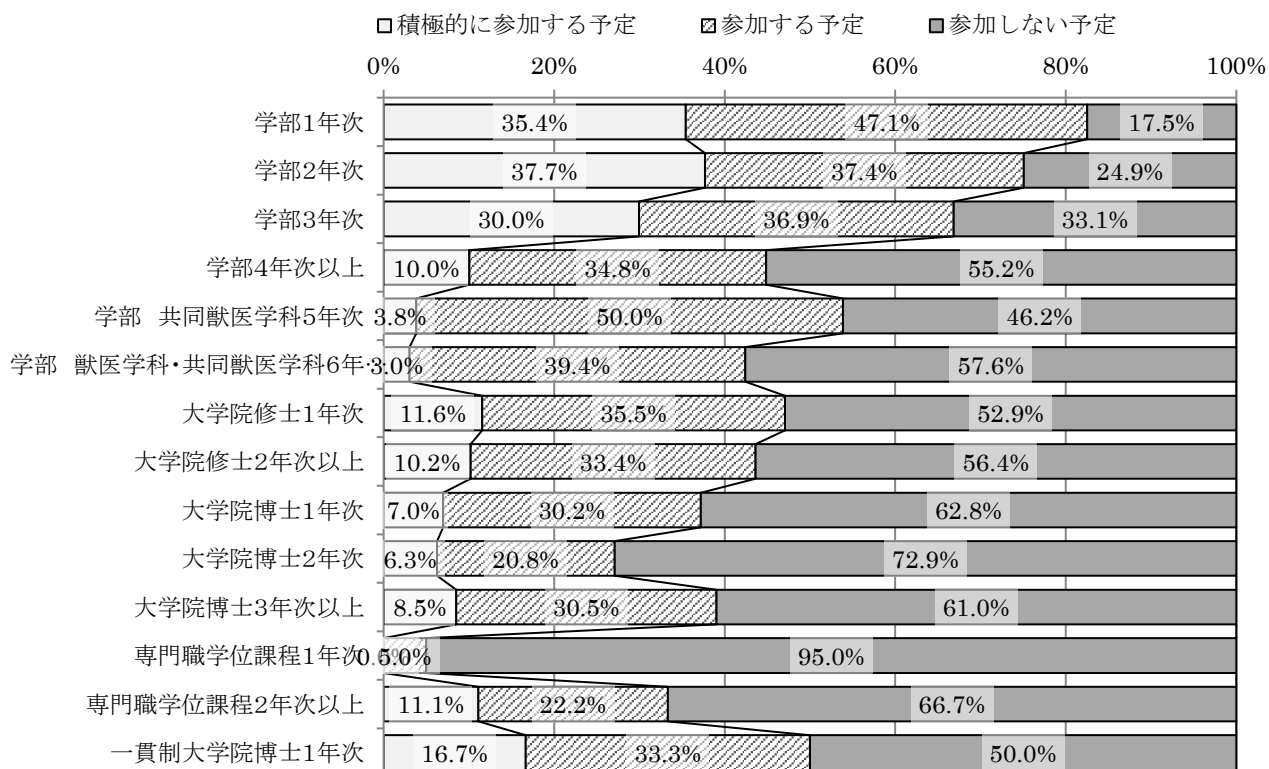
86. 本年11月に行われる大学祭への参加

府中キャンパス（H30.11.9～11）で開催される大学祭について、無回答を除いた集計では、全体で「積極的に参加する予定」22.0%（前回 30.3%、ただし前回調査時は府中と小金井においてそれぞれ別日程で開催）、「参加する予定」37.1%（36.7%）、「参加しない予定」40.9%（33.0%）であり、前回より参加者の割合が減少していた。「積極的に参加する予定」と「参加する予定」の合計は、農学部 83.8%、工学部 55.5%、農学府 71.5%、工学府 28.6%であり、農学部と農学府で高率であった。

Q86-1. 大学祭への参加の予定

	積極的に参加する予定	参加する予定	参加しない予定	合計
全体	838	1,417	1,561	3,885
男	484	886	1,133	2,550
女	354	531	428	1,335
学部生	717	1,036	895	2,699
大学院生	121	381	666	1,186
農学部	379	462	163	1,020
工学部	338	574	732	1,679
農学府	66	167	93	327
工学府	38	154	479	686
連合農学研究科博士課程	6	26	16	48
B A S E	11	34	78	125
連合獣医学研究科博士課程	3	6	13	22

Q86-2. 大学祭への参加(学年別)



87. 大学祭で改善を望むこと

改善を望む項目としては、「前後の休講措置」が602人と最多で、続いて、「プログラム内容」が376人、「出店数を増やしてほしい」364人、「会場設備」317人となっていた。

Q87-1. 大学祭で改善を望むこと

	開催時期を早くしてほしい	開催時期を遅くしてほしい	プログラム内容	出店数を増やしてほしい	出店数を減らしてほしい	会場設備	前後の休講措置	その他	回答者数
全体	131	73	376	364	33	317	602	1387	3,885
男	102	56	262	240	22	202	432	831	2,550
女	29	17	114	124	11	115	170	556	1,335
学部生	97	63	243	198	21	228	387	1076	2,699
大学院生	33	10	133	164	11	89	215	310	1,186
農学部	27	17	80	60	10	89	142	424	1,020
工学部	69	44	165	146	14	141	247	647	1,679
農学府	9	4	27	35	4	30	53	69	327
工学府	19	7	79	84	4	40	120	209	686
連合農学研究科博士課程	3	0	6	16	1	3	10	1	48
B A S E	4	1	17	11	0	13	24	33	125
連合獣医学研究科博士課程	0	0	2	12	0	1	6	4	22

88. 生活情報の入手先（外国人留学生）

369人の外国人留学生から、複数回答で回答を得た。「他の留学生」からの情報が最も多く78人（回答対象人数の21.1%）、次いで「担任教員や指導教員」60人（16.3%）、「チューター以外の日本人学生」49人（13.3%）、「留学生の手引き」42人（11.4%）、「国際センター（現在のグローバル教育院）の教職員」27人（7.3%）、「チューター」27人（7.3%）となっている。

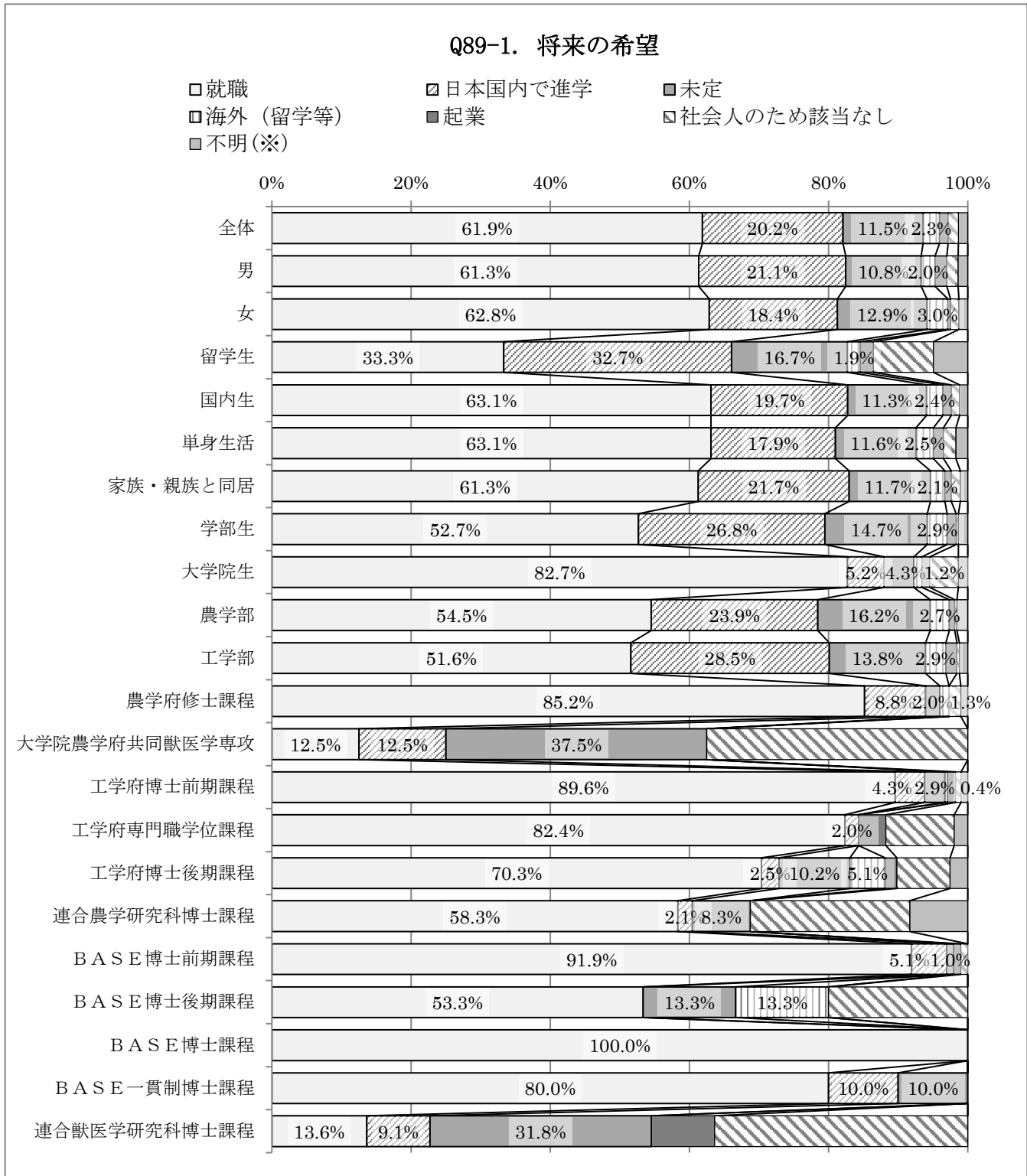
Q88-1. 生活情報の入手先（外国人留学生）

	合計	留学生の手引き	国際センターの教職員	担任教員や指導教員	他の留学生	チューター	チューター以外の日本人学生	インターネット	情報が得られない
全体	369	42	27	60	78	27	49	11	75
(%)	100.0	11.4	7.3	16.3	21.1	7.3	13.3	3.0	20.3
男	209	29	14	33	38	12	28	6	49
(%)	100.0	13.9	6.7	15.8	18.2	5.7	13.4	2.9	23.4
女	160	13	13	27	40	15	21	5	26
(%)	100.0	8.1	8.1	16.9	25.0	9.4	13.1	3.1	16.3
学部生	216	26	13	31	49	15	29	7	46
(%)	100.0	12.0	6.0	14.4	22.7	6.9	13.4	3.2	21.3
大学院生	142	14	13	27	27	11	19	4	27
(%)	100.0	9.9	9.2	19.0	19.0	7.7	13.4	2.8	19.0
農学部	35	3	2	3	8	4	7	2	6
(%)	100.0	8.6	5.7	8.6	22.9	11.4	20.0	5.7	17.1
工学部	78	14	3	6	19	5	9	3	19
(%)	100.0	17.9	3.8	7.7	24.4	6.4	11.5	3.8	24.4
農学府	69	7	5	15	15	5	9	1	12
(%)	100.0	10.1	7.2	21.7	21.7	7.2	13.0	1.4	17.4
工学府	63	7	5	12	10	5	6	2	16
(%)	100.0	11.1	7.9	19.0	15.9	7.9	9.5	3.2	25.4
連合農学研究科	70	8	9	12	13	6	11	1	10
(%)	100.0	11.4	12.9	17.1	18.6	8.6	15.7	1.4	14.3
BASE	41	3	3	8	11	2	5	0	9
(%)	100.0	7.3	7.3	19.5	26.8	4.9	12.2	0.0	22.0
連合獣医学研究科	13	0	0	4	2	0	2	2	3
(%)	100.0	0.0	0.0	30.8	15.4	0.0	15.4	15.4	23.1

第 I X 章 進路（就職・進学）

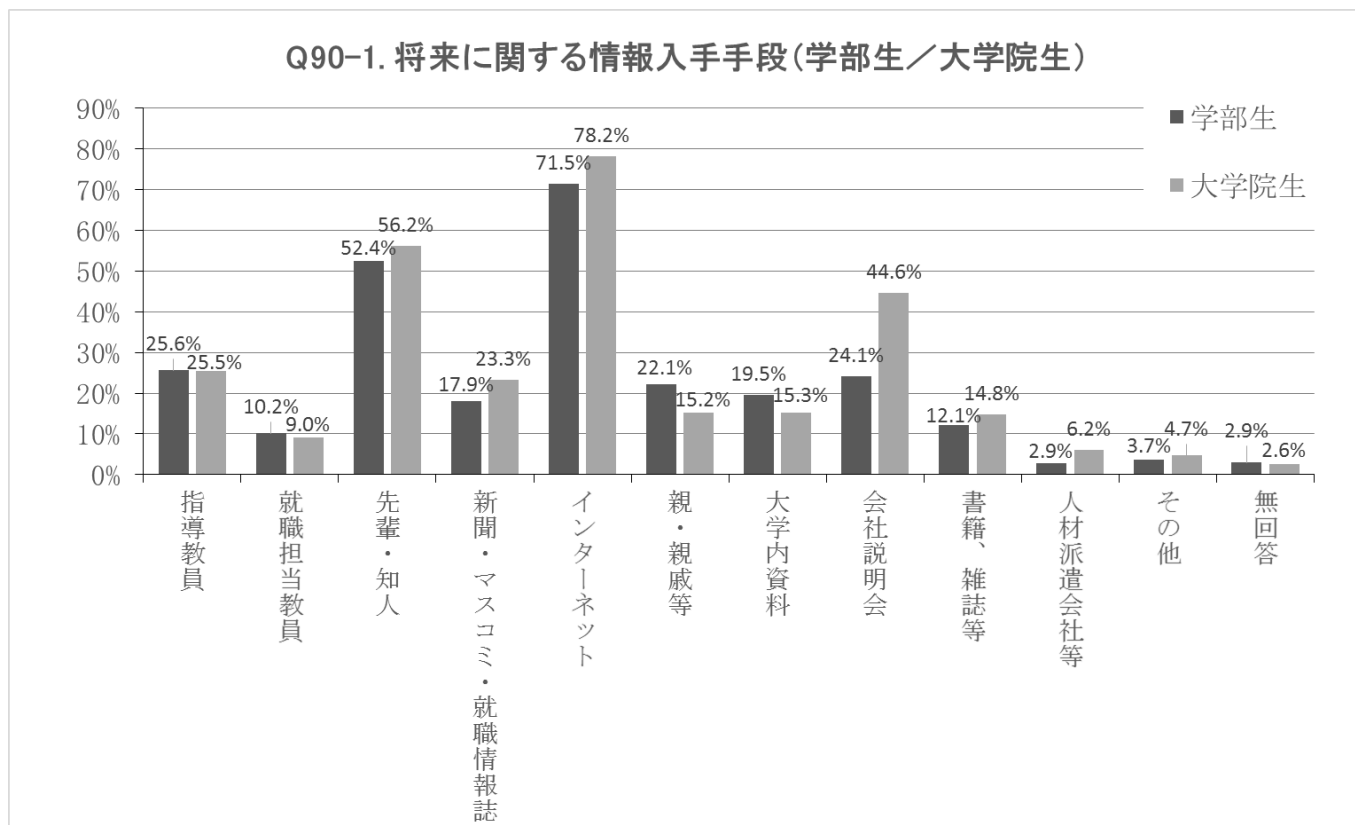
89. 将来の希望進路

学部から修士課程への進学希望者の割合は、第7回から第8回の調査では半減していたものの、今回の調査では前回からほぼ横ばい状態で、工学部では29%、農学部では24%であった。学部生の就職希望者の割合は、農学部では前回の約60%から55%、工学部の前回55%から52%と微減した。農学府修士課程学生の博士（後期）課程への進学希望者は、6%の前回から今回は9%となり、工学府博士前期（修士）から後期（博士）への進学希望は、約3%から4%と、それぞれ微増した。



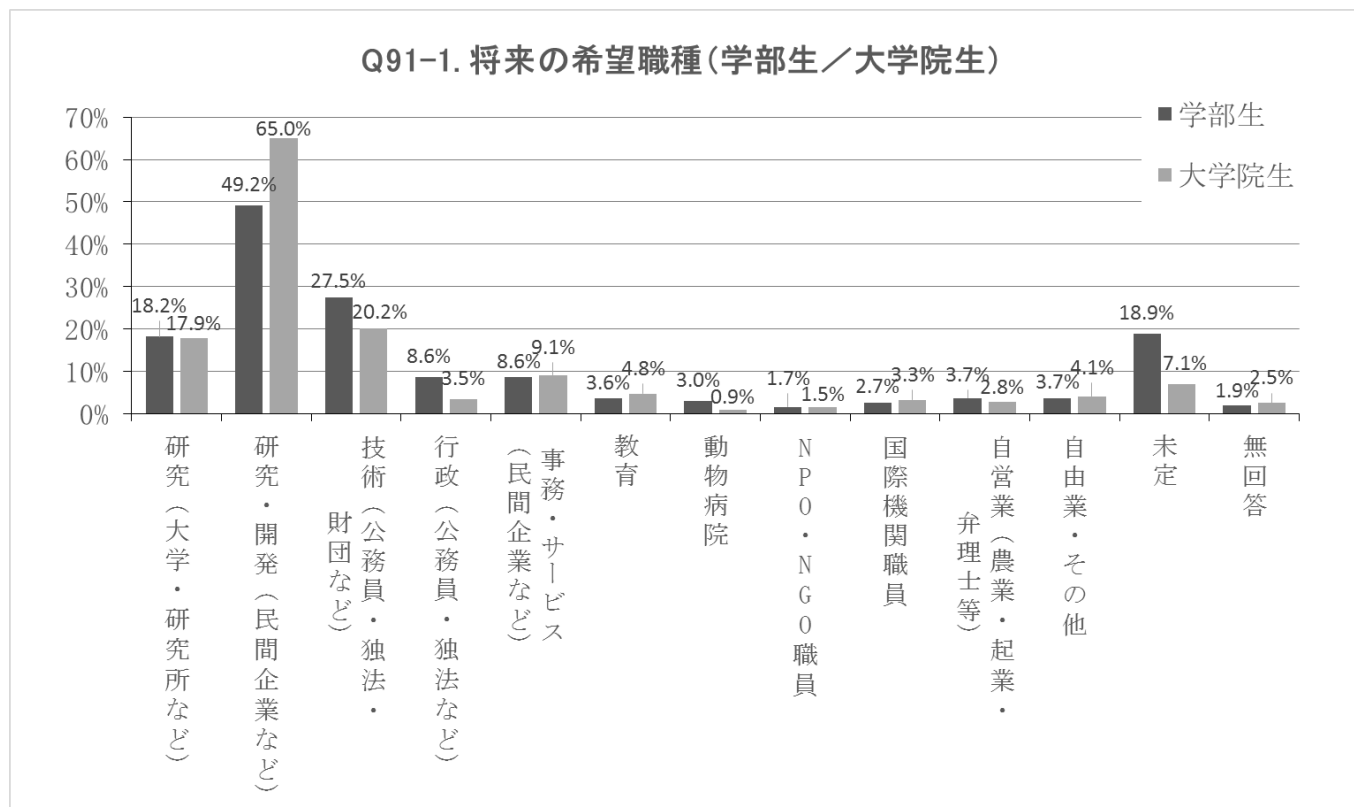
90. 進路に関する情報入手手段

学部、大学院、いずれも過半数の学生が情報をインターネットならびに先輩・知人から入手している。会社説明会による情報入手は、学部生では前回の22%から24%と微増し、大学院生は、52%から45%に減少した。指導教員からの情報入手は、前は学部生と大学院生ともに30%であったが、今回の調査では26%程度となった。就職担当教員からの情報入手は、前は学部生と大学院生ともに30%であったが、今回の調査では26%程度となった。就職担当教員からの情報収集も前回から微減している。情報入手手法が、インターネットに集中する傾向が見られる。



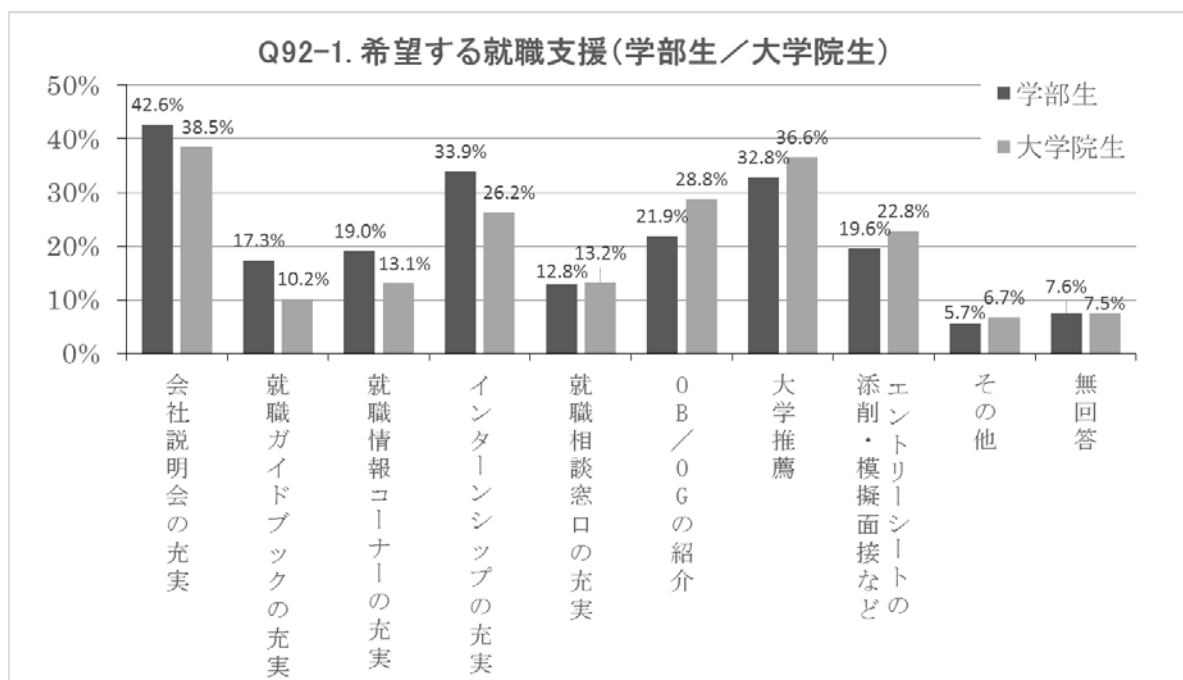
9 1. 将来の希望職種

全体的な傾向は、前回から大きな変化は見られない。各学部、学府とも、前回の調査と同様に研究・開発（民間企業など）および技術（公務員など）が最も多い。一方、学部生と大学院生の研究（大学・研究所）の希望は、それぞれ前回 21%から今回 18%、前回 19%から今回 18%と微減した。



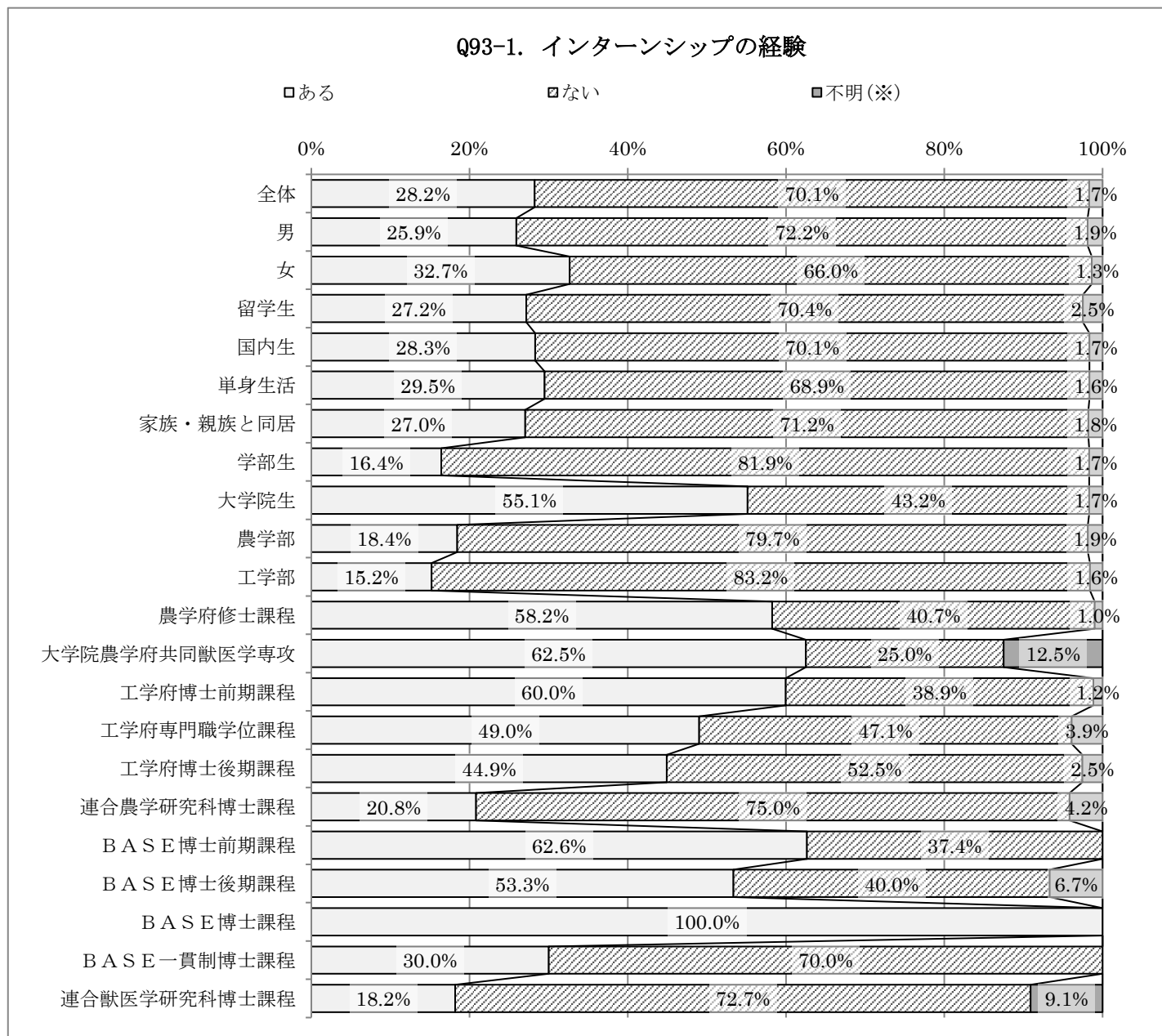
9 2. 希望する就職支援

前回同様、会社説明会の充実や大学推薦の希望が多い。インターンシップの充実については、大学院生では前回と同傾向だが、学部生では前回 31%から今回 34%と微増した。また、今回新たに加わった「エントリーシートの添削や模擬面接」については、学部生と大学院生ともに 20%程度の希望があることがわかった。全体として多様な取り組みが求められており、効果的な方策を考える必要がある。



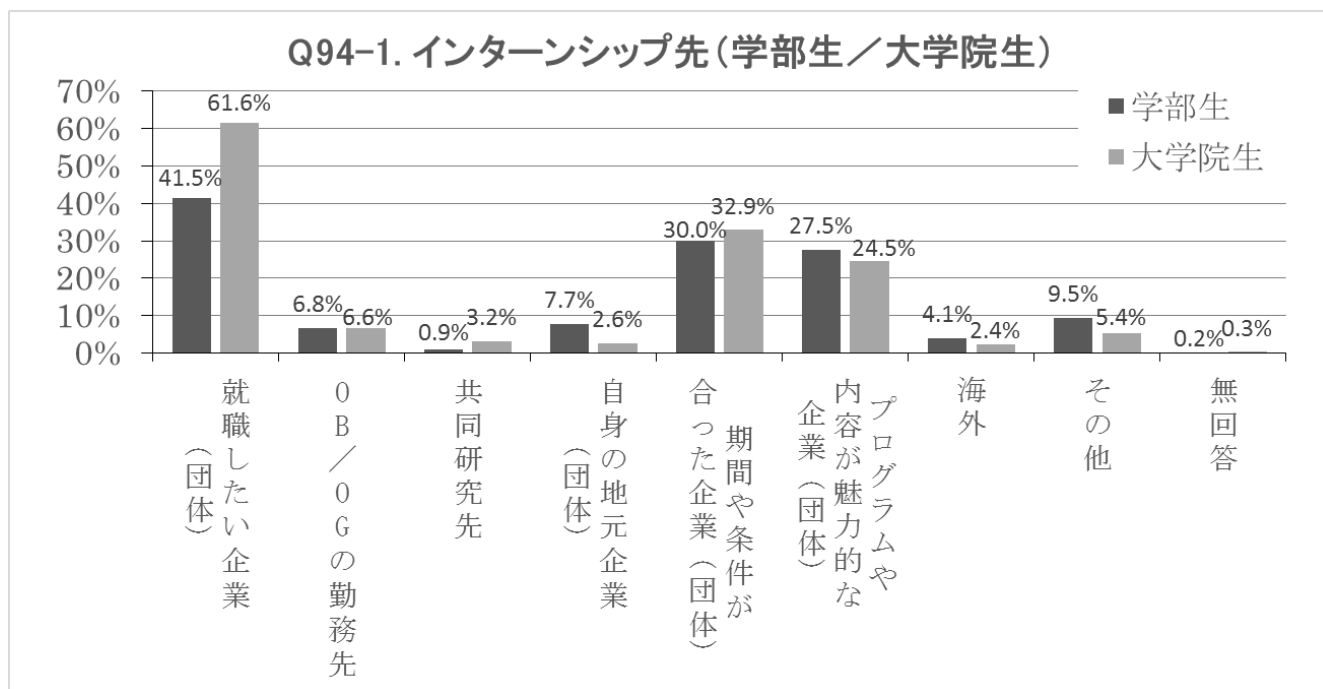
93. インターンシップの経験

インターンシップの経験者は、全体では前々回 10%、前回 18%、今回 28%と増加傾向にある。学部生は前回 11%から 16%、大学院生は 35%から 55%に増加し、大学院生の半数がインターンを経験している。農学府では前回の 45%から今回 58%、工学府博士前期では 37%から 60%に増加した。インターンシップは多様化するとともに大学院などに拡大しており、内容に合わせた経験の把握などを行うことで、教育研究やキャリア支援との連携を検討する必要があると思われる。



94. インターンシップ先

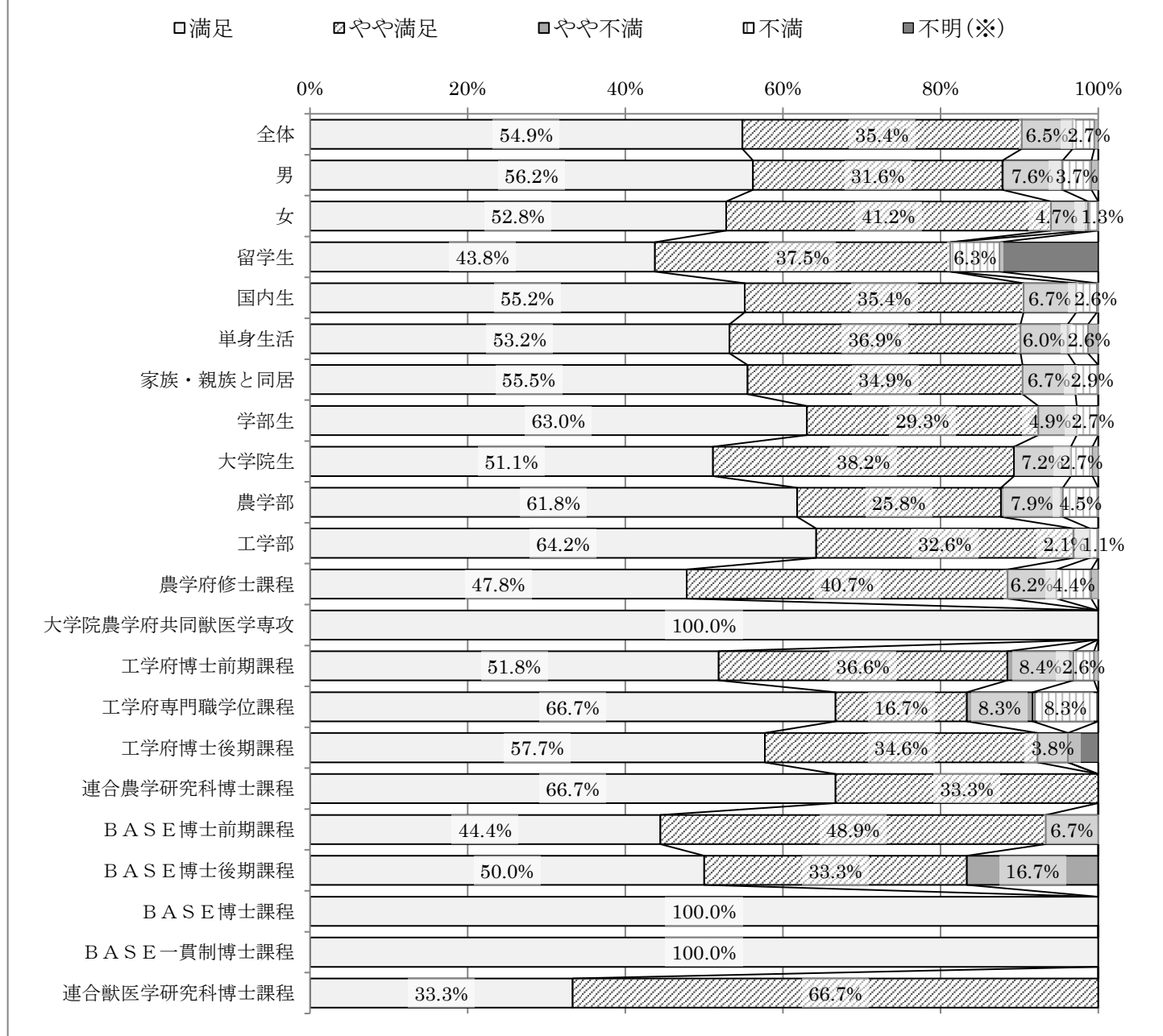
学部生と院生ともに、就職したい企業でのインターンシップの実施が、それぞれ前回 34%から今回 42%、前回 50%から 62%に増加していた。インターンシップを就職活動の一環としてとらえる傾向がより強くなっている。また、学部生は各学部とも、「就職したい企業」、「プログラムが魅力的な企業」あるいは「条件が合った企業」へ行っている。



95. インターンシップ満足度

前回の調査結果と同様に、「満足」と「やや満足」の割合が9割以上となり、インターンシップ経験者の満足度は高い。一方、内訳では、「満足」は前回61%から今回55%、「やや満足」は前回31%から今回35%となり、インターンシップへの期待が変化している傾向も見受けられる。学部生、大学院生別では、学部生に大きな変化は見られないが、大学院生の「満足」の回答は前回59%から51%に減少した。高度な研究や技術を習得する大学院生レベルでのインターンシップへの期待が高くなっているためと思われる。さらに、留学生については、「満足」との回答が前回の56%から44%に減少しており、留学生向けインターンシップの取り組みへの検討が必要であると考えられる。

Q95-1. インターンシップの満足度



第X章 要望・意見等

学生生活全般についての大学に対する要望・意見等の自由記述

回答用紙（マークシート）裏面の「自由記述」の記述内容を分類・整理し、キャンパスごとの件数とともに代表的な個別の要望・意見等を示した。なお、特に大学院生から多く得られた回答については括弧内に件数を示した。

区分			
質問事項	回答数(括弧内はうち大学院学生)		要望・意見
	府中	小金井	※末尾()内の数字は同内容の件数 ※内容に応じて適当な区分に集約したため、回答数と一致しません
Ⅱ 経済的状況			
経済的支援に対する要望と意見		1(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・博士学生に対する経済的支援を増やしてほしい。 ・奨学金をもう少し充実させてほしい。相談窓口がほしい。
Ⅲ 住居			
学生寮の運営、設備に対する要望と意見	3(1)	1(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・虫の駆除をお願いします。コインランドリーの料金が高い(2) ・何としてでも自治寮はなるべく今のまま維持していただきたいです。自治寮の形態は学生にとって非常に重要な経験になると感じています。 ・寮生と管理人とのコミュニケーションをはかる場を設ける必要があると思います。意見を交換し、より良い寮生活を築き上げていきたい。 ・寮費が一般アパートと変わらない水準で高い。 ・寮周りの土の部分のアスファルトで埋めてほしい。
Ⅴ 学業、学習環境			
カリキュラムに対する要望と意見	3	4(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・祝日は休ませて欲しい(2) ・人文科目が学年制限や時間帯が集中していることで取得しにくい。 ・3年までにプログラムを2つ完成できる時間割にした方が良いと思います。 ・M科で4カが学びにくい。2つのコースどちらでも学べるようにして欲しい。 ・大学院の授業数が少ない。 ・再履修をよりし易くしてほしい ・哲学や倫理学など「理系」以外のリテラシーがこの農工大学内でも充実化され、重視されることを望みます。 ・経済やビジネスのことも知ることができる講義を。 ・一限を9時からにしてほしい。 ・講義にもっと幅をもたせて欲しい ・他学科の講義を自由に受講できるようにしてほしい ・電気電子工学科にインターンシップによる単位制度を自由単位として設けてほしい ・1年前期に英語の授業が1コマしかないのは良くない ・理論に関してより詳細に指導してほしい ・岩手大学への集中講義への支援がほしい。(交通費や宿泊費) ・出席は成績に無関係にして、テストの点だけで評価してほしい ・授業アンケートの結果が授業に反映されていない
教養科目(共通科目)に対する要望と	4(2)	5(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・教養科目(特に科学系)は、予習課題(添削不要)を出し、前程となる基礎知

意見			<p>識を勉強させた上で、実用例や応用的な内容を取り扱ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文社会科目は全体オリエンテーションが欲しいです。 ・学部1年前期のTAT生物学の内容が、生物選択者以外の入学者にとって、少し無理がある。生物学はいわば農学部の特科・基礎科目なので、初学者でも無理なく興味をもてるような授業内容にしてほしい。 ・英語の授業が少ない。 ・英語科目で教員によって授業内容や試験の難易度が違ったり、教科書の購入の有無が違ったりする ・第二外国語の代わりに英語を学ぶという選択ができるようにしてほしい。 ・教職の時間を6限以外にしてほしい。 ・必修科目でない科目の履修を強制する教員がいる
授業時間外の学習を行うのに必要な施設・設備や対策に対する要望と意見 ※図書館に関する要望は後段に集約	3(1)	10(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・自習できるスペースを増やしてほしい(2) ・温度管理のできる空調を用意してほしい ・深夜まで利用可能なディスカッションスペースが欲しいです。 ・技術交流会(LT大会含む)等を学外の人も呼んで催せる、けやきホールのような設備が欲しい ・授業をネット上で配信等して後で見たい ・夕方以降の空き教室の解放 ・気軽に自習できるスペースがもっと多い方が良い。個別で自習できるスペースが少なすぎるし、図書館は静かすぎて逆にやりづらい
講義室、実験室に対する要望と意見	5(2)	11(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・空調の運用(休み時間の可動、温度設定等)(5) ・実験室が狭い(研究室)(4) ・各テーブルに電源を設置してほしい。(3) ・wifiの整備(2) ・教室の机が汚い(マナーと清掃の両面)(2) ・すべての部屋における時計の設置 ・重たい教科書を何冊も持つのが大変なので、ロッカーを設置してほしい。 ・建物が古いのも金がないのも分かるが、とにかく清潔感がない。 ・実験室のエアコンが何度直してもすぐに壊れる。
校内の環境に対する要望と意見	9(7)	28(16)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路清掃には感謝していますが、清掃、剪定が過剰 ・部屋の床が結露汚かった。全てのトイレにハンドソープを置いてほしい。 ・自転車置き場に屋根を作してほしい。雨で徒歩で帰ると、置いていた自転車が傷みやすくなる。 ・12号館と講義棟(or13号館)を渡りろ下等でつないでほしいです。 ・夜間照明、1号館の横の小道 ・検収所と本館の間の道路 ・Bilingual facilities(English) ・道の水はけを良くして下さい
図書館に対する要望と意見	15(6)	29(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・空調の改善(22) ・電子ジャーナルの充実、ACS(12) ・開館日、時間の拡大の希望(7) ・蔵書の改善(小説、文学など)(5) ・採光、座席等の改善希望(2) ・借出し用PCにoffice365を入れてほしい。 ・長時間勉強できるように軽食をOKにしてほしい。 ・蚊の対策

			<ul style="list-style-type: none"> ・マナーの悪い利用者に対する指導 ・学生も図書購入の申込みができるようにしてほしい。 ・グループワーク目的の部屋以外での私語が、授業期間で特に目立つ ・学習のため新しい本の購入依頼を出しても拒否される ・Bilingual information(English) ・図書館内の情報センター職員の対応の改善
海外研修、留学に対する要望と意見		1	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジア圏じゃなくて、欧米の海外のプログラムとかも充実してほしい ・海外留学についてのHPをより詳しく作成してほしい。 ・留学の奨学金ふやしてほしい

VI 課外活動

課外活動施設・設備に対する要望と意見	14(1)	23(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・部室、使用施設等の拡大、設備改善(ナイター設備、人工芝の設置等)(36) ・使用設備の時間延長(8) ・プールの設置(5) ・部室、使用施設等の衛生管理(3) ・体育館・武道場の運用(3) ・工部食堂、夏期休業中の第2会議室の開放(2) ・自主ゼミ(農学部)の部室利用希望 ・キャンパス間の移動手段 ・サークル活動への資金補助の拡充 ・サークル部室の運用マナー ・体育館で競技フットサルが禁止されているのは早急に解決 ・部活やサークルへの問題に対する罰が重すぎると思う
--------------------	-------	-------	--

VII ボランティア活動

ボランティア活動への支援に対する要望と意見		2(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災のときのボランティアは授業日とずらして開催してほしい ・五輪や災害のみならず、ニッチな分野も平等にしないといけない
-----------------------	--	------	---

VIII 学生生活

セクシュアル・ハラスメント以外のハラスメントに対する要望と意見	2(2)	3(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員によるハラスメントに対する改善(10)
キャンパス内のマナーに対する要望と意見	4(2)	11(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の通行、駐輪等のマナー(11) ・喫煙者のマナー(4) ・スマートフォンを見ながら歩く人が(キャンパス内外に)多い
生協売店・食堂・エリプス・喫茶室(オリザ)に対する要望と意見	20(6)	24(9)	<ul style="list-style-type: none"> ・営業時間の拡大、祝日、長期休暇中の営業(22) ・低価格での提供(9) ・スペース、座席数の拡充(8) ・食堂のメニューの改善(6) ・コンビニの導入(3) ・書籍の充実、洋書の取り扱い(3) ・エリプスでの電子マネー、学食パスの導入(2) ・学外利用者の利用時間帯の調整(2) ・ハラルコーナーの設置(2) ・席を先に取ってから食事を取りに行く人が多い ・職員の業務改善 ・生協にカード・suica専用レジができたこと、良いと感じました。

<p>キャンパスの施設・設備環境(講義室・実験室を除く)に対する要望と意見</p>	<p>16(10)</p>	<p>60(29)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・wifi 設備拡充、使用可能地域の拡大(学外含む)(22) ・トイレの設備改善、衛生管理(14) ・自転車使用ルール、駐輪場等(12) ・工学部のロッカー設置(10) ・停電対策(8) ・自転車整理スタッフの対応に対する要望(6) ・ATMの設置(5) ・自動販売機の設置(5) ・害虫(ケムシ等)・害鳥(鳩等)の対策(5) ・冷水機の設置(3) ・コンセントの増設(3) ・リフレッシュスペース等の設置(3) ・喫煙スペースの増設、改善(3) ・夜間等、門の施錠管理(3) ・シャワー室の設置 (2) ・ゴミ箱の増設(2) ・8号館の水道において、泥が混ざった水が出てきており、悪い時には黄土色の水が出てきます。工事等で改善をお願いしたいです。 ・街灯などの設置(工:4号館の正面) ・犬連れている人間が大学を歩いていることがあるが、リードの管理が甘く危険。大学に関係ない人間の出入りを禁じてほしい ・清掃作業の改善 ・エレベータの扉の開閉スピードの改善。 ・バイクの駐輪場の拡充 ・11号館の裏の駐輪場に屋根をつけてほしい ・講義の時間中であっても幼稚園児の遊ぶ声が聞こえる ・駐車場出入口の段差にスロープ(段差プレート)を設置して欲しい。 ・馬術施設付近の水道環境の改善 ・12号館1Fの教室側のカギ(カードキー)が破損しています。 ・生協の一部が台風・倒木の影響で使えない ・大雨時の水はけの悪さ ・ムスリムなど留学生用スペースの拡充
<p>大学祭に対する要望と意見</p>	<p>7(2)</p>	<p>8(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学祭翌日の午前は、農学部だけでなく工学部も休講にしてほしい(4) ・ステージ設備の改善(2) ・2年生の学園祭実行委員が少なく大変 ・模擬店の準備期間、時間の延長 ・なぜ工学部で学祭がないのか ・工学部に在学している場合、情報が流れてこないです。詳しいことを知らないです ・「光る道具を用いたパフォーマンスを行うからナイターを消して欲しい」と伝えているのに考慮されない ・一般企画への出店を断られた ・有名芸能人をゲストとして呼んでほしい。 ・Registration of any activity for the school Festival is not widely announced I informed, and difficult to get the information (and the information is mostly in Japanese)

Ⅹ進路(就職・進学)	
就職支援に対する要望と意見	<p>5(2)</p> <p>6(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職に関する情報提供の充実(4) ・会社説明会の回数、曜日拡大(2) ・就活に対するサポートをもう少し積極的に行って欲しい(2) ・学科での進路指導が少ない ・インターンシップや説明会で授業を休むときの考慮 ・就活ルール変更への対応 ・海外就職を希望する学生への対策 ・留学生のインターンシップ機会の増強 ・就職活動の厳しさ等の情報を研究室の先生方に知っていただきたいです。 ・公務員講座の開設 ・先生方が就活等に関わる雑務にかかる時間を減らしてほしい。

その他	
その他の要望と意見	<p>60(12)</p> <p>115(37)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務(学生生活係)職員の対応を改善してほしい(学生とのコミュニケーション、災害時の早期休講連絡等)(21) ・台風等災害に対する施設、設備の対応(2) ・構内にもっと多くの樹種を植えて欲しい。 ・生活実態調査のアンケートの web 化(5) ・Web 掲示板の改善(5) ・一人暮らしを学校側から推奨してほしい。 ・この調査以外にも、学生が大学に対して意見を述べられる手段が何かしらあってもよいと思う。 ・性別の選択肢が足りない。 ・電気電子という名前をなくしたこと、失策だと思います。 ・アンケートだけとつても改善しなければ意味がない。 ・大学院の人向けでない質問が多くあってうまく答えられなかった。 ・社会人学生アンケートの対象外とするか、内容を改善するか、いずれかを望む。 ・The events shondcl be announad in English ・学生実験に大学生活の時間のほとんどを割かれていて学生の健康に支障をきたしている ・大学研究費を増やしてほしいと思っています。 ・教授の講義に対する意識を改善するべき。学生の力がつくような講義をしない教授が多すぎる ・産業技術専攻は、社会人比率が少なすぎ ・勉学のコミュニティが少ないのが不安。 ・周辺店舗との提携(学生証提示で割引のサービス)

ここで寄せられた意見、要望については関係部署に連絡し、対応が必要と判断した件についてはその対応方法、経過などを後日、本学ホームページ等で報告する。

巻末資料

1. 委員会の構成メンバー

学生生活実態調査ワーキンググループ 委員

主査	亀田 正治	工学府・工学部	教授	評議員
	五味 高志	農学府・農学部	教授	平成30年度農学府・農学部学生生活委員長
	三浦 豊	農学府・農学部	教授	平成30年度農学府・農学部学生生活副委員長
	草処 基	農学府・工学部	講師	平成30年度農学府・農学部学生生活委員
	笹原 弘之	工学府・工学部	教授	平成30年度工学府・工学部学生生活委員長
	篠原 和子	工学府・工学部	教授	平成30年度工学府・工学部学生生活副委員長
	藤井 恒人	グローバル教育院	教授	
	田崎 敦子	グローバル教育院	准教授	
	本郷 智子	グローバル教育院	准教授	
	安村 友紀	グローバル教育院	講師	
	原田 賢治	保健管理センター	教授	
	馬淵 麻由子	保健管理センター	准教授	

事務

学務部長	鈴木 敦士
学生総合支援課長	今井 賢
教育支援室長	阿部 涼
学生支援係長	黒嶋 亮
教育支援係長	村上 美緒子

第9回 学生生活実態調査

The 9th Student Life Survey

2018年度

調査票

Questionnaire

..... お 願 い

この調査は、本学の学生の生活実態を把握し、今後のキャンパス環境の改善に役立てることを目的に、全学生を対象として実施するものです。1994年度に初回を実施し、今回で9回目になります。これまでの調査結果を基に、様々な改善が行われてきました。

趣旨をご理解の上、本年10月1日現在の状況について回答くださるようお願いいたします。

この調査により知り得た個人情報了他に提供することは一切ありません。調査については、分析結果・改善計画を公表する予定です。

調査票の各設問の回答はマークシートにマークいただき、10月19日(金)までにマークシートを各所属学科等の担当者へ提出してください。

If you like to have the English version of this questionnaire, please visit the website <http://web.tuat.ac.jp/~eagl/>, and hand in the answer sheet to a person in charge in your department by October 19.

平成30年10月1日

東京農工大学 教育・学生生活委員会

記入上の注意

Instructions

1. 平成30年10月1日現在で記入してください。

Provide your information as of October 1.

2. 設問には、可能な範囲でできるだけ正確に回答してください。

なお、設問中の〈 〉内の見出し表示はその設問の調査対象者を示します。

Provide your answer as accurate as possible. Some questions are targeted to specific students indicated in the < >.

3. 回答方法は、設問事項の回答欄に該当する事項をマークシートにマークしてください。(要望、意見等がある場合はマークシートの裏面に自由記述欄がありますのでそちらに記載下さい。)

なお、複数回答欄を用意してある場合を除いて、一問一答です。

Mark one answer for each question, unless multiple choices are requested. Please add any comments you may have on the back of the sheet.

9. あなたの1か月の平均支出額は、おおよそいくらですか。	: 01. 0~2万円 : 04. 6~8万円 : 07. 12~14万円 : 10. 18~20万円 : 02. 2~4万円 : 05. 8~10万円 : 08. 14~16万円 : 11. 20万円以上 : 03. 4~6万円 : 06. 10~12万円 : 09. 16~18万円
10. 支出項目として該当するものを選んで下さい(複数選択可)。	: 01. 住居費(駐車場代を含む) : 05. 研究、勉強費、書籍費(新聞読料を含む) : 02. 食費(自宅通学者は外食費) : 06. 課外活動費(サークル活動にかかる費用など) : 03. 光熱外費(通信費を含む) : 07. 交通費、通学費(定期券代、電車代、ガソリン代) : 04. 通称費(携帯電話、電話代、ネット回線料など) : 08. その他
11. 授業料の主な支払い者は、どなたですか。	: 01. 父 : 04. 本人 : 07. 知人(親類を含む) : 02. 母 : 05. 兄弟姉妹 : 08. 授業料免除、奨学金の適用 : 03. 配偶者 : 06. 祖父
12. 現在、学外でアルバイトをしていますか。	: 01. している : 02. していない
13. 12で1, 1している、と答えた方に伺います。アルバイトに就いている期間(通勤時間を含め1週間の総時間)は、どれですか。	: 01. 5時間未満 : 03. 10時間~15時間未満 : 05. 20時間以上 : 02. 6時間~10時間未満 : 04. 15時間~20時間未満
14. 経済的理由から学費の継続に困難を感じたことがありますか。	: 01. ある : 02. ない
15. 14で1, あると答えた方に伺います。経済的困難をどのように解決していますか(複数回答可)。	: 01. 授業料免除 : 04. 学外におけるアルバイト : 07. ローン : 02. 入学金免除 : 05. 奨学金 : 08. 節約 : 03. 学内におけるアルバイト : 06. 家庭などからの援助

Ⅲ 住居

16. 住居等について、現在の生活形態にいちばん近いのはどれですか。	: 01. 自宅 : 03. 単身アパート・マンション : 05. シェアハウス : 07. その他 : 02. 親戚等 : 04. 下宿(附借) : 06. 寮・学生寮等
17. <本学生寮に入寮している方>に伺います。学生寮にどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 03. やや不満 : 02. やや満足 : 04. 不満
18. <本学生寮に入寮していない方>に伺います。本学生寮への入寮を希望しますか。	: 01. 希望する : 02. 希望しない
19. 18で2, 希望しないと答えた方に伺います。その理由は何かですか。	: 01. 自宅だから : 03. 集団生活が苦手 : 02. アパートに満足している : 04. その他
20. <外国人留學生の方>に伺います。本学の国際交流支部への入寮を希望しますか。	: 01. 希望する : 02. 希望しない
21. <本学の国際交流支部に入寮している方>に伺います。入寮にどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 03. やや不満 : 02. やや満足 : 04. 不満
22. 20で2, 希望しないと答えた方に伺います。希望しない理由は何ですか。	: 01. 入居費が高い : 03. 清潔でない : 05. 共有部分が少ない : 02. 設備が充実していない : 04. 部屋が狭い : 06. 規則が厳しい

Ⅳ 通学

23. 主な通学手段・方法は、何ですか。	: 01. 徒歩 : 03. オートバイ : 05. 公共交通機関 : 02. 自転車 : 04. 自動車 : (電車、バスなど、自転車併用含む)
24. 通学の片道の所要時間は、どのくらいですか。	: 01. 30分未満 : 03. 60~90分未満 : 05. 120~150分未満 : 02. 30~60分未満 : 04. 90~120分未満 : 06. 150分以上

1. 所属学科・専攻等	【農学部】 : 01. 生物生産学科 : 02. 応用生物科学学科 : 03. 環境資源科学学科 : 04. 地域生態システム学科 : 05. 獣医学科・共同獣医学科 【工学部】 : 06. 生命工学科 : 07. 応用分子化学科 : 08. 有機材料化学科 : 09. 化学システム工学科 : 10. 機械システム工学科 : 11. 物理システム工学科 : 12. 電気電子工学科 : 13. 情報工学科 【工学府専門職学位課程】 : 29. 産業技術専攻 【適合農学研究科博士課程】 : 30. 生物生産科学専攻 : 31. 応用生命科学専攻 : 32. 環境資源共生科学専攻 : 33. 農業環境工学専攻 : 34. 農林共生社会科学専攻 【適合農学研究科修士課程】 : 07. 大学院士 1年次 : 08. 大学院士 2年次以上 : 09. 大学院博士 1年次 : 10. 大学院博士 2年次 : 11. 大学院博士 3年次以上 : 12. 大学院博士 6年次以上 : 13. 大学院博士 1年次 : 14. 専門職学位課程 2年次以上 : 15. 一貫制大学院博士 1年次 : 16. 一貫制大学院博士 2年次 : 17. 一貫制大学院博士 3年次 : 18. 一貫制大学院博士 4年次 : 19. 一貫制大学院博士 5年次 : 20. 一貫制大学院博士 6年次以上 【工学府博士前期課程】 : 14. 生物生産学専攻 : 15. 応用生命科学専攻 : 16. 環境資源科学専攻 : 17. 地域生態システム学専攻 : 18. 生物情報工学専攻 【工学府博士後期課程】 : 19. 生物生産学専攻 : 20. 応用生命科学専攻 : 21. 環境資源科学専攻 : 22. 地域生態システム学専攻 : 23. 生物情報工学専攻 【適合農学研究科修士課程】 : 35. 生命工学専攻 : 36. 応用化学専攻 : 37. 機械システム工学専攻 : 38. 電子情報工学専攻 【適合獣医学研究科修士課程】 : 39. 獣医学専攻 【大学院農学府】 : 40. 共同獣医学専攻 【BASE博士前期課程】 : 41. 生物機能システム科学専攻 【BASE博士後期課程】 : 42. 生物システム応用科学専攻 : 43. 生物機能システム科学専攻 【BASE博士課程】 : 44. 共同先進健康科学専攻 【BASE一貫制博士課程】 : 45. 食料エネルギーシステム科学専攻
-------------	--

Ⅰ 基本的事項

1. 所属学科・専攻等	【農学部】 : 01. 生物生産学科 : 02. 応用生物科学学科 : 03. 環境資源科学学科 : 04. 地域生態システム学科 : 05. 獣医学科・共同獣医学科 【工学部】 : 06. 生命工学科 : 07. 応用分子化学科 : 08. 有機材料化学科 : 09. 化学システム工学科 : 10. 機械システム工学科 : 11. 物理システム工学科 : 12. 電気電子工学科 : 13. 情報工学科 【工学府専門職学位課程】 : 29. 産業技術専攻 【適合農学研究科博士課程】 : 30. 生物生産科学専攻 : 31. 応用生命科学専攻 : 32. 環境資源共生科学専攻 : 33. 農業環境工学専攻 : 34. 農林共生社会科学専攻 【適合農学研究科修士課程】 : 07. 大学院士 1年次 : 08. 大学院博士 2年次以上 : 09. 大学院博士 1年次 : 10. 大学院博士 2年次 : 11. 大学院博士 3年次以上 : 12. 大学院博士 6年次以上 : 13. 大学院博士 1年次 : 14. 専門職学位課程 2年次以上 : 15. 一貫制大学院博士 1年次 : 16. 一貫制大学院博士 2年次 : 17. 一貫制大学院博士 3年次 : 18. 一貫制大学院博士 4年次 : 19. 一貫制大学院博士 5年次 : 20. 一貫制大学院博士 6年次以上 【工学府博士前期課程】 : 14. 生物生産学専攻 : 15. 応用生命科学専攻 : 16. 環境資源科学専攻 : 17. 地域生態システム学専攻 : 18. 生物情報工学専攻 【工学府博士後期課程】 : 19. 生物生産学専攻 : 20. 応用生命科学専攻 : 21. 環境資源科学専攻 : 22. 地域生態システム学専攻 : 23. 生物情報工学専攻 【適合農学研究科修士課程】 : 35. 生命工学専攻 : 36. 応用化学専攻 : 37. 機械システム工学専攻 : 38. 電子情報工学専攻 【適合獣医学研究科修士課程】 : 39. 獣医学専攻 【大学院農学府】 : 40. 共同獣医学専攻 【BASE博士前期課程】 : 41. 生物機能システム科学専攻 【BASE博士後期課程】 : 42. 生物システム応用科学専攻 : 43. 生物機能システム科学専攻 【BASE博士課程】 : 44. 共同先進健康科学専攻 【BASE一貫制博士課程】 : 45. 食料エネルギーシステム科学専攻
2. 在籍年次	: 01. 学部 1年次 : 02. 学部 2年次 : 03. 学部 3年次 : 04. 学部 4年次以上 : 05. 学部 共同獣医学科5年次 : 06. 学部 獣医学科・共同獣医学科6年次以上
3. 性別	: 01. 男 : 02. 女
4. 住居等について、現在の生活形態は、どれですか。	: 01. 単身生活 : 02. 家族・親族と同居 : 03. 友人等と同居
5. あなたは外国人留學生ですか。	: 01. はい : 02. いいえ
6. 5で01と答えた方に伺います。留學生の区分はなんですか。	: 01. 私費留學生 : 02. 日本政府留費留學生 : 03. 母国派遣留學生

Ⅱ 経済的状况

7. あなたの1か月の平均収入額は、おおよそいくらですか。	: 01. 0~2万円 : 04. 6~8万円 : 07. 12~14万円 : 10. 18~20万円 : 02. 2~4万円 : 05. 8~10万円 : 08. 14~16万円 : 11. 20万円以上 : 03. 4~6万円 : 06. 10~12万円 : 09. 16~18万円
8. 収入源として該当するものを選んでください(複数選択可)。	: 01. 家族(養育費)支持者から : 04. 学外でのアルバイト : 02. 奨学金(返済義務なし) : 05. 学外でのアルバイト(TA・RA・研究補助等) : 03. 奨学金(ローン・貸与) : 06. その他

40. 39で「3. やや不満」又は「4. 不満」を選択した人は、どのくらいの頻度で不満ですか(複数選択可)。	: 01. 履修数(紙媒体) : 02. 回数(できる電子ジャーナルの数) : 03. 座席数	: 04. 騒音 : 05. 無線LAN環境 : 06. レファレンスサービス	: 07. 利用者のマナー : 08. 閉館時間 : 09. その他
41. 各学期に海外で活動したいことかあります(留学を含む)。	: 01. ある	: 02. ない	
42. 41で「1. 絶対に」と答えた方に伺います。その目的・内容は何か(複数回答可)。	: 01. 語学研修、語学留学 : 02. 交換留学 : 03. 研究活動 : 04. 学会参加	: 05. ホームステイ : 06. 語学以外の講義聴講 : 07. ワーキングホリデー : 08. 青年海外協力隊等の国際ボランティア	: 09. 海外インターンシップ : 10. その他
43. 41で「2. 絶対に」と答えた方に伺います。若しくは海外で活動する希望がありますか(留学を含む)。	: 01. ある	: 02. ない	
44. 43で「1. 希望」と答えた方に伺います。どのような海外研修を希望しますか(複数回答可)。	: 01. 語学研修、語学留学 : 02. 交換留学 : 03. 研究活動 : 04. 学会参加	: 05. ホームステイ : 06. 語学以外の講義聴講 : 07. ワーキングホリデー : 08. 青年海外協力隊等の国際ボランティア	: 09. 海外インターンシップ : 10. その他
45. 学生が海外での活動をめぐる理由は何か(複数回答可)。	: 01. 経済的理由 : 02. 日本での生活が中断される : 03. 海外生活に不安がある	: 04. 単位が認定されない : 05. 留学する可能性が高くなる : 06. 就職活動が進む	: 07. 専門の勉強の方が大事 : 08. 語学力が不安 : 09. その他

VI 課外活動

46. 課外活動団体(サークル)に加入していますか。※回答が「2」「3」の方は、47～52は記入の必要なし。	: 01. 加入している	: 02. 以前は加入していた	: 03. 加入したことがない
47. 46で「1. 加入している」と答えた方に伺います。加入している課外活動は、どれですか(複数回答可)。	: 01. 文化系サークル : 02. 音楽系サークル : 03. 体育系サークル	: 04. 農学系サークル : 05. 工学系サークル : 06. 自主ゼミ	: 07. その他の学生団体
48. 46で「1. 加入している」と答えた方に伺います。1週間の平均活動時間は、どれくらいですか。	: 01. 1時間未満 : 02. 1時間～5時間未満	: 03. 5時間～10時間未満 : 04. 10時間以上	
49. 46で「1. 加入している」と答えた方に伺います。課外活動に不満がありますか。	: 01. ある	: 02. ない	
50. 49で「1. ある」と答えた方に伺います。課外活動にどのような不満がありますか(複数回答可)。	: 01. 人間関係 : 02. 学業との両立 : 03. 大学側の対応 : 04. サークル活動の内容	: 05. アルバイトができない : 06. 指導者 : 07. 練習施設・設備等 : 08. 経済的負担	: 09. 運営方針 : 10. 活動時間の制限 : 11. その他
51. 46で「1. 加入している」と答えた方に伺います。課外活動施設・設備ごとの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	
52. 51で「3. やや不満」又は「4. 不満」と答えた方に伺います。具体的にご不満な施設・設備がありますか(複数回答可)。	: 01. 施設が狭い : 02. 施設・設備が悪い	: 04. 施設・設備が不足している : 05. 冷暖房が完備されていない : 06. ナイター設備がない	: 07. 利用時間の制限が厳しい : 08. その他

VII ポランティア活動

53. 本学に入学後、ポランティア活動の経験はありますか。※回答が「2. ない」の方は、54～57は記入の必要なし。	: 01. ある	: 02. ない	
--	----------	----------	--

V 学業・学習環境

25. 本学の大学憲章、入学要項方針(アドミッション・ポリシー)、教育課程の編成(授業方針(カリキュラム・ポリシー))を知っていますか(複数回答可)。	: 01. 大学憲章を知っている : 02. 入学要項方針を知っている : 03. 教育課程の編成(授業方針)を知っている	: 04. 学内報与方針を知っている : 05. 全く知らない	
26. 25で「1」「2」「3」「4」と答えた方に伺います。どこで知りましたか(複数回答可)。	: 01. 入学要項資料集・募集要項 : 02. 本学HP	: 03. 入学オリエンテーション : 04. 履修案内	
27. 本学に入學してどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	
28. カリキュラム(科目の種類・選択の必要性)の程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	
29. 授業科目(共通科目)に対して希望する内容を教えて下さい(複数回答可)。	: 01. 時間割の工夫 : 02. 豊富な選択枝 : 03. コミュニケーション英語の充実 : 04. 他学部との交流 : 05. 実用なスキルの特修 : 06. 発表や議論を意図した参加型授業	: 07. 英語による授業 : 08. その他	
30. 講義・実験・実習・復習・レポート作成・演習・試験勉強・追加実験・就職活動・資格取得・海外研修・ボランティア活動・インターンシップ・就業外学習を行っていますか。	: 01. 全くやっていない : 02. 週2時間未満 : 03. 週2時間から4時間未満 : 04. 週4時間から5時間未満 : 05. 週5時間から10時間未満 : 06. 週10時間から20時間未満	: 07. 週20時間以上	
31. 授業時間外の学習を行うのに必要な施設・設備は十分なと感じますか(複数回答可)。	: 01. 図書館の閉館時間の延長 : 02. 図書館内の学習スペース : 03. 休日期間含む : 04. 無線LAN : 05. コンセント	: 06. 学生用ラウンジ : 07. その他	
32. 授業科目・目標が明確なかつたときや授業に満足してしまったり、授業の進め方がよくないと感じたとき(複数回答可)。	: 01. 担当教員に授業内容に質問をする : 02. 担当教員に授業時間外に質問をする	: 03. 同じクラスの学生に相談や質問をする : 04. ネット検索等自分で解決する	: 05. 何もしない : 06. その他
33. 講義室、実験室等の教育設備にどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	
34. 33で「3. やや不満」又は「4. 不満」と回答した方は、講義室、実験室のどのくらいに改善を望みますか(複数回答可)。	: 01. 私、椅子 : 02. 講義室の形 : 03. 機器類(スクリーン、プロジェクタ、マイク)	: 04. 床・壁・天井 : 05. 清掃 : 06. 実験器具	: 07. 空調 : 08. 時計 : 09. その他
35. 校内の環境で改善を望むところはどこですか(複数回答可)。	: 01. 生協 : 02. 食堂 : 03. 体育施設 : 04. 校舎の清掃状況	: 05. ロッカー : 06. トイレ : 07. 新築 : 08. 駐輪場	: 09. キャンパス間移動 : 10. 夜間照明 : 11. WiFi環境 : 12. その他
36. 実験・実習の際に危険を感じたことがありますか。	: 01. なかつた : 02. 薬品で	: 03. 動物で : 04. 機械操作で	: 05. 野外実習・実習で : 06. その他
37. 図書館の利用頻度は、どのくらいですか。	: 01. 毎日 : 02. 週1回	: 03. 週2～3回 : 04. 2週間1回	: 05. 月に1回 : 06. ほとんど利用しない
38. 図書館の主な用途は何ですか(複数回答可)。	: 01. 学習や研究に必要な文献 : 02. 参考書、資料、学術雑誌、電子ジャーナルなどの閲覧 : 03. 「10」以外、個人的な興味で、(新聞や一般雑誌などを含む)書籍を閲覧・借出	: 03. 情報端末を利用して文献検索を実施 : 04. ハンコンを利用 : 05. 自習室として使用	: 06. 打ち合わせ等、グループ学習室として利用 : 07. プリント・コピー
39. 図書館にどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	

54. 55で1. あると答えた方に伺います。内容が得意か(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. 公共施設での活動(公民館・博物館での説明員等) : 02. 青少年健全育成に関する活動(ホビー・アイ・ガールスカウト活動、子供会等) : 03. 体育スポーツ・文化に関する活動(水泳、マラソン、リクリエーション活動、まつり、クラブ活動における指導等) : 04. 人々の学習活動に関する指導、助産、運営協力などの活動(幼児・小中学生対象) : 05. 自然・環境保護に関する活動(環境美化、自然解説、リサイクル活動等) 	<ul style="list-style-type: none"> : 06. 国際交流(海外)に関する活動(通訳、種別活動・技術援助・留学生支援) : 07. 社会福祉に関する活動(老人や障者等に対する介護、身のまわり世話、給食、保養等) : 08. 保健・医療・衛生に関する活動(病予防ボランティア等) : 09. 交通安全に関する活動(子供の登下校時の安全監視等) : 10. 自主防犯活動や災害援助活動 	<ul style="list-style-type: none"> : 11. 募金活動、チャリティーイベント : 12. 震災等の被災地ボランティア : 13. 動物の保護や増殖に関するボランティア : 14. その他
55. 55で1. あると答えた方に伺います。従事している頻度は、どれくらいですか。	: 01. ほとんど毎日	: 03. 月に数日程度	: 05. 1回のみ
56. 55で1. あると答えた方に伺います。大学からボランティア活動への向から、の支援を希望しますか。	: 01. はい	: 02. いいえ	
57. 55で1. はいと答えた方に伺います。理由を添えて下さい(複数回答可)。	: 01. 交通費補助	: 03. 単位認定	: 05. その他
	: 02. 情報やプログラムの紹介	: 04. 公休扱い	
58. 55で2. ないと答えた方に伺います。ボランティア活動をしてみたいですか。	: 01. はい	: 02. いいえ	
59. 55で2. はいと答えた方は、その理由を添えて下さい(複数回答可)。	: 01. 時間がない	: 03. 人に評価されない	: 05. 知り合いがいない
	: 02. 興味のある活動がない	: 04. 特技がない	: 06. その他

Ⅷ 学生生活

質問事項	選択肢			
60. 次の各項目に関して伺います。どの項目に最も関心がありますか。最も関心のあるものを選んで下さい(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. 学業・研究 : 02. 学内の関係(サークル等) : 03. 学外の活動(アルバイト等) : 04. 進路・就職 : 05. 経済状況 : 06. 対人関係(友人、家族、教員等) : 07. 身体健康(体調不良、不眠等) : 08. 精神健康(不安、憂うつ等) 			
61. 60で16. 対人関係と答えた方に伺います。その相手は誰ですか(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. 友人 : 02. 交際相手 : 03. 教職員 : 04. 家族 : 05. 研究室メンバー : 06. その他 			
62. 大学生活の中で困ったことがありますか。	: 01. ある	: 02. ない		
63. 60で1. あると答えた方に伺います。どのような理由に困らなりましたか(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. 教務関係・学生生活関係 : 02. 学生相談室 : 03. 保健管理センター : 04. 特別学生支援室 : 05. グローバル教育院 : 06. 学業・専攻関係 : 07. チューター(留學生の場合) : 08. 先輩・友人等 : 09. 家族 : 10. 相談しなかった : 11. その他 			
64. 授業以外で教員と話をしていますか。	: 01. 積極的に話をしている	: 03. たまたま話すこともある	: 02. とまどき話をする	: 04. ほとんど話すことはない
65. 授業以外で学生同士の交流はありますか。	: 01. 積極的に交流している	: 03. たまたまある	: 02. とまどきある	: 04. ほとんど交流することはない
66. 各キャンパスに学業・進路・就職などの相談に応じる学生相談室が開設されているのを知っていますか。	: 01. 知っている	: 02. 知らない		
67. 各キャンパスの保健管理センターの相談にのっているのを知っていますか。	: 01. 知っている	: 02. 知らない		

68. 教員・学生・コンパニオンなどでの気づきの連絡はありますか(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. 教務室に連絡された : 02. 一気取りをさせられた : 03. からまれたり、暴言や暴力を受けた : 04. セハハラを受けた : 05. 除けけがをした : 06. 事故を起こした : 07. 1~6を自覚したことがある : 08. 経験なし 		
69. 毎週1回、各キャンパスのハウスメントで定期的に学生同士の交流活動が行われているのを知っていますか。	: 01. 知っている	: 02. 知らない	
70. センチュアル・ハウスメントを受けたことがありますか。	: 01. ある	: 02. ない	
71. 70で1. あると回答した方に伺います。誰から受けましたか(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. 教職員 : 02. 学業・研究室等の先輩 : 03. 学業・研究室等の同級生 : 04. 学業・研究室等の先輩 : 05. 部活・サークルの先輩 : 06. 部活・サークルの同級生 : 07. 部活・サークルの後輩 : 08. アルバイト先の人 : 09. その他 		
72. センチュアル・ハウスメント以外のハウスメントを受けたことがありますか。	: 01. ある	: 02. ない	
73. 72で1. あると回答した方に伺います。誰から受けましたか(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. 教職員 : 02. 学業・研究室等の先輩 : 03. 学業・研究室等の同級生 : 04. 学業・研究室等の先輩 : 05. 部活・サークルの先輩 : 06. 部活・サークルの同級生 : 07. 部活・サークルの後輩 : 08. アルバイト先の人 : 09. その他 		
74. タバコを吸いますか。	: 01. 吸う	: 02. かつて吸っていた	: 03. 吸わない
75. キャンパス内のマナー(自転車駐輪、タバコ、ゴミ)についての程度満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. 満足 : 02. やや満足 : 03. やや不満 : 04. 不満 		
76. 75で3. やや不満又は4. 不満と回答した方に伺います。不満に思うのはどのようなことですか(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. コミの捨て方、処理 : 02. 大学内の汚れ : 03. 自転車の止め方 : 04. 駐輪場不足 : 05. 自転車の危険運転 : 06. タバコの吸い方や喫煙場所 : 07. タバコの吸殻の処理 : 08. 自転車や傘の盗難 : 09. その他 		
77. 生物象をどれくらい頻度で利用していますか。(主に活動しているキャンパスの施設について答えてください。)	: 01. よく利用する	: 02. とまどき利用する	: 03. 全く利用しない
78. 140周年記念祭新エジプト(小売井)をどれくらい頻度で利用していますか。	: 01. よく利用する	: 02. とまどき利用する	: 03. 全く利用しない
79. 喫茶室オリーブ(併中)をどれくらい頻度で利用していますか。	: 01. よく利用する	: 02. とまどき利用する	: 03. 全く利用しない
80. 生協購買部(売店)をどれくらい頻度で利用していますか。(主に活動しているキャンパスの施設について答えてください。)	: 01. よく利用する	: 02. とまどき利用する	: 03. 全く利用しない
81. 食堂・エジプト・喫茶室(オリーブ)にどの程度満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. 満足 : 02. やや満足 : 03. やや不満 : 04. 不満 		
82. 81で1. やや不満又は4. 不満と回答した方に伺います。不満に思うのはどのようなことですか(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. コストパフォーマンス : 02. 接客態度や清潔 : 03. 営業時間 : 04. 味 : 05. メニュー内容や数 : 06. 清潔さ : 07. 店員の接客態度 : 08. キャンパス前での施設の差が大きい : 09. その他 		
83. 生協購買部(売店)にどの程度満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. 満足 : 02. やや満足 : 03. やや不満 : 04. 不満 		
84. 83で1. やや不満又は4. 不満と回答した方に伺います。不満に思うのはどのようなことですか(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> : 01. コストパフォーマンス : 02. 接客態度 : 03. 営業時間 : 04. 広さ : 05. 品揃え : 06. 清潔さ : 07. 店員の接客態度 : 08. キャンパス前での施設の差が大きい : 09. その他 		

85. キャンパスの施設・設備維持(講義室・実験室を除く)で改善を希望するところはどこですか(複数回答可)。	: 01. トイレ : 02. 駐車場 : 03. 駐輪場 : 04. リフレッシュ空間	: 05. 無線LAN : 06. コンセント : 07. 自動販売機 : 08. ロッカー	: 09. サークル用の設備 : 10. その他
86. 本年11月に行われる農学部、府中キャンパスの大学祭に参加しますか。	: 01. 積極的に参加する予定 : 02. 参加する予定	: 03. 参加しない予定	
87. 大学祭で改善を望むことは何ですか(複数回答可)。	: 01. 開催時期を早くしてほしい : 02. 開催時期を遅くしてほしい : 03. プログラム内容	: 04. 出店数を増やしてほしい : 05. 出店数を減らしてほしい : 06. 設備整備	: 07. 前後の休講措置 : 08. その他
88. (外国人留学生)の方に伺います。留学生活に必要な情報はどこから得ていますか(複数回答可)。	: 01. 留学生の手引き : 02. グローバル教育院の教職員 : 03. 担任教員や指導教員	: 04. 他の留学生 : 05. チューター : 06. チューター以外の日本人学生	: 07. インターネット : 08. 情報が得られない

Ⅹ 進路(就職・進学)

質問事項	選択肢補		
89. 将来の希望進路を教えてください。	: 01. 就職 : 02. 日本国内で進学	: 03. 未定 : 04. 海外(留学等) : 05. 起業 : 06. 社会人のため該当なし	
90. 進路を考える上で情報入手手段は、何ですか(複数回答可)。	: 01. 指導教員 : 02. 就職担当教員 : 03. 先輩・知人 : 04. 新聞・マスコミ・就職情報誌	: 05. インターネット : 06. 親・親戚等 : 07. 大学内資料 : 08. 会社説明会 : 09. 書籍、雑誌等 : 10. 人材派遣会社等 : 11. その他	
91. 将来の希望職種は何ですか(複数回答可)。	: 01. 研究(大学・研究所など) : 02. 研究開発(民間企業など) : 03. 技術(公務員・地法・特回など) : 04. 行政(公務員・地法など)	: 05. 事務・サービス(民間企業など) : 06. 教育 : 07. 動物病院 : 08. NPO・NGO職員 : 09. 国際機関職員 : 10. 自営業(農家・起業・弁護士等) : 11. 自由業・その他 : 12. 未定	
92. どのような就職支援を希望しますか(複数回答可)。	: 01. 会社説明会の充実 : 02. 就職ガイダンスの充実 : 03. 就職情報コーナーの充実	: 04. インターネットの充実 : 05. 就職相談窓口の充実 : 06. OB/OGの紹介 : 07. 大学推薦 : 08. エントリーシートの特典・模擬面接など : 09. その他	
93. インターネットの経験はありますか	: 01. ある	: 02. ない	
94. Q3で「ある」と答えた方に伺います。どのようなことがインターネットに行きましたか。最も近いものを選択して下さい(複数選択可)。	: 01. 就職したい企業(団体) : 02. OB/OGの動向先 : 03. 共同研究先	: 04. 自身他方企業(団体) : 05. 期間や条件が合った企業(団体) : 06. プログラムや内容が魅力的な企業(団体)	: 07. 海外 : 08. その他
95. Q4で「1. 就職したい企業(団体)」と回答した方に伺います。インターネットに満足しましたか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	

ご協力ありがとうございました。マークシートは10月18日(金)までに各所属幹事等の担当書へ提出してください。

